

平成 20 年度
男女共同参画に関する市民意識調査
報告書

補完調査『男女共同参画に関する市民意識調査
にかかると 20～30 代の Web アンケート調査』

平成 21 年 3 月

大阪市

財団法人大阪市女性協会

はじめに

クレオ大阪研究室においては、男女共同参画社会の実現をめざし、大阪市の男女共同参画施策とクレオ大阪の各種事業に資するため調査研究を行っています。

大阪市においては、平成 18 年 4 月から大阪市男女共同参画推進条例に基づく新たな「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 - 」に沿って、男女共同参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進・実施することとしています。

このたび、「大阪市男女きらめき計画」の中間年見直しにむけて、男女共同参画をめぐる市民の生活と意識の現状を把握し、後半期、平成 23 年度～27 年度の重点的な取組みについて今後取り組むべき課題等を探るため、男女市民 3,000 名を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。

この調査は平成 8 年度、平成 16 年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」の結果と経年比較し、市民の意識や日常生活の状況の変化・動向を概観し、今後の施策の推進に資することを目的としております。

本報告書が幅広く活用され、男女共同参画社会の実現に向けた取組みへの一助となれば幸いです。

最後に、本調査研究の実施にあたり、ご尽力いただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪)
研究室長 榎村 久子

目 次

平成20年度 男女共同参画に関する市民意識調査

1．調査の概要

(1)調査のあらまし	1
(2)回答者のプロフィール	2
(3)結果の概要	5
(4)大阪市男女共同参画基本計画の指標・数値目標	15
(5)調査結果の考察	16

2．調査結果の個別分析

(1)男女共同参画に関する意識	19
男女共同参画に関する考え方	19
社会・生活における男女平等の浸透	33
(2)仕事と生活の調和に関する意識と実態	42
仕事と生活の調和に関する意識	42
日常生活での役割分担	45
社会活動への参加状況	59
女性の就労に関する考え方	64
男性の参画を進めるために必要なこと	65
(3)健康や介護に関する意識と実態	67
健康のために心がけていること	67
介護に関する意識	70
(4)子どもの教育に関する意識	72
子どもに受けさせたい教育	72
学校教育の場で推進すべきこと	74
(5)男女間における暴力に関する意識と実態	75
女性に対する暴力行為を見聞きしたこと	75
DV防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度	76
女性に対する暴力の問題の解決に向けて	80
(6)男女共同参画社会の実現に向けて	81
女性も男性も暮らしやすいまちのイメージ	81
男女共同参画に関する用語の周知度	83
大阪市の男女共同参画関連施策の周知度	88
男女平等の推進のために最も必要だと思うこと	90
男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策	91
(7)自由回答意見	93

補完調査

平成20年度 男女共同参画に関する市民意識調査にかかる20～30代のWebアンケート調査

1. 調査の概要

(1) 調査のあらまし	95
(2) 回答者のプロフィール	96
(3) 結果の概要	101
(4) Webアンケート調査結果の考察	107

2. 調査結果の個別分析

(1) 男女共同参画に関する意識	113
男女共同参画に関する考え方	113
社会・生活における男女平等の浸透	121
(2) 仕事と生活の調和に関する意識と実態	126
仕事と生活の調和に関する意識	126
日常生活での役割分担	136
女性の就労に関する考え方	143
男性の参画を進めるために必要なこと	144
(3) 子どもの教育に関する意識	145
子どもに受けさせたい教育	145
学校教育の場で推進すべきこと	146
(4) 男女間における暴力に関する意識と実態	147
女性に対する暴力行為を見聞きしたこと	147
DV防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度	148
女性に対する暴力の問題の解決に向けて	151
(5) 男女共同参画社会の実現に向けて	152
女性も男性も暮らしやすいまちのイメージ	152
男女共同参画に関する用語および大阪市の男女共同参画関連施策の周知度	153
男女平等の推進のために最も必要だと思うこと	159
男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策	160
(6) 自由回答意見	161

資料

- ・調査票
- ・用語説明

平成20年度

男女共同参画に関する市民意識調査

調査の概要

(1) 調査のあらまし

調査の目的

本調査は、平成18年度から27年度までの10年間を計画期間とする大阪市男女共同参画基本計画（大阪市男女きらめき計画）の後半期の改訂にむけて、男女共同参画に関する市民の意識や日常生活の状況などを把握するために実施する。

調査の方法

調査対象	平成20年6月1日現在 20歳以上の大阪市内居住者3,000人（無作為抽出）
調査方法	配布・回収とも郵送法（督促状を1回発送）
調査期間	平成20年（2008年）10月14日～10月26日 ・調査票発送：10月14日 ・督促状発送：10月22日 ・調査票締切：10月26日
調査内容 （概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や介護に関する意識と実態 ・日常生活での性別役割分担 ・子どもの教育に関する意識 ・男女共同参画社会の実現に向けて ・男女平等に関する意識と実態 ・社会参加に関する意識と実態 ・男女間の暴力に関する意識と実態
実施機関	財団法人 大阪市女性協会

回収状況

	発送数	有効回収数	有効回収率	調査名
平成20年度調査	3,000	1,110	37.0%	大阪市 男女共同参画に関する 市民意識調査
平成16年度調査	3,000	1,228	40.9%	大阪市 男女共同参画に関する 市民意識調査
平成8年度調査	3,003	1,093	36.4%	大阪市 男女平等に関する 市民意識調査

本資料の見方

アンケート調査結果における各設問の母数n (Number of caseの略) は、設問に対する有効回答者数を意味する。

各選択肢の構成比(%)は小数点第2位以下を四捨五入している。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合がある。

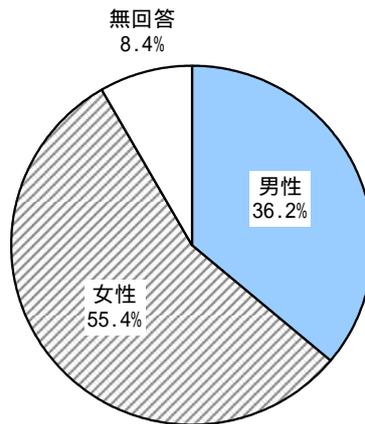
複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合がある。

グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%である。

(2) 回答者のプロフィール

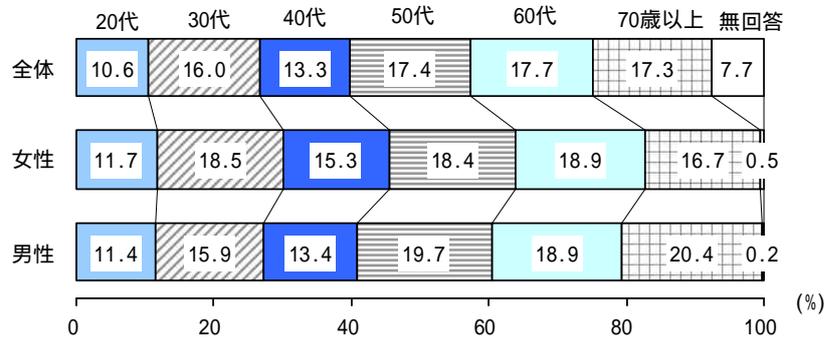
性別

【全体：1,110】



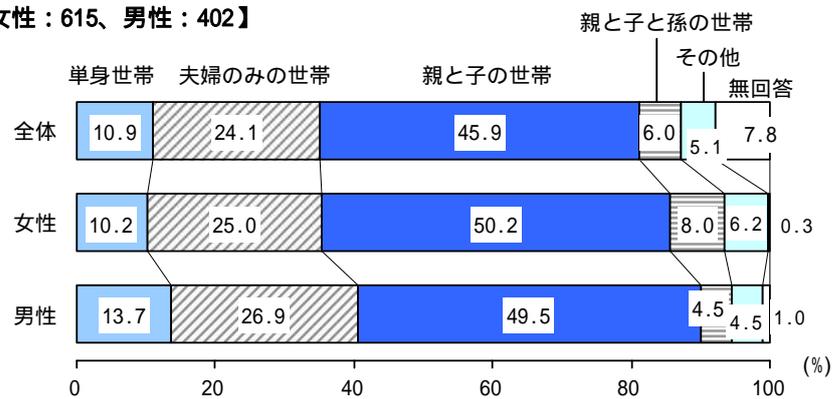
年齢

【全体：1,110、女性：615、男性：402】



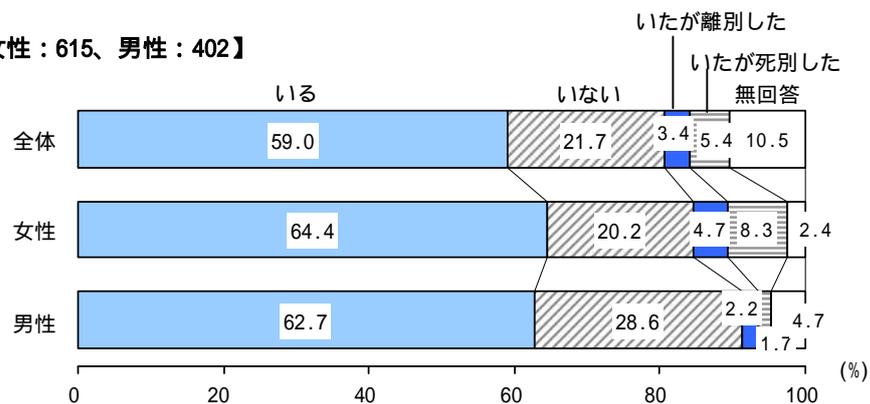
家族形態

【全体：1,110、女性：615、男性：402】



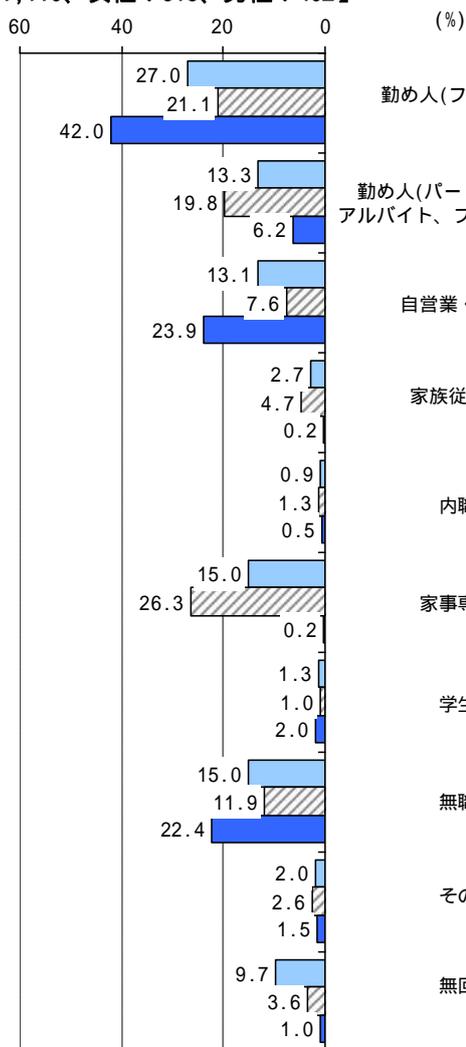
配偶者の有無

【全体：1,110、女性：615、男性：402】



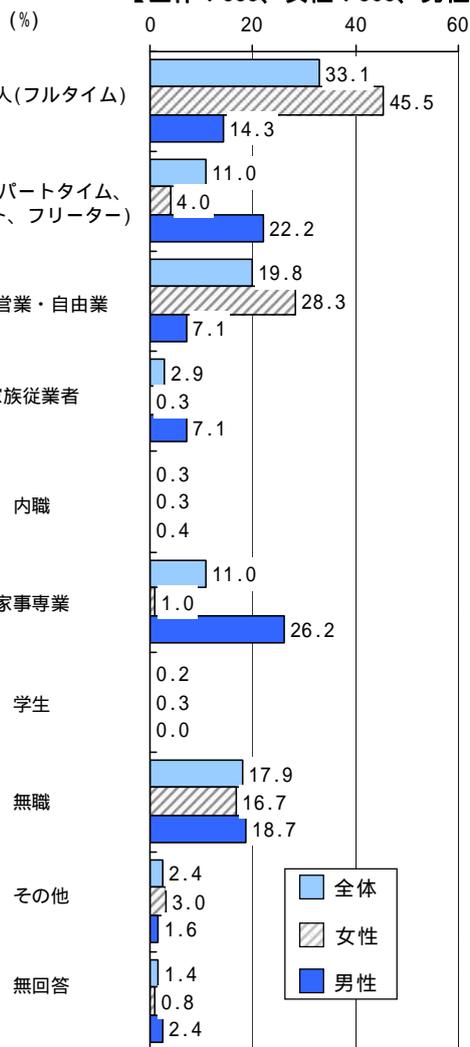
本人の職業

【全体：1,110、女性：615、男性：402】



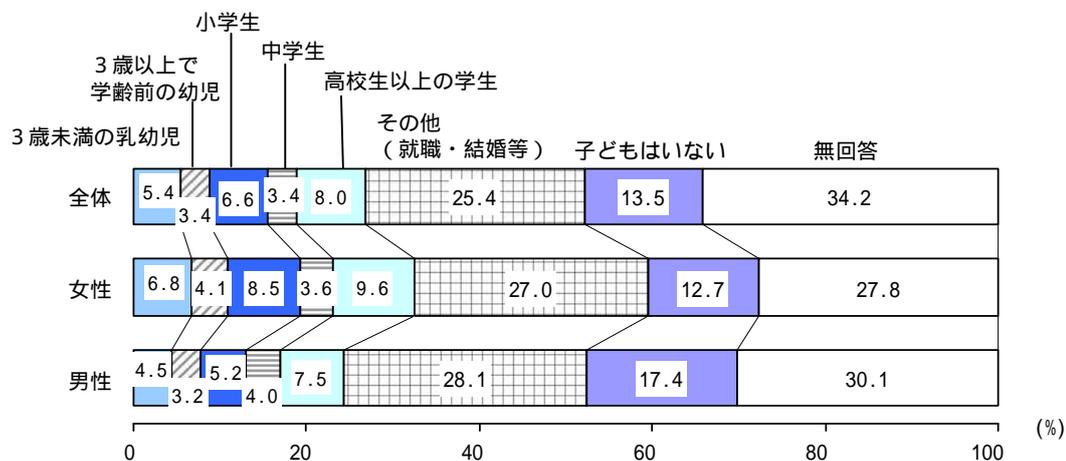
配偶者の職業

【全体：655、女性：396、男性：252】



一番下の子どもの年代

【全体：1,110、女性：615、男性：402】



平成20年度 男女共同参画に関する市民意識調査

本報告書では、本文全般にわたり平成8年度、16年度調査との比較を行なっている。過去調査の回答者の属性と比較すると下の表のとおりである。調査結果については、これらの属性の占める割合の変化に留意する必要がある。

過去調査との主な属性の比較

	平成20年度10月調査		平成16年度9月調査		平成8年度12月調査	
総数	1110	100.0%	1,228	100.0%	1,093	100.0%
女性	615	55.4%	709	57.7%	694	63.5%
20～29歳	72	6.5%	76	6.2%	111	10.2%
30～39歳	114	10.3%	100	8.1%	137	12.5%
40～49歳	94	8.5%	110	9.0%	165	15.1%
50～59歳	113	10.2%	133	10.8%	112	10.2%
60～69歳	116	10.5%	153	12.5%	117	10.7%
70歳以上	103	9.3%	135	11.0%	52	4.8%
勤め人（フルタイム）	130	11.7%	138	11.2%	158	14.5%
勤め人（パートタイム等）	122	11.0%	117	9.5%	125	11.4%
自営業・自由業	47	4.2%	55	4.5%	38	3.5%
家族従業者	29	2.6%	42	3.4%	53	4.8%
内職	8	0.7%	3	0.2%	7	0.6%
家事専業	162	14.6%	231	18.8%	210	19.2%
学生	6	0.5%	11	0.9%	15	1.4%
無職	73	6.6%	90	7.3%	70	6.4%
その他	16	1.4%	15	1.2%	14	1.3%
配偶者あり	396	35.7%	468	38.1%	485	44.4%
配偶者なし	124	11.2%	149	12.1%	129	11.8%
いたが離死別	80	7.2%	73	5.9%	80	7.3%
男性	402	36.2%	504	41.0%	392	35.9%
20～29歳	46	4.1%	48	3.9%	67	6.1%
30～39歳	64	5.8%	65	5.3%	68	6.2%
40～49歳	54	4.9%	82	6.7%	72	6.6%
50～59歳	79	7.1%	109	8.9%	70	6.4%
60～69歳	76	6.8%	112	9.1%	77	7.0%
70歳以上	82	7.4%	87	7.1%	38	3.5%
勤め人（フルタイム）	169	15.2%	233	19.0%	198	18.1%
勤め人（パートタイム等）	25	2.3%	31	2.5%	7	0.6%
自営業・自由業	96	8.6%	113	9.2%	75	6.9%
家族従業者	1	0.1%	5	0.4%	6	0.5%
内職	2	0.2%	1	0.1%	0	0.0%
家事専業	1	0.1%	3	0.2%	0	0.0%
学生	8	0.7%	8	0.7%	15	1.4%
無職	90	8.1%	97	7.9%	65	5.9%
その他	6	0.5%	11	0.9%	22	2.0%
配偶者あり	252	22.7%	374	30.5%	270	24.7%
配偶者なし	115	10.4%	89	7.2%	90	8.2%
いたが離死別	16	1.4%	27	2.2%	30	2.7%

(3) 結果の概要

本文中に使用している記号等の説明は以下のとおりである。

記号の説明

-  ・ 年々増加傾向にあることを表す(平成16年度から20年度に増加したことを表すことも含む)
 -  ・ 平成8年度から16年度に変化はなく、16年度から20年度にかけて増加したことを表す
 -  ・ 平成8年度から16年度に増加し、16年度から20年度にかけて変化がないことを表す
 -  ・ 平成8年から16年度にかけて減少し、20年度にかけて増加したことを表す
 -  ・ 年々減少傾向にあることを表す(平成16年度から20年度に減少したことを表すことも含む)
 -  ・ 平成8年度から16年度に変化はなく、16年度から20年度にかけて減少したことを表す
 -  ・ 平成8年度から16年度に減少し、16年度から20年度にかけて変化がないことを表す
 -  ・ 平成8年から16年度にかけて増加し、20年度にかけて減少したことを表す
- (H16比) ・ 平成16年度と20年度の比較を表す(平成8年度との比較を行っていない)
- “ … ” ・ 二重引用符は、2つの選択肢を総合したことを表す。

『そう思う』+『ある程度そう思う』 “同感する”

『男性が非常に優遇されている』+『どちらかといえば男性が優遇されている』 “男性優遇”

『ある程度内容を知っている』+『聞いたことがある』 “認知している”

男女共同参画に関する意識

【男女共同参画に関する考え方】(問8)

- ・ 「性別にとらわれない生き方」(「性別にとらわれず個人を尊重し、一人ひとりが納得のいく生き方をする」)について、“同感する”と回答したのは女性88.3%、男性87.5%と男女とも8割強を占め、性別による大きな差はない。
- ・ 「性別による固定的な役割分担」(「男は仕事、女は家庭を中心にする」)では、女性で45.1%、男性で56.7%と、男性の方が11.6ポイント高く、男性は過半数を超えている。特に「男性は家族を養う義務がある」「子どもが小さい間は、母親は育児に専念する」については、“同感する”と回答したのは女性79.6%、男性79.1%と男女とも約8割である。
- ・ また、特に男女間で考え方に差がみられたものは以下の項目である。
 - 女性の方が肯定的な意見が多かったもの
 - ・ 「男女ともに仕事をもち経済的に自立する」(女性の方が11.1ポイント高い)
 - ・ 「夫婦が別々の姓を名乗ることを認める」(女性の方が7.4ポイント高い)
 - ・ 「結婚してもうまいかなければ、離婚すればよい」(女性の方が6.9ポイント高い)
 - 男性の方が肯定的な意見が多かったもの
 - ・ 「女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てる」(男性の方が12.7ポイント高い)
 - ・ 「男は仕事、女は家庭を中心にする」(男性の方が11.6ポイント高い)
 - ・ 「夫婦は同じ墓に入る」(男性の方が10.7ポイント高い)
- ・ 過去調査と比較すると、全般的に、男女共同参画に関する考え方について“同感する”ポイントがやや減少している傾向がうかがえる。結果は次のとおりである。



- ・女 「夫婦は同じ墓に入る」 / “ 同感する ”
- ・男女 「男は仕事、女は家庭を中心にする」 / “ 同感する ”



- ・男女 「女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てる」 / “ 同感する ”
- ・男 「夫婦は同じ墓に入る」 / “ 同感する ”



- ・男 「性別にとらわれず、一人ひとりが納得いく生き方をする」 / 『 と思う 』
- ・男女 「男女とも仕事を持ち経済的に自立する」 (H16比) / “ 同感する ”
- ・女 「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」 (H16比) / 『 と思う 』
- ・男女 「結婚しないで子どもをもってもよい」 / “ 同感する ”
- ・男女 「結婚してもうまいかなければ、離婚すればよい」 / 『 と思う 』



- ・男 「男性は家族を養う義務がある」 / 『 と思う 』



- ・男女 「子どもが小さい間は、母親は育児に専念する」 / “ 同感する ”
- ・男女 「夫婦が別々の姓を名乗ることを認める」 / “ 同感する ”

【社会、生活における男女平等の浸透】(問6)

- ・すべての項目で、「女性よりも男性の方が優遇されている」と回答が多く、特に、“男性優遇”とする意見が過半数を超えるものは、「社会通念・慣習・しきたりなどで」「政治の場で」「社会全体として」「職場で」「家庭生活で」となっている。
- ・“男性優遇”よりも、「平等である」とする意見の方が多かった項目は、「学校教育の場で」の一項目となっている。
- ・女性では“男性優遇”、男性では「平等」と回答する割合が高い。
- ・過去調査と比較すると、ほとんど全ての項目で、“男性優遇”の割合が減少している。結果は次のとおりである。



- ・男 「家庭生活で」 / “ 男性優遇 ”
- ・男女 「職場で」 / “ 男性優遇 ”
- ・男 「地域活動・社会活動の場で」 / “ 男性優遇 ”
- ・男女 「法律や制度のうえで」 / “ 男性優遇 ”
- ・男女 「社会通念・慣習・しきたり等で」 / “ 男性優遇 ”
- ・男女 「社会全体として」 (H16比) / “ 男性優遇 ”



- ・女 「家庭生活で」 / “ 男性優遇 ”



- ・女 「地域活動・社会活動の場で」 / “ 男性優遇 ”
- ・男女 「政治の場で」 / 『 男性が非常に優遇 』

仕事と生活の調和に関する意識と実態

【好ましい生き方と現状の生き方】(問11群)

- ・ **好ましい生き方**として、「仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる」が女性で53.5%、男性が36.6%と、男女とも最も多く、女性では40歳代で69.1%、男性では20歳代が45.7%と最も高くなっている。**現状の生き方**において、両立させている割合は、女性20.7%、男性17.4%となっており、理想と現実に差がみられる。
- ・ 女性では「家事や趣味等も尊重するがあくまでも仕事を優先する」については、**好ましい生き方**とする意見は5.9%であるが、**現状の生き方**では15.8%となっている。また、「生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念している」については、**好ましい生き方**とする意見は7.3%であるが、**現状の生き方**では13.8%となっている。
- ・ 男性では、「家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念している」は、**好ましい生き方**では3.0%、**現状の生き方**では11.7%である。「仕事も尊重するが、家事・育児や地域活動等を優先させている」では、**好ましい生き方**では16.9%に対し、**現状の生き方**7.5%となっている。また、「家事や趣味、地域活動等も尊重するが、あくまで仕事を優先する」は**好ましい生き方**で32.8%、**現状の生き方**で31.6%と割合は変わらない。
- ・ **好ましい生き方**について、過去調査と比較すると、仕事優先の生き方よりも、「仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる」が、平成8年度38.3%、16年度36.9%、20年度46.2%と増加傾向にある。その他、結果は次のとおりである。



・ 男女「仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる」



・ 男 「仕事も尊重するが、家事・育児や地域活動等を優先させる」



・ 男女「家事や趣味、地域活動等も尊重するが、あくまで仕事を優先する」

【日常生活での役割分担・介護者の状況】(問7、問3群)

- ・ 日常生活での役割分担について、「家具の移動、器具等の修理」を除く全ての項目で、「主に女性の役割」という回答が多くを占めるが、女性では「主に女性の役割である」と回答し、男性では「男女同じ程度である」という回答が多い傾向がみられる。
- ・ 特に、「自治会・町内会等への出席や近所づきあい」「子どもの世話やしつけ」「お年寄りや病人の介護」については、男性では、「男女同じ程度」という回答が一番多くなっているが、女性では「主に女性の役割である」という回答が一番多くなっている。
- ・ また、2人ともフルタイムの世帯において、全般的に「男女同じ程度」という回答の割合が高くなっている。
- ・ 過去調査と比較すると、食事や洗濯、買い物等の日常的な役割については、「主に女性が担う役割」が減少しているが、介護や子育てなどの福祉分野については、「主に女性の役割」が増加している傾向がみられる。
- ・ 介護等の主な担い手については、「施設や病院」が23.2%、「妻」が18.9%となっており、

過去調査と比較すると、「妻」の割合が減少し、「娘」が増えている。経年比較の結果は次のとおりである。



- ・女 「お年寄りや病人の介護」 / 『主に女性の役割』
- ・女 「介護等の主な担い手」(H16比) / 『娘』



- ・男 「お年寄りや病人の介護」 / 『主に女性の役割』



- ・男女「子どもの世話やしつけ」 / 『主に女性の役割』



- ・男女「食事の支度」 / 『主に女性の役割』
- ・男女「食事の後片付け」 / 『主に女性の役割』
- ・男女「掃除」 / 『主に女性の役割』
- ・女 「洗濯」 / 『主に女性の役割』
- ・女 「ごみ捨て」 / 『主に女性の役割』
- ・男女「日常の買い物」 / 『主に女性の役割』
- ・男女「家計の管理」 / 『主に女性の役割』
- ・男女「介護等の主な担い手」(H16比) / 『妻』



- ・男女「自治会・町内会等への出席や近所づきあい」 / 『主に女性の役割』
- ・男 「洗濯」 / 『主に女性の役割』
- ・男 「ごみ捨て」 / 『主に女性の役割』



- ・男女「家具の移動、器具等の修理」 / 『主に女性の役割』

【社会活動への参加状況】(問14)

- ・社会活動に「参加したいと思うが参加できない」という割合が、女性33.8%、男性33.1%と男女ともに最も高く、特に正規雇用者でより高くなっている。次いで「何らかの社会活動に参加している」が女性21.1%、男性19.4%と男女とも約2割となっており、特に自営業・内職等で高くなっている。
- ・「参加できない」「したくない」理由については、全体として「仕事との両立が難しい」が43.6%で最も高く、特に男性では47.9%と高くなっている。次いで「活動時間が合わない」が30.9%となっている。
- ・「現在参加している」「今後参加してみたい」活動内容については、「自治会・町内会等の行事や活動」が51.5%と約半数を占め最も高く、次いで「趣味やスポーツのサークル活動」が41.7%となっている。
- ・社会活動への参加意向を、過去調査と比較すると、男女とも、「参加できない」「したくない」という意見が増加傾向にあり、「現在なんらかの活動に参加している」割合が減少している。結果は次のとおりである。

-  ・男 「参加したいと思うが参加できない」
-  ・女 「参加したいと思うが参加できない」
-  ・男女「今後とも参加したくない」
-  ・女 「何らかの社会活動に参加している」
-  ・男 「何らかの社会活動に参加している」

【女性の就労に関する考え方】(問9)

- ・「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が女性44.1%、男性42.3%と男女とも最も高い。次いで「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が女性22.6%、男性20.6%と男女とも約2割となっており、男女による割合の差はみられない。
- ・「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」について、性・年齢別にみると、男性では、年齢が低いほど割合が高い傾向にあり、20歳代では30.4%となっており、全体よりも約10ポイント高い。一方、女性では、30歳代30.7%、40歳代27.7%、50歳代30.1%が約3割と、全体よりも約10ポイント高くなっている。

【男性の参画を進めるために必要なこと】(問12)

- ・家庭生活や地域社会活動への男性の参画を進めるためには、「男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす」という意見が36.0%と最も多く、次いで「男性が企業の育児休業制度や介護休暇制度を取得しやすい環境を整える」などの環境整備を必要とする意見が34.1%と多くなっている。
- ・「男性が企業の育児休業制度や介護休暇制度を取得しやすい環境を整える」環境整備を求める意見は20～30歳代の若年層と40～50歳代の女性に多くなっている。
- ・過去調査と比較すると、「男女とも労働時間の短縮等の環境面に関する改善」を求める意見が増加し、「男女の役割分担についての社会通念等を改める」という意見が減少している。結果は下記のとおりである。

-  ・男女「労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる」(H16比)
- ・女 「配偶者・パートナーの間で家事・育児などの分担をするよう十分話し合う」(H16比)
- ・女 「男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす」(H16比)
- ・男女「男性が企業の育児休業制度や介護休暇制度を取得しやすい環境を整える」(H16比)
-  ・男女「男女の役割分担についての社会通念や慣習を改める」(H16比)

健康や介護に関する意識と実態

【健康のために心がけていること】(問1群、問2)

- ・ この1年間の健康診断の受診状況については、女性で53.7%、男性で63.7%が、「受けた」と回答している。非正規雇用者や非就業者で、健康診断を「受けていない」割合が高くなっている。
- ・ 健康診断を「受診しなかった」理由としては、「忙しくてひまがなかったから」34.8%、「医者にかかっていたから」28.7%、「費用がかかるから」28.7%という意見が多くなっている。
- ・ 「健康のための心がけ」としては、「睡眠を十分とる」という回答が53.5%と過半数を占め、これに次いで「栄養バランスなどに気をつける」が47.4%となっている。

【介護に関する意識】(問4、問5)

- ・ 回答者自身が介護を必要とするようになった場合に、「介護サービスや保健福祉サービスを活用しながら自宅で介護してほしい」が32.8%で最も高く、「福祉施設や病院等に入所・入院したい」も15.8%と高くなっている。性別による大きな差はみられない。年代別にみると、男女とも40歳代以下の年代では「まだ具体的に考えたことはない」が31.6%から48.1%と約3割から約5割弱と最も高くなっており、年代による差がみられる。
- ・ 高齢者介護に対する考え方として、「家族だけでは負担が重いので、社会が積極的に支援する必要がある」が42.4%と最も高く、次いで「基本的には家族がおこなう方がよいが、社会がある程度支援する必要がある」27.1%となっている。性別にみると、「家族だけでは負担が重いので、社会が積極的に支援する必要がある」では、女性の方が6.6ポイント高く、「基本的には家族がおこなう方がよいが、社会がある程度支援する必要がある」では、男性の方が6.4ポイント高くなっている。

子どもの教育に関する意識

【子どもに受けさせたい教育】(問15)

- ・ 子どもに受けさせたい教育については、男の子・女の子ともに「4年制大学」という回答が最も多くなっているが、その割合は男の子の方が高く(「男の子」59.3%、「女の子」44.9%)、女の子では「短期大学・高等専門学校」という回答も16.5%と男の子に比べて多くなっている。
- ・ 過去調査と比較すると、女の子に対して「4年制大学」のポイントが増加している。結果は次のとおりである。



・ 男女「女の子：4年制大学」



・ 女 「男の子：4年制大学」

・ 男女「女の子：短期大学・高等専門学校」



- ・男女「女の子：高等学校」
- ・男 「男の子：高等学校」

【学校教育の場で推進すべきこと】(問16)

- ・「生活指導において、男女の別なく能力・個性を生かせるようにする」の割合が60.3%を占めて最も高く、次いで「男女共同参画の視点から、職業体験やまちづくりへの参加など体験学習を進める」39.5%、「生命尊重、男女平等の視点で、人間教育としての性教育を推進する」31.7%の順になっている。なお、性別による差はみられない。

男女間における暴力に関する意識と実態

【女性に対する暴力行為を見聞きしたこと】(問17)

- ・女性の5.7%が「自分が直接経験している」と回答しており、30歳代・40歳代の女性でその割合が高くなる傾向がみられる。また20歳代女性では「相談を受けたことはないが当事者を知っている」が15.3%、30歳代では「相談を受けたことがある」が13.2%にのぼっている。一方、男性では「見聞きしたことがない」割合が13.4%と、女性に比べて5.3ポイント高くなっている。

【DV防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度】(問18、問19)

- ・「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」については、回答者の77.0%が“認知”しており、「ある程度内容を知っている」人は29.9%である。
- ・「女性に対する暴力に関する相談機関・対応窓口」については、「警察署、交番」以外の全ての項目で、知らないという回答が、知っているという回答を上回っている。また、性別にみると、「警察署、交番」以外の全ての項目で、女性の方が知っている割合が高くなっており、特に、「シェルター等の民間の相談機関」で8.3ポイント、「大阪府女性相談センター」で5.0ポイント、男性よりも高くなっている。

【女性に対する暴力の問題の解決に向けて】(問20)

- ・「犯罪としてもっと厳しく取り締まること」62.2%、「配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること」51.6%、「被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること」51.2%と、回答する割合が高くなっている。また、性別にみると、「女性の経済的・精神的自立」を求める意見は、男性よりも女性の方が12.1ポイント高くなっている。
- ・過去調査と比較すると、「被害を受けた女性がいつでも身を寄せられるシェルターなどの施設」や「犯罪としての取締りを強化する」などが増加しているが、「女性の経済的・精神的自立」を求める意見や「男性優位の価値観を改める」などについては減少傾向にある。結果は次のとおりである。



- ・男女「被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること」
- ・男 「配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること」



- ・男女「犯罪としてもっと厳しく取り締まること」
- ・女 「配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること」



- ・男女「配偶者等の暴力に対する社会的な関心を高めること」
- ・男女「女性が経済的に自立すること」
- ・女 「女性が精神的に自立すること」
- ・男 「相談窓口や相談員を充実させること」



- ・男女「男性優位の価値観を改めること」
- ・男 「女性が精神的に自立すること」



- ・女 「相談窓口や相談員を充実させること」
- ・男女「加害者に対して必要なカウンセリングをおこなう施設があること」

男女共同参画社会の実現に向けて

【女性も男性も暮らしやすいまちのイメージ】(問13)

- ・ 過去調査と比較すると、項目の順位は大きく変化がなく、「犯罪や災害がなく安心して暮らせる」をあげる回答者が80.5%を占め最も高く、これに次いで、「高齢者等への福祉サービスが充実している」57.5%、「買い物など、生活するうえで便利である」56.7%、「近所のふれあいや支えあいがある」55.6%の順になっている。

【男女共同参画に関する用語の周知度】(問21)

- ・ 「夫婦別姓」82.6%、「セクシュアルハラスメント」81.6%、「ドメスティック・バイオレンス」78.4%、「男女雇用機会均等法」74.8%と、“認知している”が7割以上となっている。性別による差はみられない。
- ・ 過去調査と比較すると、「ジェンダー(社会的につくられた性差)」の認知度が年々増加している。その他、結果は以下のとおりである。



- ・ 全体「ジェンダー」/ “認知している”
- ・ 全体「内閣府『女性のチャレンジ支援』(H16比)」/ “認知している”
- ・ 全体「ドメスティック・バイオレンス」(H16比) / “認知している”



- ・ 全体「夫婦別姓」/ “認知している”
- ・ 全体「育児・介護休業法および制度」(H16比) / “認知している”
- ・ 全体「セクシュアルハラスメント」/ “認知している”



・全体「男女雇用機会均等法」/ “認知している”



・全体「女子(性)差別撤廃条約」/ “認知している”

【大阪市男女共同参画関連施策の周知度】(問22)

- ・「クレオ大阪」28.8%、「大阪市男女共同参画推進条例」20.0%「大阪市男女きらめき計画」10.8%、「大阪市男女共同参画施策苦情処理制度」8.1%の“認知度”となっている。また、性別にみると、「クレオ大阪」では女性の方が8.9ポイント、男性よりも認知している割合が高くなっているが、その他の項目ではほとんど差がみられない。
- ・過去調査と比較すると、「大阪市男女共同参画推進条例」で2.8ポイント、「クレオ大阪」で2.5ポイント、平成16年度より“認知度”が増加している。

【男女平等の推進のために最も必要だと思うこと】(問10)

- ・「女性を取り巻く様々な偏見・社会通念などを改める」ことを必要とする意見が22.3%で最も多く、次いで「女性自身が経済力をつけ、知識等を学習するなど力の向上を図る」19.3%、「女性の就業、社会参加を支援する施設の充実」19.0%の順になっている。
- ・女性では、「女性の経済力や知識をつけること」や、「女性の就業支援が必要」とする意見が男性よりも多く、男性では、「法律等を見直すことが必要」とする意見が女性よりも多くなっている。

【男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策】(問23)

- ・過去調査と比較すると、項目の順位はほとんど変化がなく、「高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」59.3%、「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」56.6%、「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」41.3%の順に割合が高くなっている。また、女性では「女性の就労に対する支援施策」が42.8%と、男性よりも17.4ポイント高くなっている。

結果は以下のとおりである。



- ・女 「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」
- ・女 「女性の就労に対する支援施策」



- ・男 「経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に関する指導・啓発」
- ・男 「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」



- ・男 「女性・男性の生き方に関する情報提供・相談などのサービス」
- ・男 「学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習」
- ・男 「議会や各種審議会などの政策決定の場への女性の参画の推進」



- ・女 「男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮」

平成20年度 男女共同参画に関する市民意識調査



- ・男女「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」
- ・男女「高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」
- ・男 「ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策」
- ・女 「女性・男性の生き方に関する情報提供・相談などのサービス」
- ・女 「学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習」
- ・男女「生涯教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習」
- ・男 「男女平等意識の確立に向けた情報の提供や普及・啓発活動」
- ・女 「経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に関する指導・啓発」
- ・男女「雇用・教育上の実質的な平等を推進するため一定の割合で女性を登用する措置」
- ・女 「議会や各種審議会などの政策決定の場への女性の参画の推進」
- ・男 「女性の就労に対する支援施策」
- ・男女「女性の自主的な社会活動や研究活動に対する援助」

(4) 大阪市男女共同参画基本計画の指標・数値目標

「大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 - 」において、実効性のある計画を策定し、的確な進捗管理を行うため、10の課題のなかで「指標・数値目標」を設定しています。「指標・数値目標」のうち市民意識調査で当てはまる項目は次のとおりです。

課題 2 社会制度・慣行の見直し、意識の改革

- ・大阪市の男女共同参画関連施策の周知度

「ある程度内容を知っている」と「聞いたことがある」を合わせた人の割合

	平成16年度	平成20年度	平成27年度 目標数値
大阪市男女共同参画推進条例	17.2%	20.0%	50%以上
大阪市男女共同参画基本計画 (大阪市男女共同参画プラン)	13.7%	10.8%	50%以上

- ・男女の地位の平等感 「社会全体でみて」平等であると答える人の割合

平成16年度	平成20年度	平成27年度 目標数値
14.2%	13.2%	

(矢印は毎年その数値をあげることを目標としているものです)

課題 3 就業における男女共同参画の均等な機会を確保するための支援

- ・社会・生活における男女平等について、「職場で」平等であると思う人の割合

平成16年度	平成20年度	平成27年度 目標数値
16.0%	15.6%	

課題 6 女性に対するあらゆる暴力の根絶

- ・「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」(DV防止法)の周知度

「ある程度内容を知っている」と答えた人の割合

平成16年度	平成20年度	平成27年度 目標数値
33.1%	29.9%	70%以上

- ・DV関係相談機関・対応窓口の周知度 「知っている」と答えた人の割合

	平成16年度	平成20年度	平成27年度 目標数値
クレオ大阪中央相談室	13.6%	13.5%	70%以上
区保健福祉センター	37.0%	26.5%	70%以上

課題 8 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

- ・「学校教育の場で」『平等である』と思う人の割合

平成16年度	平成20年度	平成27年度 目標数値
52.0%	46.9%	

基本計画のなかで、現状として示されているデータは次のとおり。

- ・女性が職業を持つことについての考え (64ページ参照)
- ・好ましい生き方について (42ページ参照)
- ・暮らしやすいまちのイメージについて (81ページ参照)
- ・「社会・生活における男女平等の浸透」について (33ページ参照)
- ・「女性に対する暴力行為を見聞きしたこと」について (75ページ参照)
- ・「子どもに受けさせたい教育」について (72ページ参照)

(5) 調査結果の考察

男女共同参画関係法制度等の動き

平成8年から16年度にかけて国では「男女共同参画社会基本法」(平成11年)をはじめとする「介護保険法」(平成12年)、「DV防止法」(平成13年)などの法律が、大阪市においてはクレオ大阪5館体制整備(平成13年)、「大阪市男女共同参画推進条例」(平成15年)など男女共同参画に関する施策や制度が整備された。

平成16年度から20年度にかけては、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」「DV防止法」「介護保険法」などの改正や「大阪市男女共同参画基本計画」策定など男女共同参画社会の実現に向けた制度や施策の推進が図られた。

調査の結果から考察されたことを、次のとおりにまとめた。

男女共同参画に関する意識

「男女共同参画に関する考え方」について、経年変化をみると、「男女ともに仕事をもち経済的に自立する」が減少し、「男は仕事、女は家庭を中心にする」「女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てる」が増加している。

「社会、生活における男女平等の浸透」については、社会全般にわたって“男性優遇の傾向がみられるものの、経年変化をみると、ほとんどすべての項目で“男性優遇”が減少傾向にあり、「男女共同参画に関する考え方」の回答と、「社会、生活における男女平等の浸透」の回答にズレが生じている。

仕事と生活の調和に関する意識と実態

「ワーク・ライフ・バランス」について、男女とも、好ましい生き方として「仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる」が最も多く、過去調査と比較して、平成20年度調査ではその割合が大幅に増加している。現状の生き方としては、女性は“家庭優先”、男性は“仕事優先”という傾向がみられる。

「日常生活での役割分担」について、ほとんどすべての項目で「主に女性の役割」の割合が高く、家庭での日常的な事柄の多くは女性が担っていることがわかる。しかし、経年変化をみると、「食事」「洗濯」「買い物」等の日常的な役割については、「主に女性の役割」が減少傾向にあり、特に男性で、「男女同じ程度」の回答が増加している。少しずつではあるが、日常生活における役割を男女がともに担う傾向がうかがえる。

「男性が家庭生活等への参画を進めていくために必要なこと」では、「男女の役割分担についての社会通念等を改める」と、「労働時間の短縮」等の環境面に関する改善を求める意見の割合に差がみられない。しかし、平成16年度と20年度を比較すると、「男女の役割分担についての社会通念等を改める」が減少し、環境面に関する改善を求める意見が増加しており、「意識」よりも「実態」の変化を望む声が大きくなっている。

男女共同参画社会の実現に向けて

「男女平等の推進のために最も必要だ」と思うことについては、女性では、「女性の就業支援が必要」「女性の経済力や知識をつけること」とする意見が多く、男性では、「社会通念を

改めること」「法律等を見直すことが必要」とする意見が女性よりも多くなっている。女性では「実態」の変化を、男性では「意識」や「制度」の改革を望む声が大きくなっている。

「男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策」については、「高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着」「育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着」等、自身にとって身近な「実態」の改善を望む声が高く、「女性・男性の生き方に関する情報提供・相談等のサービス」「男女平等意識の情報提供や普及啓発活動」「議会や各種審議会等の政策決定の場への女性の参画の推進」等を望む声は低く、ここでも「意識」や「制度」の変化よりも、「実態」の改善が求められているといえる。

総括

今回の調査においては、基本的に「設問項目」「回答項目」ともに過去調査と同様の内容とした。これは平成8年度、16年度からの経年変化をみるためであり、市民の意識や日常生活等の状況の推移をみることができた。

一方で、社会情勢、男女共同参画施策の動き等、時代の変化が激しい現代社会において、「ワーク・ライフ・バランス」の回答項目をはじめとして平成20年度では16年度の聞き方では馴染まない項目があり、市民の意識や日常生活等の状況を把握するためには、経年変化に注目しながらも、時代に対応した「設問項目」「回答項目」など、内容の検討が必要といえる。

全体を通してみると、「男女共同参画の考え方」や「男女共同参画施策の周知度」等の男女共同参画の進捗度をみる回答のポイントが減少する結果となっているものの、「男女平等の社会・生活への浸透」「家庭での役割分担」などの項目では、男女共同参画が進んでいる結果となった。このことから、「実態」の面では男女共同参画社会の実現に向けて、少しずつではあるが変化している様子がうかがえる。

市民の意識では、男女共同参画の進展には、「意識」の変化はもちろんのこと、具体的な「実態」の改善を求める傾向が年々強くなっている。

また、若年者層を中心に「家庭での役割分担」「男女共同参画に関する考え方」等の「性別役割分担意識」を肯定する回答が増加傾向にある一方で、「男女平等の社会・生活への浸透」「好ましい生き方」等の「男女共同参画」が進展しているとする回答が増加傾向にあるという新しい傾向がみられた。今後は「性別役割分担」や「男女共同参画」をどのような意味合いとして市民が捉えているのかという視点を考慮する必要がある。

平成20年度

男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果の個別分析

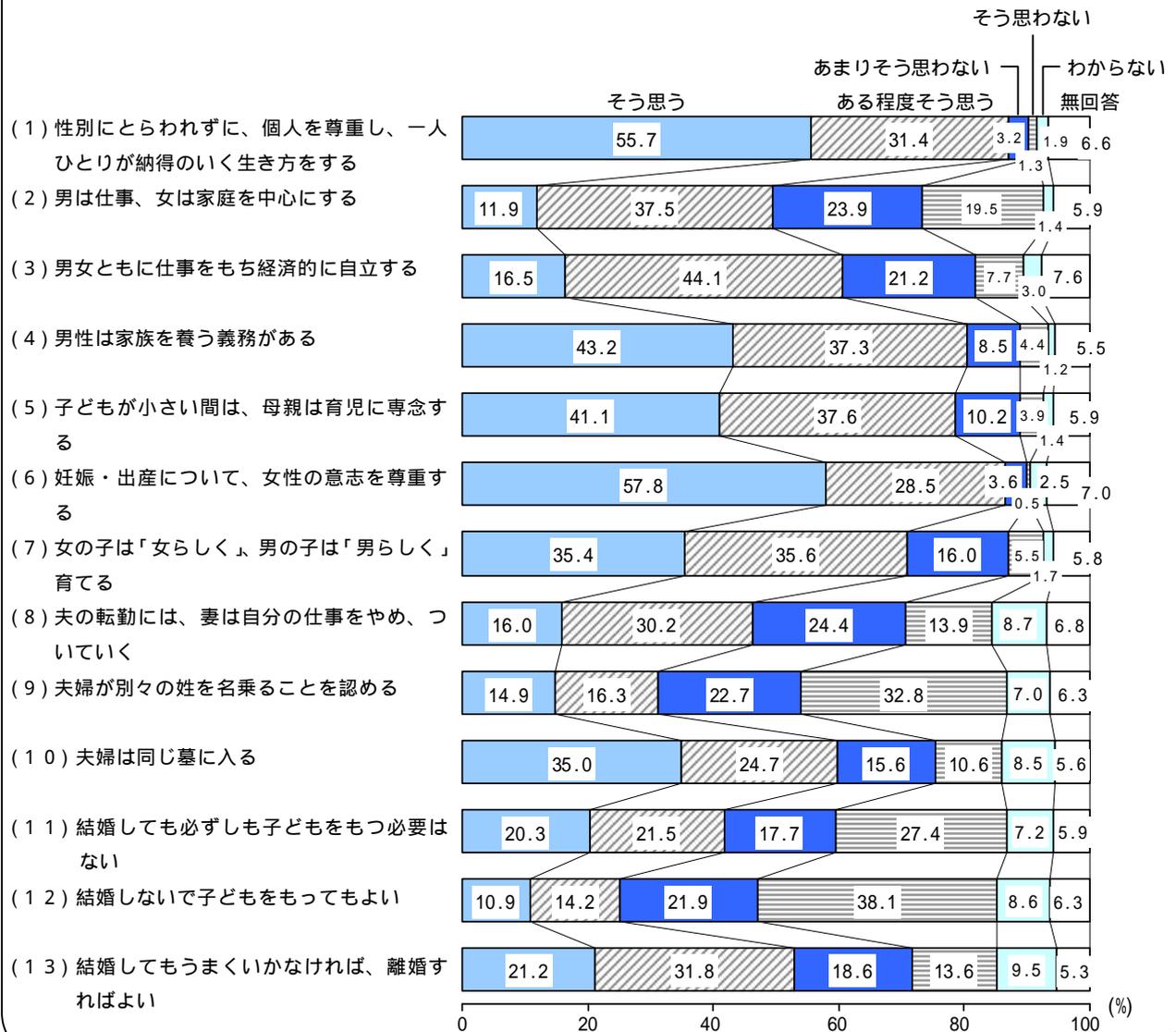
(1) 男女共同参画に関する意識

男女共同参画に関する考え方

問8 次にあげる考え方について、あなたはどのように思われますか。(1)から(13)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。

(はそれぞれ1つずつ)

【全体数：1,110】



【概要】男女共同参画に関する考え方について、“同感する”(『そう思う』『ある程度そう思う』の計)の割合が過半数以上を占めているものは以下の項目である。

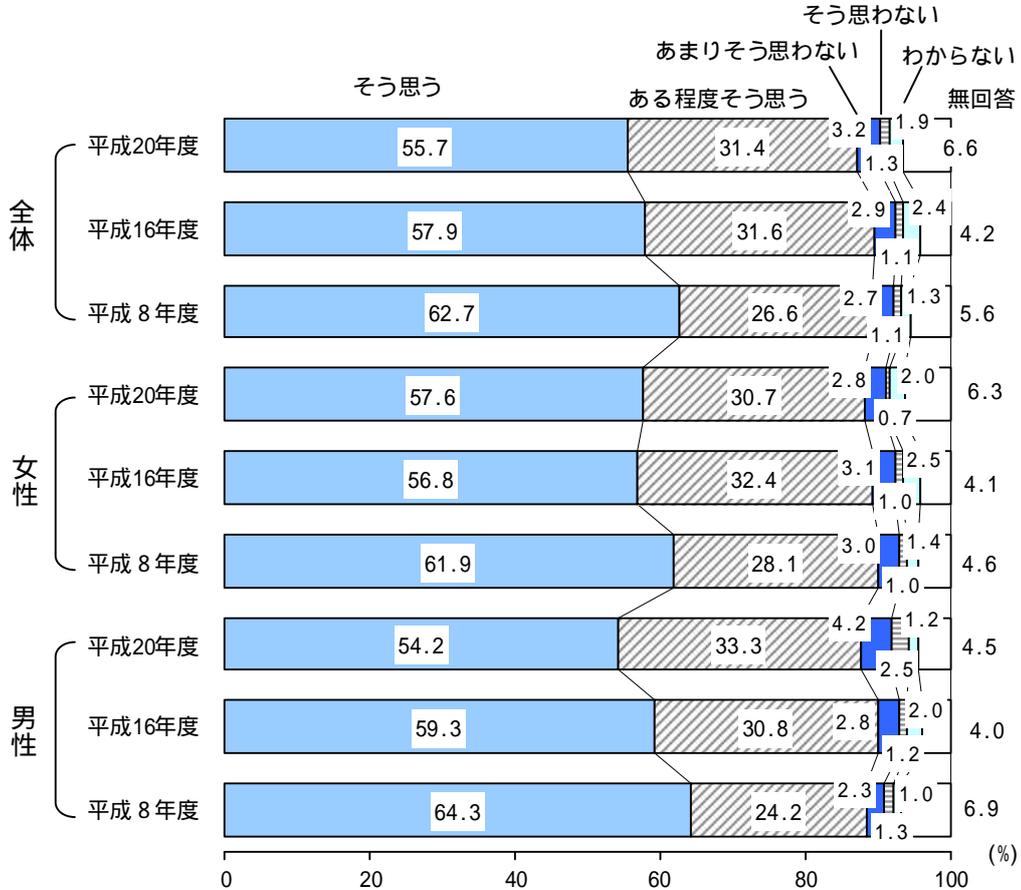
- | | |
|--------------------------------|---------|
| (1) 性別にとらわれず、一人ひとりが納得のいく生き方をする | (87.1%) |
| (6) 妊娠・出産について、女性の意志を尊重する | (86.3%) |
| (4) 男性は家族を養う義務がある | (80.5%) |
| (7) 女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てる | (71.0%) |
| (3) 男女ともに仕事をもち経済的に自立する | (60.6%) |
| (10) 夫婦は同じ墓に入る | (59.7%) |
| (13) 結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい | (53.0%) |

これに対し、“同感しない”(『そう思わない』『あまりそう思わない』)割合が過半数を占めるものは以下の項目である。

- (12) 結婚しないで子どもをもっても良い (60.0%)
- (9) 夫婦が別々の姓を名乗ることを認める (55.5%)

(1) 性別にとらわれずに、個人を尊重し、一人ひとりが納得のいく生き方をする

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が、87.1%と大半を占めている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“同感する”の割合に大きな差はないものの、『そう思う』割合は、年々減少している。

【性別・経年比較】

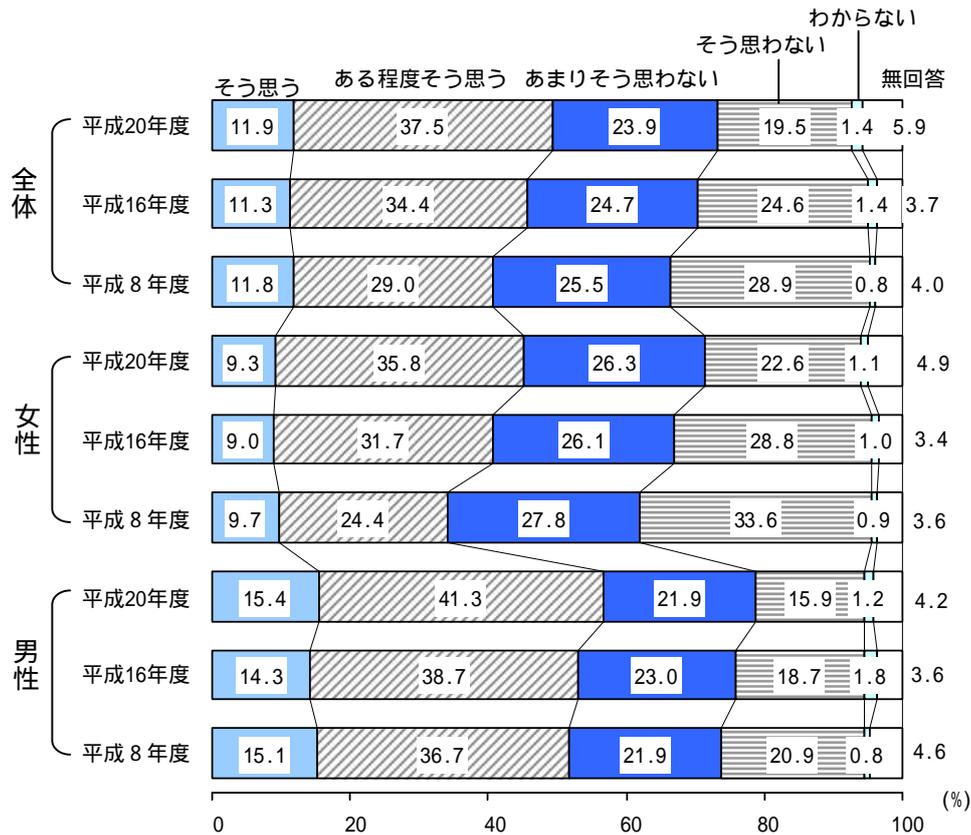
性別にみると、男女間に大きな差はみられないものの、過去調査と比較すると、男性では、『そう思う』割合が年々減少し、平成8年度(64.3%)よりも10.1ポイント減っている。女性では、平成16年度から割合に変化はほとんどみられない。

【性・年代別 問8(1)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
女	20歳代	72 / 100.0	41 / 56.9	22 / 30.6	4 / 5.6	2 / 2.8	1 / 1.4	2 / 2.8
	30歳代	114 / 100.0	66 / 57.9	42 / 36.8	1 / 0.9	-	1 / 0.9	4 / 3.5
	40歳代	94 / 100.0	54 / 57.4	33 / 35.1	3 / 3.2	1 / 1.1	-	3 / 3.2
	50歳代	113 / 100.0	69 / 60.2	35 / 31.0	4 / 3.5	1 / 0.9	1 / 0.9	4 / 3.5
	60歳代	116 / 100.0	62 / 53.4	36 / 31.0	3 / 2.6	3 / 2.6	4 / 3.4	10 / 8.6
	70歳以上	103 / 100.0	61 / 59.2	20 / 19.4	2 / 1.9	-	4 / 3.9	16 / 15.5
	20歳代	46 / 100.0	31 / 67.4	11 / 23.9	2 / 4.3	2 / 2.2	-	1 / 2.2
男	30歳代	64 / 100.0	34 / 53.1	24 / 37.5	3 / 4.7	1 / 1.6	-	2 / 3.1
	40歳代	54 / 100.0	28 / 51.9	21 / 38.9	1 / 1.9	1 / 1.9	-	3 / 5.6
	50歳代	79 / 100.0	45 / 57.0	24 / 30.4	5 / 6.3	2 / 2.5	-	3 / 3.8
	60歳代	76 / 100.0	30 / 39.5	35 / 46.1	1 / 1.3	4 / 5.3	3 / 3.9	3 / 3.9
	70歳以上	82 / 100.0	50 / 61.0	18 / 22.0	5 / 6.1	1 / 1.2	2 / 2.4	6 / 7.3

(2) 男は仕事、女は家庭を中心にする

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が49.4%、“同感しない”割合は43.4%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、『そう思う』の割合はほとんど変化がみられないが、『ある程度そう思う』が年々増加している。

【性別・経年比較】

性別にみると、“同感する”割合が、女性で45.1%、男性で56.7%と男性では過半数を超えており、男女間で差が見られる。

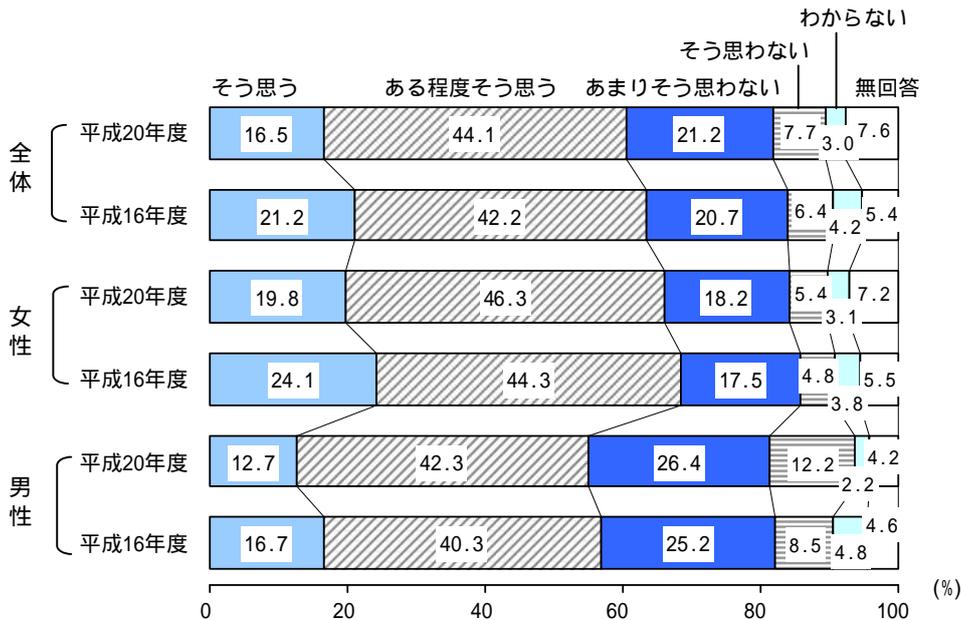
過去調査と比較すると、『ある程度そう思う』が男女ともに年々増加しており、『そう思う』を含めた“同感する”割合は、平成8年度よりも、女性で11.0ポイント、男性で4.9ポイント増えており、女性の方が増加傾向にある。

【性・職業別 問8(2)】

	調査数	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	上段：件数、下段：%			
						わからない	無回答		
女性	就業者全体	336	20	98	109	99	2	8	
		100.0	6.0	29.2	32.4	29.5	0.6	2.4	
	正規雇用	130	4	22	41	57	2	4	
		100.0	3.1	16.9	31.5	43.8	1.5	3.1	
	非正規雇用	122	5	43	45	27	-	2	
		100.0	4.1	35.2	36.9	22.1	-	1.6	
	自営業・内職等	84	11	33	23	15	-	2	
		100.0	13.1	39.3	27.4	17.9	-	2.4	
	非就業者全体	257	36	112	47	38	5	19	
		100.0	14.0	43.6	18.3	14.8	1.9	7.4	
男性	家事専業	162	21	77	31	20	1	12	
		100.0	13.0	47.5	19.1	12.3	0.6	7.4	
	学生	6	-	2	1	2	-	1	
		100.0	-	33.3	16.7	33.3	-	16.7	
	無職	73	12	30	11	12	4	4	
		100.0	16.4	41.1	15.1	16.4	5.5	5.5	
	その他	16	3	3	4	4	-	2	
		100.0	18.8	18.8	25.0	25.0	-	12.5	
	男性	就業者全体	293	37	127	66	50	1	12
			100.0	12.6	43.3	22.5	17.1	0.3	4.1
正規雇用		169	17	74	42	30	1	5	
		100.0	10.1	43.8	24.9	17.8	0.6	3.0	
非正規雇用		25	3	13	4	4	-	1	
		100.0	12.0	52.0	16.0	16.0	-	4.0	
自営業・内職等		99	17	40	20	16	-	6	
		100.0	17.2	40.4	20.2	16.2	-	6.1	
非就業者全体		105	25	38	22	13	2	5	
		100.0	23.8	36.2	21.0	12.4	1.9	4.8	
女性	家事専業	1	-	1	-	-	-	-	
		100.0	-	100.0	-	-	-	-	
	学生	8	1	1	3	2	1	-	
		100.0	12.5	12.5	37.5	25.0	12.5	-	
	無職	90	22	33	19	10	1	5	
		100.0	24.4	36.7	21.1	11.1	1.1	5.6	
その他	6	2	3	-	1	-	-		
	100.0	33.3	50.0	-	16.7	-	-		

(3) 男女ともに仕事をもち経済的に自立する

【平成20年度全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“同感する”割合が60.6%と過半数を占めており、一方、“同感しない”割合は28.9%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、“同感する”の割合は、平成16年度(63.4%)より2.8ポイント減少している。

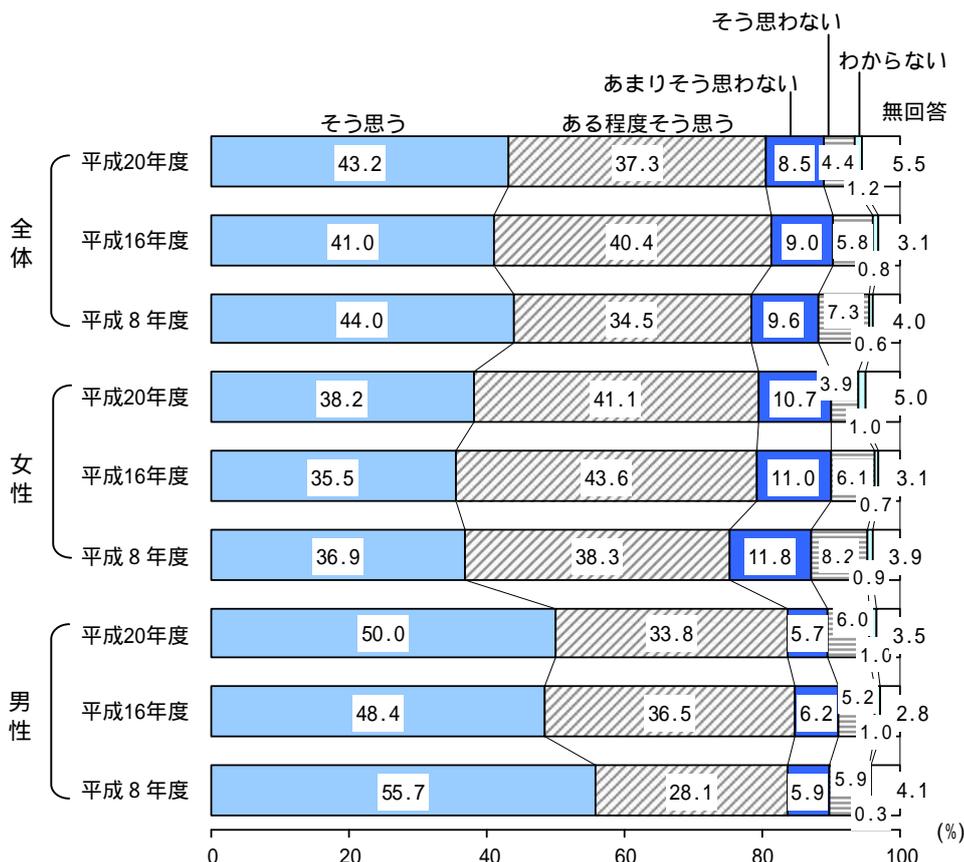
【性別・経年比較】性別にみると、“同感する”の割合は、女性が66.1%、男性が55.0%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女ともに『そう思う』の割合が、平成16年度より4ポイント程度減少している。

【性・年代、性・職業別 問8(3)】

性別	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答		
女	20歳代	72	14	36	13	6	1	2
		100.0	19.4	50.0	18.1	8.3	1.4	2.8
	30歳代	114	22	54	27	6	2	3
		100.0	19.3	47.4	23.7	5.3	1.8	2.6
	40歳代	94	20	56	13	2	1	2
		100.0	21.3	59.6	13.8	2.1	1.1	2.1
	50歳代	113	26	61	14	4	3	5
	100.0	23.0	54.0	12.4	3.5	2.7	4.4	
性	60歳代	116	16	49	26	9	6	10
		100.0	13.8	42.2	22.4	7.8	5.2	8.6
	70歳以上	103	23	28	18	6	6	22
	100.0	22.3	27.2	17.5	5.8	5.8	21.4	
男	20歳代	46	9	18	16	2	-	1
		100.0	19.6	39.1	34.8	4.3	-	2.2
	30歳代	64	8	27	19	8	2	-
		100.0	12.5	42.2	29.7	12.5	3.1	-
	40歳代	54	7	19	18	6	2	2
	100.0	13.0	35.2	33.3	11.1	3.7	3.7	
性	50歳代	79	14	37	16	8	1	3
		100.0	17.7	46.8	20.3	10.1	1.3	3.8
	60歳代	76	6	31	24	11	2	2
	100.0	7.9	40.8	31.6	14.5	2.6	2.6	
70歳以上	82	7	37	13	14	2	9	
	100.0	8.5	45.1	15.9	17.1	2.4	11.0	
女	就業者全体	336	79	178	50	16	4	9
		100.0	23.5	53.0	14.9	4.8	1.2	2.7
	正規雇用	130	37	69	14	4	1	5
		100.0	28.5	53.1	10.8	3.1	0.8	3.8
	非正規雇用	122	24	72	21	3	1	1
		100.0	19.7	59.0	17.2	2.5	0.8	0.8
	自営業・内職等	84	18	37	15	9	2	3
		100.0	21.4	44.0	17.9	10.7	2.4	3.6
	非就業者全体	257	40	97	58	17	15	30
		100.0	15.6	37.7	22.6	6.6	5.8	11.7
	家事専業	162	19	58	46	15	7	17
		100.0	11.7	35.8	28.4	9.3	4.3	10.5
	学生	6	1	2	1	-	1	1
		100.0	16.7	33.3	16.7	-	16.7	16.7
性	無職	73	18	29	10	2	6	8
		100.0	24.7	39.7	13.7	2.7	8.2	11.0
	その他	16	2	8	1	-	1	4
		100.0	12.5	50.0	6.3	-	6.3	25.0
	就業者全体	293	35	129	76	34	7	12
		100.0	11.9	44.0	25.9	11.6	2.4	4.1
	正規雇用	169	25	75	43	20	3	3
		100.0	14.8	44.4	25.4	11.8	1.8	1.8
	非正規雇用	25	2	10	8	3	-	2
		100.0	8.0	40.0	32.0	12.0	-	8.0
自営業・内職等	99	8	44	25	11	4	7	
	100.0	8.1	44.4	25.3	11.1	4.0	7.1	
非就業者全体	105	14	41	30	14	1	5	
	100.0	13.3	39.0	28.6	13.3	1.0	4.8	
家事専業	1	-	1	-	-	-	-	
	100.0	-	100.0	-	-	-	-	
学生	8	3	1	4	-	-	-	
	100.0	37.5	12.5	50.0	-	-	-	
無職	90	11	38	22	13	1	5	
	100.0	12.2	42.2	24.4	14.4	1.1	5.6	
その他	6	-	1	4	1	-	-	
	100.0	-	16.7	66.7	16.7	-	-	

(4) 男性は家族を養う義務がある

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が80.5%を占めている。

【経年比較】

過去調査と比較して、割合にほとんど変化がみられない。

【性別・経年比較】

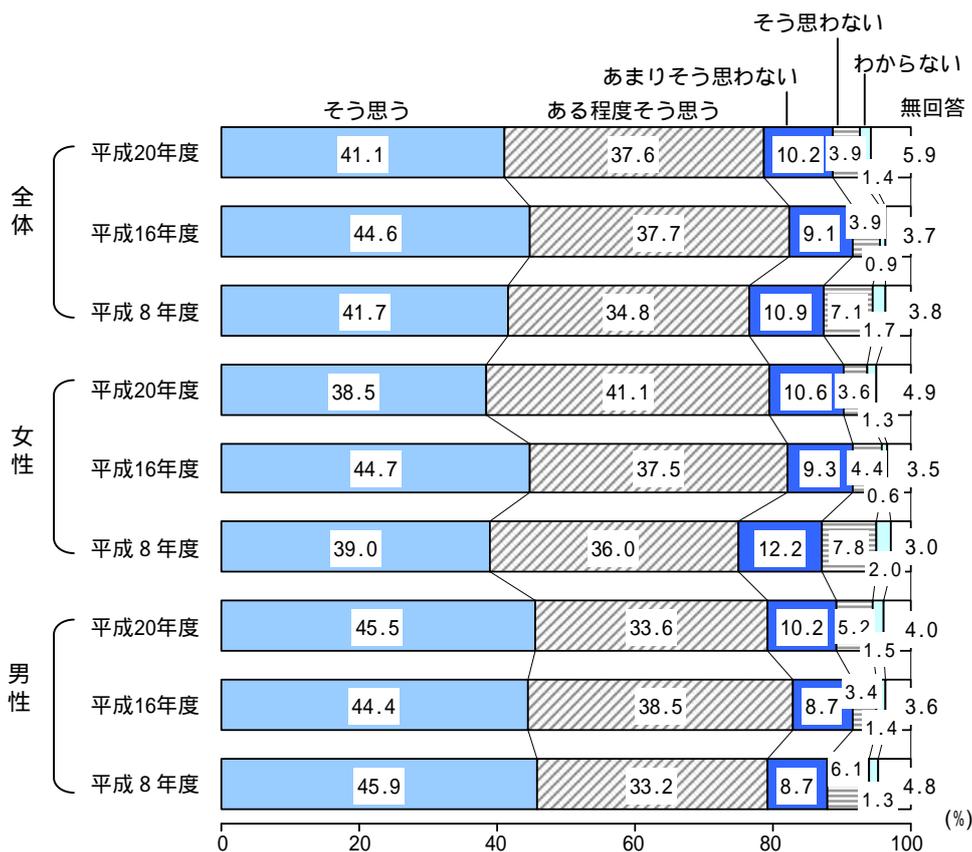
性別にみると、『そう思う』の割合が、女性で38.2%、男性で50.0%と男性は過半数を超えており、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男性では『そう思う』の割合が、平成8年度(55.7%)よりも、5.7ポイント減少している。

【性・職業別 問8(4)】

	調査数	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	上段：件数 下段：%	
女	就業者全体	336	116	144	48	16	2	10	
		100.0	34.5	42.9	14.3	4.8	0.6	3.0	
	正規雇用	130	33	54	29	9	1	4	
		100.0	25.4	41.5	22.3	6.9	0.8	3.1	
	非正規雇用	122	48	60	11	1	-	2	
		100.0	39.3	49.2	9.0	0.8	-	1.6	
性	自営業・内職等	84	35	30	8	6	1	4	
		100.0	41.7	35.7	9.5	7.1	1.2	4.8	
	非就業者全体	257	111	103	14	6	4	19	
		100.0	43.2	40.1	5.4	2.3	1.6	7.4	
	家事専業	162	65	71	10	4	1	11	
		100.0	40.1	43.8	6.2	2.5	0.6	6.8	
男	学生	6	1	4	-	-	-	1	
		100.0	16.7	66.7	-	-	-	16.7	
	無職	73	40	21	2	2	3	5	
		100.0	54.8	28.8	2.7	2.7	4.1	6.8	
	その他	16	5	7	2	-	-	2	
		100.0	31.3	43.8	12.5	-	-	12.5	
男	就業者全体	293	151	96	19	15	2	10	
		100.0	51.5	32.8	6.5	5.1	0.7	3.4	
	正規雇用	169	85	59	12	8	2	3	
		100.0	50.3	34.9	7.1	4.7	1.2	1.8	
	非正規雇用	25	12	7	3	2	-	1	
		100.0	48.0	28.0	12.0	8.0	-	4.0	
性	自営業・内職等	99	54	30	4	5	-	6	
		100.0	54.5	30.3	4.0	5.1	-	6.1	
	非就業者全体	105	49	40	4	7	1	4	
		100.0	46.7	38.1	3.8	6.7	1.0	3.8	
	家事専業	1	1	-	-	-	-	-	
		100.0	100.0	-	-	-	-	-	
性	学生	8	3	3	-	2	-	-	
		100.0	37.5	37.5	-	25.0	-	-	
	無職	90	42	35	4	4	1	4	
		100.0	46.7	38.9	4.4	4.4	1.1	4.4	
	その他	6	3	2	-	1	-	-	
		100.0	50.0	33.3	-	16.7	-	-	

(5) 子どもが小さい間は、母親は育児に専念する

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が78.7%を占めている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“同感する”割合は、平成16年度が82.3%、8年度が76.5%となっており、平成16年度で最も高くなっている。

【性別・経年比較】

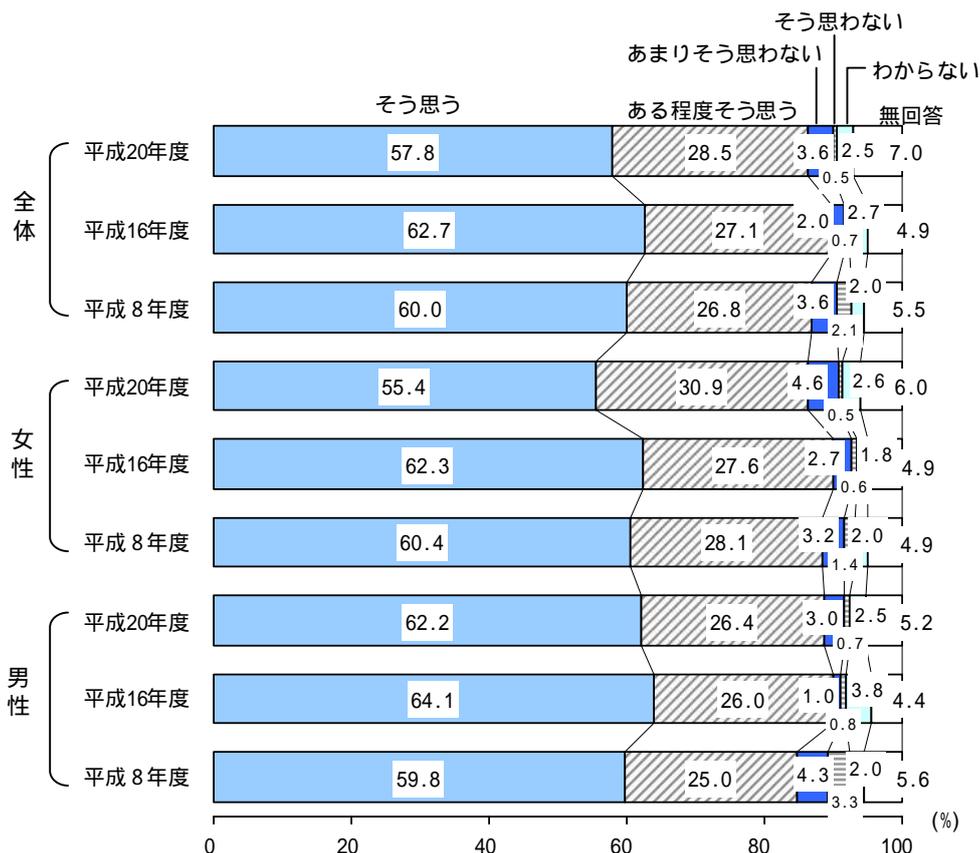
性別にみると、“同感する”割合に大きな差はないものの、『そう思う』割合は女性で38.5%、男性で45.5%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女ともに“同感する”割合が、平成16年度で最も高くなっている。

【性・職業別 問8(5)】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない			
女	就業者全体	336	109	146	53	14	4	10	
	100.0	32.4	43.5	15.8	4.2	1.2	3.0		
	正規雇用	130	30	52	30	11	2	5	
	100.0	23.1	40.0	23.1	8.5	1.5	3.8		
	非正規雇用	122	38	59	19	2	2	2	
	100.0	31.1	48.4	15.6	1.6	1.6	1.6		
	自営業・内職等	84	41	35	4	1	-	3	
	100.0	48.8	41.7	4.8	1.2	-	3.6		
	非就業者全体	257	117	101	11	8	4	16	
	100.0	45.5	39.3	4.3	3.1	1.6	6.2		
性	家事専業	162	75	68	4	4	2	9	
	100.0	46.3	42.0	2.5	2.5	1.2	5.6		
	学生	6	1	4	-	-	-	1	
	100.0	16.7	66.7	-	-	-	16.7		
	無職	73	34	25	4	4	2	4	
	100.0	46.6	34.2	5.5	5.5	2.7	5.5		
	その他	16	7	4	3	-	-	-	
	100.0	43.8	25.0	18.8	-	-	12.5		
	男	就業者全体	293	126	103	34	17	3	10
		100.0	43.0	35.2	11.6	5.8	1.0	3.4	
正規雇用		169	63	68	22	10	3	3	
100.0		37.3	40.2	13.0	5.9	1.8	1.8		
非正規雇用		25	10	11	-	3	-	1	
100.0		40.0	44.0	-	12.0	-	4.0		
自営業・内職等		99	53	24	12	4	-	6	
100.0		53.5	24.2	12.1	4.0	-	6.1		
非就業者全体		105	56	32	7	4	-	6	
100.0		53.3	30.5	6.7	3.8	-	5.7		
性	家事専業	1	1	-	-	-	-	-	
	100.0	100.0	-	-	-	-	-		
	学生	8	2	2	3	1	-	-	
	100.0	25.0	25.0	37.5	12.5	-	-		
	無職	90	51	26	4	3	-	6	
	100.0	56.7	28.9	4.4	3.3	-	6.7		
	その他	6	2	4	-	-	-	-	
	100.0	33.3	66.7	-	-	-	-		

(6) 妊娠・出産について、女性の意志を尊重する

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



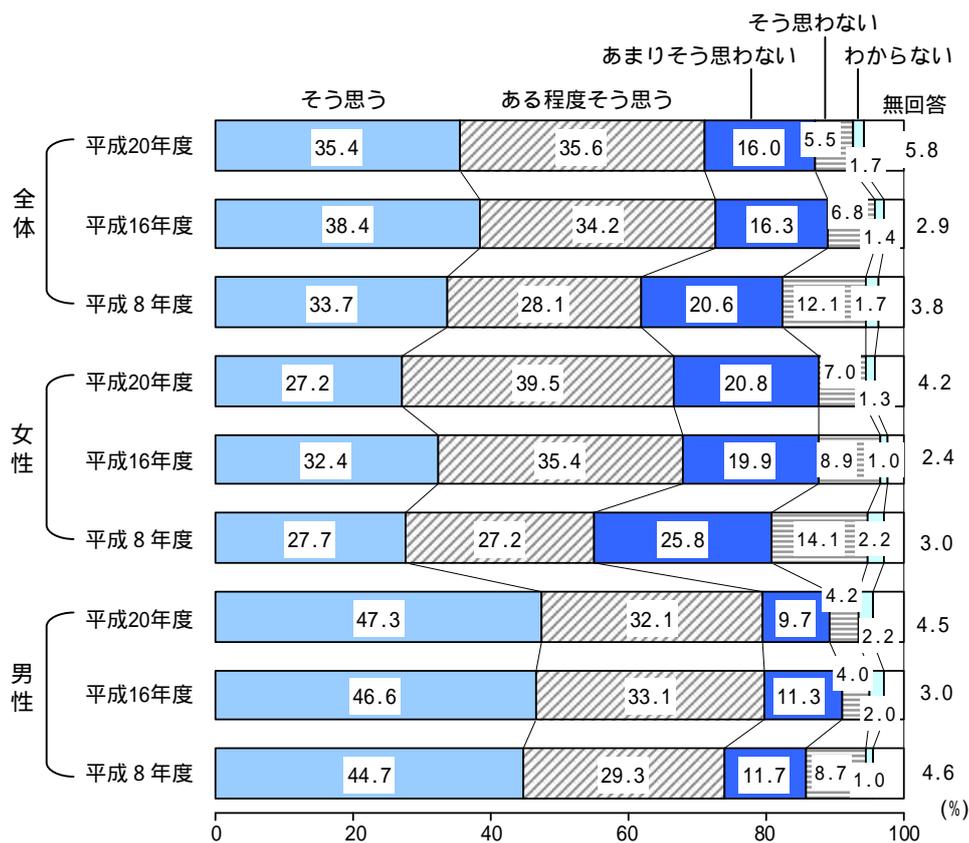
【概要】“同感する”割合が86.3%を占めている。

【経年比較】過去調査と比較すると、『そう思う』割合は、平成20年度が57.8%、16年度が62.7%、8年度が60.0%となっており、16年度で最も高くなっている。

【性別・経年比較】性別にみると、“同感する”割合は男性の方が高く、特に『そう思う』では男性の方が6.8ポイント高くなっている。過去調査と比較すると、男女ともに平成16年よりも、『そう思う』割合が減少しており、16年度よりも、女性で6.9ポイント、男性で1.9ポイント低くなり、女性の方が減少傾向が強い。

(7) 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が71.0%を占めており、一方、“同感しない”割合は21.5%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“同感する”割合は、平成8年度で61.8%、16年度で72.6%と、8年度から16年度にかけての上げ幅が大きい。“同感しない”割合は、平成8年度で32.7%、16年度で23.1%、20年度で21.5%となっており、年々減少している。

【性別・経年比較】

性別にみると、男女とも“同感する”が平成8年度から16年度にかけて増え、16年度と20年度では、大きな差はない。

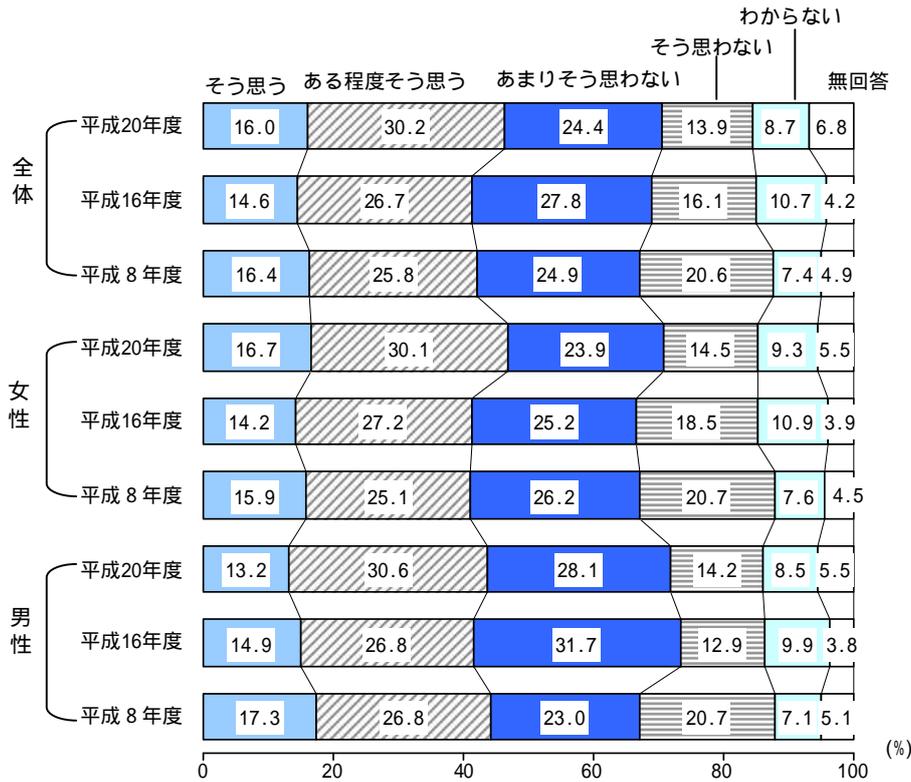
『そう思う』では女性27.0%、男性47.3%と、男女間で20ポイント以上の差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも“同感しない”の割合が年々減少しているものの、女性では、『そう思う』の割合が、平成16年度(32.4%)よりも、5.2ポイント減少している。

【性・年代別 問8(7)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
女	20歳代	72 100.0	12 16.7	30 41.7	14 19.4	13 18.1	1 1.4	2 2.8
	30歳代	114 100.0	14 12.3	46 40.4	39 34.2	10 8.8	3 2.6	2 1.8
	40歳代	94 100.0	11 11.7	40 42.6	34 36.2	7 7.4	-	2 2.1
	50歳代	113 100.0	27 23.9	52 46.0	23 20.4	4 3.5	3 2.7	4 3.5
	60歳代	116 100.0	46 39.7	42 36.2	13 11.2	7 6.0	1 0.9	7 6.0
	70歳以上	103 100.0	56 54.4	31 30.1	5 4.9	2 1.9	-	9 8.7
	男	20歳代	46 100.0	10 21.7	16 34.8	9 19.6	9 19.6	1 2.2
30歳代	64 100.0	28 43.8	24 37.5	9 14.1	1 1.6	1 1.6	1 1.6	
40歳代	54 100.0	20 37.0	24 44.4	3 5.6	5 9.3	-	2 3.7	
50歳代	79 100.0	45 57.0	24 30.4	5 6.3	-	3 3.8	2 2.5	
60歳代	76 100.0	39 51.3	24 31.6	8 10.5	1 1.3	2 2.6	2 2.6	
70歳以上	82 100.0	48 58.5	16 19.5	5 6.1	1 1.2	2 2.4	10 12.2	

(8) 夫の転職には、妻は自分の仕事をやめ、ついていく

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“同感する”割合が46.2%、“同感しない”割合は38.3%と、“同感する”が7.9ポイント高くなっている。

【経年比較】過去調査と比較して大きな差はみられないが、“同感しない”の割合は、平成8年度で45.5%、16年度で43.9%、20年度で38.3%と年々減少している。

【性別・経年比較】性別にみると、男女間で大きな差はみられない。過去調査と比較して、女性では“同感する”の割合が、平成20年度(46.8%)が最も高く、男性では8年度(44.1%)で最も高い。

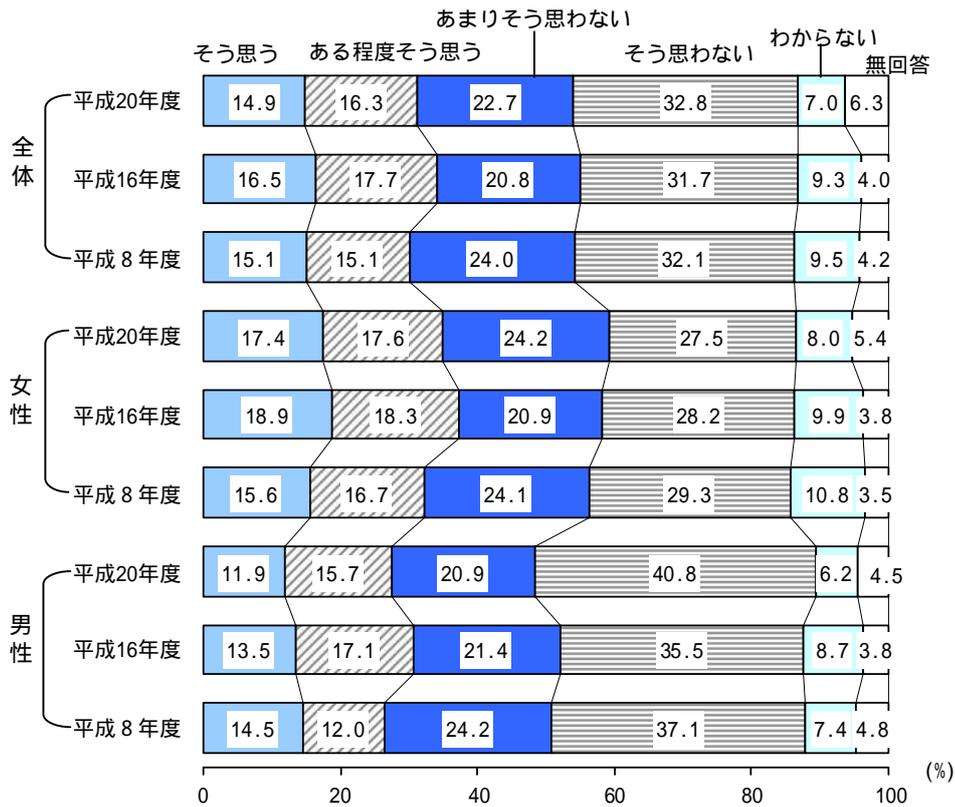
【性・職業別 問8(8)】

		【性・年代別 問8(8)】 上段：件数、下段：%						
	調査数	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
女	20歳代	72	12	24	10	14	10	2
		100.0	16.7	33.3	13.9	19.4	13.9	2.8
	30歳代	114	16	31	29	29	7	2
		100.0	14.0	27.2	25.4	25.4	6.1	1.8
	40歳代	94	7	29	38	13	5	2
		100.0	7.4	30.9	40.4	13.8	5.3	2.1
	50歳代	113	23	41	28	11	7	3
	100.0	20.4	36.3	24.8	9.7	6.2	2.7	
性	60歳代	116	25	31	26	10	16	8
		100.0	21.6	26.7	22.4	8.6	13.8	6.9
	70歳以上	103	18	28	16	12	12	17
		100.0	17.5	27.2	15.5	11.7	11.7	16.5
男	20歳代	46	3	10	18	10	4	1
		100.0	6.5	21.7	39.1	21.7	8.7	2.2
	30歳代	64	6	23	17	11	6	1
		100.0	9.4	35.9	26.6	17.2	9.4	1.6
	40歳代	54	4	17	16	10	5	2
		100.0	7.4	31.5	29.6	18.5	9.3	3.7
	50歳代	79	14	22	23	13	5	2
	100.0	17.7	27.8	29.1	16.5	6.3	2.5	
性	60歳代	76	14	23	19	5	10	5
		100.0	18.4	30.3	25.0	6.6	13.2	6.6
	70歳以上	82	12	27	20	8	4	11
		100.0	14.6	32.9	24.4	9.8	4.9	13.4

		【性・職業別 問8(8)】 上段：件数、下段：%							
	調査数	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答		
女	就業者全体	336	48	102	92	60	24	10	
		100.0	14.3	30.4	27.4	17.9	7.1	3.0	
	正規雇用	130	17	40	24	36	9	4	
		100.0	13.1	30.8	18.5	27.7	6.9	3.1	
	非正規雇用	122	15	36	48	12	9	2	
		100.0	12.3	29.5	39.3	9.8	7.4	1.6	
	自営業・内職等	84	16	26	20	12	6	4	
		100.0	19.0	31.0	23.8	14.3	7.1	4.8	
	非就業者全体	257	51	77	49	29	33	18	
		100.0	19.8	30.0	19.1	11.3	12.8	7.0	
性	家事専業	162	30	49	35	17	20	11	
		100.0	18.5	30.2	21.6	10.5	12.3	6.8	
	学生	6	1	1	-	2	1	1	
		100.0	16.7	16.7	-	33.3	16.7	16.7	
	無職	73	18	24	13	5	9	4	
		100.0	24.7	32.9	17.8	6.8	12.3	5.5	
	その他	16	2	3	1	5	3	2	
		100.0	12.5	18.8	6.3	31.3	18.8	12.5	
	男	就業者全体	293	37	89	86	45	23	13
			100.0	12.6	30.4	29.4	15.4	7.8	4.4
正規雇用		169	17	57	53	28	11	3	
		100.0	10.1	33.7	31.4	16.6	6.5	1.8	
非正規雇用		25	1	7	7	7	1	2	
		100.0	4.0	28.0	28.0	28.0	4.0	8.0	
自営業・内職等		99	19	25	26	10	11	8	
		100.0	19.2	25.3	26.3	10.1	11.1	8.1	
非就業者全体		105	16	34	26	11	9	9	
		100.0	15.2	32.4	24.8	10.5	8.6	8.6	
性	家事専業	1	-	1	-	-	-	-	
		100.0	-	100.0	-	-	-	-	
	学生	8	1	1	2	2	2	-	
		100.0	12.5	12.5	25.0	25.0	25.0	-	
	無職	90	15	29	23	9	5	9	
		100.0	16.7	32.2	25.6	10.0	5.6	10.0	
その他	6	-	3	1	-	2	-		
	100.0	-	50.0	16.7	-	33.3	-		

(9) 夫婦が別々の姓を名乗ることを認める

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“同感しない”割合は55.5%と過半数を占めており、一方、“同感する”割合が31.2%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、“同感する”の割合は平成16年度(34.2%)より、3.0ポイント減少しており、8年度(30.2%)との差は1.0ポイントである。

【性別・経年比較】性別にみると、『そう思わない』の割合は、女性が27.5%、男性が40.8%と、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも、“同感する”の割合が、平成16年度で最も高くなっている。

【性・職業別 問8(9)】

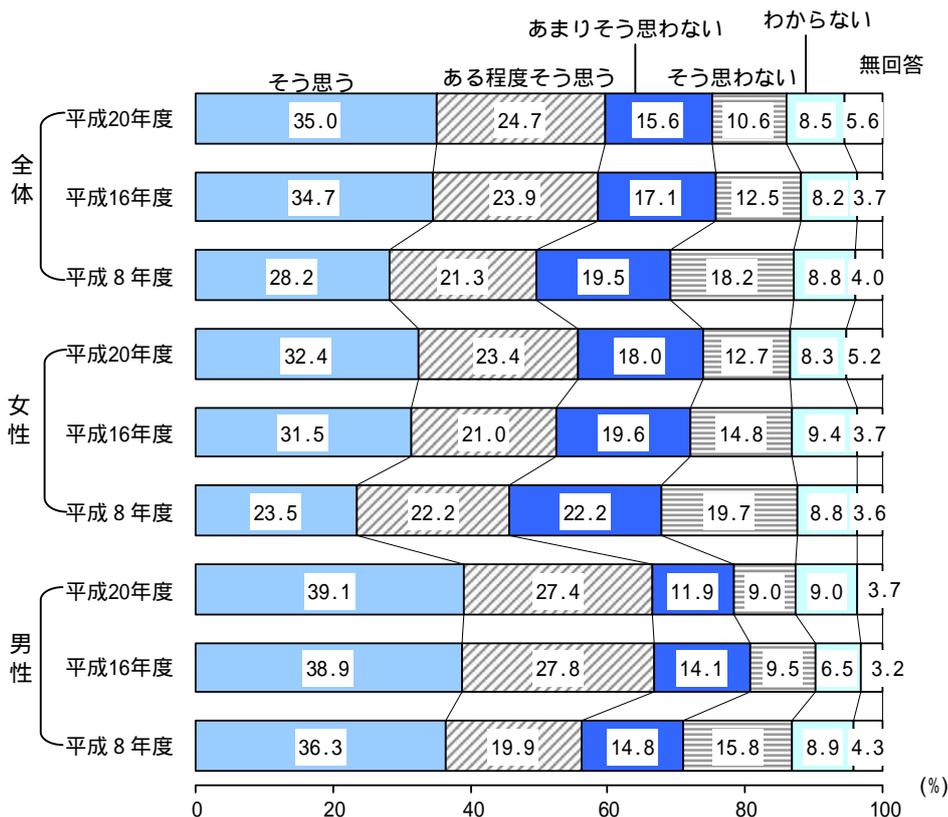
【性・年代別 問8(9)】

性別	年代	調査数	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
女	20歳代	72	13	18	18	16	5	2
		100.0	18.1	25.0	25.0	22.2	6.9	2.8
	30歳代	114	24	29	25	25	8	3
		100.0	21.1	25.4	21.9	21.9	7.0	2.6
	40歳代	94	25	25	22	14	6	2
	100.0	26.6	26.6	23.4	14.9	6.4	2.1	
性	50歳代	113	31	16	26	30	7	3
		100.0	27.4	14.2	23.0	26.5	6.2	2.7
	60歳代	116	9	11	35	42	11	8
		100.0	7.8	9.5	30.2	36.2	9.5	6.9
	70歳以上	103	5	9	21	41	12	15
	100.0	4.9	8.7	20.4	39.8	11.7	14.6	
男	20歳代	46	9	13	4	16	3	1
		100.0	19.6	28.3	8.7	34.8	6.5	2.2
	30歳代	64	8	13	14	22	6	1
		100.0	12.5	20.3	21.9	34.4	9.4	1.6
	40歳代	54	10	11	15	13	3	2
	100.0	18.5	20.4	27.8	24.1	5.6	3.7	
性	50歳代	79	12	12	16	35	2	2
		100.0	15.2	15.2	20.3	44.3	2.5	2.5
	60歳代	76	4	6	24	36	4	2
		100.0	5.3	7.9	31.6	47.4	5.3	2.6
	70歳以上	82	5	8	11	41	7	10
	100.0	6.1	9.8	13.4	50.0	8.5	12.2	

性別	職業	調査数	そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
女	就業者全体	336	70	71	85	82	19	9
		100.0	20.8	21.1	25.3	24.4	5.7	2.7
	正規雇用	130	33	27	29	28	9	4
		100.0	25.4	20.8	22.3	21.5	6.9	3.1
	非正規雇用	122	22	31	34	25	8	2
	100.0	18.0	25.4	27.9	20.5	6.6	1.6	
性	自営業・内職等	84	15	13	22	29	2	3
		100.0	17.9	15.5	26.2	34.5	2.4	3.6
	非就業者全体	257	37	36	54	63	28	19
		100.0	14.4	14.0	21.0	32.3	10.9	7.4
	家事専業	162	26	22	35	48	19	12
	100.0	16.0	13.6	21.6	29.6	11.7	7.4	
性	学生	6	1	3	-	1	-	1
		100.0	16.7	50.0	-	16.7	-	16.7
	無職	73	7	8	17	28	9	4
		100.0	9.6	11.0	23.3	38.4	12.3	5.5
	その他	16	3	3	2	6	2	2
	100.0	18.8	18.8	12.5	37.5	5	12.5	
男	就業者全体	293	39	54	65	112	12	11
		100.0	13.3	18.4	22.2	38.2	4.1	3.8
	正規雇用	169	22	34	39	63	8	3
		100.0	13.0	20.1	23.1	37.3	4.7	1.8
	非正規雇用	25	6	4	2	11	1	1
	100.0	24.0	16.0	8.0	44.0	4.0	4.0	
性	自営業・内職等	99	11	16	24	38	3	7
		100.0	11.1	16.2	24.2	38.4	3.0	7.1
	非就業者全体	105	9	8	19	51	11	7
		100.0	8.6	7.6	18.1	48.6	10.5	6.7
	家事専業	1	-	-	-	1	-	-
	100.0	-	-	-	100.0	-	-	
性	学生	8	-	1	1	4	2	-
		100.0	-	12.5	12.5	50.0	25.0	-
	無職	90	9	7	16	43	8	7
		100.0	10.0	7.8	17.8	47.8	8.9	7.8
	その他	6	-	-	2	3	1	-
	100.0	-	-	33.3	50.0	16.7	-	

(10) 夫婦は同じ墓に入る

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が59.7%と過半数を占めており、一方、“同感しない”割合は26.2%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“同感する”割合は、平成8年度で49.5%、16年度で58.6%、20年度で59.7%と年々増加している。

【性別・経年比較】

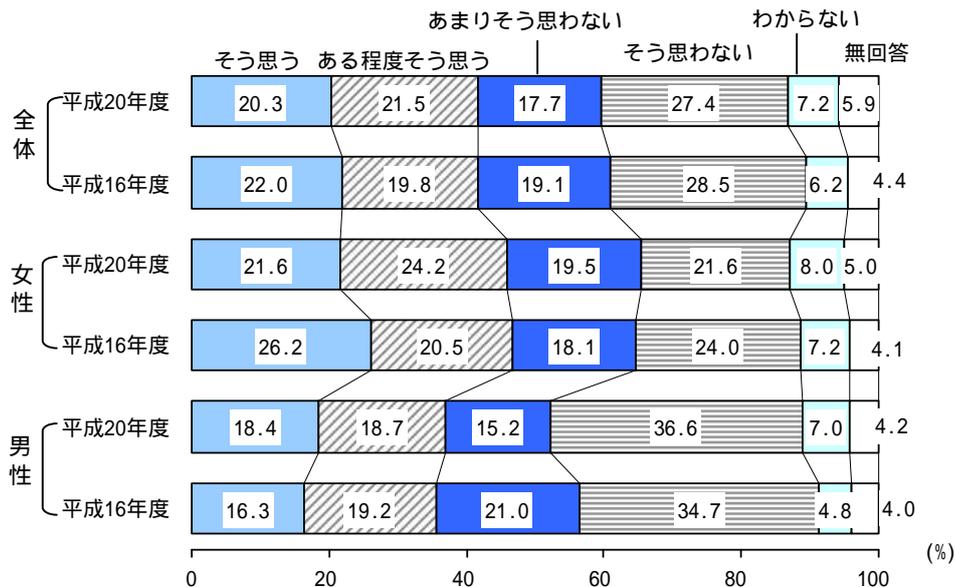
性別にみると、“同感する”割合が、女性で55.8%、男性で66.5%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女ともに“同感する”の割合は年々増加しており、平成8年度と比較すると、10ポイント以上増えている。

【性・年代別 問8(10)】

	調査数	上段：件数					下段：%	
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
女	20歳代	72	21	20	13	6	10	2
		100.0	29.2	27.8	18.1	8.3	13.9	2.8
	30歳代	114	29	29	24	18	12	2
		100.0	25.4	25.4	21.1	15.8	10.5	1.8
	40歳代	94	17	24	24	19	6	4
	100.0	18.1	25.5	25.5	20.2	6.4	4.3	
性	50歳代	113	34	20	31	19	6	3
		100.0	30.1	17.7	27.4	16.8	5.3	2.7
	60歳代	116	45	33	12	9	11	6
		100.0	38.8	28.4	10.3	7.8	9.5	5.2
	70歳以上	103	51	17	7	7	6	15
	100.0	49.5	16.5	6.8	6.8	5.8	14.6	
男	20歳代	46	10	15	6	6	8	1
		100.0	21.7	32.6	13.0	13.0	17.4	2.2
	30歳代	64	26	21	6	3	8	-
		100.0	40.6	32.8	9.4	4.7	12.5	-
	40歳代	54	13	22	7	5	5	2
	100.0	24.1	40.7	13.0	9.3	9.3	3.7	
性	50歳代	79	30	20	11	12	4	2
		100.0	38.0	25.3	13.9	15.2	5.1	2.5
	60歳代	76	36	14	13	7	4	2
		100.0	47.4	18.4	17.1	9.2	5.3	2.6
	70歳以上	82	41	18	5	3	7	8
	100.0	50.0	22.0	6.1	3.7	8.5	9.8	

(11) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感する”割合が41.8%、“同感しない”割合は45.1%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較して、全体としては大きな差はみられない。

【性別・経年比較】

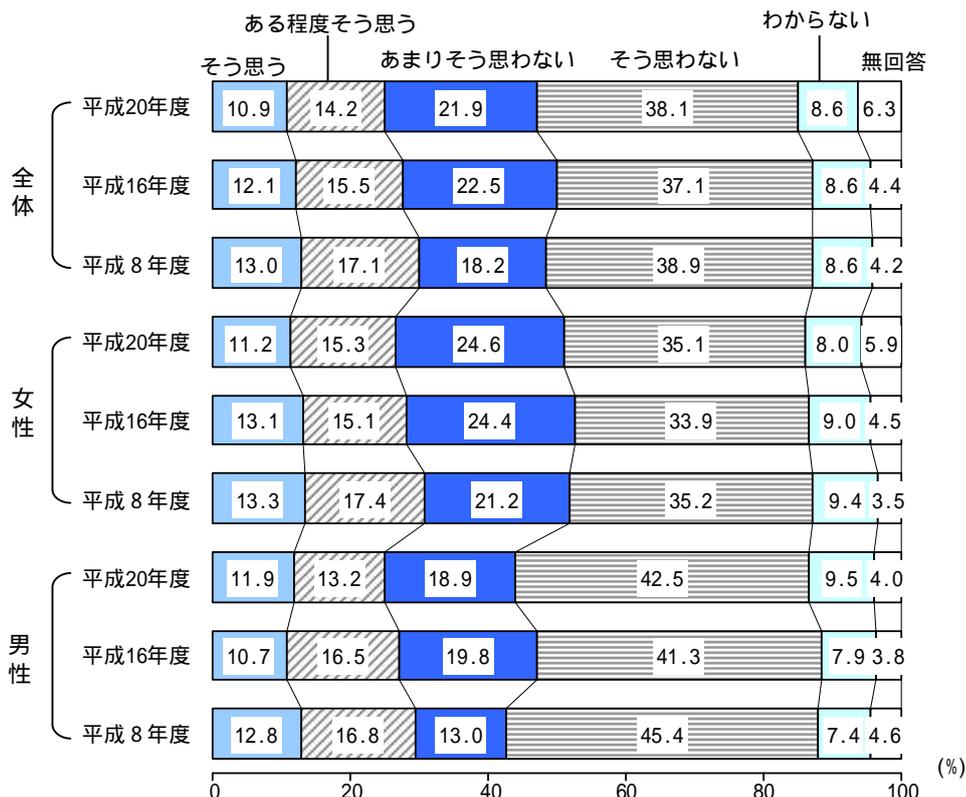
性別にみると、“同感する”割合は女性が45.8%、男性が37.1%となっており、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、『そう思う』割合が、平成16年度より女性は4.6ポイント低くなっているのに対し、男性は2.1ポイント高くなっている。

【性・年代別 問8(11)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
女性	20歳代	72 100.0	26 36.1	19 26.4	11 15.3	8 11.1	6 8.3	2 2.8
	30歳代	114 100.0	38 33.3	32 28.1	19 16.7	14 12.3	9 7.9	2 1.8
	40歳代	94 100.0	23 24.5	30 31.9	27 28.7	10 10.6	2 2.1	2 2.1
	50歳代	113 100.0	22 19.5	29 25.7	22 19.5	24 21.2	13 11.5	3 2.7
	60歳代	116 100.0	16 13.8	21 18.1	23 19.8	40 34.5	10 8.6	6 5.2
	70歳以上	103 100.0	8 7.8	16 15.5	17 16.5	37 35.9	9 8.7	16 15.5
	男性	20歳代	46 100.0	16 34.8	4 8.7	12 26.1	11 23.9	1 2.2
30歳代		64 100.0	21 32.8	14 21.9	8 12.5	15 23.4	6 9.4	-
40歳代		54 100.0	8 14.8	16 29.6	8 14.8	16 29.6	4 7.4	2 3.7
50歳代		79 100.0	18 22.8	20 25.3	11 13.9	25 31.6	3 3.8	2 2.5
60歳代		76 100.0	3 3.9	14 18.4	8 10.5	42 55.3	7 9.2	2 2.6
70歳以上		82 100.0	8 9.8	7 8.5	14 17.1	37 45.1	7 8.5	9 11.0

(12) 結婚しないで子どもをもってもよい

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“同感しない”割合は60.0%と過半数を占めており、一方、“同感する”割合が25.1%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“同感する”の割合は年々減少しており、平成8年度が30.1%、20年度25.1%と、8年度から5.0ポイント低くなっている。

【性・年代別 問8(12)】

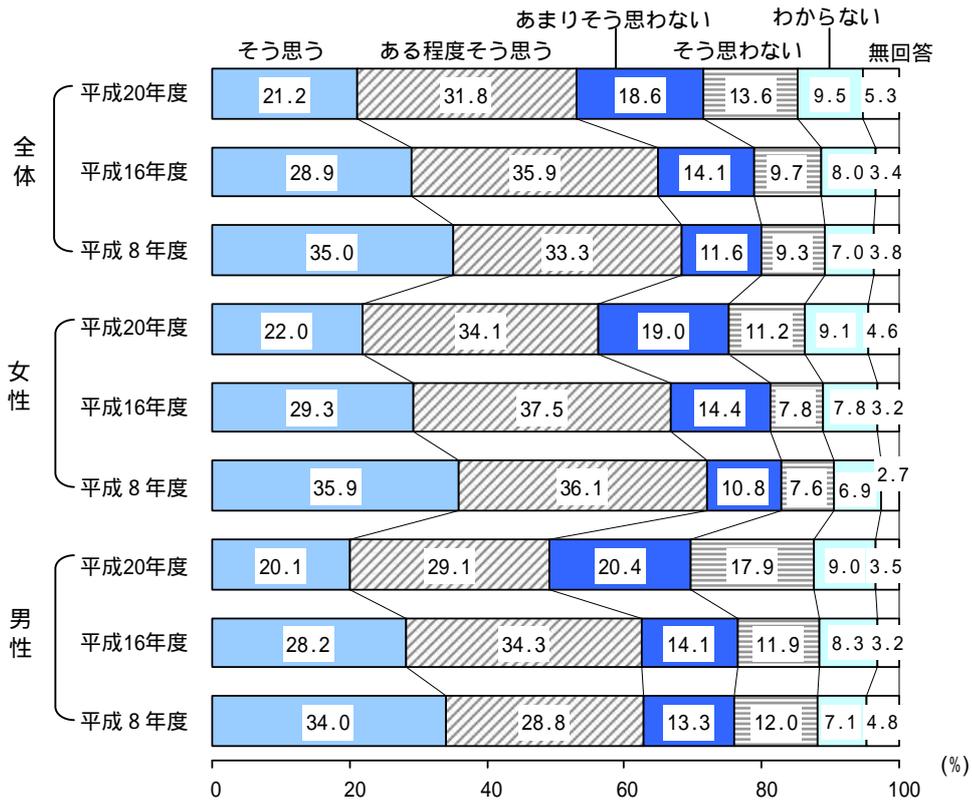
【性別・経年比較】

性別にみると、『そう思わない』割合が、女性で35.1%、男性で42.5%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも“同感する”の割合が年々減少している。

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
女	20歳代	72 100.0	12 16.7	10 13.9	22 30.6	21 29.2	5 6.9	2 2.8
	30歳代	114 100.0	23 20.2	26 22.8	28 24.6	29 25.4	6 5.3	2 1.8
	40歳代	94 100.0	10 10.6	22 23.4	30 31.9	26 27.7	4 4.3	2 2.1
	50歳代	113 100.0	16 14.2	20 17.7	27 23.9	38 33.6	8 7.1	4 3.5
	60歳代	116 100.0	3 2.6	11 9.5	22 19.0	60 51.7	13 11.2	7 6.0
男	20歳代	103 100.0	5 4.9	5 4.9	21 20.4	40 38.8	13 12.6	19 18.4
	30歳代	46 100.0	7 15.2	8 17.4	10 21.7	18 39.1	2 4.3	1 2.2
	40歳代	64 100.0	11 17.2	10 15.6	18 28.1	18 28.1	7 10.9	-
	50歳代	54 100.0	8 14.8	10 18.5	8 14.8	17 31.5	9 16.7	2 3.7
	60歳代	79 100.0	12 15.2	11 13.9	15 19.0	32 40.5	7 8.9	2 2.5
性	70歳以上	76 100.0	7 9.2	7 9.2	13 17.1	41 53.9	6 7.9	2 2.6
	70歳以上	82 100.0	3 3.7	7 8.5	12 14.6	44 53.7	7 8.5	9 11.0

(13) 結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“同感する”割合が53.0%と過半数を占めており、“同感しない”割合は32.2%となっている。

【経年比較】過去調査と比較して、“同感する”の割合は年々減少しており、平成8年度（68.3%）より15.3ポイント低くなっている。

【性別・経年比較】性別にみると、“同感する”割合が、女性で56.1%、男性で49.2%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも“同感する”割合が年々減少している。

【性・年代別 問8(13)】

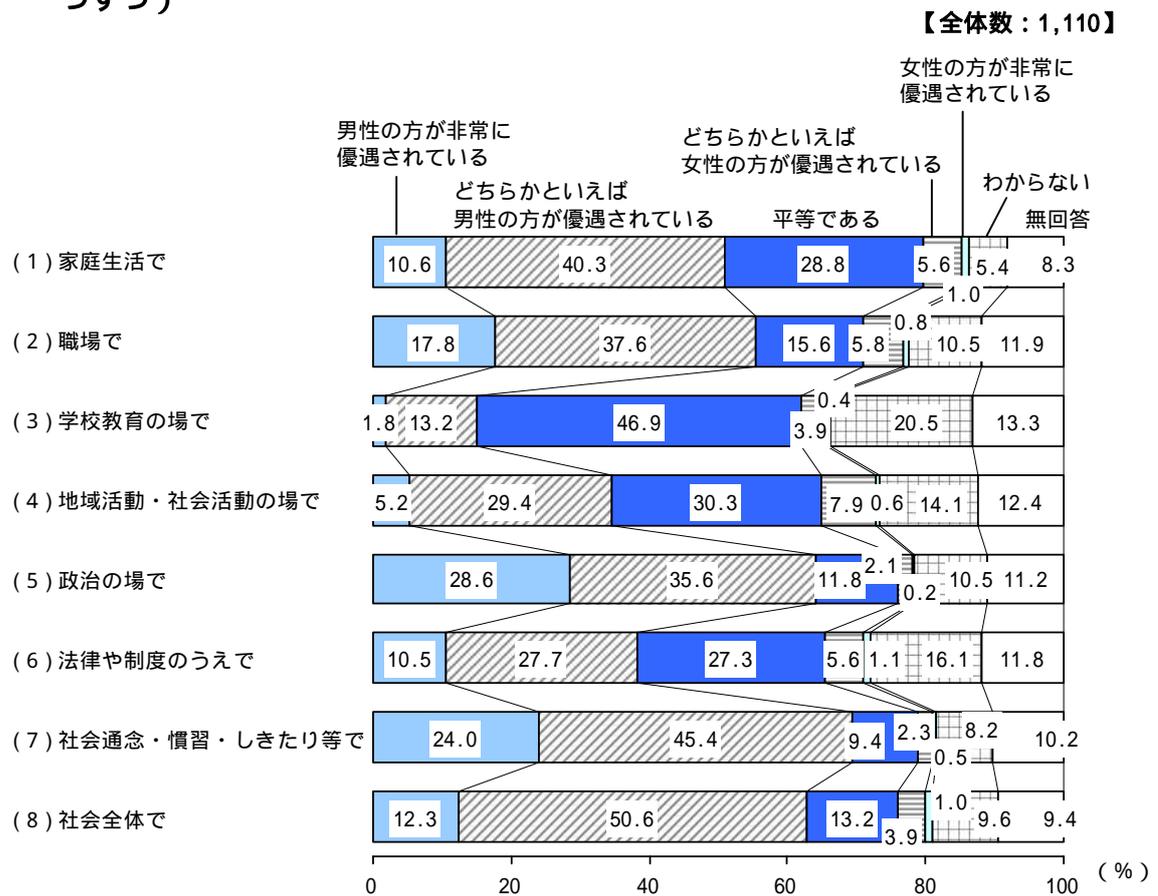
性別	年代	調査数	上段：件数、下段：%				無回答	
			そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	わからない		
女	20歳代	72	18	22	17	5	8	2
		100.0	25.0	30.6	23.6	6.9	11.1	2.8
	30歳代	114	28	44	25	10	5	2
		100.0	24.6	38.6	21.9	8.8	4.4	1.8
	40歳代	94	25	35	17	8	7	2
	100.0	26.6	37.2	18.1	8.5	7.4	2.1	
性	50歳代	113	30	40	23	9	8	3
		100.0	26.5	35.4	20.4	8.0	7.1	2.7
	60歳代	116	16	39	19	23	14	5
	100.0	13.8	33.6	16.4	19.8	12.1	4.3	
	70歳以上	103	17	29	15	14	14	14
	100.0	16.5	28.2	14.6	13.6	13.6	13.6	
男	20歳代	46	12	12	10	8	3	1
		100.0	26.1	26.1	21.7	17.4	6.5	2.2
	30歳代	64	14	21	14	8	7	-
		100.0	21.9	32.8	21.9	12.5	10.9	-
	40歳代	54	4	20	12	8	8	2
	100.0	7.4	37.0	22.2	14.8	14.8	3.7	
性	50歳代	79	16	26	16	12	7	2
		100.0	20.3	32.9	20.3	15.2	8.9	2.5
	60歳代	76	23	19	15	11	6	2
	100.0	30.3	25.0	19.7	14.5	7.9	2.6	
	70歳以上	82	12	18	15	25	5	7
	100.0	14.6	22.0	18.3	30.5	6.1	8.5	

【性・職業別 問8(13)】

性別	職業	調査数	上段：件数、下段：%				無回答		
			そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	わからない			
女	就業者全体	336	79	121	69	37	21	9	
		100.0	23.5	36.0	20.5	11.0	6.3	2.7	
	正規雇用	130	35	52	22	10	7	4	
		100.0	26.9	40.0	16.9	7.7	5.4	3.1	
	非正規雇用	122	27	46	26	12	9	2	
		100.0	22.1	37.7	21.3	9.8	7.4	1.6	
	自営業・内職等	84	17	23	21	15	5	3	
		100.0	20.2	27.4	25.0	17.9	6.0	3.6	
	非就業者全体	257	53	82	42	30	34	16	
		100.0	20.6	31.9	16.3	11.7	13.2	6.2	
性	家事専業	162	29	60	32	15	17	9	
		100.0	17.9	37.0	19.8	9.3	10.5	5.6	
	学生	6	1	-	-	-	1	3	
		100.0	16.7	-	-	16.7	50.0	16.7	
	無職	73	18	18	10	10	13	4	
		100.0	24.7	24.7	13.7	13.7	17.8	5.5	
	その他	16	5	4	-	4	1	2	
		100.0	31.3	25.0	-	25.0	6.3	12.5	
	男	就業者全体	293	63	90	58	48	24	10
			100.0	21.5	30.7	19.8	16.4	8.2	3.4
正規雇用		169	35	57	34	27	13	3	
		100.0	20.7	33.7	20.1	16.0	7.7	1.8	
非正規雇用		25	8	5	4	5	2	1	
		100.0	32.0	20.0	16.0	20.0	8.0	4.0	
自営業・内職等		99	20	28	20	16	9	6	
		100.0	20.2	28.3	20.2	16.2	9.1	6.1	
非就業者全体		105	17	26	24	24	10	4	
		100.0	16.2	24.8	22.9	22.9	9.5	3.8	
性	家事専業	1	-	1	-	-	-	-	
		100.0	-	100.0	-	-	-	-	
	学生	8	1	1	3	3	-	-	
		100.0	12.5	12.5	37.5	37.5	-	-	
	無職	90	14	24	19	20	9	4	
		100.0	15.6	26.7	21.1	22.2	10.0	4.4	
その他	6	2	-	2	1	1	-		
	100.0	33.3	-	33.3	16.7	16.7	-		

社会・生活における男女平等の浸透

問6 あなたは、次にあげる分野で男女平等が進んでいると思われますか。(1)から(8)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)



【概要】

社会・生活における男女平等の浸透について、全ての項目において“男性優遇”(『男性が非常に優遇されている』『どちらかといえば男性が優遇されている』の計)が、“女性優遇”(『女性が非常に優遇されている』『どちらかといえば女性が優遇されている』の計)の割合よりも高くなっている。

“男性優遇”の割合が過半数以上を占めているものは次の項目である。

- (7) 社会通念・習慣・しきたりなど (69.4%)
- (5) 政治の場で (64.2%)
- (8) 社会全体として (62.9%)
- (2) 職場で (55.4%)
- (1) 家庭生活上で (50.9%)

“男性優遇”の割合よりも『平等である』の割合が上回った項目は次の1項目

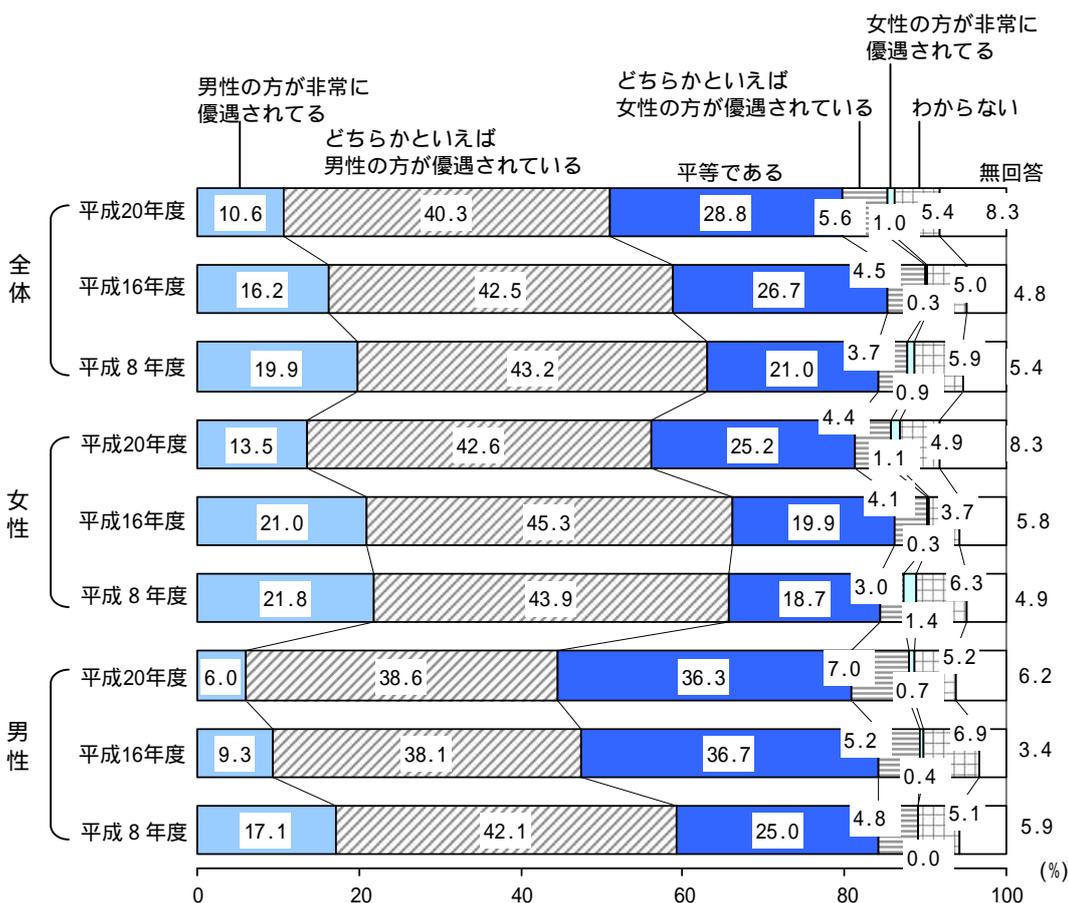
- (3) 学校教育の場で (46.9%)

『平等である』割合が高い上位3つの項目

- (3) 学校教育の場で (46.9%)
- (4) 地域・社会活動の場で (30.3%)
- (6) 法律や制度のうえで (27.3%)

(1) 家庭生活で

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“男性優遇”の割合が50.9%と過半数を占めており、一方、『平等である』の割合は28.8%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合は年々減少傾向にあり、平成8年度で63.1%、16年度で58.7%、20年度50.9%となっており、8年度より12.2ポイント減少している。

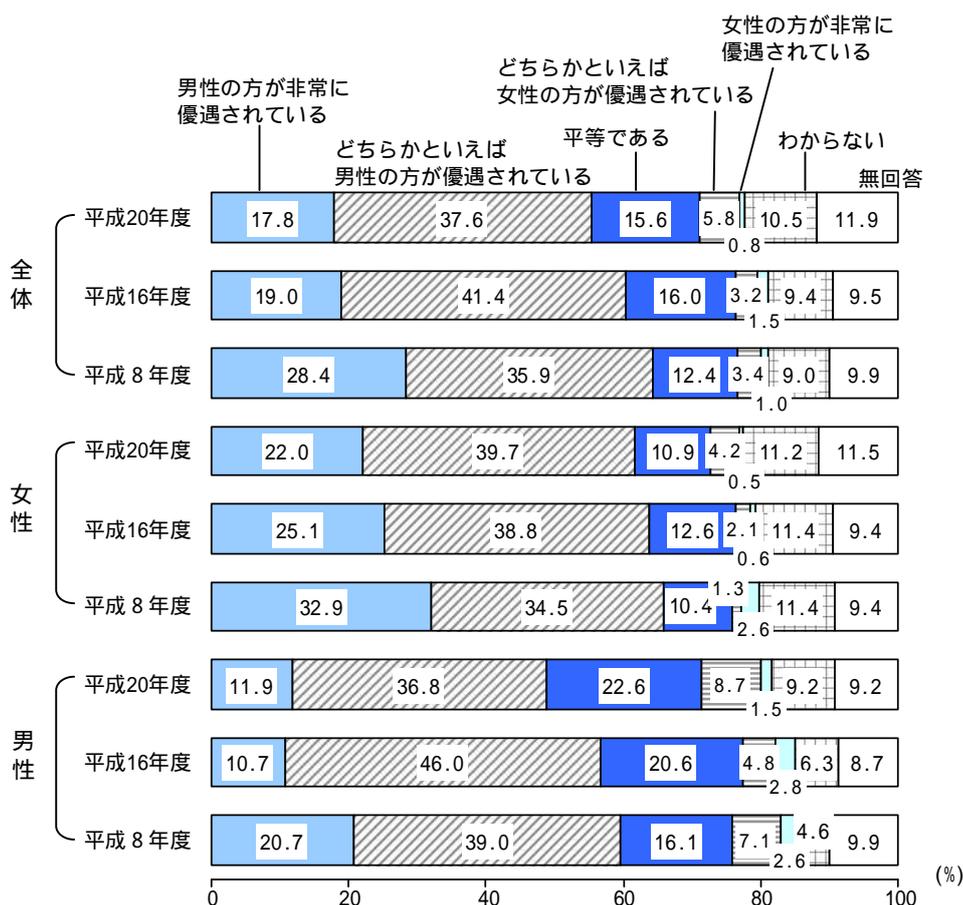
【性別・経年比較】性別にみると、“男性優遇”の割合は、女性で56.1%、男性で44.6%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合について、女性では8年から16年にかけてはほとんど大きな変化はなく、平成16年から20年にかけて減少がみられる。一方、男性では年々減少傾向がみられ、平成8年度(59.2%)よりも14.6ポイント減少している。

【性・年代、有配偶者職業形態別 問6(1)】

	調査数	上段：件数 下段：%						無回答	
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない		
女性	20歳代	72	3	31	28	-	2	6	2
	100.0	4.2	43.1	38.9	-	2.8	8.3	2.8	
	30歳代	114	18	50	27	9	-	6	4
	100.0	15.8	43.9	23.7	7.9	-	-	5.3	3.5
	40歳代	94	14	44	26	2	-	3	5
	100.0	14.9	46.8	27.7	2.1	-	-	3.2	5.3
	50歳代	113	18	52	24	6	-	6	7
100.0	15.9	46.0	21.2	5.3	-	-	5.3	6.2	
60歳代	116	17	53	20	6	4	5	11	
	100.0	14.7	45.7	17.2	5.2	3.4	4.3	9.5	
	103	13	30	30	4	-	4	22	
100.0	12.6	29.1	29.1	3.9	-	3.9	21.4		
男性	20歳代	46	1	15	26	2	-	1	1
	100.0	2.2	32.6	56.5	4.3	-	2.2	2.2	
	30歳代	64	4	23	28	5	-	3	1
	100.0	6.3	35.9	43.8	7.8	-	-	4.7	1.6
	40歳代	54	1	23	22	2	-	2	4
	100.0	1.9	42.6	40.7	3.7	-	-	3.7	7.4
	50歳代	79	7	35	27	7	1	3	4
100.0	8.9	44.3	27.8	8.9	1.3	3.8	5.1		
60歳代	76	6	30	24	5	-	7	4	
	100.0	7.9	39.5	31.6	6.6	-	9.2	5.3	
	82	5	29	24	6	2	5	11	
100.0	6.1	35.4	29.3	7.3	2.4	6.1	13.4		
2人とフルタイム	60	6	31	18	2	-	3	-	
100.0	10.0	51.7	30.0	3.3	-	5.0	-		
フルタイムとパートタイム等	103	15	48	25	6	-	4	5	
100.0	14.6	46.6	24.3	5.8	-	3.9	4.9		
フルタイムと家事専業・無職	79	11	35	23	2	-	2	6	
100.0	13.9	44.3	29.1	2.5	-	2.5	7.6		
2人とも自営・自由業・家族従業	112	9	49	39	2	1	3	9	
100.0	8.0	43.8	34.8	1.8	0.9	2.7	8.0		
自営・自由業と家事専業・無職	51	6	24	14	-	-	2	5	
100.0	11.8	47.1	27.5	-	-	3.9	9.8		
2人と家事専業・無職	107	14	40	28	5	5	3	12	
100.0	13.1	37.4	26.2	4.7	4.7	2.8	11.2		
その他の職業の組み合わせ	117	14	48	31	8	1	6	9	
100.0	12.0	41.0	26.5	6.8	0.9	5.1	7.7		

(2) 職場で

【平成20年度全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“男性優遇”の割合が55.4%と過半数を占めており、一方、『平等である』割合は15.6%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合は年々減少傾向にあり、特に、平成8年度から16年度にかけて『男性の方が非常に優遇されている』では9.4ポイント減少している。

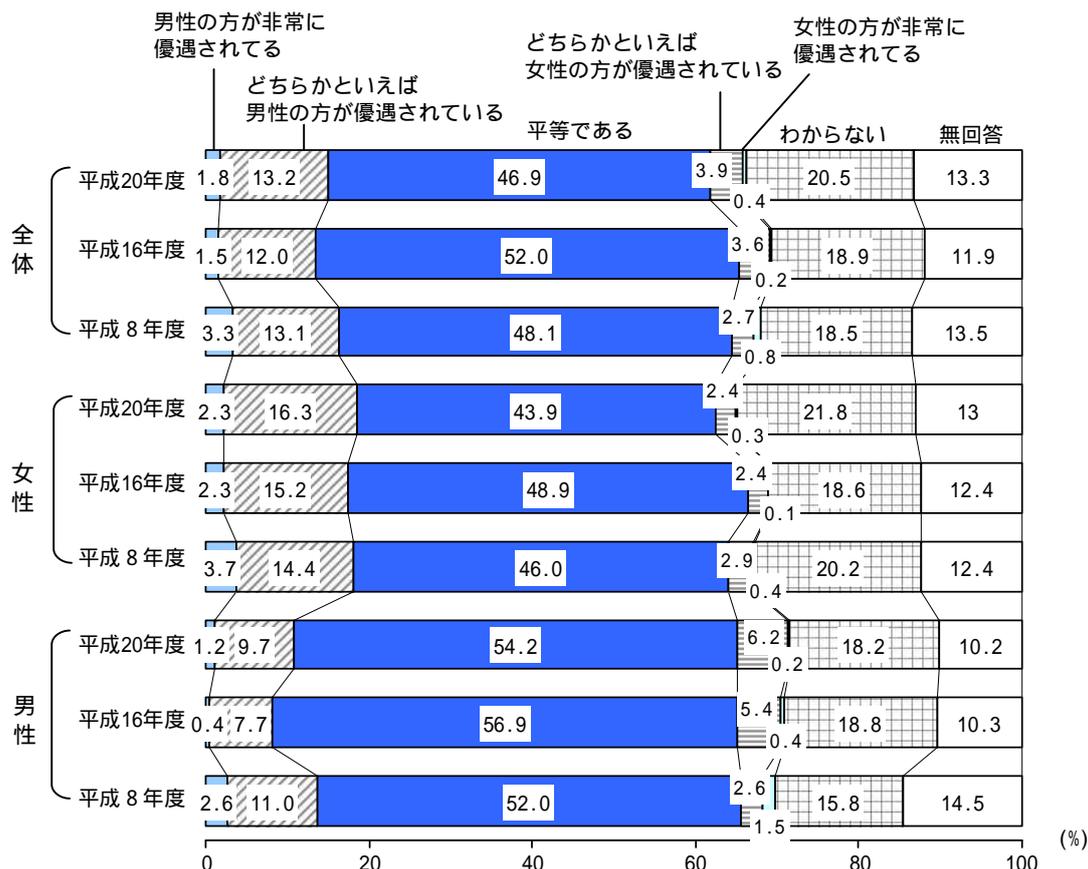
【性別・経年比較】性別にみると、“男性優遇”の割合は、女性で61.7%、男性で48.7%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも“男性優遇”の割合は、年々減少しているが、平成8年度よりも、女性で5.7ポイント、男性で11.0ポイント減っており、男性の方が減少傾向が強い。また、『男性の方が非常に優遇されている』割合について、男性では、平成16年度から20年度にかけてはほとんど変化がなく、平成8年度から16年度にかけて10.0ポイント減少している。

【性・職業別 問6(2)】

	調査数	上段：件数、下段：%						わからない	無回答
		男性優遇	男性優遇	平等	女性優遇	女性優遇	女性優遇		
女	就業者全体	336	80	143	49	20	2	22	20
	100.0	23.8	42.6	14.6	6.0	0.6	6.5	6.0	
	正規雇用	130	40	52	21	9	1	3	4
	100.0	30.8	40.0	16.2	6.9	0.8	2.3	3.1	
	非正規雇用	122	26	52	17	8	1	11	7
100.0	21.3	42.6	13.9	6.6	0.8	9.0	5.7		
性	自営業・内職等	84	14	39	11	3	-	8	9
	100.0	16.7	46.4	13.1	3.6	-	9.5	10.7	
	非就業者全体	257	52	95	17	6	1	43	43
	100.0	20.2	37.0	6.6	2.3	0.4	16.7	16.7	
	家事専業	162	34	67	8	5	1	24	23
100.0	21.0	41.4	4.9	3.1	0.6	14.8	14.2		
性	学生	6	2	2	1	-	-	-	1
	100.0	33.3	33.3	16.7	-	-	-	16.7	
	無職	73	11	20	7	1	-	18	16
	100.0	15.1	27.4	9.6	1.4	-	24.7	21.9	
	その他	16	5	6	1	-	-	1	3
100.0	31.3	37.5	6.3	-	-	6.3	18.8		
男	就業者全体	293	35	110	71	32	5	18	22
	100.0	11.9	37.5	24.2	10.9	1.7	6.1	7.5	
	正規雇用	169	23	60	45	24	3	7	7
	100.0	13.6	35.5	26.6	14.2	1.8	4.1	4.1	
	非正規雇用	25	2	9	6	4	1	1	2
100.0	8.0	36.0	24.0	16.0	4.0	4.0	8.0		
性	自営業・内職等	99	10	41	20	4	1	10	13
	100.0	10.1	41.4	20.2	4.0	1.0	10.1	13.1	
	非就業者全体	105	13	37	19	2	1	18	15
	100.0	12.4	35.2	18.1	1.9	1.0	17.1	14.3	
	家事専業	1	1	-	-	-	-	-	-
100.0	100.0	-	-	-	-	-	-		
性	学生	8	-	5	-	-	-	3	-
	100.0	-	62.5	-	-	-	37.5	-	
	無職	90	12	32	16	1	1	13	15
	100.0	13.3	35.6	17.8	1.1	1.1	14.4	16.7	
	その他	6	-	-	3	1	-	2	-
100.0	-	-	50.0	16.7	-	33.3	-		

(3) 学校教育の場で

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『平等である』割合は、46.9%と最も高く、“男性優遇”の割合(15.0%)よりも上回っている。

【経年比較】

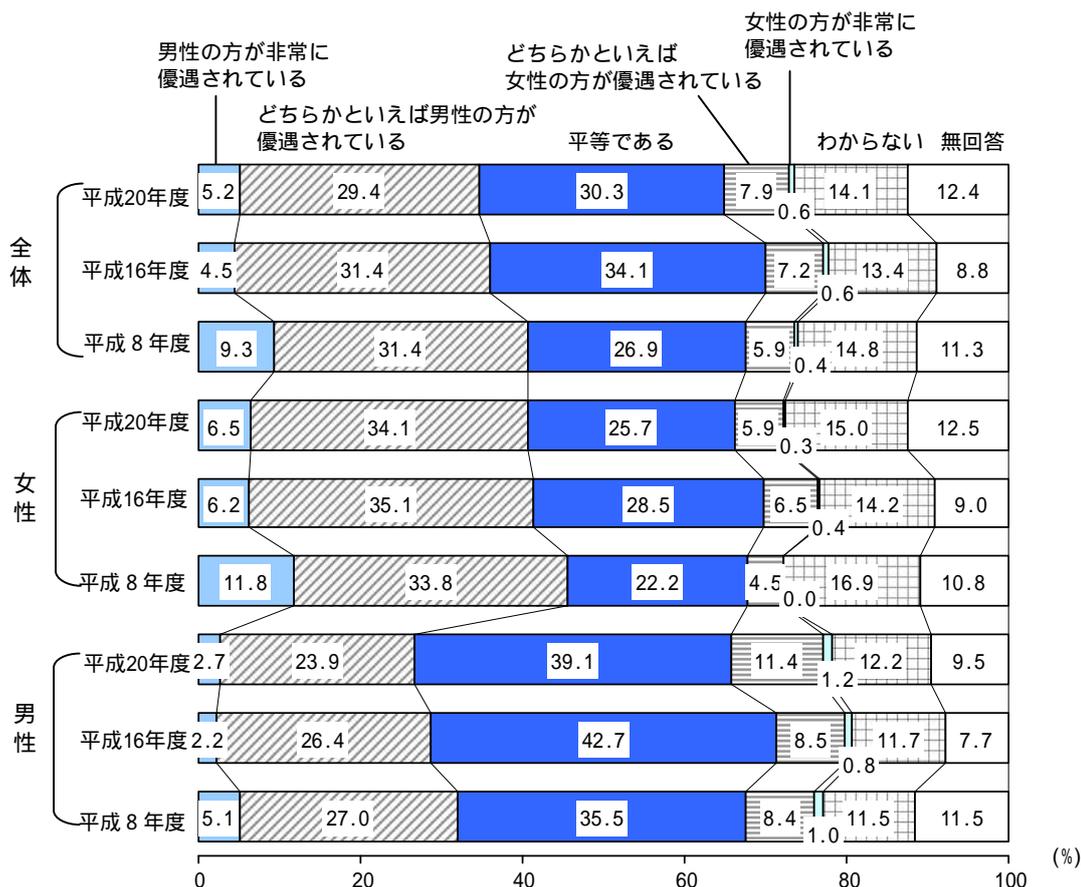
過去調査と比較すると、割合に大きな違いはみられないが、『平等である』の割合は、平成8年度(48.1%)、16年度(52.0%)、20年度(46.9%)と、平成16年度が最も高くなっている。

【性別・経年比較】

性別にみると、“男性優遇”の割合は、女性で18.6%、男性で10.9%と男女間で差がみられる。過去調査と比較してみると、男女とも『平等である』の割合が平成16年度で最も高くなっている。

(4) 地域活動・社会活動の場で

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“男性優遇”の割合が34.6%、『平等である』が30.3%となっている。

【経年比較】

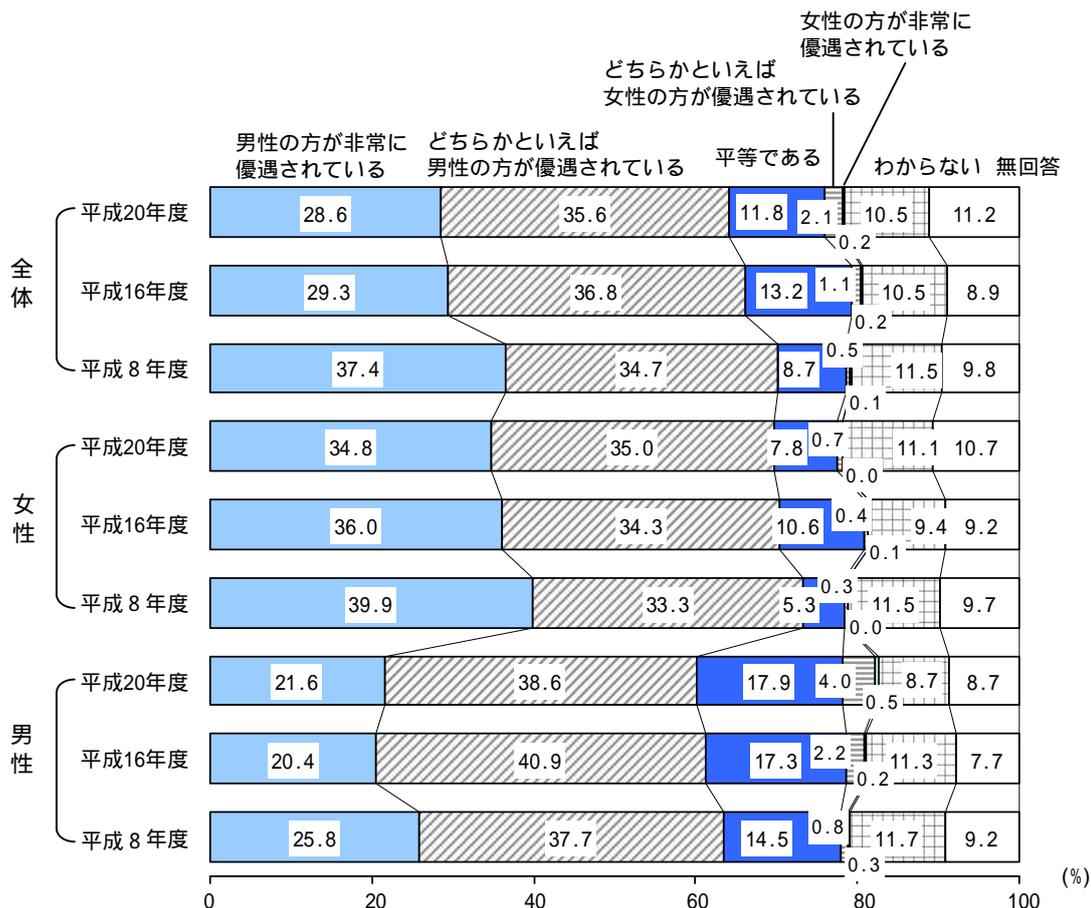
過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合は年々減少しているものの、『平等である』の割合は平成16年度(34.1%)が最も高く、20年度(30.3%)では3.8ポイント減少している。

【性別・経年比較】

性別にみると、“男性優遇”の割合は、女性で40.6%、男性で26.6%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも、“男性優遇”の割合は年々減少傾向にあるが、『平等である』割合は、平成16年度が最も高い。また、『男性の方が非常に優遇されている』については、平成8年度から16年度にかけて減少し、女性で5.6ポイント、男性で2.9ポイント減少している。また、女性の“男性優遇”の割合も平成8年度は45.6%、16年度は41.3%、20年度は40.6%と、平成8年度から16年度にかけて減少している。

(5) 政治の場で

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】“男性優遇”の割合が64.2%と過半数を占めており、『平等である』は11.8%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合は年々減少しており、平成8年度72.1%、16年度で66.1%、20年度64.2%と、8年度から16年度に5.6ポイント、16年度から20年度にかけて1.9ポイント減少している。

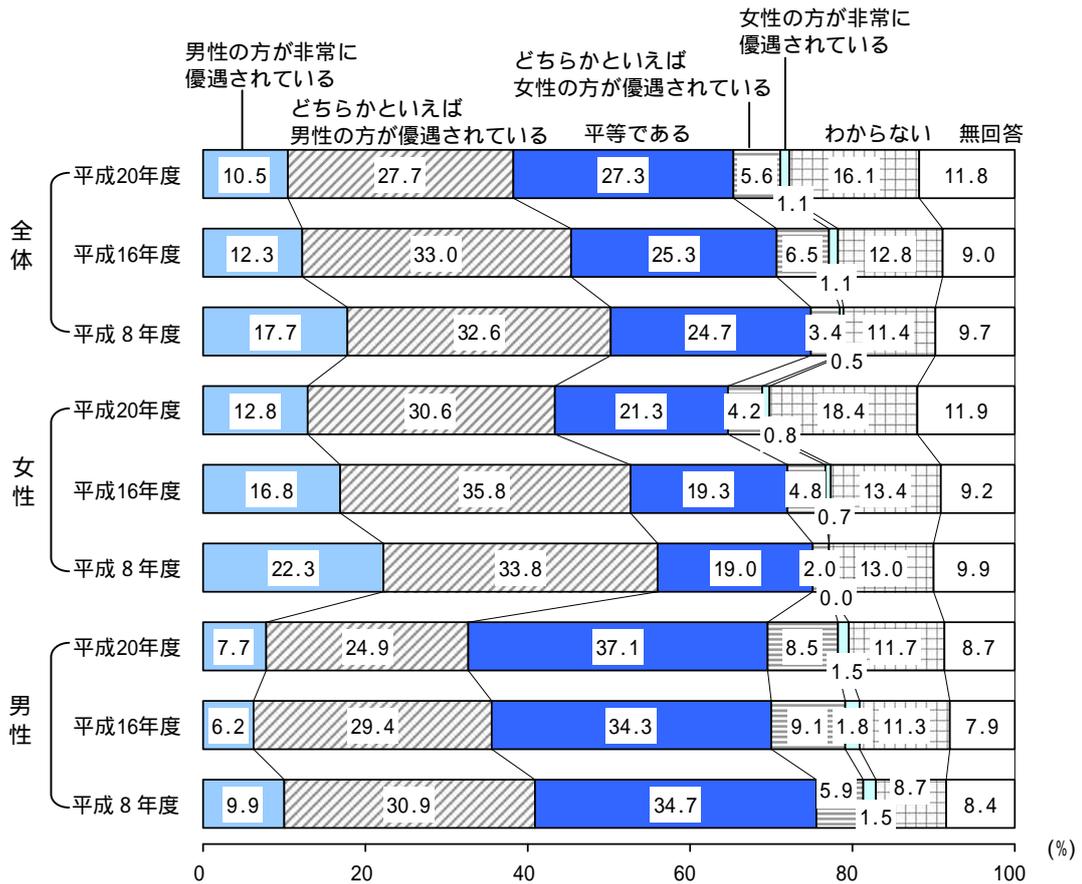
【性別・経年比較】性別にみると、“男性優遇”の割合が、女性では69.8%、男性では60.2%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも『男性が非常に優遇されている』および『男性優遇』の割合が平成8年度から16年度にかけて減少している。

【性・年代別 問6(5)】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		男性の方が非常に優遇	どちらかといえば男性の方が優遇	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇	女性の方が非常に優遇	わからない	無回答	
女	20歳代	72 100.0	31 43.1	28 38.9	1 1.4	-	-	10 13.9	2 2.8
	30歳代	114 100.0	56 49.1	40 35.1	2 1.8	2 1.8	-	11 9.6	3 2.6
	40歳代	94 100.0	44 46.8	34 36.2	6 6.4	2 2.1	-	3 3.2	5 5.3
	50歳代	113 100.0	39 34.5	42 37.2	10 8.8	-	-	14 12.4	8 7.1
	60歳代	116 100.0	30 25.9	45 38.8	14 12.1	-	-	13 11.2	14 12.1
	70歳以上	103 100.0	13 12.6	25 24.3	15 14.6	-	-	16 15.5	34 33.0
	男	20歳代	46 100.0	17 37.0	19 41.3	6 13.0	1 2.2	1 2.2	1 2.2
30歳代		64 100.0	17 26.6	28 43.8	12 18.8	1 1.6	-	5 7.8	1 1.6
40歳代		54 100.0	9 16.7	28 51.9	9 16.7	3 5.6	-	3 5.6	2 3.7
50歳代		79 100.0	24 30.4	30 38.0	9 11.4	5 6.3	-	8 10.1	3 3.8
60歳代		76 100.0	13 17.1	26 34.2	18 23.7	5 6.6	-	9 11.8	5 6.6
70歳以上		82 100.0	7 8.5	24 29.3	18 22.0	-	1 1.2	9 11.0	23 28.0

(6) 法律や制度のうえで

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“男性優遇”の割合が38.2%、『平等である』が27.3%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合は年々減少し、平成8年度で50.3%、16年度で45.3%となっており、20年度は8年度よりも12.1ポイント減少している。

【性別・経年比較】

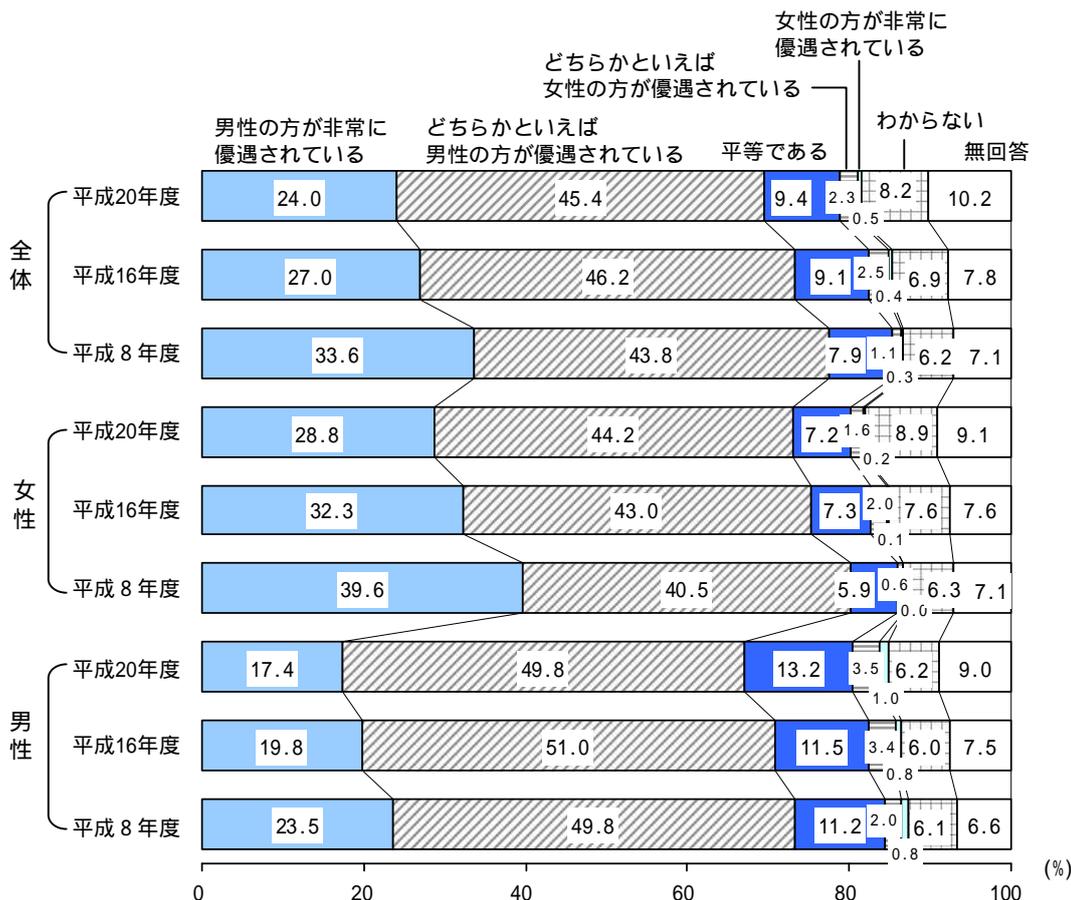
性別にみると、“男性優遇”の割合が、女性では43.4%、男性では32.6%と男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも“男性優遇”の割合が年々減少している。平成8年度よりも、女性で12.7ポイント、男性で8.2ポイント低下し、女性での減少傾向が強い。

【性・年代別 問6(6)】

	調査数	上段：件数、下段：%						無回答	
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない		
女	20歳代	72 100.0	7 9.7	22 30.6	19 26.4	4 5.6	- -	18 25.0	2 2.8
	30歳代	114 100.0	21 18.4	36 31.6	22 19.3	8 7.0	1 0.9	24 21.1	2 1.8
	40歳代	94 100.0	17 18.1	37 39.4	20 21.3	5 5.3	- -	11 11.7	4 4.3
	50歳代	113 100.0	20 17.7	49 43.4	15 13.3	5 4.4	- -	15 13.3	9 8.0
	60歳代	116 100.0	8 6.9	29 25.0	31 26.7	1 0.9	1 0.9	28 24.1	18 15.5
	70歳以上	103 100.0	6 5.8	15 14.6	23 22.3	2 1.9	3 2.9	16 15.5	38 36.9
	男	20歳代	46 100.0	4 8.7	14 30.4	16 34.8	5 10.9	1 2.2	5 10.9
30歳代		64 100.0	8 12.5	16 25.0	21 32.8	7 10.9	1 1.6	9 14.1	2 3.1
40歳代		54 100.0	5 9.3	15 27.8	19 35.2	6 11.1	1 1.9	6 11.1	2 3.7
50歳代		79 100.0	6 7.6	27 34.2	25 31.6	9 11.4	1 1.3	6 7.6	5 6.3
60歳代		76 100.0	5 6.6	16 21.1	35 46.1	4 5.3	1 1.3	10 13.2	5 6.6
70歳以上		82 100.0	3 3.7	12 14.6	32 39.0	3 3.7	1 1.2	11 13.4	20 24.4

(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで

【平成20年度全体数：1,110、女性数：615、男性数：495】



【概要】

“男性優遇”の割合が69.4%と過半数を占め、『平等である』は9.4%となっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、“男性優遇”の割合は年々減少しており、平成8年度で77.4%、16年度で73.2%となっており、20年度は8年度よりも8.0ポイント減少している。

【性別・経年比較】

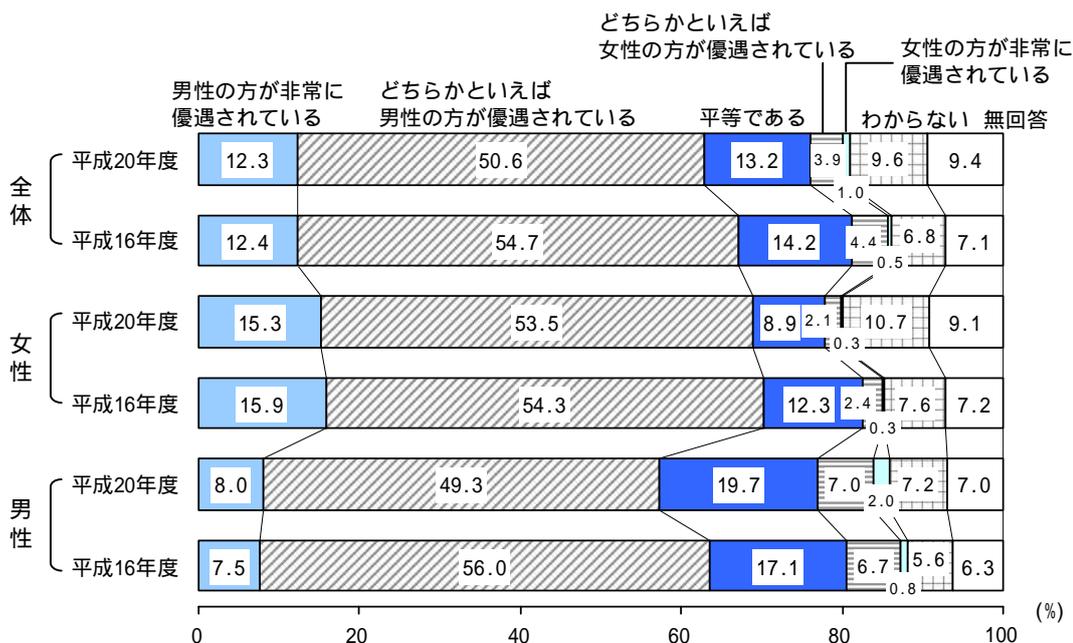
性別にみると、“男性優遇”の割合が、女性では73.0%、男性では67.2%と男女間で差がみられ、特に『男性の方が非常に優遇されている』の割合は、女性では28.8%と、男性(17.4%)よりも、11.4ポイント高くなっている。過去調査と比較すると、男女とも、“男性優遇”の割合が年々減少しており、特に女性で減少傾向が強い。

【性・年代別 問6(7)】

性別	年代	調査数	上段：件数、下段：%					無回答	
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている		
女	20歳代	72	16	36	8	-	-	10	2
		100.0	22.2	50.0	11.1	-	-	13.9	2.8
	30歳代	114	43	47	7	1	-	14	2
		100.0	37.7	41.2	6.1	0.9	-	12.3	1.8
	40歳代	94	36	44	5	-	-	5	4
		100.0	38.3	46.8	5.3	-	-	5.3	4.3
	50歳代	113	43	48	5	3	-	8	6
	100.0	38.1	42.5	4.4	2.7	-	7.1	5.3	
性	60歳代	116	27	62	7	-	1	7	12
		100.0	23.3	53.4	6.0	-	0.9	6.0	10.3
	70歳以上	103	11	34	12	6	-	10	30
		100.0	10.7	33.0	11.7	5.8	-	9.7	29.1
男	20歳代	46	11	24	6	3	-	1	1
		100.0	23.9	52.2	13.0	6.5	-	2.2	2.2
	30歳代	64	14	24	14	2	2	7	1
		100.0	21.9	37.5	21.9	3.1	3.1	10.9	1.6
	40歳代	54	12	27	9	1	1	2	2
		100.0	22.2	50.0	16.7	1.9	1.9	3.7	3.7
	50歳代	79	15	50	5	3	-	1	5
	100.0	19.0	63.3	6.3	3.8	-	1.3	6.3	
性	60歳代	76	12	37	9	4	-	8	6
		100.0	15.8	48.7	11.8	5.3	-	10.5	7.9
	70歳以上	82	6	37	10	1	1	6	21
		100.0	7.3	45.1	12.2	1.2	1.2	7.3	25.6

(8) 社会全体として

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

“男性優遇”の割合が62.9%と過半数を占め、『平等である』は13.2%となっている。

【性別】

性別にみると、“男性優遇”の割合が、女性では68.8%、男性では57.3%と男女間で差がみられる。特に『平等である』の割合は、女性では8.9%と、男性(19.7%)よりも、10.8ポイント低くなっている。

【性別・経年比較】

平成16年度と比較すると、女性では『平等である』が平成16年度8.9%から20年度12.3%に、男性では“男性優遇”が平成16年度57.3%から20年度63.5%に増加している。

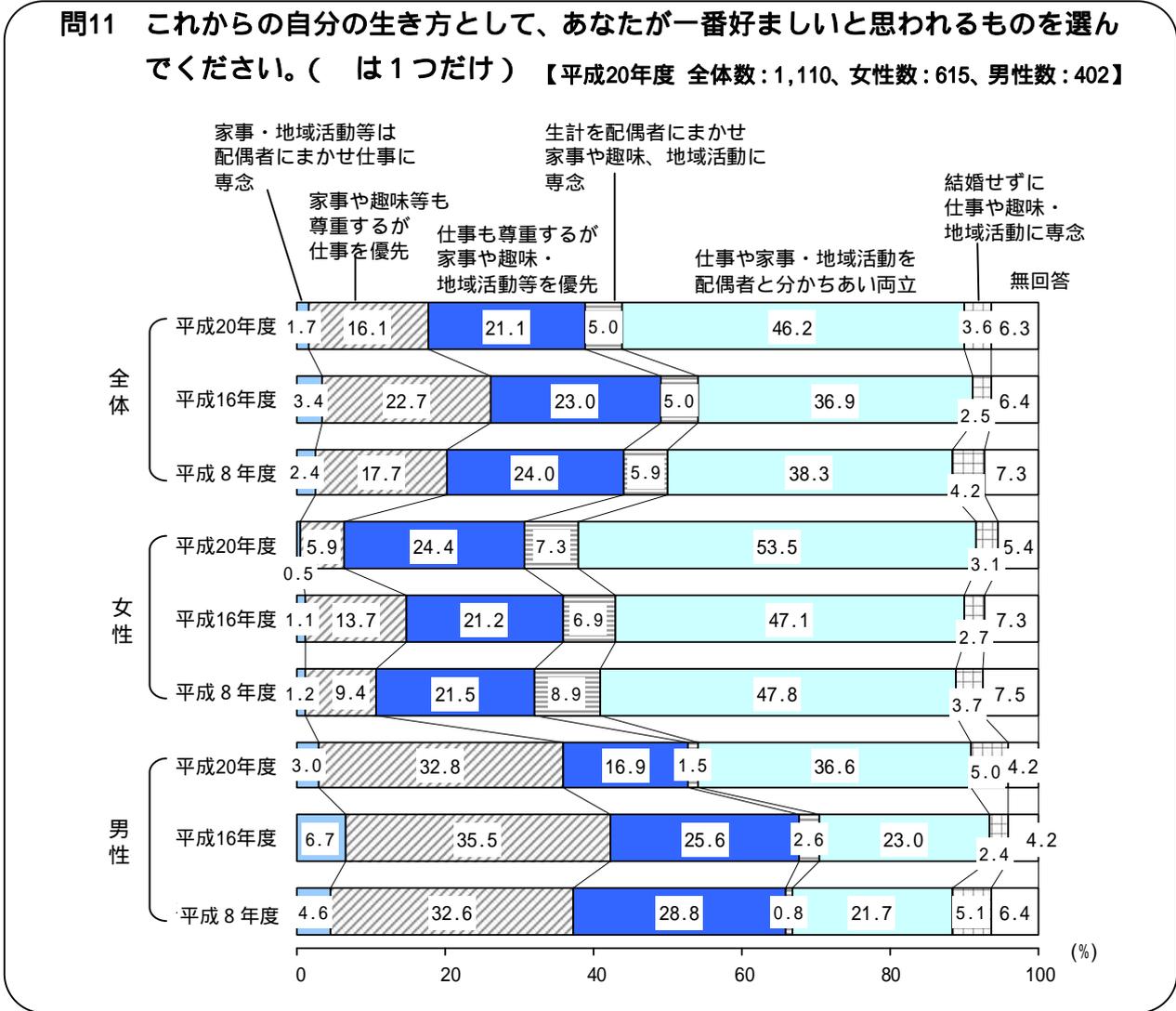
【性・年代別 問6(8)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない 無回答	
女性	20歳代	72	10	43	7	2	8	2
		100.0	13.9	59.7	9.7	2.8	11.1	2.8
	30歳代	114	25	61	7	3	-	17
		100.0	21.9	53.5	6.1	2.6	-	14.9
	40歳代	94	19	56	7	1	-	7
		100.0	20.2	59.6	7.4	1.1	-	7.4
	50歳代	113	18	72	5	1	-	10
	100.0	15.9	63.7	4.4	0.9	-	8.8	
女性	60歳代	116	13	65	14	2	1	7
		100.0	11.2	56.0	12.1	1.7	0.9	6.0
	70歳以上	103	9	31	15	3	1	16
		100.0	8.7	30.1	14.6	2.9	1.0	15.5
男性	20歳代	46	3	26	9	2	2	2
		100.0	6.5	56.5	19.6	4.3	4.3	4.3
	30歳代	64	8	28	14	6	2	6
		100.0	12.5	43.8	21.9	9.4	3.1	9.4
	40歳代	54	3	31	8	6	1	3
		100.0	5.6	57.4	14.8	11.1	1.9	5.6
	50歳代	79	10	44	13	5	2	-
	100.0	12.7	55.7	16.5	6.3	2.5	-	
女性	60歳代	76	6	40	14	5	1	7
		100.0	7.9	52.6	18.4	6.6	1.3	9.2
	70歳以上	82	2	28	21	4	-	11
	100.0	2.4	34.1	25.6	4.9	-	13.4	

(2) 仕事と生活の調和に関する意識と実態

仕事と生活の調和に関する意識

問11 これからの自分の生き方として、あなたが一番好ましいと思われるものを選んでください。(は1つだけ) 【平成20年度 全体数:1,110、女性数:615、男性数:402】



【概要】

『仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かち合い、両立させる』が46.2%と約半数を占め、最も高くなっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、『仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かち合い、両立させる』の割合は、平成20年度が最も高く、8年度より7.9ポイント増えている。『家事や地域活動も尊重するが、あくまで仕事を優先する』は、平成8年度(17.7%)、16年度(22.7%)20年度で16.1%となっており平成16年度が一番ポイントが高い。

【性別・経年比較】

性別にみると、『家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる』の割合が、女性で5.9%、男性で32.8%と男女間で大きな差がみられる。また、『仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かち合い、両立させる』の割合についても、女性で53.5%と女性全体の過半数を占め、男性では36.6%となっている。過去調査と比較すると、男女とも、平成20年度で、『仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かち合い、両立させる』の割合が最も高く、“仕事優先”(『家事・育児や地域活動は配偶者にまか

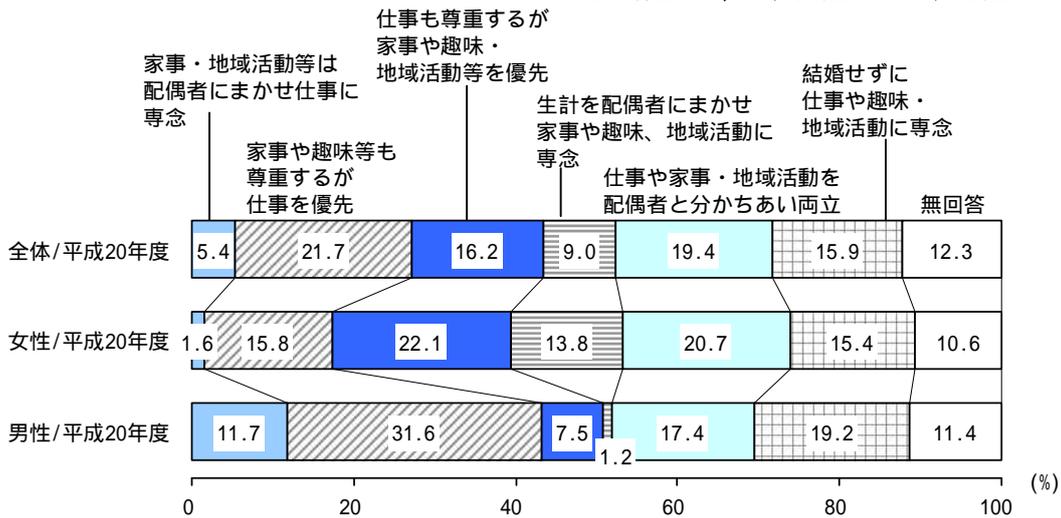
せ、仕事に専念する』『家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる』の計)の割合は、平成16年度が最も高くなっている。

【性・年代、性・職業別 問11】

		上段：件数、下段：%							無回答
	調査数	専念するにまかせ、仕事に専念する	家事・育児や地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる	家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる	仕事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる	生活計を配偶者にまかせ、活動に専念する	仕事や配偶者・育児・趣味、地域活動を両立させる	結婚地域に活動に専念する	
女性	20歳代	72 100.0	- -	2 2.8	10 13.9	9 12.5	47 65.3	3 4.2	1 1.4
	30歳代	114 100.0	- -	8 7.0	37 32.5	7 6.1	57 50.0	5 4.4	- -
	40歳代	94 100.0	- -	3 3.2	17 18.1	2 2.1	65 69.1	3 3.2	4 4.3
	50歳代	113 100.0	- -	6 5.3	26 23.0	11 9.7	61 54.0	4 3.5	5 4.4
	60歳代	116 100.0	3 2.6	10 8.6	27 23.3	8 6.9	59 50.9	1 0.9	8 6.9
	70歳以上	103 100.0	- -	6 5.8	32 31.1	8 7.8	39 37.9	3 2.9	15 14.6
	合計	46 100.0	2 4.3	12 26.1	8 17.4	- -	21 45.7	3 6.5	- -
男性	20歳代	64 100.0	- -	21 32.8	14 21.9	- -	23 35.9	5 7.8	1 1.6
	30歳代	54 100.0	- -	22 40.7	8 14.8	- -	17 31.5	4 7.4	3 5.6
	40歳代	79 100.0	5 6.3	25 31.6	14 17.7	- -	28 35.4	5 6.3	2 2.5
	50歳代	76 100.0	4 5.3	26 34.2	11 14.5	2 2.6	27 35.5	- -	6 7.9
	60歳代	82 100.0	1 1.2	26 31.7	12 14.6	4 4.9	31 37.8	3 3.7	5 6.1
	70歳以上	82 100.0	1 1.2	26 31.7	12 14.6	4 4.9	31 37.8	3 3.7	5 6.1
	合計	336 100.0	- -	26 7.7	75 22.3	16 4.8	200 59.5	13 3.9	6 1.8
女性	就業者全体	130 100.0	- -	6 4.6	22 16.9	3 2.3	86 66.2	11 8.5	2 1.5
	正規雇用	122 100.0	- -	11 9.0	35 28.7	8 6.6	65 53.3	- -	3 2.5
	非正規雇用	84 100.0	- -	9 10.7	18 21.4	5 6.0	49 58.3	2 2.4	1 1.2
	自営業・内職等	257 100.0	3 1.2	10 3.9	68 26.5	29 11.3	120 46.7	6 2.3	21 8.2
	非就業者全体	162 100.0	2 1.2	4 2.5	45 27.8	20 12.3	78 48.1	1 0.6	12 7.4
	家事専業	6 100.0	- -	- -	- -	1 16.7	5 83.3	- -	- -
	学生	73 100.0	1 1.4	4 5.5	21 28.8	8 11.0	29 39.7	3 4.1	7 9.6
無職	16 100.0	- -	2 12.5	2 12.5	- -	8 50.0	2 12.5	2 12.5	
その他	293 100.0	7 2.4	108 36.9	49 16.7	3 1.0	103 35.2	15 5.1	8 2.7	
男性	就業者全体	169 100.0	5 3.0	56 33.1	36 21.3	- -	63 37.3	6 3.6	3 1.8
	正規雇用	25 100.0	- -	8 32.0	3 12.0	1 4.0	8 32.0	4 16.0	1 4.0
	非正規雇用	99 100.0	2 2.0	44 44.4	10 10.1	2 2.0	32 32.3	5 5.1	4 4.0
	自営業・内職等	105 100.0	5 4.8	24 22.9	18 17.1	3 2.9	42 40.0	4 3.8	9 8.6
	非就業者全体	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	家事専業	8 100.0	1 12.5	2 25.0	- -	- -	4 50.0	1 12.5	- -
	学生	90 100.0	3 3.3	22 24.4	18 20.0	3 3.3	33 36.7	2 2.2	9 10.0
無職	6 100.0	- -	- -	- -	- -	5 83.3	1 16.7	- -	
その他	6 100.0	- -	- -	- -	- -	5 83.3	1 16.7	- -	

問11 付問 今のあなたの現状に最も近いものを選んでください。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させている』の割合が、21.7%と最も高く、次いで、『仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かち合い、両立させている』が19.4%となっている。

【性別】

性別でみると、女性では『仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させている』が22.1%と最も高く、男性では『家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させている』が31.6%と最も高い。

【性・年代、性・職業別 問11付問】

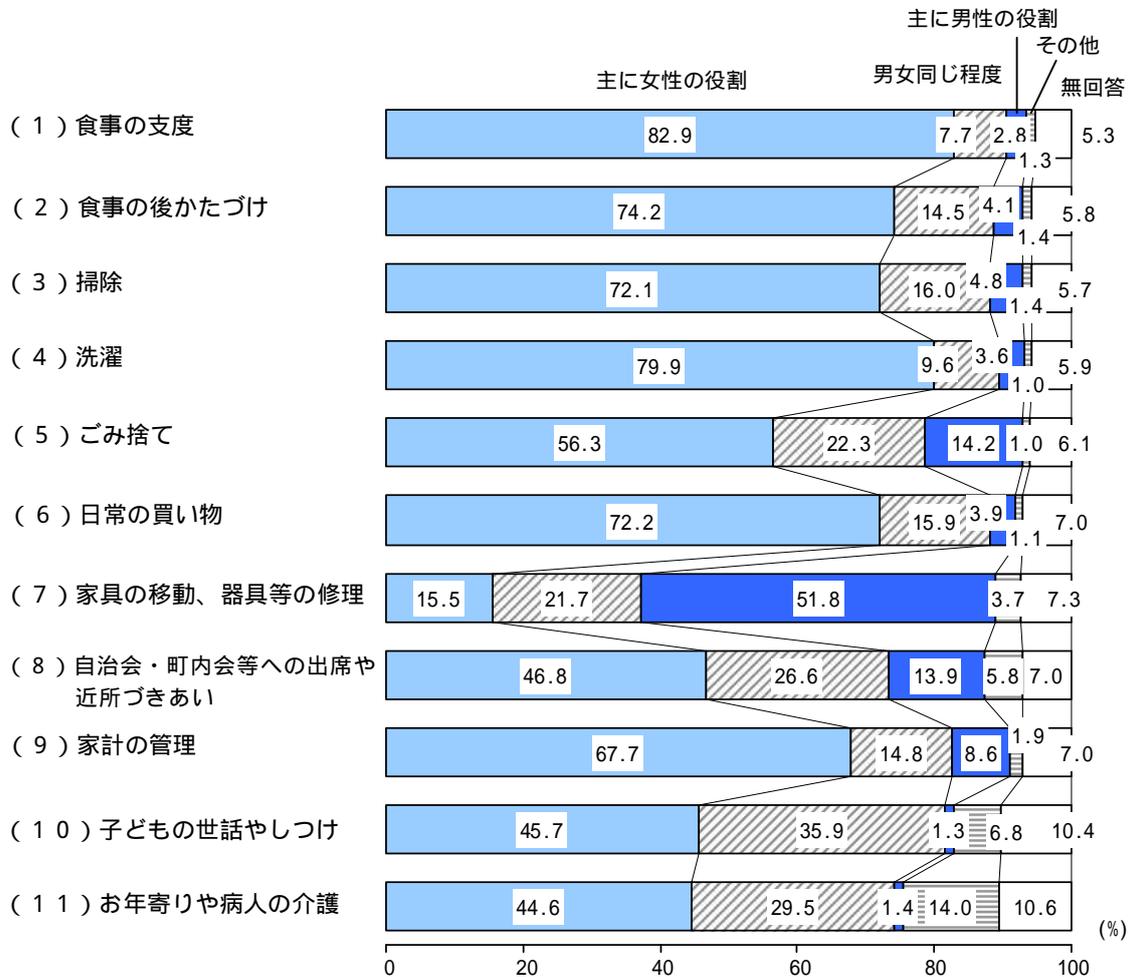
性別	年代	調査数	上段：件数、下段：%						
			専念	仕事も尊重するが家事や趣味・地域活動等を優先	生計を配偶者にまかせ家事や趣味・地域活動に専念	結婚せずに仕事や趣味・地域活動に専念	仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい両立	無回答	
女	20歳代	72	-	4	11	10	8	38	1
	30歳代	114	-	5.6	15.3	13.9	11.1	52.8	1.4
	40歳代	94	-	19	26	15	23	6	5
	50歳代	113	3	20.2	27.7	16.0	24.5	6.4	5.3
	60歳代	116	3	17.7	25	10	32	6	16
	70歳以上	103	-	20.7	21.6	8.6	27.6	5.2	13.8
	100.0	-	9.7	19.4	9.7	25.2	2.9	33.0	
男	20歳代	46	3	7	-	-	6	27	3
	30歳代	64	10	17	5	-	10	19	3
	40歳代	54	5	21	4	-	6	15	3
	50歳代	79	15	34	5	-	10	10	5
	60歳代	76	8	24	8	2	19	4	11
	70歳以上	82	6	24	7	3	19	2	21
	100.0	7.3	29.3	8.5	3.7	23.2	2.4	25.6	
女	就業者全体	336	5	77	86	7	71	79	11
	正規雇用	130	2	26	17	-	23	59	3
	非正規雇用	122	1	24	54	2	17	45.4	2.3
	自営業・内職等	84	2	27	15	5	24	7	4
	非就業者全体	257	5	17	48	76	50	16	45
	家事専業	162	4	6	30	65	30	2	25
	学生	6	-	-	1	-	-	5	-
	無職	73	1	8	13	11	17	6	17
	その他	16	-	3	4	-	3	3	3
	就業者全体	293	42	108	19	3	42	61	18
	正規雇用	169	28	61	10	-	22	42	6
	非正規雇用	25	2	6	2	1	3	8	3
	自営業・内職等	99	12	41	7	2	17	11	9
非就業者全体	105	5	19	11	2	26	14	28	
家事専業	1	1	-	-	-	-	-	-	
学生	8	-	-	-	-	-	7	1	
無職	90	4	19	11	2	22	5	27	
その他	6	-	-	-	-	4	2	-	

日常生活での役割分担

問7 あなたのご家庭では、次にあげるような日常的事務は、主にどなたがされていますか。(1)から(11)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

* (10) (11)については対象の方がいない場合も、考え方としてお書きください。

【全体数：1,110】



【概要】

日常生活の役割分担について、ほとんど全ての項目で『主に女性の役割』の割合が高くなっている。『主に女性の役割』が過半数以上を占めているものは以下の項目である。

- (1) 食事の支度 (82.9%)
- (2) 食事の後かたづけ (74.2%)
- (3) 掃除 (72.1%)
- (4) 洗濯 (79.9%)
- (5) ごみ捨て (56.3%)
- (6) 日常の買い物 (72.2%)
- (9) 家計の管理 (67.7%)

『主に女性の役割』よりも『主に男性の役割』の割合の方が高いもの以下の一項目

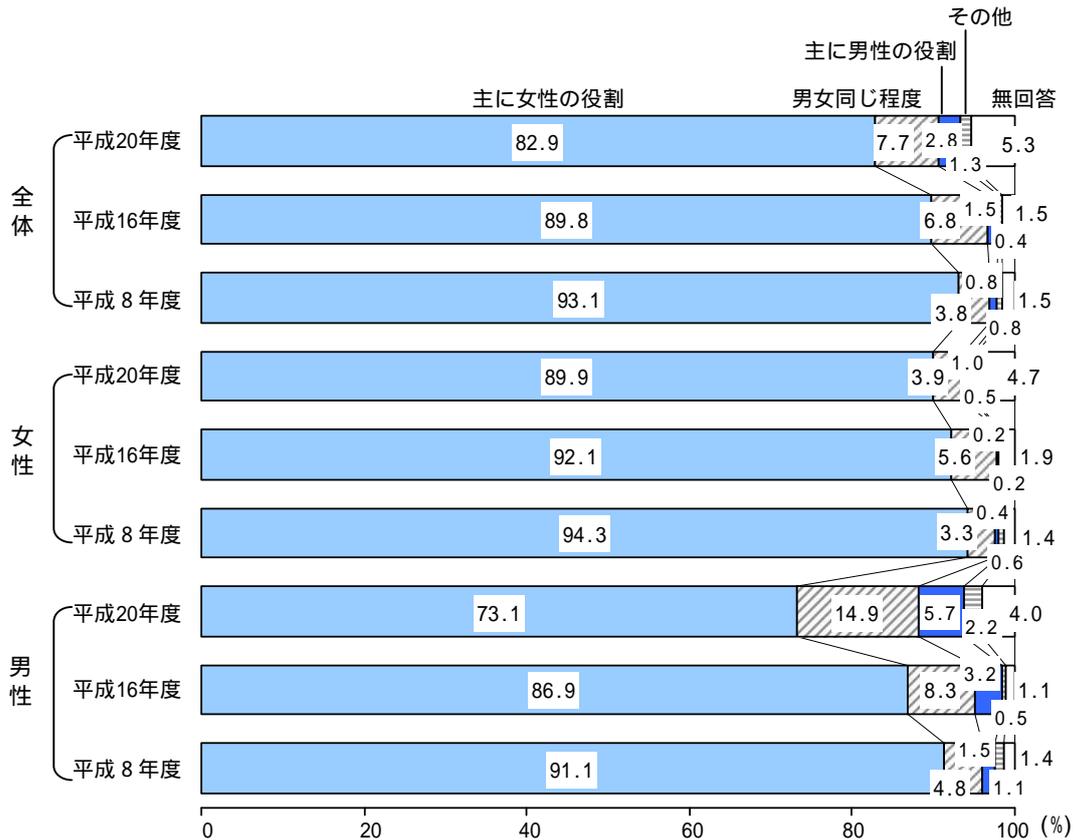
- (7) 家具の移動、器具等の修理 (51.8%)

その他、『男女同じ程度』の割合が、比較的高い項目

- (10) 子どもの世話やしつけ (35.9%)
- (11) お年寄りや病人の介護 (29.5%)
- (8) 自治会・町内会等への出席や近所づきあい (26.6%)

(1) 食事の支度

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が82.9%を占めている。

【経年比較】過去調査と比較すると、年々減少しており、平成8年度(93.1%)より、10.2ポイント減少している。

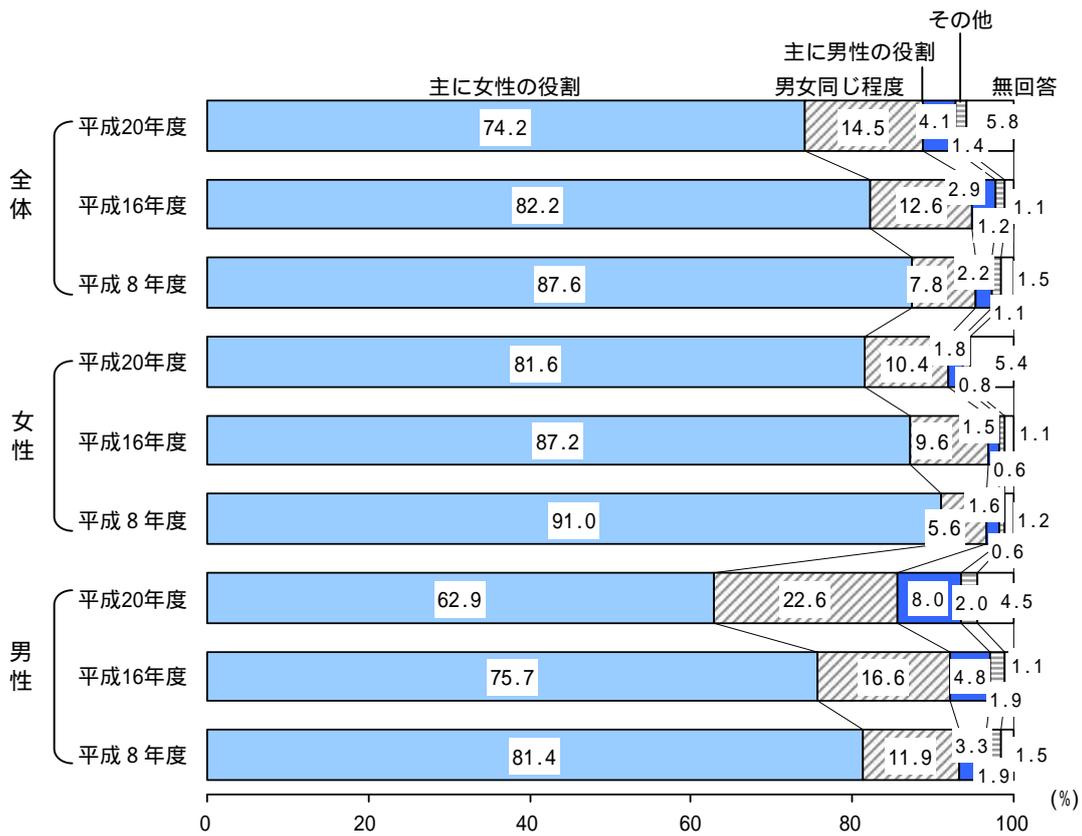
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合は、女性が89.9%、男性が73.1%となっており、男女間で大きな差がみられる。過去調査と比較すると、『男女同じ程度』について、女性では割合にほとんど変化はみられないが、男性では、平成8年度が4.8%、16年度が8.3%、20年度が14.9%と増加傾向がみられる。

【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(1)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答
女	20歳代	72 100.0	64 88.9	4 5.6	2 2.8	- 2.8
	30歳代	114 100.0	107 93.9	2 1.8	1 0.9	2 1.8
	40歳代	94 100.0	87 92.6	3 3.2	2 2.1	- 2.1
	50歳代	113 100.0	104 92.0	4 3.5	1 0.9	- 3.5
	60歳代	116 100.0	100 86.2	8 6.9	- 0.9	7 6.0
	70歳以上	103 100.0	88 85.4	3 2.9	- -	12 11.7
	男	20歳代	46 100.0	34 73.9	10 21.7	1 2.2
30歳代		64 100.0	51 79.7	8 12.5	2 3.1	3 4.7
40歳代		54 100.0	38 70.4	9 16.7	3 5.6	1 1.9
50歳代		79 100.0	58 73.4	11 13.9	7 8.9	- 3.8
60歳代		76 100.0	56 73.7	11 14.5	5 6.6	2 2.6
70歳以上		82 100.0	56 68.3	11 13.4	5 6.1	3 3.7
職業形態別		2人ともフルタイム	60 100.0	49 81.7	9 15.0	2 3.3
	フルタイムとパートタイム等	103 100.0	94 91.3	8 7.8	1 1.0	- -
	フルタイムと家事専業・無職	79 100.0	71 89.9	6 7.6	- -	2 2.5
	2人とも自営・自由業・家族従業	112 100.0	99 88.4	8 7.1	1 0.9	- 3.6
	自営・自由業と家事専業・無職	51 100.0	47 92.2	2 3.9	- -	2 3.9
2人とも家事専業・無職	107 100.0	87 81.3	11 10.3	1 0.9	1 0.9	
その他の職業の組み合わせ	117 100.0	98 83.8	8 6.8	5 4.3	1 0.9	

(2) 食事の後かたづけ

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が74.2%と大半を占めている。

【経年比較】過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合が年々減少しており、平成8年度(87.6%)より、13.4ポイント減少している。

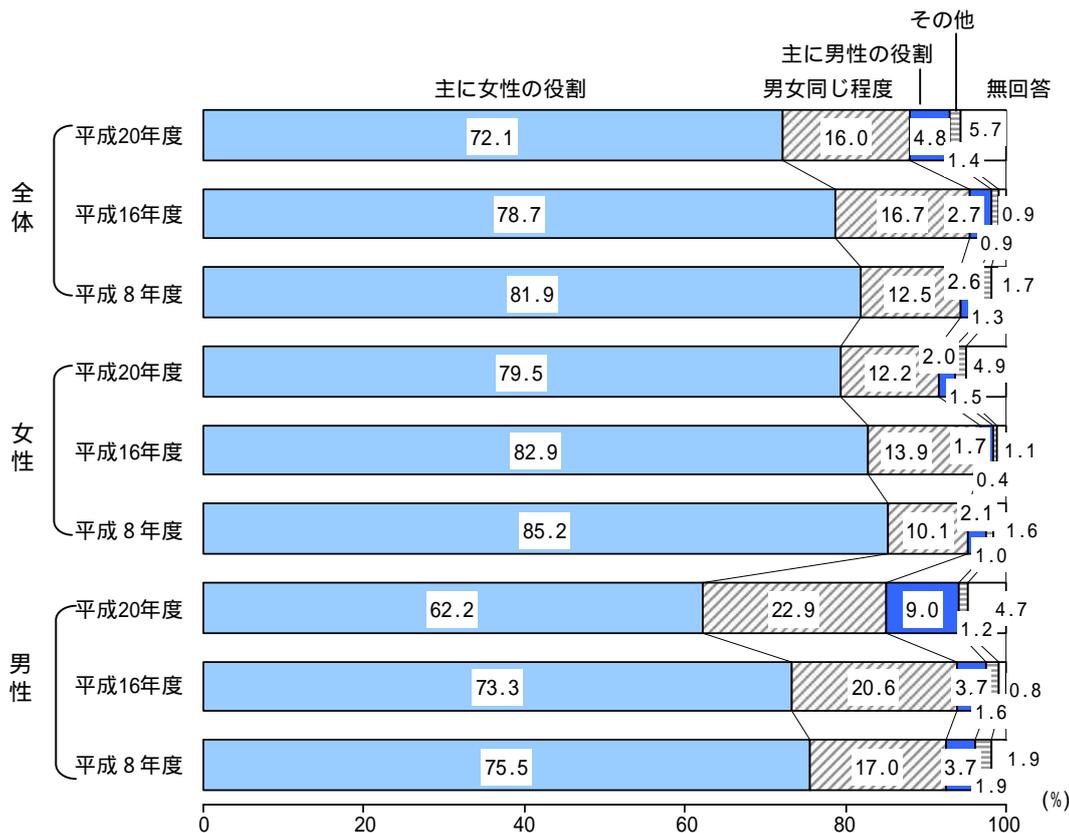
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合は、女性が81.6%、男性が62.9%となっており、男女間で大きな差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも割合は年々減少している。また、男性では、『男女同じ程度』の割合が増加し、平成8年度が11.9%、16年度が16.6%、20年度が22.6%となっている。

【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(2)】

	調査数	上段：件数、下段：%				無回答	
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他		
女性	20歳代	72 100.0	55 76.4	13 18.1	2 2.8	-	2 2.8
	30歳代	114 100.0	95 83.3	11 9.6	2 1.8	4 3.5	2 1.8
	40歳代	94 100.0	81 86.2	10 10.6	1 1.1	-	2 2.1
	50歳代	113 100.0	96 85.0	11 9.7	1 0.9	-	5 4.4
	60歳代	116 100.0	90 77.6	12 10.3	5 4.3	1 0.9	8 6.9
	70歳以上	103 100.0	82 79.6	7 6.8	-	-	14 13.6
	20歳代	46 100.0	31 67.4	12 26.1	2 4.3	-	1 2.2
	30歳代	64 100.0	43 67.2	15 23.4	3 4.7	2 3.1	1 1.6
	40歳代	54 100.0	33 61.1	12 22.2	5 9.3	1 1.9	3 5.6
男性	50歳代	79 100.0	50 63.3	19 24.1	7 8.9	-	3 3.8
	60歳代	76 100.0	50 65.8	15 19.7	7 9.2	1 1.3	3 3.9
	70歳以上	82 100.0	45 54.9	18 22.0	8 9.8	4 4.9	7 8.5
	2人ともフルタイム	60 100.0	40 66.7	15 25.0	4 6.7	1 1.7	-
	フルタイムとパート併等	103 100.0	75 72.8	24 23.3	3 2.9	-	1 1.0
	フルタイムと家事専業・無職	79 100.0	68 86.1	8 10.1	1 1.3	-	2 2.5
	2人とも自営・自由業、家族従業	112 100.0	93 83.0	12 10.7	2 1.8	1 0.9	4 3.6
	自営・自由業と家事専業・無職	51 100.0	42 82.4	6 11.8	-	-	3 5.9
	2人とも家事専業・無職	107 100.0	75 70.1	19 17.8	5 4.7	1 0.9	7 6.5
その他の職業の組み合わせ	117 100.0	87 74.4	17 14.5	7 6.0	1 0.9	5 4.3	

(3) 掃除

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要・経年比較】『主に女性の役割』の割合が72.1%を占めているが、過去調査と比較すると、年々減少しており、平成8年度(81.9%)より、9.8ポイント減少している。

【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合は、女性が79.5%、男性が62.2%となっており、男女間で差がみられるが、過去調査と比較すると、男女とも割合は年々減少している。また、『主に男性の役割』については、女性では割合に変化はないが、男性では平成20年が9.0%と、16年度より5.3ポイント増加している。

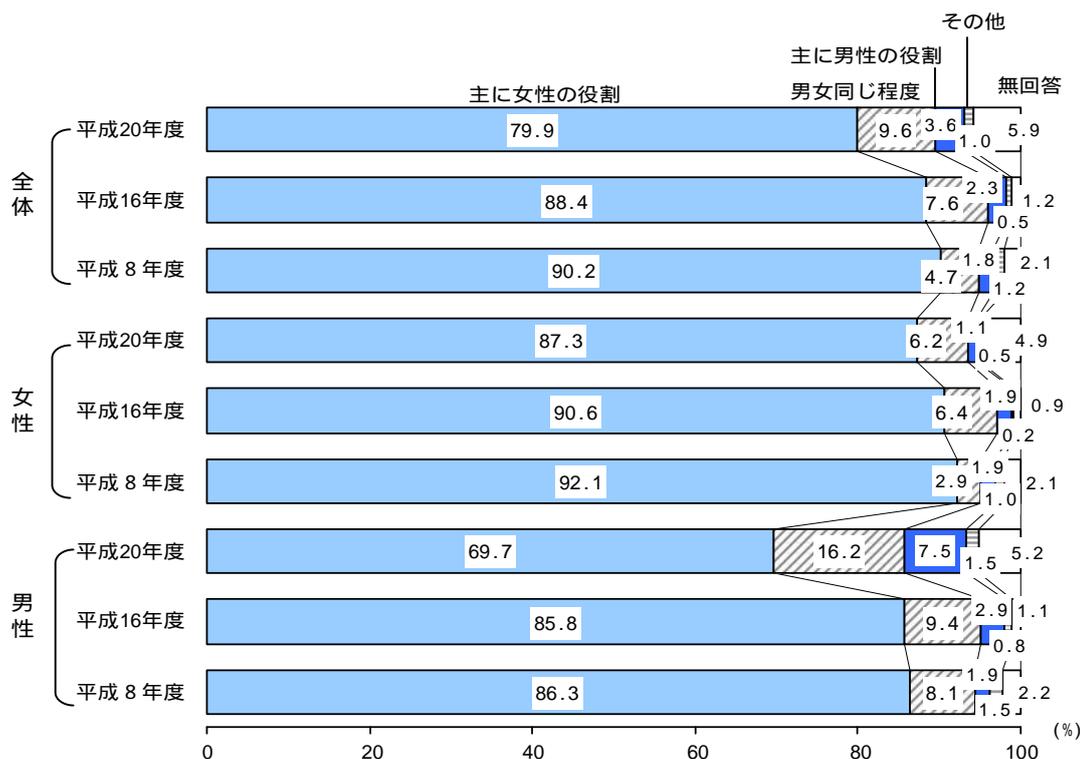
【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(3)】

性別	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答
女	20歳代	72	58	12	-	2
		100.0	80.6	16.7	-	2.8
	30歳代	114	94	12	3	2
		100.0	82.5	10.5	2.6	1.8
	40歳代	94	78	12	2	2
		100.0	83.0	12.8	2.1	2.1
	50歳代	113	99	9	1	4
	100.0	87.6	8.0	0.9	3.5	
性	60歳代	116	90	16	2	6
		100.0	77.6	13.8	1.7	5.2
	70歳以上	103	67	14	5	14
	100.0	65.0	13.6	4.9	13.6	
男	20歳代	46	32	13	-	1
		100.0	69.6	28.3	-	2.2
	30歳代	64	44	13	6	1
		100.0	68.8	20.3	9.4	1.6
	40歳代	54	32	14	5	3
		100.0	59.3	25.9	9.3	5.6
	50歳代	79	50	16	8	4
	100.0	63.3	20.3	10.1	5.1	
性	60歳代	76	53	12	8	2
		100.0	69.7	15.8	10.5	2.6
	70歳以上	82	38	24	9	8
	100.0	46.3	29.3	11.0	9.8	

職業形態	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答
2人ともフルタイム	60	43	12	4	1	-
	100.0	71.7	20.0	6.7	1.7	-
フルタイムとパートタイム等	103	78	20	5	-	-
	100.0	75.7	19.4	4.9	-	-
フルタイムと家事専業・無職	79	59	15	2	1	2
	100.0	74.7	19.0	2.5	1.3	2.5
2人とも自営・自由業・家族従業	112	97	10	1	-	4
	100.0	86.6	8.9	0.9	-	3.6
自営・自由業と家事専業・無職	51	42	5	-	2	2
	100.0	82.4	9.8	-	3.9	3.9
2人とも家事専業・無職	107	60	31	7	1	8
	100.0	56.1	29.0	6.5	0.9	7.5
その他の職業の組み合わせ	117	88	17	7	-	5
	100.0	75.2	14.5	6.0	-	4.3

(4) 洗濯

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が79.9%を占めている。

【経年比較】過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合が年々減少しており、平成8年度(90.2%)より、10.3ポイント減少している。

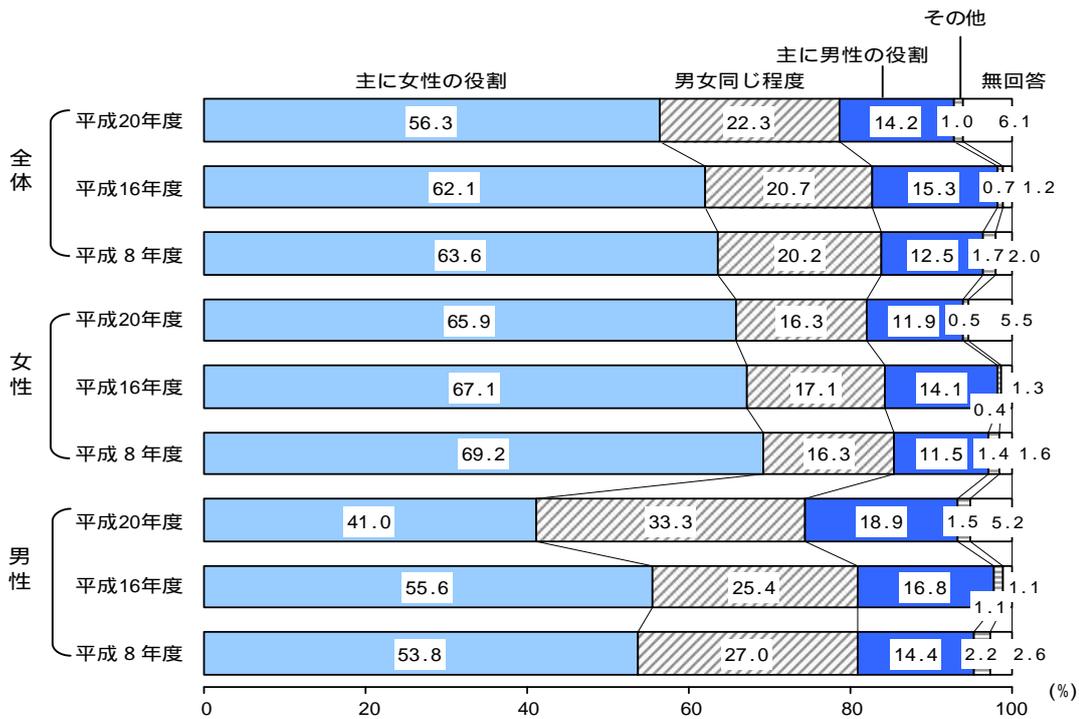
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合は、女性が87.3%、男性が69.7%となっており、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合が、女性では平成8年度92.1%、16年度90.6%、20年度87.3%と年々減少しているが、男性では平成8年度86.3%、平成16年度85.8%、20年度69.7%と平成16年度から20年度にかけて減少している。『男女同じ程度』の割合では、男性が平成16年度9.4%から20年度16.2%にかけて増加している。

【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(4)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答	
女性	20歳代	72 100.0	63 87.5	5 6.9	1 1.4	- -	3 4.2
	30歳代	114 100.0	104 91.2	4 3.5	2 1.8	2 1.8	2 1.8
	40歳代	94 100.0	84 89.4	8 8.5	- -	- -	2 2.1
	50歳代	113 100.0	102 90.3	6 5.3	1 0.9	- -	4 3.5
	60歳代	116 100.0	101 87.1	8 6.9	2 1.7	- -	5 4.3
	70歳以上	103 100.0	80 77.7	7 6.8	1 1.0	1 1.0	14 13.6
	男性	20歳代	46 100.0	34 73.9	7 15.2	4 8.7	- -
30歳代		64 100.0	51 79.7	9 14.1	4 6.3	- -	- -
40歳代		54 100.0	34 63.0	12 22.2	4 7.4	1 1.9	3 5.6
50歳代		79 100.0	57 72.2	11 13.9	6 7.6	1 1.3	4 5.1
60歳代		76 100.0	55 72.4	11 14.5	6 7.9	1 1.3	3 3.9
70歳以上		82 100.0	48 58.5	15 18.3	6 7.3	3 3.7	10 12.2
職業形態別		2人ともフルタイム	60 100.0	44 73.3	13 21.7	2 3.3	- -
	フルタイムとパートタイム等	103 100.0	92 89.3	10 9.7	1 1.0	- -	- -
	フルタイムと家事専業・無職	79 100.0	69 87.3	8 10.1	- -	- -	2 2.5
	2人とも自営・自由業、家族従業	112 100.0	103 92.0	1 0.9	2 1.8	1 0.9	5 4.5
	自営・自由業と家事専業・無職	51 100.0	45 88.2	3 5.9	- -	- -	3 5.9
	2人とも家事専業・無職	107 100.0	81 75.7	16 15.0	3 2.8	- -	7 6.5
	その他の職業の組み合わせ	117 100.0	89 76.1	15 12.8	7 6.0	- -	6 5.1

(5) ごみ捨て

【平成20年度全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が56.3%と過半数を占めている。

【経年比較】過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合が年々減少しており、平成8年度(63.6%)より、7.3ポイント減少している。一方、『男女同じ程度』の割合はやや増加傾向にある。

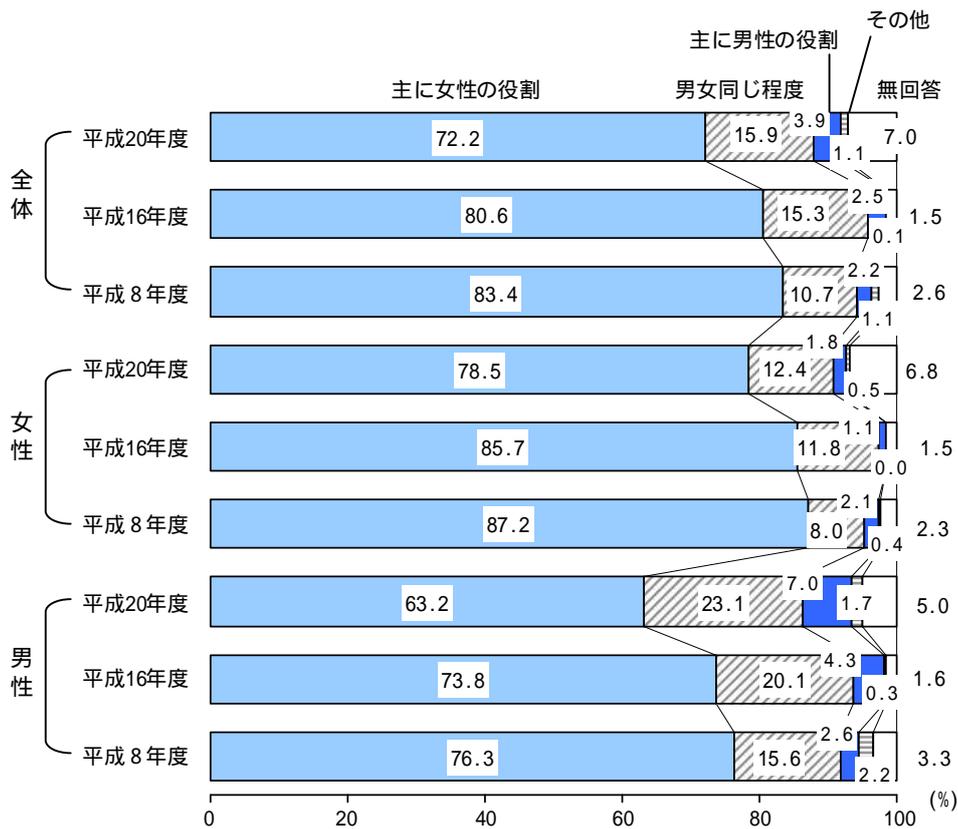
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が、女性で65.9%、男性で41.0%と、男女間で大きな差がみられる。過去調査と比較すると、女性では平成8年度69.2%、16年度67.1%、20年度65.9%と平成8年度から20年度にかけて3.3ポイント減少している。男性では、『主に女性の役割』の割合は、平成16年度(55.6%)から20年度(41.0%)にかけて減少し、『男女同じ程度』の割合は、平成16年度(25.4%)から20年度(33.3%)にかけて7.9ポイント増加している。

【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(5)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答	
女	20歳代	72 100.0	46 63.9	9 12.5	14 19.4	- 4.2	3
	30歳代	114 100.0	73 64.0	21 18.4	17 14.9	1 0.9	2 1.8
	40歳代	94 100.0	67 71.3	15 16.0	10 10.6	-	2 2.1
	50歳代	113 100.0	75 66.4	19 16.8	14 12.4	1 0.9	4 3.5
	60歳代	116 100.0	80 69.0	19 16.4	10 8.6	1 0.9	6 5.2
	70歳以上	103 100.0	63 61.2	17 16.5	6 5.8	-	17 16.5
	男	20歳代	46 100.0	24 52.2	17 37.0	4 8.7	-
30歳代		64 100.0	28 43.8	26 40.6	9 14.1	1 1.6	-
40歳代		54 100.0	20 37.0	20 37.0	11 20.4	-	3 5.6
50歳代		79 100.0	33 41.8	23 29.1	19 24.1	1 1.3	3 3.8
60歳代		76 100.0	34 44.7	27 35.5	11 14.5	1 1.3	3 3.9
70歳以上		82 100.0	26 31.7	21 25.6	22 26.8	3 3.7	10 12.2
職業形態別		2人ともフルタイム	60 100.0	21 35.0	18 30.0	19 31.7	1 1.7
	フルタイムとパートタイム等	103 100.0	64 62.1	19 18.4	19 18.4	1 1.0	-
	フルタイムと家事専業・無職	79 100.0	49 62.0	19 24.1	8 10.1	-	3 3.8
	2人とも自営・自由業、家族従業	112 100.0	69 61.6	23 20.5	15 13.4	-	5 4.5
	自営・自由業と家事専業・無職	51 100.0	26 51.0	16 31.4	6 11.8	-	3 5.9
	2人とも家事専業・無職	107 100.0	56 52.3	26 24.3	16 15.0	1 0.9	8 7.5
	その他の職業の組み合わせ	117 100.0	66 56.4	27 23.1	19 16.2	-	5 4.3

(6) 日常の買い物

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が72.2%と大半を占めている。

【経年比較】過去調査と比較すると、年々減少しており、平成8年度(83.4%)より、11.2ポイント減少している。一方、『男女同じ程度』の割合はやや増加している。

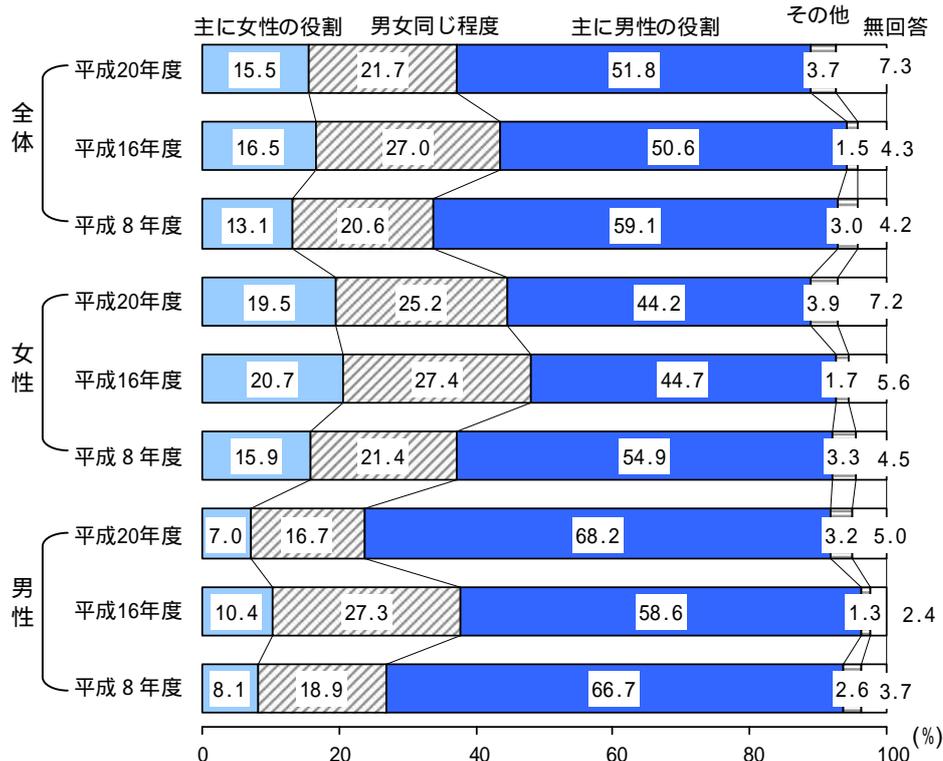
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が、女性で78.5%、男性で63.2%と、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも『主に女性の役割』の割合が年々減少し、特に男性において、『男女同じ程度』、『主に男性の役割』の割合が増加している。

【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(6)】

	調査数	上段：件数、下段：%				無回答	
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他		
女性	20歳代	72	54	13	2	-	3
		100.0	75.0	18.1	2.8	-	4.2
	30歳代	114	96	11	3	1	3
		100.0	84.2	9.6	2.6	0.9	2.6
	40歳代	94	80	9	1	1	3
		100.0	85.1	9.6	1.1	1.1	3.2
	50歳代	113	93	14	1	-	5
	100.0	82.3	12.4	0.9	-	4.4	
60歳代	116	89	15	1	-	11	
		100.0	76.7	12.9	0.9	-	9.5
	70歳以上	103	68	14	3	1	17
	100.0	66.0	13.6	2.9	1.0	16.5	
男性	20歳代	46	31	13	1	-	1
		100.0	67.4	28.3	2.2	-	2.2
	30歳代	64	42	16	3	1	2
		100.0	65.6	25.0	4.7	1.6	3.1
	40歳代	54	32	15	3	1	3
		100.0	59.3	27.8	5.6	1.9	5.6
	50歳代	79	50	17	8	1	3
	100.0	63.3	21.5	10.1	1.3	3.8	
60歳代	76	49	15	8	1	3	
		100.0	64.5	19.7	10.5	1.3	3.9
	70歳以上	82	49	17	5	3	8
	100.0	59.8	20.7	6.1	3.7	9.8	
職業形態別	2人ともフルタイム	60	39	15	5	1	-
		100.0	65.0	25.0	8.3	1.7	-
	フルタイムとパートタイム等	103	85	14	4	-	-
		100.0	82.5	13.6	3.9	-	-
	フルタイムと家事専業・無職	79	61	14	1	1	2
	100.0	77.2	17.7	1.3	1.3	2.5	
2人とも自営・自由業・家族従業	112	90	13	2	-	7	
	100.0	80.4	11.6	1.8	-	6.3	
自営・自由業と家事専業・無職	51	39	9	1	-	2	
	100.0	76.5	17.6	2.0	-	3.9	
2人とも家事専業・無職	107	69	19	4	-	15	
	100.0	64.5	17.8	3.7	-	14.0	
その他の職業の組み合わせ	117	88	19	5	-	5	
	100.0	75.2	16.2	4.3	-	4.3	

(7) 家具の移動、器具等の修理

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『主に男性の役割』の割合が51.8%と過半数を占めている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、『男女同じ程度』の割合が、平成8年度(20.6%)、16年度(27.0%)、20年度は21.7%と、平成16年度が最も高い。

【性別・経年比較】

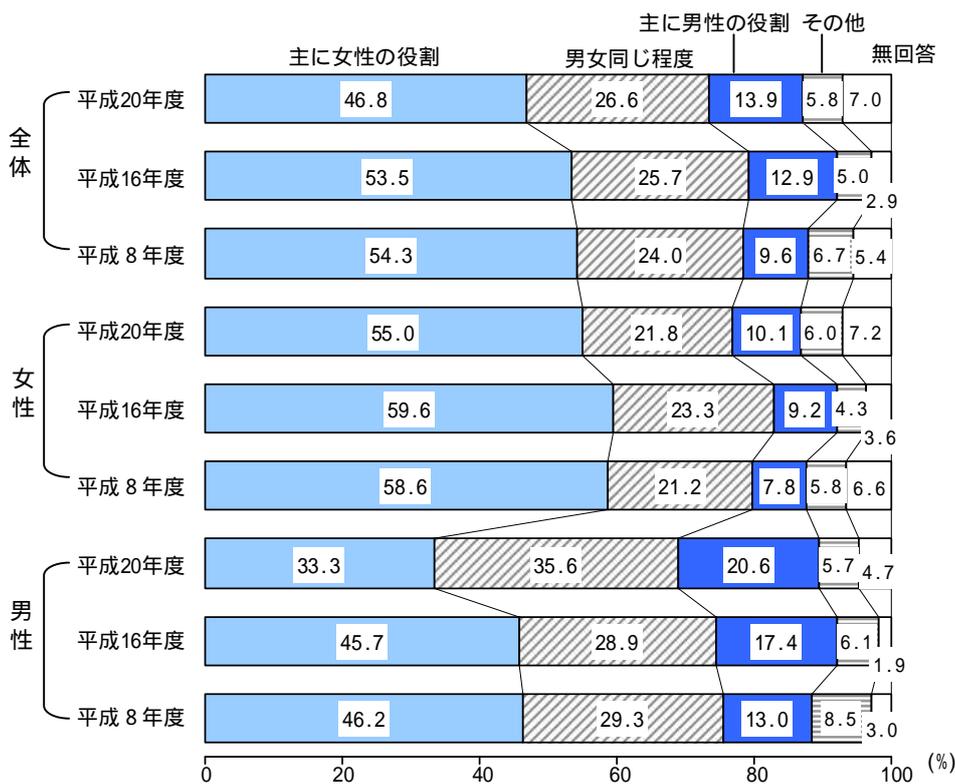
性別にみると、『主に女性の役割』の割合が、女性で19.5%、男性で7.0%と、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも『男女同じ程度』の割合が、平成16年度で最も高く、20年度の男性では、16年度よりも10.6ポイント減少し、『主に男性の役割』の割合が68.2%と、9.6ポイント増加している。

【性・年代別 問7(7)】

	調査数	上段：件数、下段：%				無回答	
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他		
女	20歳代	72 100.0	12 16.7	20 27.8	37 51.4	- -	3 4.2
	30歳代	114 100.0	27 23.7	28 24.6	50 43.9	6 5.3	3 2.6
	40歳代	94 100.0	14 14.9	27 28.7	45 47.9	5 5.3	3 3.2
	50歳代	113 100.0	29 25.7	24 21.2	51 45.1	4 3.5	5 4.4
	60歳代	116 100.0	22 19.0	36 31.0	45 38.8	3 2.6	10 8.6
	70歳以上	103 100.0	16 15.5	20 19.4	41 39.8	6 5.8	20 19.4
	男	20歳代	46 100.0	4 8.7	7 15.2	33 71.7	1 2.2
30歳代		64 100.0	6 9.4	13 20.3	41 64.1	2 3.1	2 3.1
40歳代		54 100.0	1 1.9	9 16.7	38 70.4	3 5.6	3 5.6
50歳代		79 100.0	8 10.1	11 13.9	55 69.6	1 1.3	4 5.1
60歳代		76 100.0	5 6.6	14 18.4	54 71.1	1 1.3	2 2.6
70歳以上		82 100.0	4 4.9	13 15.9	52 63.4	5 6.1	8 9.8

(8) 自治会・町内会等への出席や近所づきあい

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が46.8%と約半数を占めており、一方、『男女同じ程度』の割合は26.6%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が、女性で55.0%、男性で33.3%と、男女間で大きな差がみられる。過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合は、女性では平成16年度59.6%、20年度55.0%、男性では、平成16年度45.7%、20年度33.3%と、男女ともに平成16年度から20年度にかけて減少している。『男女同じ程度』の割合は、男性で平成16年度(28.9%)から20年度(35.6%)にかけて6.7ポイント増加している。

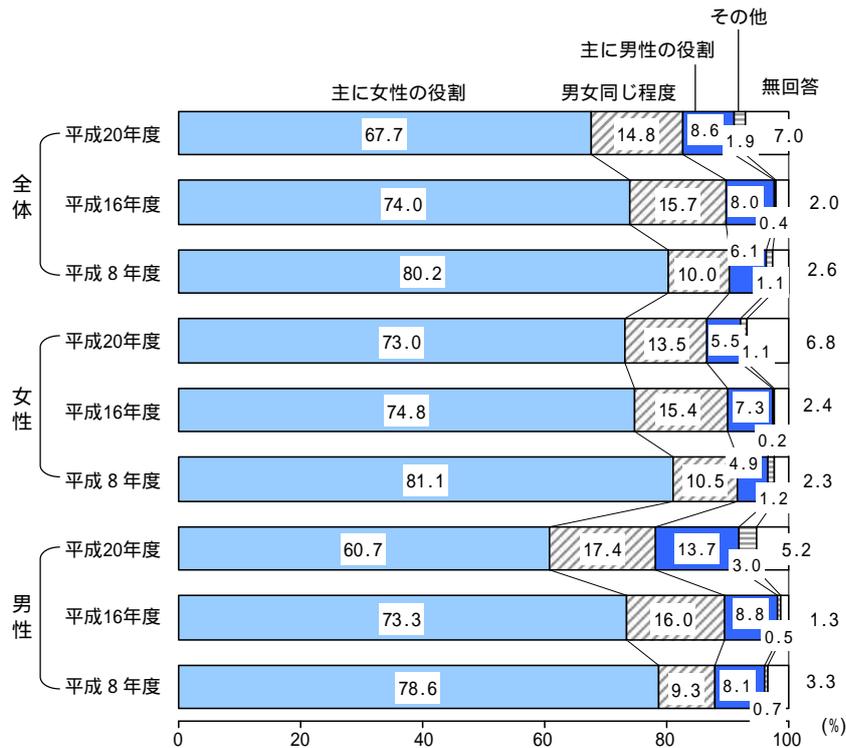
【性・年代、有配偶者職業形態別 問7(6)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答	
女性	20歳代	72	33	22	6	9	2
		100.0	45.8	30.6	8.3	12.5	2.8
	30歳代	114	68	19	9	16	2
		100.0	59.6	16.7	7.9	14.0	1.8
	40歳代	94	63	20	6	3	2
		100.0	67.0	21.3	6.4	3.2	2.1
	50歳代	113	69	22	12	3	7
	100.0	61.1	19.5	10.6	2.7	6.2	
女性	60歳代	116	59	28	18	1	10
		100.0	50.9	24.1	15.5	0.9	8.6
	70歳以上	103	44	23	11	4	21
	100.0	42.7	22.3	10.7	3.9	20.4	
男性	20歳代	46	23	15	5	2	1
		100.0	50.0	32.6	10.9	4.3	2.2
	30歳代	64	29	23	5	5	2
		100.0	45.3	35.9	7.8	7.8	3.1
	40歳代	54	20	17	10	4	3
		100.0	37.0	31.5	18.5	7.4	5.6
	50歳代	79	24	23	25	4	3
	100.0	30.4	29.1	31.6	5.1	3.8	
女性	60歳代	76	23	26	19	5	3
		100.0	30.3	34.2	25.0	6.6	3.9
	70歳以上	82	15	38	19	3	7
	100.0	18.3	46.3	23.2	3.7	8.5	

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答
2人ともフルタイム	60	28	17	9	6	-
	100.0	46.7	28.3	15.0	10.0	-
フルタイムとパートタイム等	103	60	22	15	6	-
	100.0	58.3	21.4	14.6	5.8	-
フルタイムと家事専業・無職	79	29	27	19	2	2
	100.0	36.7	34.2	24.1	2.5	2.5
2人とも自営・自由業・家族従業	112	53	33	11	8	7
	100.0	47.3	29.5	9.8	7.1	6.3
自営・自由業と家事専業・無職	51	24	13	7	3	4
	100.0	47.1	25.5	13.7	5.9	7.8
2人とも家事専業・無職	107	48	30	19	-	10
	100.0	44.9	28.0	17.8	-	9.3
その他の職業の組み合わせ	117	49	34	23	5	6
	100.0	41.9	29.1	19.7	4.3	5.1

(9) 家計の管理

【平成20年度全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合が67.7%を占めており、『男女同じ程度』の割合は14.8%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、割合に大きな変化はみられない。

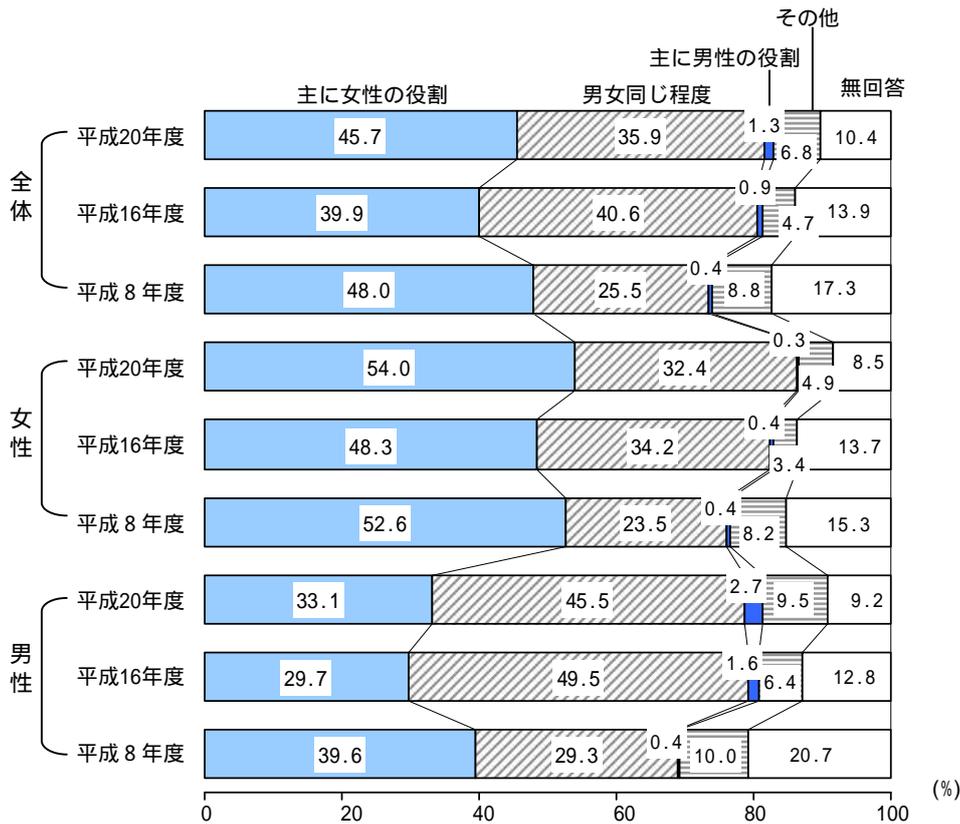
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が、女性で73.0%、男性で60.7%と、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合は、女性では平成8年度81.1%、16年度74.8%、20年度73.0%、男性では平成8年度78.6%、16年度73.3%、20年度60.7%と男女とも減少傾向にあり、男性では平成8年度(78.6%)から20年度(60.7%)にかけて17.9ポイント減少している。

【性・年代、性・職業別 問7(9)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答	
女性	20歳代	72 100.0	59 81.9	5 6.9	2 2.8	2 2.8	4 5.6
	30歳代	114 100.0	87 76.3	17 14.9	6 5.3	2 1.8	2 1.8
	40歳代	94 100.0	69 73.4	17 18.1	6 6.4	-	2 2.1
	50歳代	113 100.0	87 77.0	13 11.5	8 7.1	1 0.9	4 3.5
	60歳代	116 100.0	84 72.4	16 13.8	6 5.2	-	10 8.6
	70歳以上	103 100.0	61 59.2	15 14.6	5 4.9	2 1.9	20 19.4
	男性	20歳代	46 100.0	33 71.7	9 19.6	1 2.2	2 4.3
30歳代		64 100.0	42 65.6	15 23.4	4 6.3	2 3.1	1 1.6
40歳代		54 100.0	27 50.0	11 20.4	11 20.4	2 3.7	3 5.6
50歳代		79 100.0	53 67.1	10 12.7	11 13.9	1 1.3	4 5.1
60歳代		76 100.0	49 64.5	10 13.2	11 14.5	3 3.9	3 3.9
70歳以上		82 100.0	40 48.8	14 17.1	17 20.7	2 2.4	9 11.0
女性		就業者全体	336 100.0	262 78.0	43 12.8	16 4.8	3 0.9
	正規雇用	130 100.0	109 83.8	13 10.0	1 0.8	0 0.0	6 4.6
	非正規雇用	122 100.0	87 71.3	21 17.2	9 7.4	1 0.8	4 3.3
	自営業・内職等	84 100.0	66 78.6	9 10.7	6 7.1	1 1.2	2 2.4
	非就業者全体	257 100.0	175 68.1	38 14.8	17 6.6	4 1.6	23 8.9
	家事専業	162 100.0	109 67.3	26 16.0	16 9.9	2 1.2	9 5.6
	学生	6 100.0	4 66.7	1 16.7	-	-	1 16.7
	無職	73 100.0	51 69.9	8 11.0	1 1.4	2 2.7	11 15.1
	その他	16 100.0	11 68.8	3 18.8	-	-	2 12.5
	就業者全体	293 100.0	185 63.1	51 17.4	38 13.0	6 2.0	13 4.4
	正規雇用	169 100.0	110 65.1	32 18.9	14 8.3	6 3.6	7 4.1
	非正規雇用	25 100.0	18 72.0	2 8.0	5 20.0	-	-
	自営業・内職等	99 100.0	57 57.6	17 17.2	19 19.2	-	6 6.1
	非就業者全体	105 100.0	57 54.3	18 17.1	17 16.2	5 4.8	8 7.6
家事専業	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	
学生	8 100.0	5 62.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	
無職	90 100.0	47 52.2	16 17.8	16 17.8	3 3.3	8 8.9	
その他	6 100.0	4 66.7	1 16.7	-	-	1 16.7	

(10) 子どもの世話やしつけ

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合は、45.7%と約半数を占め、次に『男女同じ程度』の割合が35.9%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、平成16年度において、『主に女性の役割』の割合が39.9%と最も低く、『男女同じ程度』の割合が40.6%と最も高い。

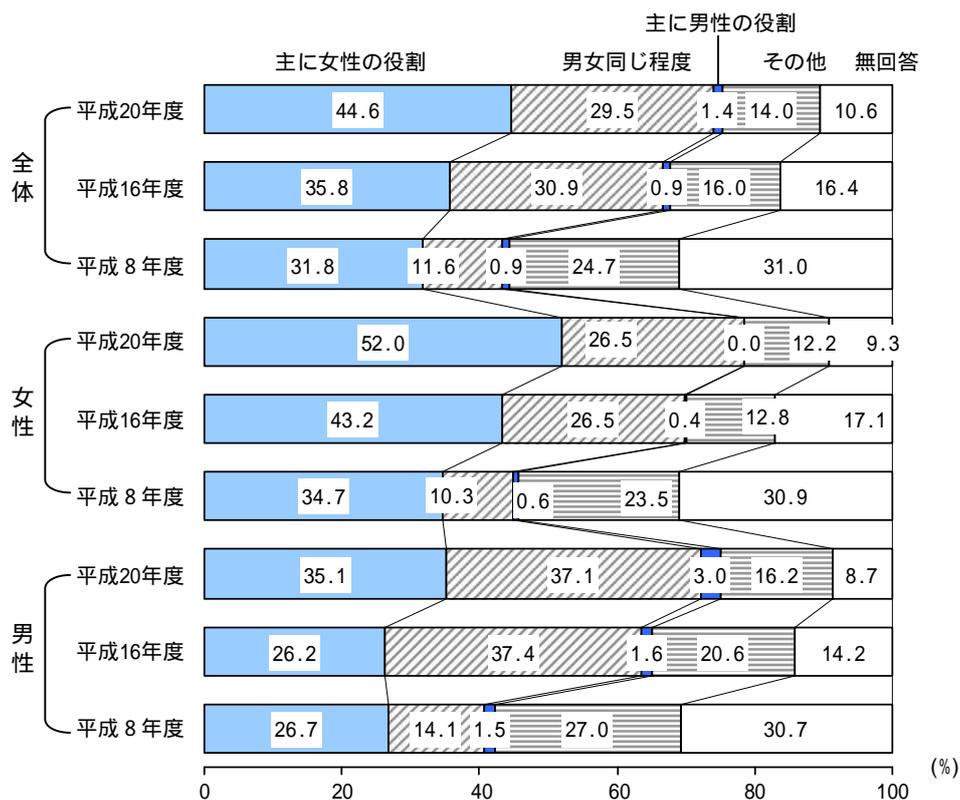
【性別・経年比較】性別にみると、女性では『主に女性の役割』の割合が過半数を超え54.0%と最も高いが、男性では『男女同じ程度』が45.5%と最も高く、男女間で差がみられる。過去調査と比較すると、男女とも『主に女性の役割』の割合は、平成16年度で最も低くなっており、20年度で再度増加している。

【性・年代、有配偶者職業形態、末子の年齢別 問7(10)】

	調査数	上段：件数、下段：%				無回答
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	72	34	32	-	4	2
	100.0	47.2	44.4	-	5.6	2.8
	114	62	41	-	9	2
	100.0	54.4	36.0	-	7.9	1.8
	94	60	28	-	4	2
	100.0	63.8	29.8	-	4.3	2.1
	113	68	31	-	7	7
	100.0	60.2	27.4	-	6.2	6.2
	116	62	38	-	2	14
	100.0	53.4	32.8	-	1.7	12.1
	103	44	29	2	3	25
	100.0	42.7	28.2	1.9	2.9	24.3
男	46	20	23	-	2	1
	100.0	43.5	50.0	-	4.3	2.2
	64	24	30	2	6	2
	100.0	37.5	46.9	3.1	9.4	3.1
	54	13	32	-	6	3
	100.0	24.1	59.3	-	11.1	5.6
	79	23	42	3	5	6
	100.0	29.1	53.2	3.8	6.3	7.6
	76	30	29	2	9	6
	100.0	39.5	38.2	2.6	11.8	7.9
	82	23	26	4	10	19
	100.0	28.0	31.7	4.9	12.2	23.2
2人ともフルタイム	60	21	31	1	7	-
	100.0	35.0	51.7	1.7	11.7	-
フルタイムとパート併用等	103	54	43	-	4	2
	100.0	52.4	41.7	-	3.9	1.9
フルタイムと家事専業・無職	79	41	29	1	5	3
	100.0	51.9	36.7	1.3	6.3	3.8
2人とも自営・自由業・家族従業	112	58	42	1	5	6
	100.0	51.8	37.5	0.9	4.5	5.4
自営・自由業と家事専業・無職	51	30	14	-	2	5
	100.0	58.8	27.5	-	3.9	9.8
2人とも家事専業・無職	107	41	35	2	3	26
	100.0	38.3	32.7	1.9	2.8	24.3
その他の職業の組み合わせ	117	54	49	2	7	5
	100.0	46.2	41.9	1.7	6.0	4.3
3歳未満の乳幼児	60	29	28	1	-	2
	100.0	48.3	46.7	1.7	-	3.3
3歳以上で学齢前の幼児	38	25	13	-	-	-
	100.0	65.8	34.2	-	-	-
小学生	73	41	27	-	3	2
	100.0	56.2	37.0	-	4.1	2.7
中学生	38	15	22	-	-	1
	100.0	39.5	57.9	-	-	2.6
高校生以上の学生	89	50	30	1	-	8
	100.0	56.2	33.7	1.1	-	9.0
その他(就職・結婚等)	282	142	103	3	14	20
	100.0	50.4	36.5	1.1	5.0	7.1
子どもはいない	150	52	56	3	30	9
	100.0	34.7	37.3	2.0	20.0	6.0

(11) お年寄りや病人の介護

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『主に女性の役割』の割合は、44.6%と約半数を占め、次に『男女同じ程度』の割合が29.5%となっている。

【経年比較】過去調査と比較すると、『主に女性の役割』の割合が年々増加傾向にあるが、『その他』については、年々減少傾向にあり、平成20年度で14.0%と、平成8年度(24.7%)より、10.7ポイント減少している。

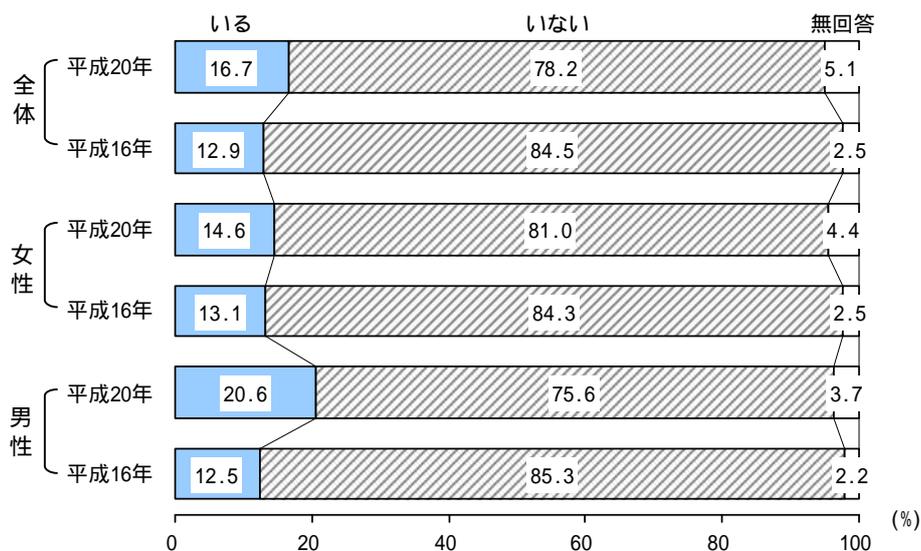
【性別・経年比較】性別にみると、『主に女性の役割』の割合は、女性で52.0%、男性で35.1%と男女間で差がみられる。男性では、『男女同じ程度』の割合が37.1%となっており、『主に女性の役割』の割合が(35.1%)よりも高くなっている。過去調査と比較すると、男女ともに、『その他』については、年々減少傾向にある。『主に女性の役割』については、女性では年々増加、男性では平成8年度から16年度にかけて変化はないが、16年度から20年度にかけて増加している。

【性・職業別 問7(11)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	無回答	
女性	就業者全体	336	188	93	-	40	15
	100.0	56.0	27.7	-	11.9	4.5	
	正規雇用	130	75	35	-	14	6
	100.0	57.7	26.9	-	10.8	4.6	
	非正規雇用	122	65	38	-	16	3
	100.0	53.3	31.1	-	13.1	2.5	
	自営業・内職等	84	48	20	-	10	6
	100.0	57.1	23.8	-	11.9	7.1	
	非就業者全体	257	123	65	-	35	34
	100.0	47.9	25.3	-	13.6	13.2	
男性	家事専業	162	77	44	-	21	20
	100.0	47.5	27.2	-	13.0	12.3	
	学生	6	2	2	-	1	1
	100.0	33.3	33.3	-	16.7	16.7	
	無職	73	36	18	-	10	9
	100.0	49.3	24.7	-	13.7	12.3	
	その他	16	8	1	-	3	4
	100.0	50.0	6.3	-	18.8	25.0	
	就業者全体	293	110	109	8	46	20
	100.0	37.5	37.2	2.7	15.7	6.8	
正規雇用	169	71	60	2	27	9	
100.0	42.0	35.5	1.2	16.0	5.3		
非正規雇用	25	7	12	1	3	2	
100.0	28.0	48.0	4.0	12.0	8.0		
自営業・内職等	99	32	37	5	16	9	
100.0	32.3	37.4	5.1	16.2	9.1		
非就業者全体	105	30	39	4	17	15	
100.0	28.6	37.1	3.8	16.2	14.3		
性別	家事専業	1	1	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	
	学生	8	3	4	-	1	-
	100.0	37.5	50.0	-	12.5	-	
	無職	90	24	34	4	13	15
	100.0	26.7	37.8	4.4	14.4	16.7	
その他	6	2	1	-	3	-	
100.0	33.3	16.7	-	50.0	-		

問3 ご家族のなかで介護や介助を必要とする方はおられますか。(は1つだけ)

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『いない』割合が78.2%を占めている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、『いる』割合が3.8ポイント増加している。

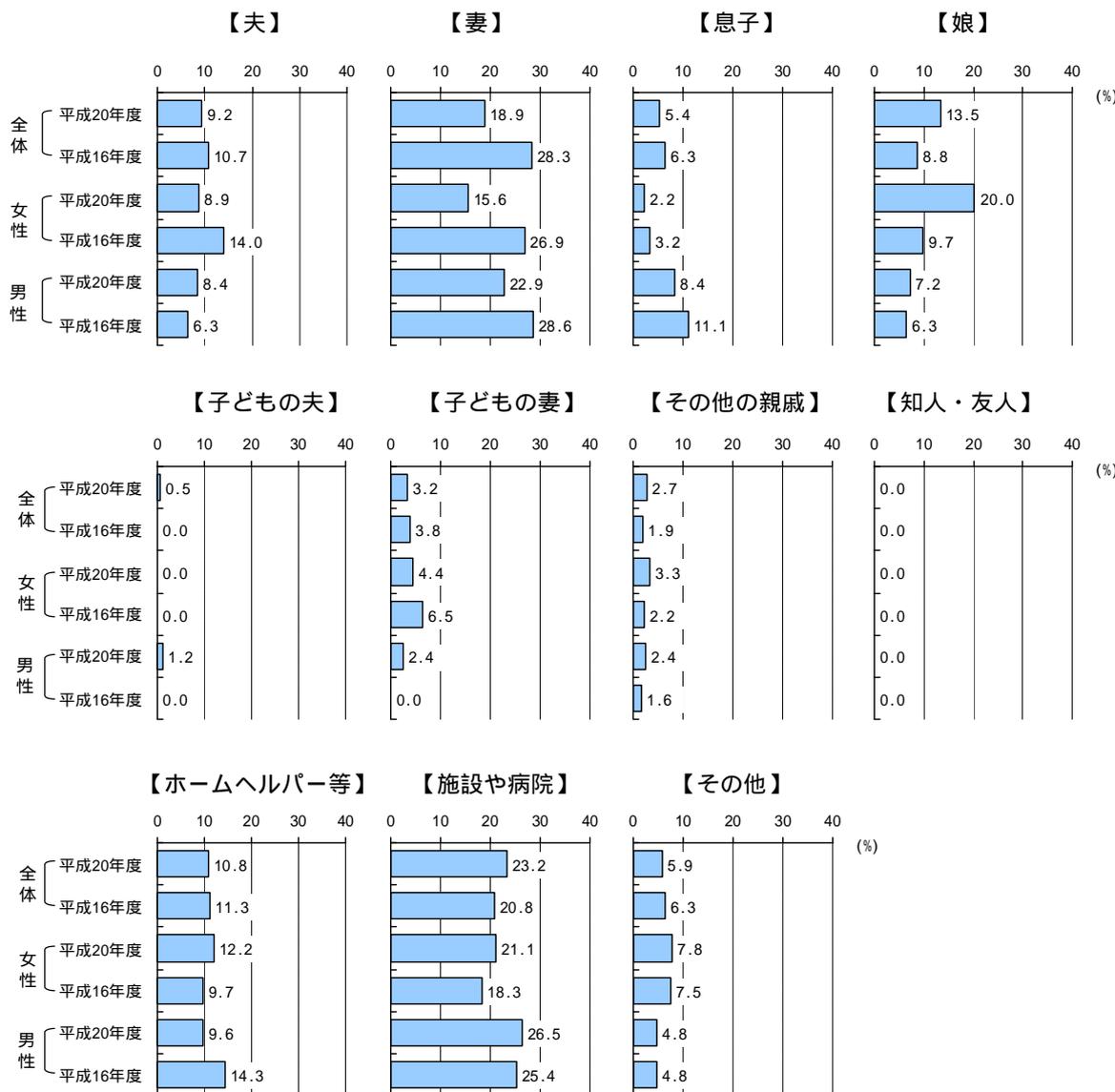
【性別・経年比較】

性別にみると、『いる』割合が、女性で14.6%、男性で20.6%と、男性の方が6.0ポイント増加している。過去調査と比較すると、女性では割合に大きな変化はみられないが、男性では、『いる』割合が、平成16年度(12.5%)より、20年度(20.6%)は8.1ポイント増加している。

問3 付問 その方の介護や介助は主にどなたがされていますか。(は1つだけ)

問3で「1」と答えた方だけに質問

【平成20年度 全体数：185、女性数：90、男性数：83】



【概要】

『施設や病院で介護を受けている』が23.2%で最も高く、次いで『妻』18.9%、『娘』13.5%の順になっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、『妻』の割合が平成16年度では、28.3%と最も高く、20年度18.9%と9.4ポイント減少している。『施設や病院で介護を受けている』の割合は、平成16年度よりも2.4ポイント増加、『娘』は4.7ポイント増加している。

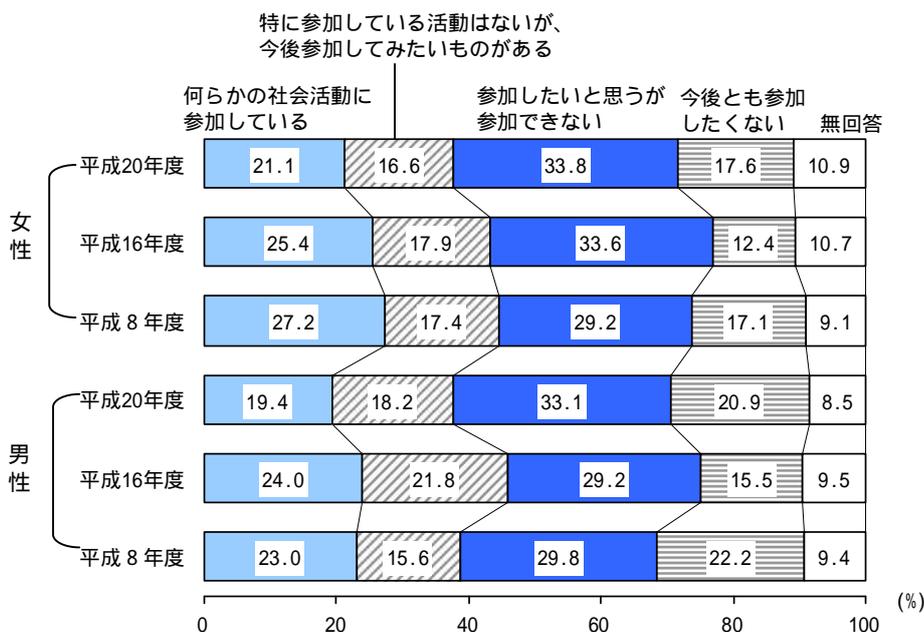
【性別・経年比較】

性別にみると、男女とも『施設や病院で介護を受けている』(女性21.1%、男性26.5%)が最も高く、次いで女性では、『娘』20.0%、『妻』15.6%の順となっており、男性では、次いで『妻』が22.9%と高い。過去調査と比較すると、男女とも、平成16年度よりも、『妻』の割合が大きく減少している。その他、女性では『夫』が減少、男性では、『ホームヘルパー等の専門家』が減少している。また、女性では『娘』が10.3ポイント増加している。

社会活動への参加状況

問14 現在、あなたは地域で社会活動に参加されていますか。また、参加されている社会活動はどのようなものですか。(は1つだけ)

【平成20年度 女性数：615、男性数：402】



【性別】

性別にみると、男女とも『参加したいと思うが参加できない』割合が3割強と最も高くなっている。女性では次いで、『何らかの社会活動に参加している』21.1%、男性では、次いで『今後とも参加したくない』が20.9%と高くなっている。

【性別・経年比較】

過去調査と比較すると、『何らかの社会活動に参加している』において、女性では年々割合が減少し、平成8年度(27.2%)よりも、6.1ポイント減少している。男性では、平成16年度(24.0%)が最も高く、16年から20年にかけて4.6ポイント減少している。また、男女とも『今後とも参加したくない』割合が、平成16年度で最も低く、20年度で増加している。

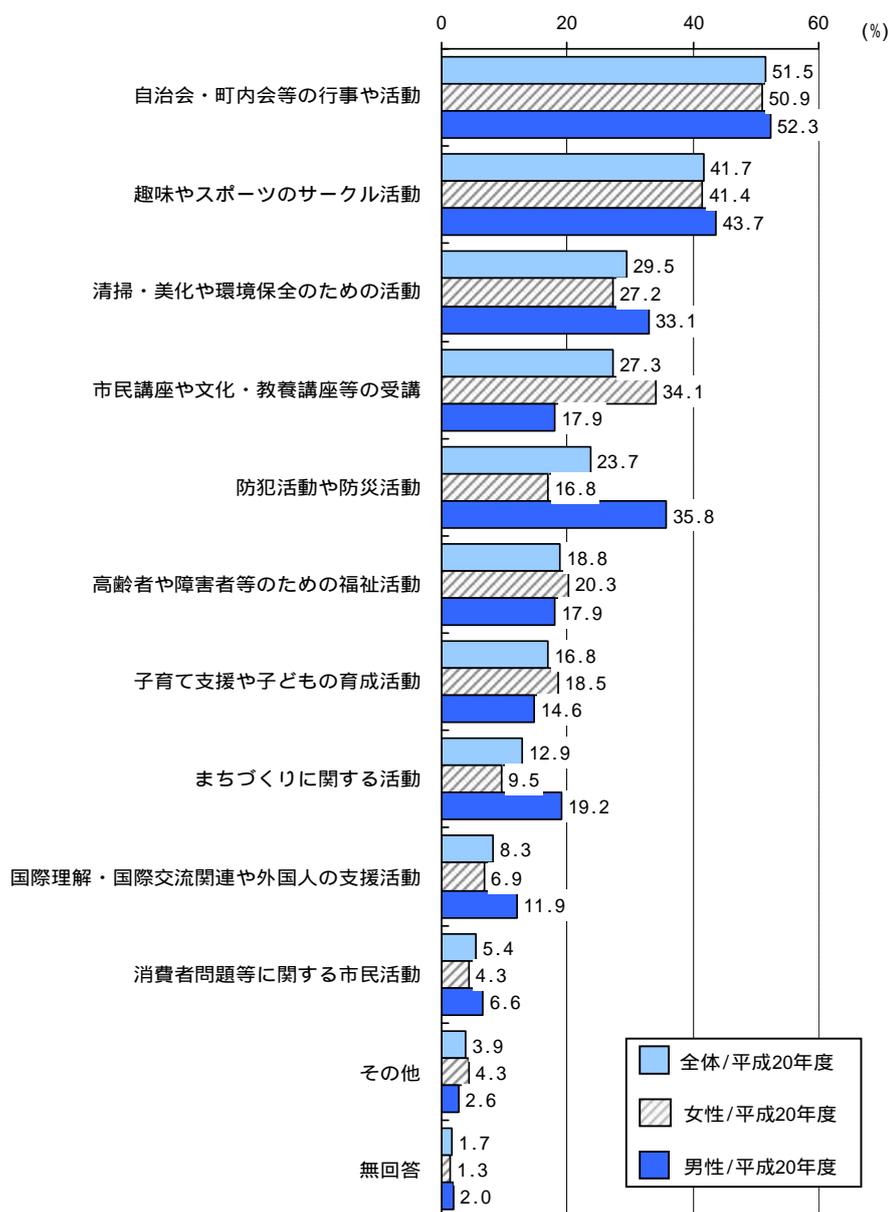
【性・年代、性・職業別 問14】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		何らかの社会活動に参加している	特に参加している活動はないが、今後参加してみたいものがある	参加したいと思うが参加できない	今後とも参加したくない	無回答	
女	就業者全体	336	61	65	123	61	26
	100.0	18.2	19.3	36.6	18.2	7.7	
	正規雇用	130	10	29	59	24	8
	100.0	7.7	22.3	45.4	18.5	6.2	
	非正規雇用	122	25	20	36	32	9
	100.0	20.5	16.4	29.5	26.2	7.4	
	自営業・内職等	84	26	16	28	5	9
	100.0	31.0	19.0	33.3	6.0	10.7	
	非就業者全体	257	63	35	79	45	35
	100.0	24.5	13.6	30.7	17.5	13.6	
男	家事専業	162	45	22	50	32	13
	100.0	27.8	13.6	30.9	19.8	8.0	
	学生	6	1	1	3	-	16.7
	100.0	16.7	16.7	50.0	-	16.7	
	無職	73	13	9	23	12	16
	100.0	17.8	12.3	31.5	16.4	21.9	
	その他	16	4	3	3	1	5
	100.0	25.0	18.8	18.8	6.3	31.3	
	就業者全体	293	61	47	103	65	17
	100.0	20.8	16.0	35.2	22.2	5.8	
正規雇用	169	29	28	68	39	5	
100.0	17.2	16.6	40.2	23.1	3.0		
非正規雇用	25	1	5	8	6	5	
100.0	4.0	20.0	32.0	24.0	20.0		
自営業・内職等	99	31	14	27	20	7	
100.0	31.3	14.1	27.3	20.2	7.1		
非就業者全体	105	16	26	29	19	15	
100.0	15.2	24.8	27.6	18.1	14.3		
性	家事専業	1	-	-	-	1	-
	100.0	-	-	-	-	100.0	-
	学生	8	1	3	1	2	1
	100.0	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5	
	無職	90	14	20	26	16	14
100.0	15.6	22.2	28.9	17.8	15.6		
その他	6	1	3	2	-	-	
100.0	16.7	50.0	33.3	-	-		

問14 付問(1) 現在参加されている、または今後参加してみたいと思われる社会活動は何ですか。(はいくつでも)

問14で「1」または「2」を答えた方のみ質問

【全体数：410、女性数：232、男性151】



【概要】

『自治会・町内会等の行事や活動』の割合が51.5%と過半数を占め最も高く、次いで『趣味やスポーツのサークル活動』が41.7%となっている。

【性別・経年比較】

性別にみると、男女とも『自治会・町内会等の行事や活動』、『趣味やスポーツのサークル活動』の順で割合が高いが、女性では次いで『市民講座や文化・教養講座等の受講』34.1%となっており、男性よりも16.2ポイント高い。男性では次いで『防犯活動や防災活動』が35.8%と高く、女性より19.0ポイント高くなっている。

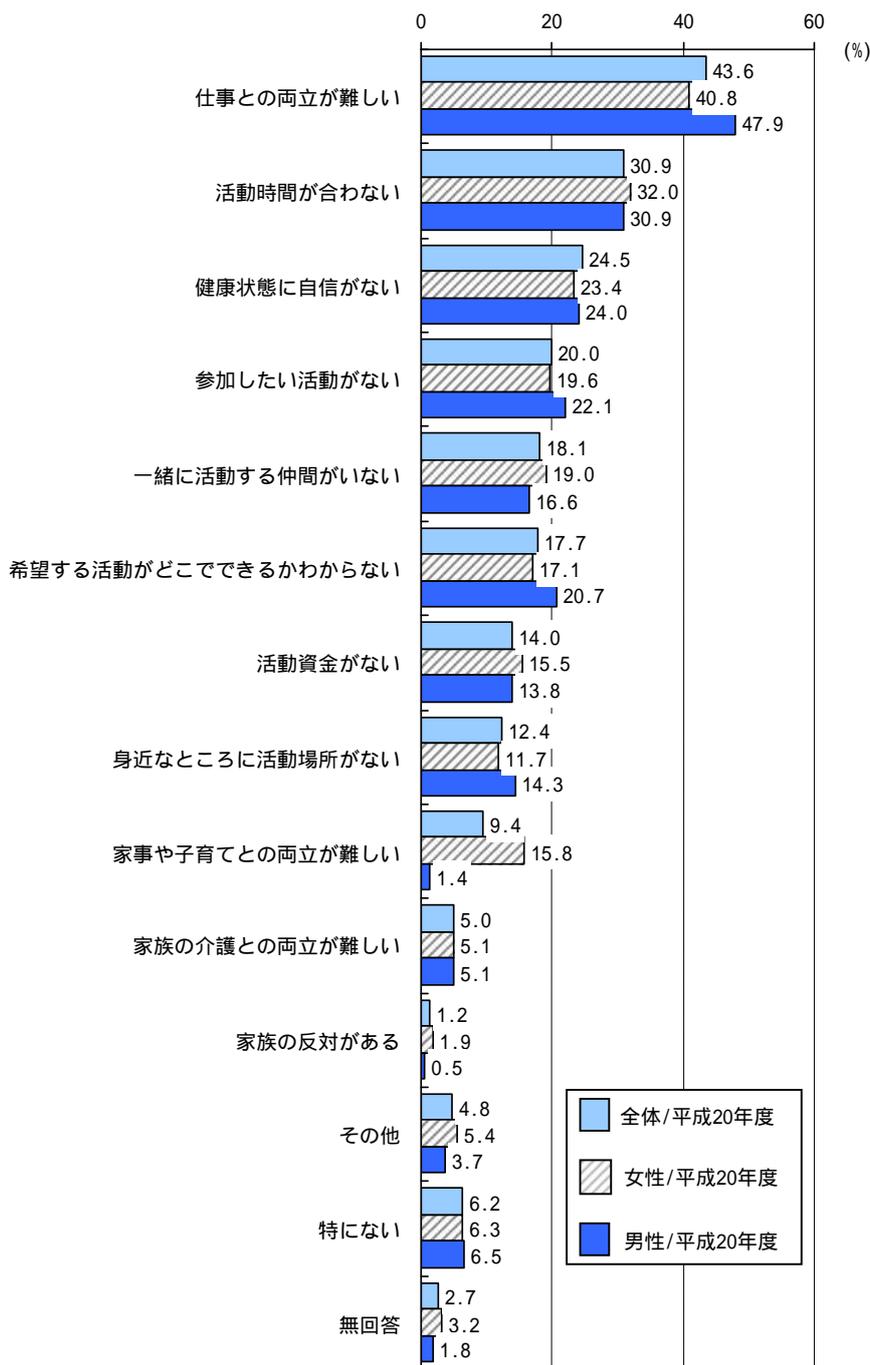
過去調査と比較すると、男性では、特に「清掃・美化や環境保全のための活動」が10.2ポイント、「防犯活動や防災活動」が5.9ポイント増え、「市民講座や文化・教養講座等の受講」が5.5ポイント減少している。女性では「防犯活動や防災活動」が5.1ポイント増加し、「高齢者や障害者等のための福祉活動」で6.1ポイント減少している。

【性・年代別 問14付問(1)】

		上段：件数 下段：%													
	調査数	自治会・町内会等の行事や活動	高齢者の福祉活動	子育て支援や子どもの育成活動	消費者問題等に関する活動	清掃・美化や環境保全のための活動	防犯活動や防災活動	国際理解・国際交流活動	連外外国人の支援活動	趣味やスポーツのサークル活動	市民講座や文化・教養等の受講	まちづくりに関する活動	その他	無回答	
女性	20歳代	14 100.0	3 21.4	1 7.1	3 21.4	-	-	1 7.1	2 14.3	7 50.0	2 14.3	-	1 7.1	-	
	30歳代	47 100.0	20 42.6	8 17.0	10 21.3	1 2.1	6 12.8	6 12.8	4 8.5	16 34.0	17 36.2	2 4.3	2 4.3	1 2.1	
	40歳代	44 100.0	27 61.4	2 4.5	11 25.0	1 2.3	4 9.1	4 9.1	5 11.4	13 29.5	13 29.5	1 2.3	1 2.3	-	-
	50歳代	37 100.0	21 56.8	12 32.4	8 21.6	2 5.4	13 35.1	8 21.6	3 8.1	17 45.9	12 32.4	7 18.9	1 2.7	-	-
	60歳代	56 100.0	29 51.8	14 25.0	6 10.7	1 1.8	26 46.4	10 17.9	1 1.8	32 57.1	19 33.9	4 7.1	3 5.4	2 3.6	2
	70歳以上	33 100.0	18 54.5	10 30.3	4 12.1	5 15.2	13 39.4	10 30.3	-	11 33.3	15 45.5	8 24.2	2 6.1	-	-
	男性	20歳代	11 100.0	3 27.3	2 18.2	3 27.3	-	2 18.2	2 18.2	3 27.3	7 63.6	1 9.1	6 54.5	-	-
30歳代	22 100.0	13 59.1	3 13.6	2 9.1	2 9.1	3 13.6	5 22.7	6 27.3	7 31.8	1 4.5	2 9.1	-	-	-	
40歳代	19 100.0	11 57.9	1 5.3	5 26.3	1 5.3	1 5.3	4 21.1	1 5.3	8 42.1	1 5.3	1 5.3	10.5	-	-	
50歳代	31 100.0	13 41.9	2 6.5	3 9.7	-	12 38.7	11 35.5	5 16.1	16 51.6	8 25.8	4 12.9	-	-	-	
60歳代	39 100.0	17 43.6	8 20.5	6 15.4	5 12.8	17 43.6	16 41.0	2 5.1	17 43.6	11 28.2	9 23.1	2 5.1	2 5.1	2	
70歳以上	29 100.0	22 75.9	11 37.9	3 10.3	2 6.9	15 51.7	16 55.2	1 3.4	11 37.9	5 17.2	7 24.1	-	1 3.4	1	

問14 付問(2) 問14で3または4に つけた方におたずねします。社会活動に参加できない理由、参加したくない理由は何ですか。(はいくつでも)

【全体数：564、女性数：316、男性数：217】



【概要】

『仕事との両立が難しい』が43.6%と最も高く、次いで『活動時間が合わない』30.9%、『健康状態に自信がない』24.5%、『参加したい活動がない』20.0%の順になっている。

【性別】

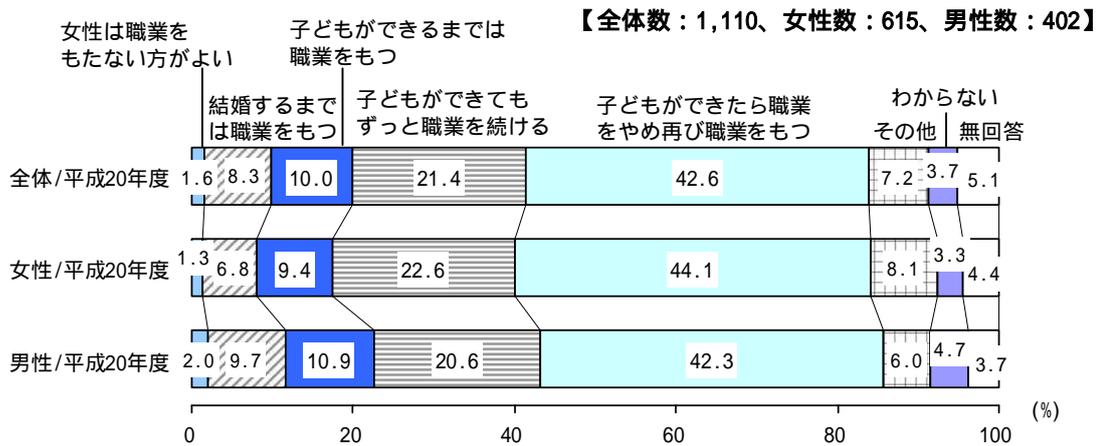
性別にみると、女性では、『家事や子育てとの両立が難しい』が15.8%と、男性(1.4%)より14.4ポイント高く、男性では『仕事との両立が難しい』が47.9%と、女性(40.8%)より7.1ポイント高くなっている。

【性・年代、性・職業別 問14付問(2)】

		上段：件数、下段：%																
	調査数	が難しい	家事や子育てとの両立が	難しい	家族の介護との両立が	仕事との両立が難しい	家族の反対がある	活動時間が合わない	身近なところに活動場所がない	で希望する活動がどこでできるかわからない	一緒に活動する仲間がいない	活動資金がない	参加したい活動がない	健康状態に自信がない	その他	特にな	無回答	
		い	の	い	の	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
女性	20歳代	51 100.0	8 15.7	-	23 45.1	-	15 29.4	5 9.8	11 21.6	14 27.5	10 19.6	18 35.3	3 5.9	5 9.8	3 5.9	-	-	
	30歳代	63 100.0	24 38.1	-	26 41.3	1 1.6	18 28.6	8 12.7	18 28.6	12 19.0	10 15.9	15 23.8	4 6.3	3 4.8	3 4.8	1 1.6	-	
	40歳代	49 100.0	11 22.4	1 2.0	31 63.3	2 2.0	27 55.1	3 6.1	4 8.2	8 16.3	9 18.4	11 22.4	3 6.1	3 6.1	3 6.1	5 10.2	-	
	50歳代	65 100.0	5 7.7	11 16.9	31 47.7	1 1.5	25 38.5	12 18.5	14 21.5	16 24.6	12 18.5	12 18.5	14 21.5	1 1.5	2 3.1	2 3.1	1 1.5	-
	60歳代	39 100.0	2 5.1	1 2.6	13 33.3	3 7.7	9 23.1	4 10.3	4 10.3	8 20.5	5 12.8	2 5.1	19 48.7	2 5.1	2 5.1	2 5.1	3 7.7	-
	70歳以上	47 100.0	-	3 6.4	4 8.5	-	7 14.9	5 10.6	3 6.4	3 6.4	2 4.3	3 6.4	4 8.5	30 63.8	3 6.4	5 10.6	5 10.6	-
	男性	20歳代	34 100.0	1 2.9	2 2.9	23 67.6	-	12 35.3	4 11.8	7 20.6	8 23.5	3 8.8	8 26.5	1 2.9	-	1 2.9	1 2.9	-
30歳代		39 100.0	2 5.1	-	23 59.0	-	17 43.6	7 17.9	13 33.3	11 28.2	6 15.4	10 25.6	5 12.8	1 2.6	2 5.1	2 5.1	-	
40歳代		34 100.0	-	-	20 58.8	-	17 50.0	4 11.8	4 11.8	4 11.8	7 20.6	10 29.4	3 8.8	1 2.9	3 8.8	3 8.8	-	
50歳代		43 100.0	-	4 9.3	24 55.8	1 2.3	13 30.2	6 14.0	10 23.3	4 9.3	6 14.0	7 16.3	10 23.3	3 7.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3	-
60歳代		28 100.0	-	3 10.7	10 35.7	-	5 17.9	3 10.7	5 17.9	2 7.1	5 17.9	7 25.0	10 35.7	1 3.6	1 3.6	4 14.3	2 7.1	-
70歳以上		39 100.0	-	3 7.7	4 10.3	-	3 7.7	7 17.9	6 15.4	7 17.9	3 7.7	3 7.7	5 12.8	23 59.0	2 5.1	3 7.7	2 5.1	-
女性		就業者全体	184 100.0	29 15.8	9 4.9	122 66.3	4 2.2	80 43.5	23 12.5	38 20.7	41 22.3	29 15.8	43 23.4	17 9.2	6 3.3	9 4.9	3 1.6	-
	正規雇用	83 100.0	9 10.8	3 3.6	65 78.3	-	38 45.8	11 13.3	22 26.5	24 28.9	13 15.7	20 24.1	5 6.0	2 2.4	1 1.2	-	-	
	非正規雇用	68 100.0	14 20.6	4 5.9	40 58.8	4 5.9	28 41.2	5 7.4	10 14.7	9 13.2	12 17.6	17 25.0	6 8.8	4 5.9	6 8.8	1 1.5	-	
	自営業・内職等	33 100.0	6 18.2	2 6.1	17 51.5	-	14 42.4	7 21.2	6 18.2	8 24.2	4 12.1	6 18.2	6 18.2	-	2 6.1	2 6.1	-	
	非就業者全体	124 100.0	20 16.1	7 5.6	5 4.0	2 1.6	19 15.3	12 9.7	14 11.3	19 15.3	20 16.1	18 14.5	55 44.4	10 8.1	11 8.9	7 5.6	-	
	家事専業	82 100.0	19 23.2	3 3.7	-	2 2.4	12 14.6	9 11.0	11 13.4	14 17.1	13 15.9	13 15.9	30 36.6	6 7.3	8 9.8	3 3.7	-	
	学生	3 100.0	-	-	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	1 33.3	3 100.0	-	-	-	-	-	
	無職	35 100.0	1 2.9	4 11.4	4 11.4	-	5 14.3	2 5.7	2 5.7	4 11.4	5 14.3	2 5.7	22 62.9	4 11.4	2 5.7	4 11.4	-	
	その他	4 100.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	-	3 75.0	-	1 25.0	-	-	
	男性	就業者全体	168 100.0	3 1.8	3 3.6	100 59.5	1 0.6	63 37.5	20 11.9	39 23.2	28 16.7	21 12.5	39 23.2	24 14.3	6 3.6	9 5.4	2 1.2	-
正規雇用		107 100.0	3 2.8	3 2.8	69 64.5	1 0.9	48 44.9	16 15.0	31 29.0	23 21.5	14 13.1	24 22.4	5 4.7	4 3.7	2 1.9	-	-	
非正規雇用		14 100.0	-	2 14.3	5 35.7	-	1 7.1	1 7.1	2 14.3	2 14.3	4 28.6	4 28.6	4 28.6	1 7.1	1 14.3	2 14.3	-	
自営業・内職等		47 100.0	-	1 2.1	26 55.3	-	14 29.8	3 6.4	6 12.8	3 6.4	3 6.4	11 23.4	15 31.9	1 2.1	5 10.6	2 4.3	-	
非就業者全体		48 100.0	-	5 10.4	3 6.3	-	4 8.3	11 22.9	6 12.5	8 16.7	9 18.8	9 18.8	28 58.3	2 4.2	5 10.4	2 4.2	-	
家事専業		1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	
学生		3 100.0	-	-	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-	
無職		42 100.0	-	4 9.5	2 4.8	-	3 7.1	9 21.4	5 11.9	6 14.3	7 16.7	7 16.7	25 59.5	2 4.8	4 9.5	2 4.8	-	
その他		2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	2 100.0	-	-	-	-	

女性の就労に関する考え方

問9 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(は 1つだけ)



【概要】

『子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい』割合が42.6%と最も高く、次いで『子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい』が21.4%となっている。

【性別】

性別にみると、男女による割合の差はほとんどない。

【性・年代、有意配偶者職業形態別 問9】

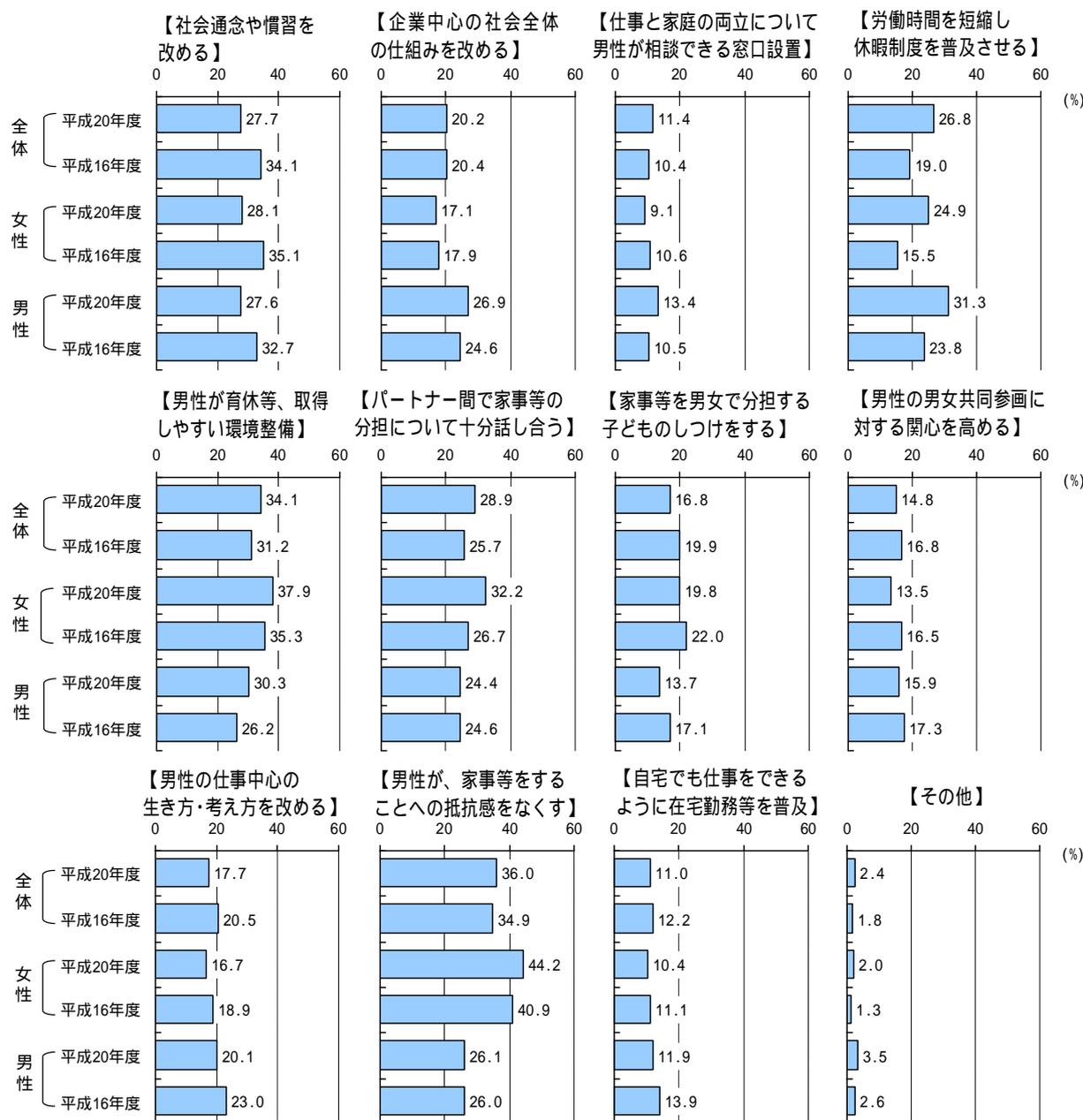
	調査数	上段：件数、下段：%								
		がよいは職業をもたない方	職業をもつ方	結婚するまでは職業をもつ方がよい	子どもができるまでは職業を続ける	子どもができてずっと職業を続けるほう	子どもができれば再び職業をもつ	その他	わからない	無回答
女性	20歳代	72	-	5	11	14	28	9	4	1
	100.0	-	6.9	15.3	19.4	38.9	12.5	5.6	1.4	
	30歳代	114	-	4	14	35	45	13	3	-
	100.0	-	3.5	12.3	30.7	39.5	11.4	2.6	-	
	40歳代	94	1	2	3	26	42	12	5	3
	100.0	1.1	2.1	3.2	27.7	44.7	12.8	5.3	3.2	
	50歳代	113	1	5	6	34	52	11	2	2
100.0	0.9	4.4	5.3	30.1	46.0	9.7	1.8	1.8		
60歳代	116	4	9	7	19	65	4	1	7	
100.0	3.4	7.8	6.0	16.4	56.0	3.4	0.9	6.0		
70歳以上	103	2	16	17	10	38	1	5	14	
100.0	1.9	15.5	16.5	9.7	36.9	1.0	4.9	13.6		
男性	20歳代	46	-	3	4	14	18	5	2	-
	100.0	-	6.5	8.7	30.4	39.1	10.9	4.3	-	
	30歳代	64	1	5	7	16	24	6	4	1
	100.0	1.6	7.8	10.9	25.0	37.5	9.4	6.3	1.6	
	40歳代	54	1	2	5	14	23	2	4	3
	100.0	1.9	3.7	9.3	25.9	42.6	3.7	7.4	5.6	
	50歳代	79	1	7	9	17	34	8	3	-
100.0	1.3	8.9	11.4	21.5	43.0	10.1	3.8	-		
60歳代	76	3	9	11	11	30	3	4	5	
100.0	3.9	11.8	14.5	14.5	39.5	3.9	5.3	6.6		
70歳以上	82	2	13	8	11	40	-	2	6	
100.0	2.4	15.9	9.8	13.4	48.8	-	2.4	7.3		
2人とフルタイム	60	-	4	2	26	20	7	1	-	
100.0	-	6.7	3.3	43.3	33.3	11.7	1.7	-		
フルタイムとパート併用等	103	-	5	10	26	45	9	5	3	
100.0	-	4.9	9.7	25.2	43.7	8.7	4.9	2.9		
フルタイムと家事専業・無職	79	2	6	9	16	40	6	-	-	
100.0	2.5	7.6	11.4	20.3	50.6	7.6	-	-		
2人と自営・自由業・家族従業	112	2	7	11	20	51	11	7	3	
100.0	1.8	6.3	9.8	17.9	45.5	9.8	6.3	2.7		
自営・自由業と家事専業・無職	51	2	5	7	6	23	2	2	4	
100.0	3.9	9.8	13.7	11.8	45.1	3.9	3.9	7.8		
2人と家事専業・無職	107	4	13	12	11	50	3	2	12	
100.0	3.7	12.1	11.2	10.3	46.7	2.8	1.9	11.2		
その他の職業の組み合わせ	117	1	9	8	29	57	7	4	2	
100.0	0.9	7.7	6.8	24.8	48.7	6.0	3.4	1.7		

男性の参画を進めるために必要なこと

問12 あなたは、男性の家庭生活や地域社会の活動への参画を進めていくために、どのようなことが必要だと思われますか。お考えに近いものを選んでください。

(は3つまで)

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす』の割合が36.0%と最も高く、次いで『男性が企業の育児休業制度や介護休暇制度を取得しやすい環境を整える』34.1%、『配偶者・パートナーの間で家事・育児など分担をするよう十分に話し合う』28.9%の順になっている。

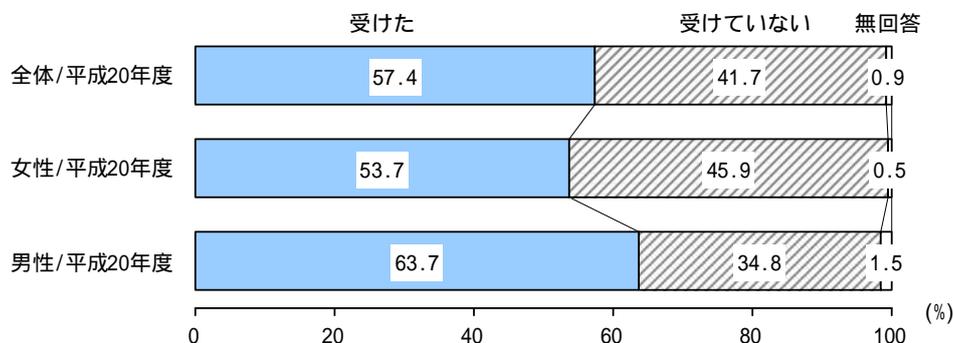
【性別・経年比較】性別にみると、女性では『男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす』が44.2%と最も高く、男性では『労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる』が31.3%と最も高くなっている。過去調査と比較して、男女とも『男女の役割分担についての社会通念や慣習を改める』が減少し、『労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる』が増加している。

(3) 健康や介護に関する意識と実態

健康のために心がけていること

問1 あなたは、この1年間に健康診断を受けましたか。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『受けた』割合が57.4%と過半数を占めているが、『受けていない』割合も41.7%と高い。

【性別】

性別にみると、『受けた』割合は、女性53.7%、男性63.7%と男女間で差がみられる。

【性・年代、性・職業別 問1】

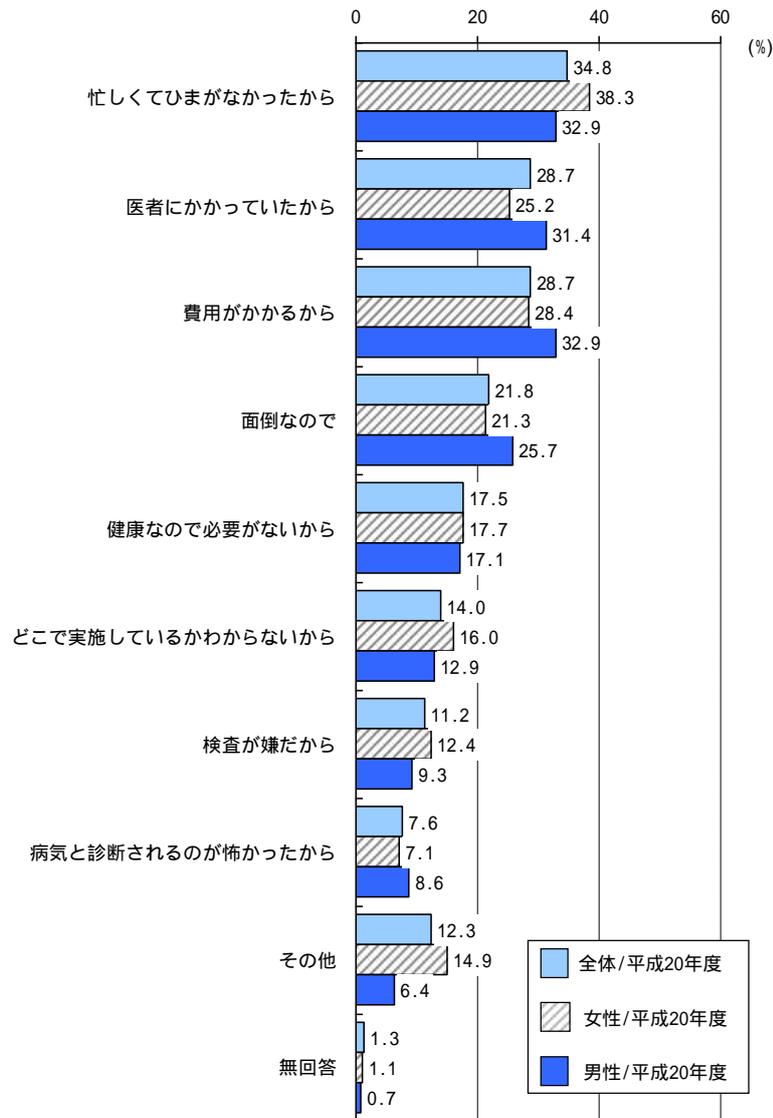
		上段：人、下段：%			
		調査数	受けた	受けていない	無回答
女性	20歳代	72 100.0	39 54.2	33 45.8	-
	30歳代	114 100.0	50 43.9	64 56.1	-
	40歳代	94 100.0	42 44.7	51 54.3	1 1.1
	50歳代	113 100.0	64 56.6	49 43.4	-
	60歳代	116 100.0	65 56.0	50 43.1	1 0.9
	70歳以上	103 100.0	68 66.0	34 33.0	1 1.0
	男性	20歳代	46 100.0	29 63.0	16 34.8
30歳代	64 100.0	38 59.4	25 39.1	1 1.6	
40歳代	54 100.0	36 66.7	17 31.5	1 1.9	
50歳代	79 100.0	57 72.2	20 25.3	2 2.5	
60歳代	76 100.0	47 61.8	29 38.2	-	
70歳以上	82 100.0	48 58.5	33 40.2	1 1.2	

		上段：人、下段：%			
		調査数	受けた	受けていない	無回答
女性	就業者全体	336 100.0	191 56.8	144 42.9	1 0.3
	正規雇用	130 100.0	95 73.1	34 26.2	1 0.8
	非正規雇用	122 100.0	57 46.7	65 53.3	-
	自営業・内職等	84 100.0	39 46.4	45 53.6	-
	非就業者全体	257 100.0	124 48.2	132 51.4	1 0.4
	家事専業	162 100.0	69 42.6	92 56.8	1 0.6
	学生	6 100.0	3 50.0	3 50.0	-
	無職	73 100.0	40 54.8	33 45.2	-
	その他	16 100.0	12 75.0	4 25.0	-
	男性	就業者全体	293 100.0	194 66.2	93 31.7
正規雇用		169 100.0	134 79.3	32 18.9	3 1.8
非正規雇用		25 100.0	12 48.0	13 52.0	-
自営業・内職等		99 100.0	48 48.5	48 48.5	3 3.0
非就業者全体		105 100.0	59 56.2	46 43.8	-
家事専業		1 100.0	1 100.0	-	-
学生		8 100.0	5 62.5	3 37.5	-
無職		90 100.0	48 53.3	42 46.7	-
その他		6 100.0	5 83.3	1 16.7	-

問1 付問 受けなかった理由は何ですか。(はいくつでも)

問1で「2」と答えた方のみ質問

【全体数：463、女性数：282、男性140】



【概要】

『忙しくてひまがなかったから』が34.8%と最も高く、次いで『医者にかかっていたから』、『費用がかかるから』がともに28.7%となっている。

【性別】

性別にみると、男女とも『忙しくてひまがなかったから』が最も高いが、男性では『費用がかかるから』(32.9%)も同率一位となっている。

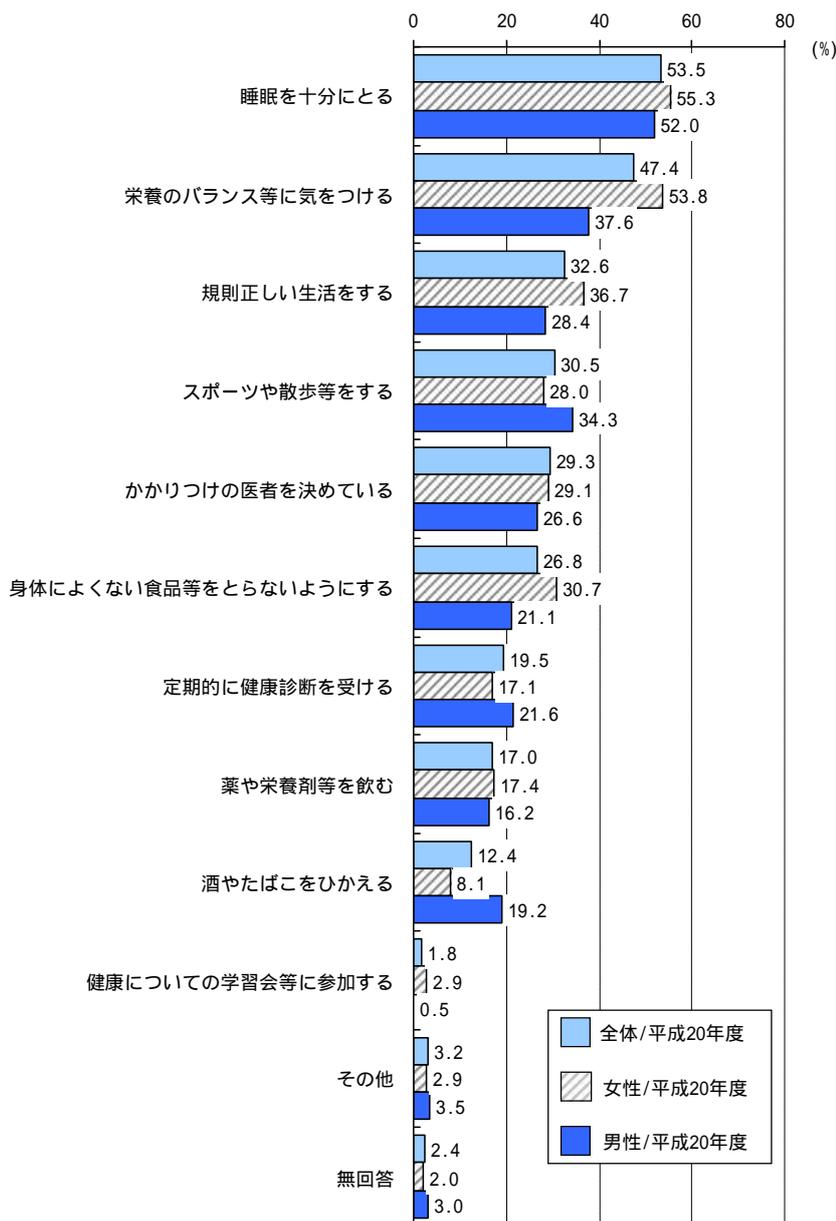
『医者にかかっていたから』の割合は、女性25.2%、男性で31.4%と、男性の方が6.2ポイント高くなっている。

【性・年代別 問1付問】

	調査数	上段：人、下段：%										
		忙しくてひまがなかったから	健康なので必要がないから	怖かったから	病気と診断されるのが怖いから	医者にかかっていたから	費用がかかるから	どこで実施しているかわからないから	面倒なので	検査が嫌だから	その他	無回答
女	20歳代	33	10	10	1	1	13	18	9	3	9	-
		100.0	30.3	30.3	3.0	3.0	39.4	54.5	27.3	9.1	27.3	-
	30歳代	64	33	10	6	6	28	12	10	7	11	-
		100.0	51.6	15.6	9.4	9.4	43.8	18.8	15.6	10.9	17.2	-
	40歳代	51	29	7	5	8	18	7	14	11	5	-
		100.0	56.9	13.7	9.8	15.7	35.3	13.7	27.5	21.6	9.8	-
	50歳代	49	21	7	5	14	12	6	18	7	5	1
	100.0	42.9	14.3	10.2	28.6	24.5	12.2	36.7	14.3	10.2	2.0	
性	60歳代	50	12	10	3	20	8	2	5	6	10	-
		100.0	24.0	20.0	6.0	40.0	16.0	4.0	10.0	12.0	20.0	-
	70歳以上	34	2	6	-	22	1	-	3	1	2	2
		100.0	5.9	17.6	-	64.7	2.9	-	8.8	2.9	5.9	5.9
男	20歳代	16	5	4	1	1	7	6	5	1	1	-
		100.0	31.3	25.0	6.3	6.3	43.8	37.5	31.3	6.3	6.3	-
	30歳代	25	10	5	2	2	13	6	11	1	-	-
		100.0	40.0	20.0	8.0	8.0	52.0	24.0	44.0	4.0	-	-
	40歳代	17	11	1	1	1	7	4	6	2	1	-
		100.0	64.7	5.9	5.9	5.9	41.2	23.5	35.3	11.8	5.9	-
	50歳代	20	12	2	2	4	8	-	6	3	-	-
	100.0	60.0	10.0	10.0	20.0	40.0	-	30.0	15.0	-	-	
性	60歳代	29	6	9	5	13	6	2	6	2	2	-
		100.0	20.7	31.0	17.2	44.8	20.7	6.9	20.7	6.9	6.9	-
	70歳以上	33	2	3	1	23	5	-	2	4	5	1
	100.0	6.1	9.1	3.0	69.7	15.2	-	6.1	12.1	15.2	3.0	

問2 あなたは、日頃、ご自分の健康のためにどんなことを心がけておられますか。
(は3つまで)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『睡眠を十分とる』が53.5%と最も高く、次いで『栄養バランスに気をつける』47.4%、『規則正しい生活をする』32.6%の順になっている。

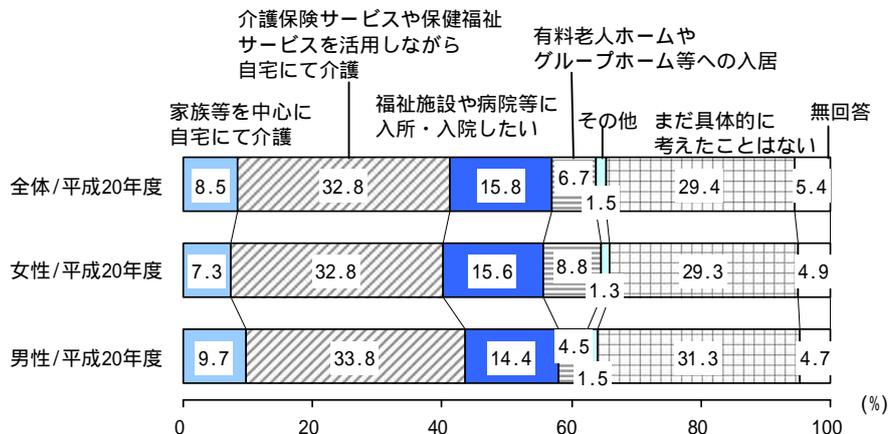
【性別】

性別にみると、男女とも『睡眠を十分とる』、『栄養バランスに気をつける』の順で高くなっているが、女性では次いで『規則正しい生活をする』が36.7%、男性では次いで『スポーツや散歩をする』が34.3%と高くなっている。特に男女間で差がみられるのは、『身体によくない食品等をとらないようにする』で女性の方が9.6ポイント高く、『酒やたばこをひかえる』では男性の方が11.1ポイント高くなっている。

介護に関する意識

問4 あなたご自身に介護が必要となった場合、どのようにしてほしいとお考えですか。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

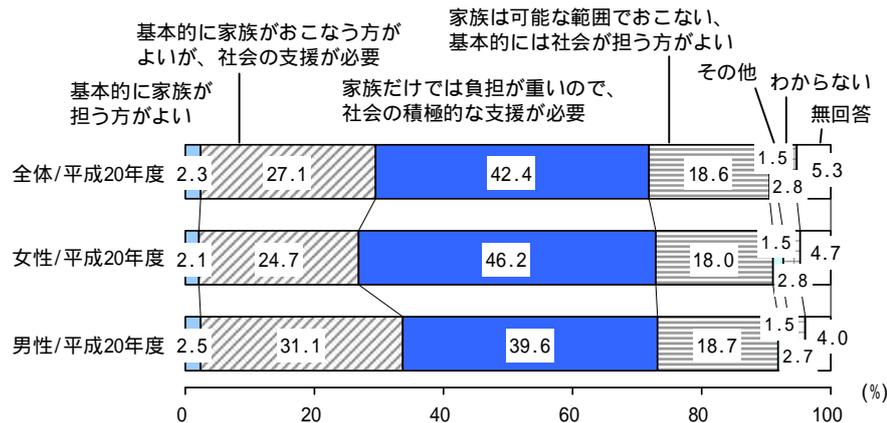
『介護サービスや保健福祉サービスを活用しながら自宅で介護してほしい』割合が32.8%で最も高く、一方『まだ具体的に考えたことはない』も29.4%と高くなっている。

【性別】

性別にみると、男女とも割合に大きな差はないが、『有料老人ホームやグループホームなどに入居したい』では、女性の方が4.3ポイント高く、『家族などを中心に自宅で介護してほしい』では、男性の方が2.4ポイント高くなっている。

問5 あなたは、高齢者の介護について、どのようにお考えですか。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『家族だけでは負担が重いので、社会が積極的に支援する必要がある』が42.4%と約半数を占め最も高く、次いで『基本的には家族がおこなう方がよいが、社会がある程度支援する必要がある』27.1%となっている。

【性別】

性別にみると、『家族だけでは負担が重いので、社会が積極的に支援する必要がある』では、女性の方が6.6ポイント高く、『基本的には家族がおこなう方がよいが、社会がある程度支援する必要がある』では、男性の方が6.4ポイント高くなっている。

【性・職業、有配偶者職業形態別 問5】

	調査数	上段：人、下段：%						
		基本的には家族が担う方がよいが、社会の支援が必要	家族だけでは負担が重いので、社会の積極的な支援が必要	その他	わからない	無回答		
就業全体	336	6	90	165	52	5	6	12
正規雇用	130	1	36	67	16	2	4	4
非正規雇用	122	2	27	68	20	1	2	2
自営業・内職等	84	3	27	30	16	2	-	6
非就業全体	257	7	57	113	52	3	10	15
家事専業	162	3	42	68	30	2	6	11
学生	6	-	3	2	-	-	-	1
無職	73	4	10	35	18	1	3	2
その他	16	-	2	8	4	-	1	1
就業全体	293	6	95	121	52	3	5	11
正規雇用	169	3	46	78	35	1	2	4
非正規雇用	25	1	10	8	4	1	1	-
自営業・内職等	99	2	39	35	13	1	2	7
非就業全体	105	3	30	37	22	3	5	5
家事専業	1	-	-	-	1	-	-	-
学生	8	-	3	3	2	-	-	-
無職	90	3	26	32	19	1	5	4
その他	6	-	1	2	-	2	-	1
2人ともフルタイム	60	-	15	32	12	-	1	-
フルタイムとパートタイム等	103	1	17	63	19	1	1	1
フルタイムと家事専業・無職	79	4	27	27	15	2	1	3
2人とも自営・自由業・家族従業	112	4	30	55	16	-	-	7
自営・自由業と家事専業・無職	51	2	16	18	11	-	2	2
2人とも家事専業・無職	107	4	32	31	26	2	4	8
その他の職業の組み合わせ	117	1	38	47	21	3	1	6

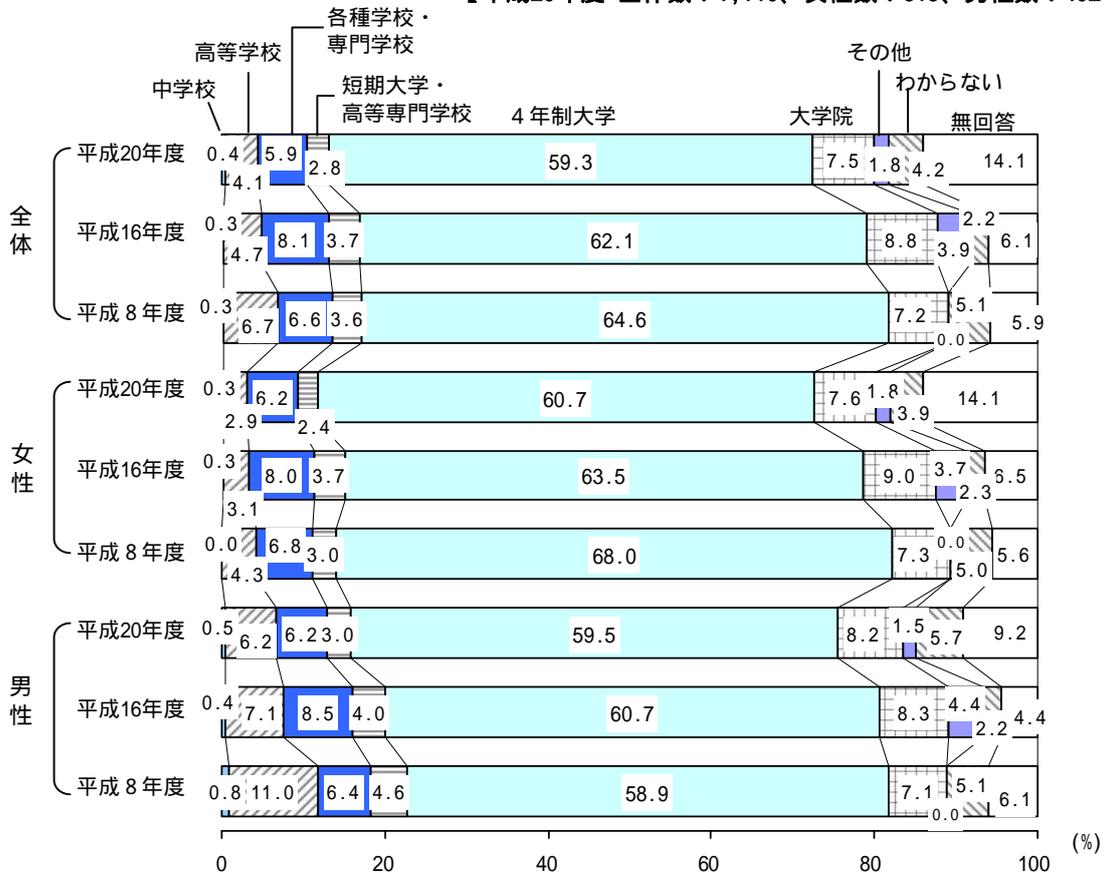
(4) 子どもの教育に関する意識

子どもに受けさせたい教育

問15 あなたは、経済的なことは別にすれば、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思われますか。(はそれぞれ1つずつ)

(1) 男の子には

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要・経年比較】

『4年制大学』の割合が59.3%と過半数を占めているが、過去調査と比較すると、割合は年々減少しており、平成8年度で64.6%、16年度で62.1%となっている。

【性別・経年比較】

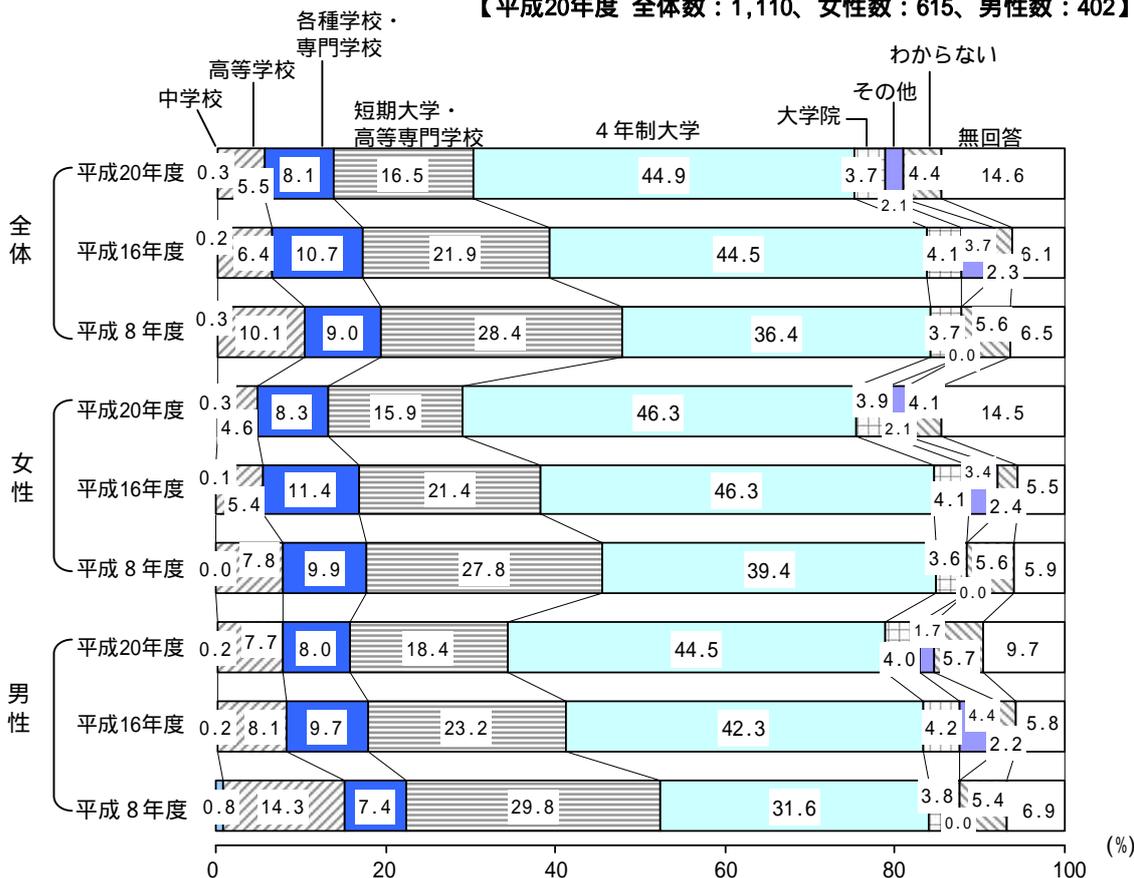
性別にみると、『高等学校』では、女性2.9%、男性6.2%と若干男性の方が高い傾向がみられる。過去調査と比較すると、女性では、『4年生大学』の割合が年々減少しており、男性では、『高等学校』が年々減少している。

【性・年代別 問15(1)】

性別	年代	調査数	上段：件数、下段：%								
			中学校	高等学校	各種学校・専門学校	短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他	わからない	無回答
女	20歳代	72	1	1	3	2	45	3	1	3	13
	100.0	1.4	1.4	4.2	2.8	62.5	4.2	1.4	4.2	18.1	
	30歳代	114	-	6	10	2	66	10	2	6	12
	100.0	-	5.3	8.8	1.8	57.9	8.8	1.8	5.3	10.5	
	40歳代	94	-	4	8	2	63	5	1	3	8
	100.0	-	4.3	8.5	2.1	67.0	5.3	1.1	3.2	8.5	
	50歳代	113	1	4	9	2	68	7	3	1	18
100.0	0.9	3.5	8.0	1.8	60.2	6.2	2.7	0.9	15.9		
男	60歳代	116	-	1	5	4	74	10	4	7	11
	100.0	-	0.9	4.3	3.4	63.8	8.6	3.4	6.0	9.5	
	70歳以上	103	-	2	2	3	55	12	-	4	25
	100.0	-	1.9	1.9	2.9	53.4	11.7	-	3.9	24.3	
	20歳代	46	1	5	4	3	25	3	-	3	2
	100.0	2.2	10.9	8.7	6.5	54.3	6.5	-	6.5	4.3	
	30歳代	64	1	9	2	4	36	2	-	5	5
100.0	1.6	14.1	3.1	6.3	56.3	3.1	-	7.8	7.8		
40歳代	54	-	5	4	-	28	5	1	6	5	
100.0	-	9.3	7.4	-	51.9	9.3	1.9	11.1	9.3		
50歳代	79	-	3	4	1	50	7	3	5	6	
100.0	-	3.8	5.1	1.3	63.3	8.9	3.8	6.3	7.6		
60歳代	76	-	-	7	1	49	9	2	2	6	
100.0	-	-	9.2	1.3	64.5	11.8	2.6	2.6	7.9		
70歳以上	82	-	3	4	3	50	7	-	2	13	
100.0	-	3.7	4.9	3.7	61.0	8.5	-	2.4	15.9		

(2) 女の子には

【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『4年制大学』の割合が44.9%と約半数を占めている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、『4年制大学』の割合は年々増加しており、平成8年度で36.4%、16年度で44.5%となっている。

『短期大学・高等専門学校』は、平成8年度で28.4%、16年度で21.9%、20年度で16.5%と年々減少している。

【性別・経年比較】

性別にみると、平成20年度においては、男女間の割合に大きな差はみられないが、過去調査と比較すると、男性では、『4年生大学』の割合が、平成8年度(31.6%)よりも、12.9ポイント増加し、女性よりも増加傾向が強い。

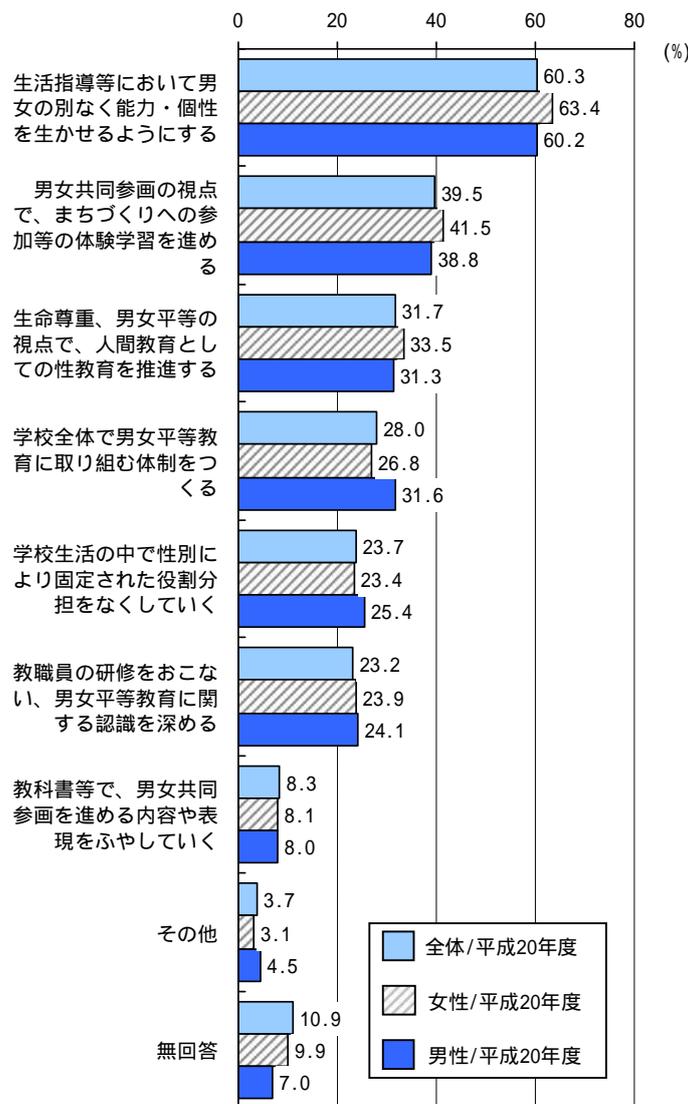
【性・年代別 問15(2)】

	調査数	上段：件数、下段：%									
		中学校	高等学校	各種学校・専門学校	短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他	わからない	無回答	
女	20歳代	72	1	2	5	11	35	2	1	3	12
		100.0	1.4	2.8	6.9	15.3	48.6	2.8	1.4	4.2	16.7
	30歳代	114	-	6	9	15	51	8	2	6	17
		100.0	-	5.3	7.9	13.2	44.7	7.0	1.8	5.3	14.9
	40歳代	94	-	3	8	13	56	3	1	3	7
		100.0	-	3.2	8.5	13.8	59.6	3.2	1.1	3.2	7.4
	50歳代	113	1	5	13	17	54	3	4	2	14
	100.0	0.9	4.4	11.5	15.0	47.8	2.7	3.5	1.8	12.4	
性	60歳代	116	-	8	10	22	46	5	4	6	15
		100.0	-	6.9	8.6	19.0	39.7	4.3	3.4	5.2	12.9
	70歳以上	103	-	4	5	20	41	3	1	5	24
	100.0	-	3.9	4.9	19.4	39.8	2.9	1.0	4.9	23.3	
男	20歳代	46	1	5	3	6	25	2	-	2	2
		100.0	2.2	10.9	6.5	13.0	54.3	4.3	-	4.3	4.3
	30歳代	64	-	6	5	11	30	1	-	5	6
		100.0	-	9.4	7.8	17.2	46.9	1.6	-	7.8	9.4
	40歳代	54	-	6	6	6	20	3	1	6	6
		100.0	-	11.1	11.1	11.1	37.0	5.6	1.9	11.1	11.1
	50歳代	79	-	5	7	10	40	4	3	5	5
	100.0	-	6.3	8.9	12.7	50.6	5.1	3.8	6.3	6.3	
性	60歳代	76	-	2	5	21	34	2	2	1	9
		100.0	-	2.6	6.6	27.6	44.7	2.6	2.6	1.3	11.8
	70歳以上	82	-	7	6	20	29	4	1	4	11
	100.0	-	8.5	7.3	24.4	35.4	4.9	1.2	4.9	13.4	

学校教育の場で推進すべきこと

問16 学校教育の場で推進した方がよいと思われるものはどのようなことですか。お考えに近いものを選んでください。(は3つまで)

【全体数：1,110】



【概要】

『生活指導において男女の別なく能力・個性を生かせるようにする』の割合が60.3%と過半数を占めて最も高く、次いで『男女共同参画の視点でまちづくりへの参加等の体験学習を進める』39.5%、『生命尊重、男女平等の視点で、人間教育としての性教育を推進する』31.7%の順で高くなっている。

【性別】

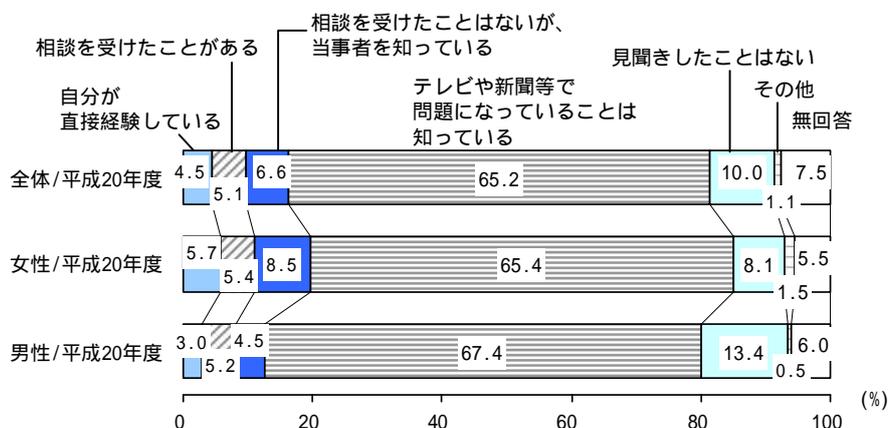
性別にみると、男女間の割合に大きな差はみられない。

(5) 男女間における暴力に関する意識と実態

女性に対する暴力行為を見聞きしたこと

問17 近年、女性が配偶者や恋人から継続的に身体的・精神的な暴力行為を受けることについて問題となっていますが、あなたの身近で見聞きされたことはありますか。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『テレビや新聞等で問題になっていることは知っている』が65.2%と過半数を占め最も高くなっている。

【性別】

性別にみると、『相談を受けたことはないが、当事者を知っている』において、女性が8.5%と男性よりも4.0ポイント高く、『見聞きしたことがない』においては、男性が13.4%と女性よりも5.3ポイント高くなっている。

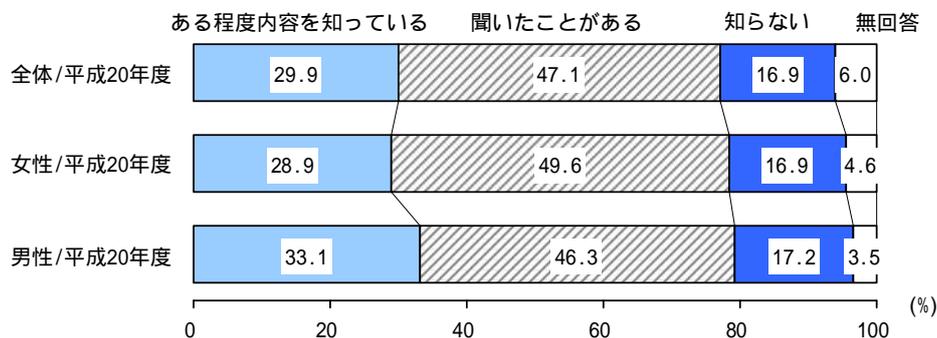
【性・年代別 問17】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		自分が直接経験している	相談を受けたことがある	いい相談を受けることがない	相談を受けたことには知らないが、当事者を知っている	知っている	テレビや新聞等で問題になっていることは知らない	見聞きしたことはない	その他
女性	20歳代	72	4	3	11	38	9	1	6
		100.0	5.6	4.2	15.3	52.8	12.5	1.4	8.3
	30歳代	114	12	15	10	61	10	3	3
		100.0	10.5	13.2	8.8	53.5	8.8	2.6	2.6
	40歳代	94	8	4	11	63	5	1	2
		100.0	8.5	4.3	11.7	67.0	5.3	1.1	2.1
	50歳代	113	5	4	13	75	7	3	6
	100.0	4.4	3.5	11.5	66.4	6.2	2.7	5.3	
男性	60歳代	116	3	5	5	90	7	1	5
		100.0	2.6	4.3	4.3	77.6	6.0	0.9	4.3
	70歳以上	103	3	2	2	72	12	-	12
		100.0	2.9	1.9	1.9	69.9	11.7	-	11.7
	20歳代	46	2	4	-	32	7	1	-
		100.0	4.3	8.7	-	69.6	15.2	2.2	-
	30歳代	64	5	1	2	41	13	-	2
	100.0	7.8	1.6	3.1	64.1	20.3	-	3.1	
女性	40歳代	54	2	2	5	33	10	-	2
		100.0	3.7	3.7	9.3	61.1	18.5	-	3.7
	50歳代	79	2	7	5	47	13	-	5
		100.0	2.5	8.9	6.3	59.5	16.5	-	6.3
	60歳代	76	-	3	3	55	6	1	8
		100.0	-	3.9	3.9	72.4	7.9	1.3	10.5
	70歳以上	82	1	4	3	62	5	-	7
	100.0	1.2	4.9	3.7	75.6	6.1	-	8.5	

D V 防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度

問18 あなたは、「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」(DV防止法)についてご存じですか。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『聞いたことがある』が47.1%で約半数を占めて最も高く、次いで『ある程度内容を知っている』が29.9%となっている。

【性別】

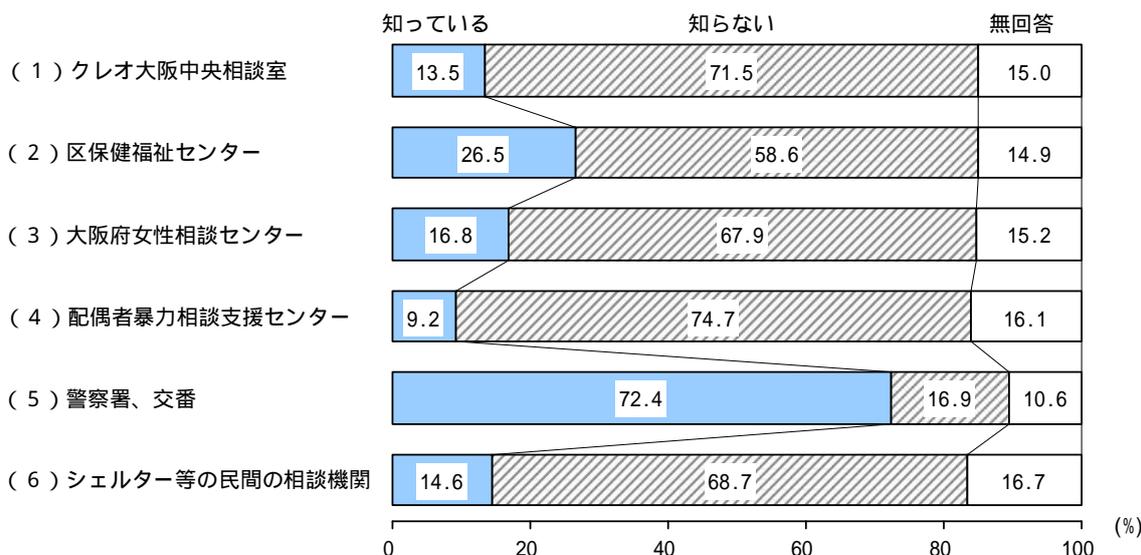
性別にみると、男女間で割合に大きな差はみられない。

【性・年代別 問18】

	調査数	ある程度内容を知っている	上段：件数、下段：%			
			聞いたことがある	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	14	32	20	6
		100.0	19.4	44.4	27.8	8.3
	30歳代	114	35	65	12	2
		100.0	30.7	57.0	10.5	1.8
	40歳代	94	37	50	7	-
		100.0	39.4	53.2	7.4	-
	50歳代	113	36	54	17	6
	100.0	31.9	47.8	15.0	5.3	
男性	60歳代	116	36	52	25	3
		100.0	31.0	44.8	21.6	2.6
	70歳以上	103	20	51	21	11
		100.0	19.4	49.5	20.4	10.7
女性	20歳代	46	14	26	6	-
		100.0	30.4	56.5	13.0	-
	30歳代	64	21	26	16	1
		100.0	32.8	40.6	25.0	1.6
	40歳代	54	19	29	5	1
		100.0	35.2	53.7	9.3	1.9
	50歳代	79	37	35	4	3
	100.0	46.8	44.3	5.1	3.8	
男性	60歳代	76	26	31	14	5
		100.0	34.2	40.8	18.4	6.6
	70歳以上	82	16	38	24	4
	100.0	19.5	46.3	29.3	4.9	

問19 女性に対する暴力について、次の相談機関・対応窓口がありますが、あなたはご存じですか。(1)から(6)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

【全体数：1,110】

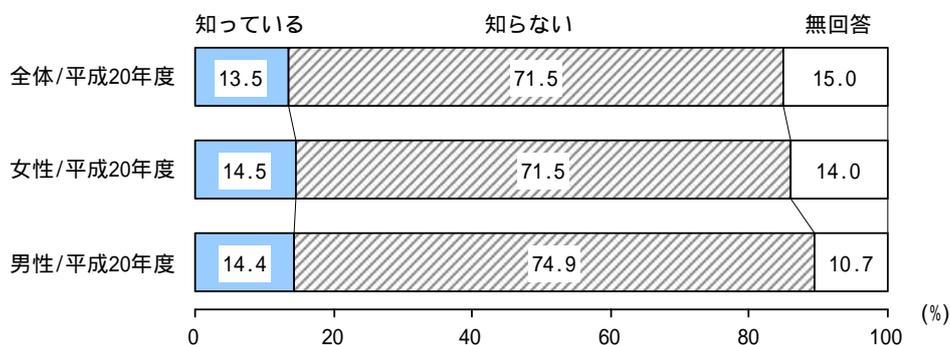


【概要】

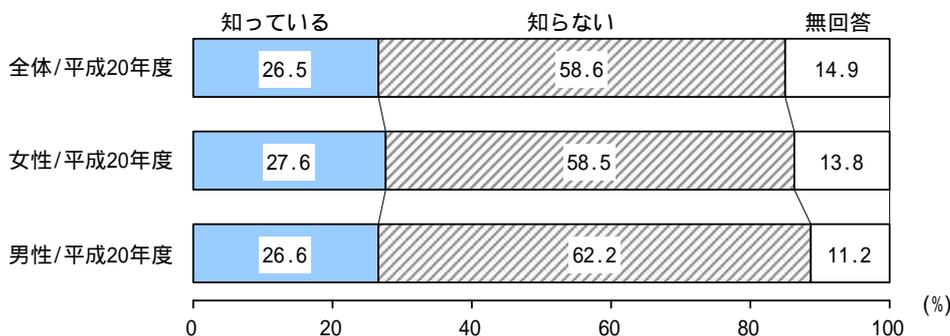
女性に対する暴力に関する相談機関・対応窓口の認知度について、「(5)警察署、交番」を除く項目で『知らない』割合が58.6%～74.7%と過半数以上になっている。『知っている』割合が、『知らない』を上回ったものは、「(5)警察署、交番」(72.4%)のみであった。その他、「(2)区保健福祉センター」では『知っている』割合が26.5%となっている。

(1) クレオ大阪中央相談室

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】

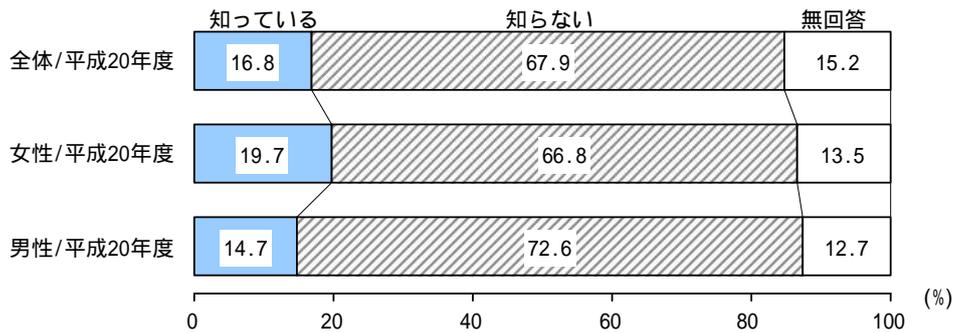


(2) 区保健福祉センター

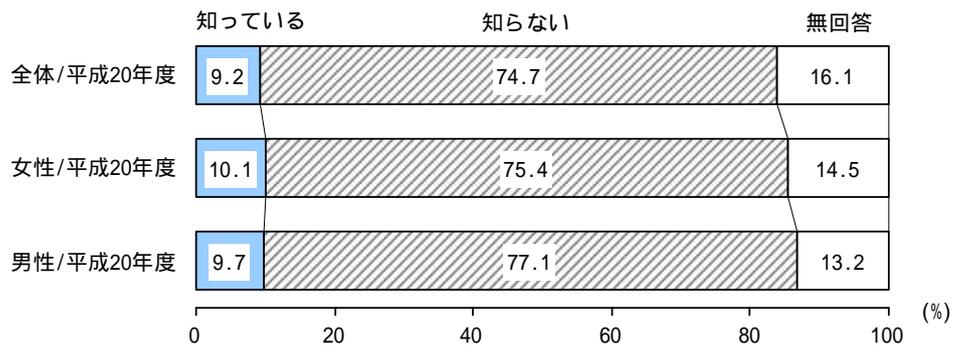


(3) 大阪府女性相談センター

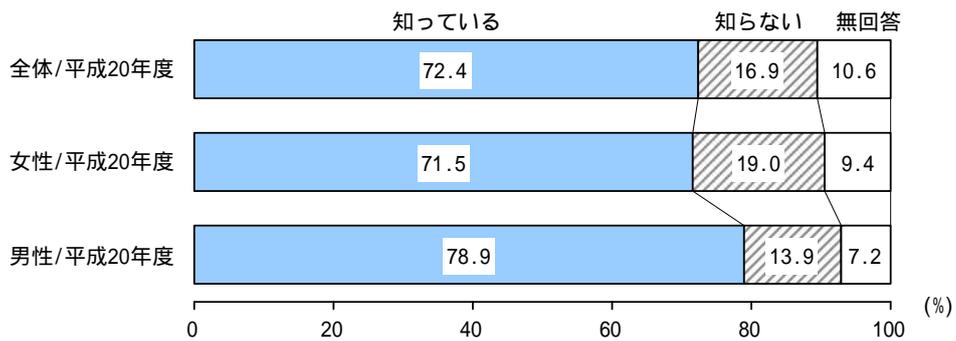
【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



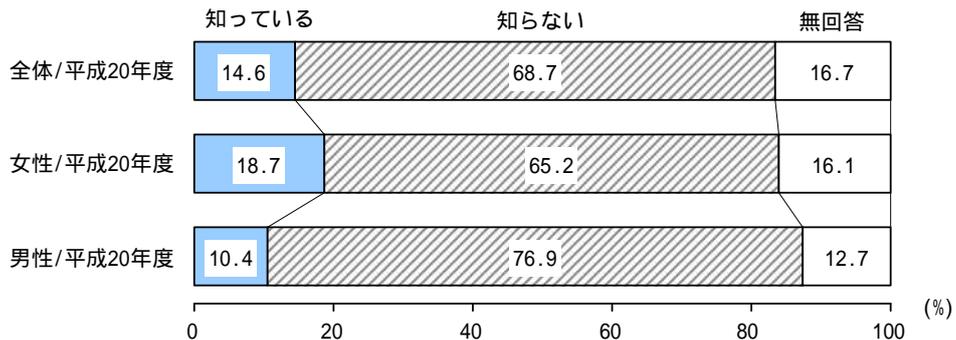
(4) 配偶者暴力相談支援センター



(5) 警察署、交番



(6) シェルターなどの民間の相談機関



2. 調査結果の個別分析

【性別】性別にみると、『知っている』の割合は、「(5)警察署、交番」以外の全ての項目で、女性の方が高くなっており、特に、「(6)シェルター等の民間の相談機関」で8.3ポイント、「(3)大阪府女性相談センター」で5.0ポイント、男性よりも高くなっている。

【性・年代別 問19】

(1) クレオ大阪中央相談室

		上段：件数、下段：%			
	調査数	知っている	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	4	62	6
		100.0	5.6	86.1	8.3
	30歳代	114	16	92	6
		100.0	14.0	80.7	5.3
	40歳代	94	15	77	2
		100.0	16.0	81.9	2.1
	50歳代	113	25	76	12
	100.0	22.1	67.3	10.6	
男性	60歳代	116	18	77	21
		100.0	15.5	66.4	18.1
	70歳以上	103	10	54	39
		100.0	9.7	52.4	37.9
	20歳代	46	6	38	2
		100.0	13.0	82.6	4.3
	30歳代	64	7	52	5
	100.0	10.9	81.3	7.8	
女性	40歳代	54	6	44	4
		100.0	11.1	81.5	7.4
	50歳代	79	15	60	4
		100.0	19.0	75.9	5.1
	60歳代	76	11	54	11
		100.0	14.5	71.1	14.5
	70歳以上	82	12	53	17
	100.0	14.6	64.6	20.7	

(2) 区保健福祉センター

		上段：件数、下段：%			
	調査数	知っている	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	11	55	6
		100.0	15.3	76.4	8.3
	30歳代	114	35	74	5
		100.0	30.7	64.9	4.4
	40歳代	94	29	61	4
		100.0	30.9	64.9	4.3
	50歳代	113	32	69	12
	100.0	28.3	61.1	10.6	
男性	60歳代	116	30	66	20
		100.0	25.9	56.9	17.2
	70歳以上	103	32	33	38
		100.0	31.1	32.0	36.9
	20歳代	46	8	35	3
		100.0	17.4	76.1	6.5
	30歳代	64	13	46	5
	100.0	20.3	71.9	7.8	
女性	40歳代	54	10	41	3
		100.0	18.5	75.9	5.6
	50歳代	79	19	54	6
		100.0	24.1	68.4	7.6
	60歳代	76	26	39	11
		100.0	34.2	51.3	14.5
	70歳以上	82	30	35	17
	100.0	36.6	42.7	20.7	

(3) 大阪府女性相談センター

		上段：件数、下段：%			
	調査数	知っている	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	4	62	6
		100.0	5.6	86.1	8.3
	30歳代	114	23	86	5
		100.0	20.2	75.4	4.4
	40歳代	94	21	70	3
		100.0	22.3	74.5	3.2
	50歳代	113	30	71	12
	100.0	26.5	62.8	10.6	
男性	60歳代	116	21	76	19
		100.0	18.1	65.5	16.4
	70歳以上	103	21	44	38
		100.0	20.4	42.7	36.9
	20歳代	46	8	35	3
		100.0	17.4	76.1	6.5
	30歳代	64	5	54	5
	100.0	7.8	84.4	7.8	
女性	40歳代	54	4	47	3
		100.0	7.4	87.0	5.6
	50歳代	79	14	59	6
		100.0	17.7	74.7	7.6
	60歳代	76	13	51	12
		100.0	17.1	67.1	15.8
	70歳以上	82	14	46	22
	100.0	17.1	56.1	26.8	

(4) 配偶者暴力相談支援センター

		上段：件数、下段：%			
	調査数	知っている	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	5	62	5
		100.0	6.9	86.1	6.9
	30歳代	114	12	96	6
		100.0	10.5	84.2	5.3
	40歳代	94	6	84	4
		100.0	6.4	89.4	4.3
	50歳代	113	17	84	12
	100.0	15.0	74.3	10.6	
男性	60歳代	116	13	82	21
		100.0	11.2	70.7	18.1
	70歳以上	103	9	53	41
		100.0	8.7	51.5	39.8
	20歳代	46	2	41	3
		100.0	4.3	89.1	6.5
	30歳代	64	4	55	5
	100.0	6.3	85.9	7.8	
女性	40歳代	54	7	43	4
		100.0	13.0	79.6	7.4
	50歳代	79	10	63	6
		100.0	12.7	79.7	7.6
	60歳代	76	7	56	13
		100.0	9.2	73.7	17.1
	70歳以上	82	9	51	22
	100.0	11.0	62.2	26.8	

(5) 警察署、交番

		上段：件数、下段：%			
	調査数	知っている	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	54	12	6
		100.0	75.0	16.7	8.3
	30歳代	114	91	20	3
		100.0	79.8	17.5	2.6
	40歳代	94	69	24	1
		100.0	73.4	25.5	1.1
	50歳代	113	83	23	7
	100.0	73.5	20.4	6.2	
男性	60歳代	116	81	20	15
		100.0	69.8	17.2	12.9
	70歳以上	103	61	16	26
		100.0	59.2	15.5	25.2
	20歳代	46	40	4	2
		100.0	87.0	8.7	4.3
	30歳代	64	50	10	4
	100.0	78.1	15.6	6.3	
女性	40歳代	54	46	6	2
		100.0	85.2	11.1	3.7
	50歳代	79	64	11	4
		100.0	81.0	13.9	5.1
	60歳代	76	54	15	7
		100.0	71.1	19.7	9.2
	70歳以上	82	62	10	10
	100.0	75.6	12.2	12.2	

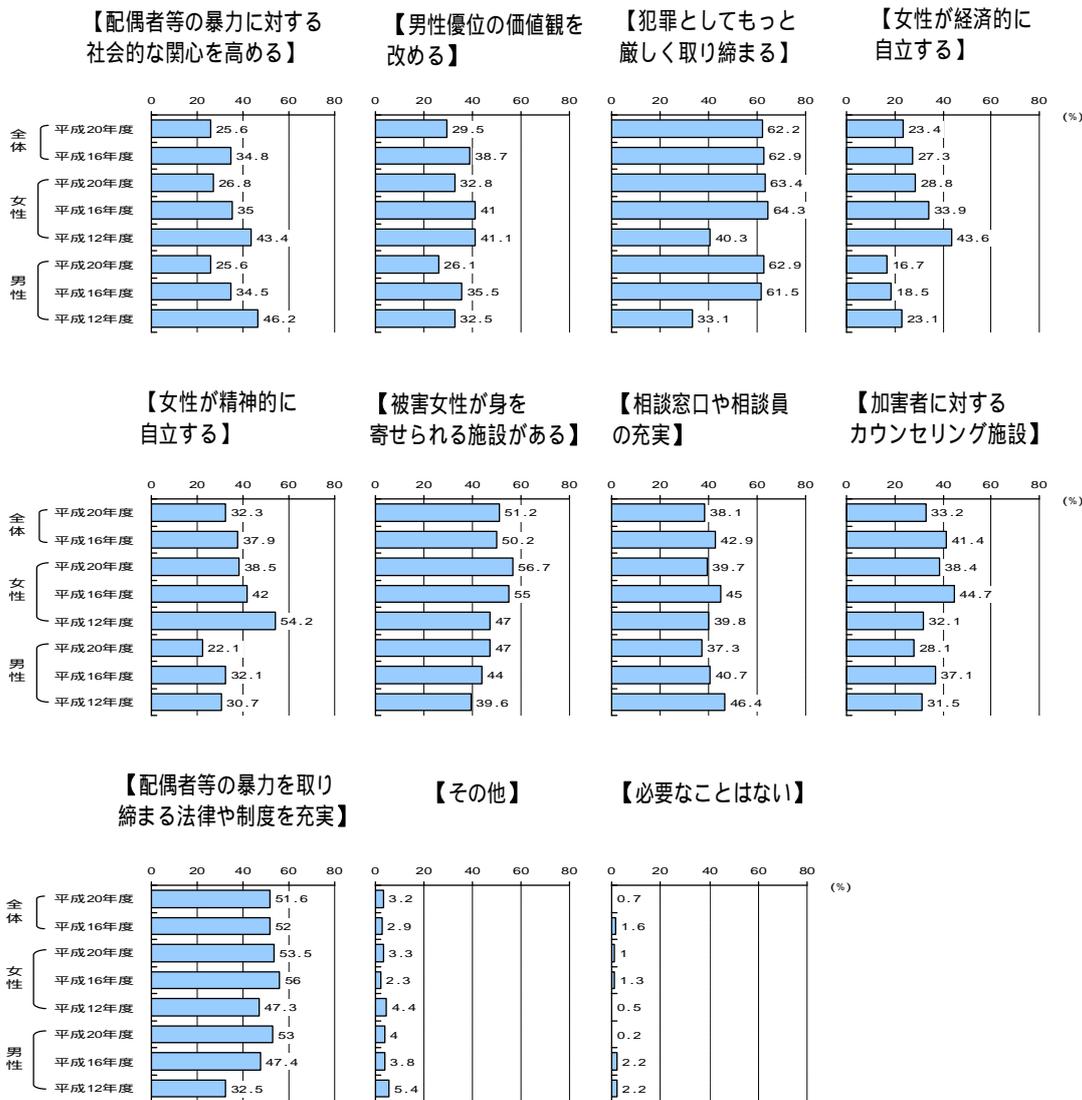
(6) シェルター等の民間の相談機関

		上段：件数、下段：%			
	調査数	知っている	知らない	無回答	
女性	20歳代	72	16	49	7
		100.0	22.2	68.1	9.7
	30歳代	114	36	73	5
		100.0	31.6	64.0	4.4
	40歳代	94	29	62	3
		100.0	30.9	66.0	3.2
	50歳代	113	20	78	15
	100.0	17.7	69.0	13.3	
男性	60歳代	116	12	80	24
		100.0	10.3	69.0	20.7
	70歳以上	103	2	56	45
		100.0	1.9	54.4	43.7
	20歳代	46	8	36	2
		100.0	17.4	78.3	4.3
	30歳代	64	5	54	5
	100.0	7.8	84.4	7.8	
女性	40歳代	54	9	41	4
		100.0	16.7	75.9	7.4
	50歳代	79	8	65	6
		100.0	10.1	82.3	7.6
	60歳代	76	7	57	12
		100.0	9.2	75.0	15.8
	70歳以上	82	5	55	22
	100.0	6.1	67.1	26.8	

女性に対する暴力の問題の解決に向けて

問20 あなたは女性に対する暴力の問題を解決するには、どのようなことが必要だと思われるか。お考えに近いものを選んでください。(はいいくつでも)

【平成20年度 女性数：615、男性数：402】



平成12年度のデータは大阪市「生活の中での男女の関係についての調査」(平成12年度)より

【性別】

性別にみると、男女とも『犯罪としてもっと厳しく取り締まること』が6割強と最も高く、他には、『被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること』(女性56.7%、男性47.0%)、『配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること』(女性53.5%、男性53.0%)が高くなっている。

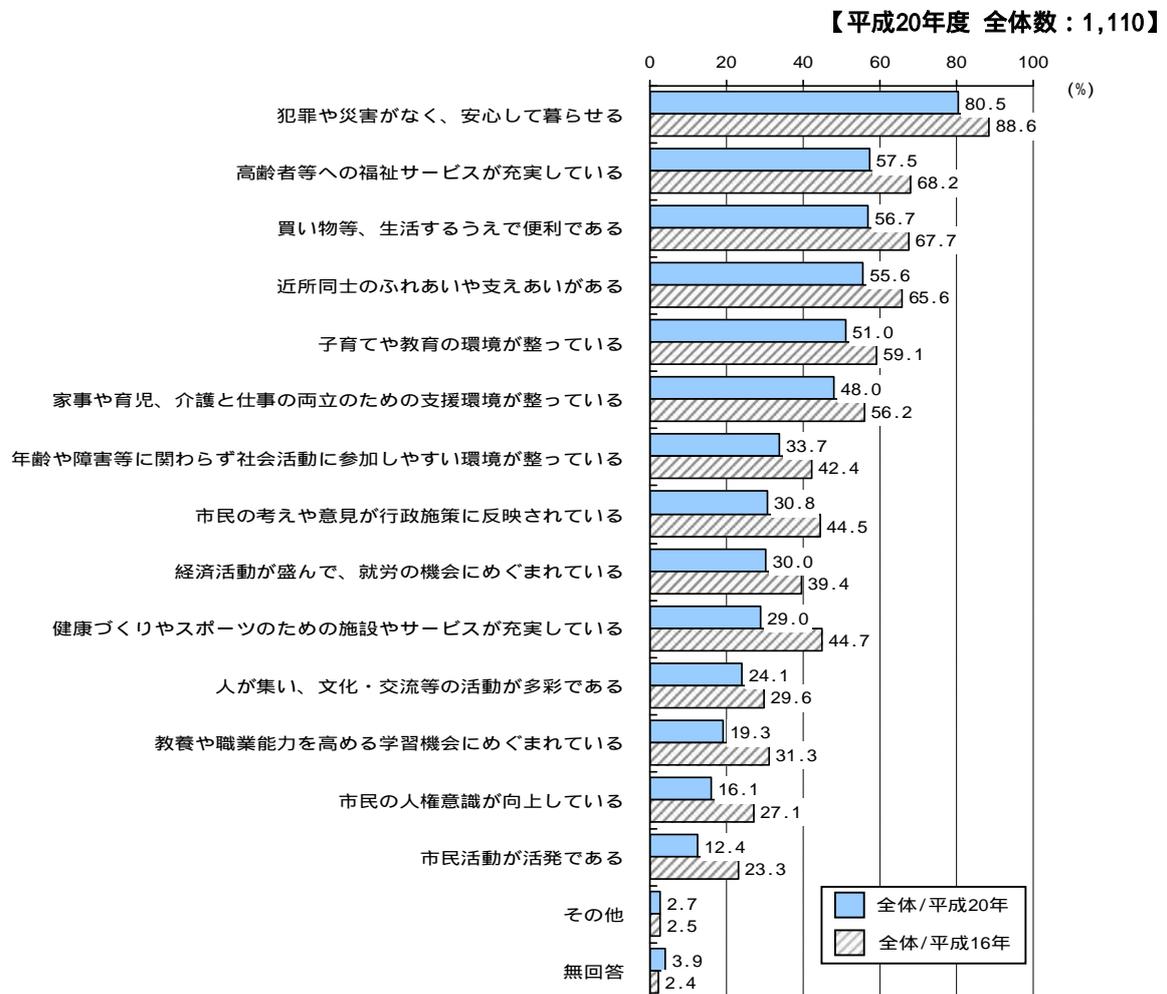
【経年比較】

過去調査と比較すると、『配偶者や恋人からの暴力に対する社会的な関心を高めること』、『女性が経済的に自立すること』、『女性が精神的に自立すること』は年々減少している。一方、『犯罪としてもっと厳しく取り締まること』は、平成12年度から16年度にかけて急激に増加、『被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること』は年々緩やかに増加している。

(6) 男女共同参画社会の実現に向けて

女性も男性も暮らしやすいまちのイメージ

問13 あなたは、女性も男性もだれもが暮らしやすいまちにするためには、お住まいの地域が今後どのようなまちになればよいと思われますか。お考えに近いものを選んでください。(はいくつでも)



【概要】

『犯罪や災害がなく、安心して暮らせる』が80.5%と最も高く、次いで『高齢者等への福祉サービスが充実している』57.5%、『買い物等、生活するうえで便利である』56.7%、『近所同士のふれあいや支えあいがある』55.6%、『子育てや教育の環境が整っている』51.0%の順になっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、項目の順位は大きく変化がないものの、ほとんど全ての項目で、平成16年度の割合よりも減少しており、特に『健康づくりやスポーツのための施設やサービスが充実している』で15.7ポイント、『市民の考えや意見が行政施策に反映されている』で13.7ポイント、『教養や職業能力を高める学習機会にめぐまれている』で、12.0ポイント減少している。

男性も女性も暮らしやすいまちのイメージについて (問13)

性別・年齢別の上位5位

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
全体	防犯防災	(80.5)	福祉充実	(57.5)	生活便利	(56.7)	ふれあい	(55.6)	子育て	(51.0)
男性	防犯防災	(80.3)	福祉充実、生活便利		(55.2)		ふれあい	(55.0)	子育て	(46.3)
20歳代	防犯防災	(76.1)	子育て	(67.4)	生活便利	(65.2)	両立支援	(47.8)	福祉充実	(45.7)
30歳代	防犯防災	(82.8)	子育て	(60.9)	生活便利	(57.8)	ふれあい、福祉充実		(48.4)	
40歳代	防犯防災	(77.8)	子育て	(46.3)	ふれあい	(46.2)	福祉充実	(44.4)	生活便利	(42.6)
50歳代	防犯防災	(79.7)	福祉充実	(68.4)	ふれあい	(59.5)	生活便利	(57.0)	子育て 両立支援	(46.8)
60歳代	防犯防災	(85.5)	福祉充実	(60.5)	ふれあい	(59.2)	生活便利	(51.3)	両立支援	(36.8)
70歳以上	防犯防災	(78.0)	ふれあい	(63.4)	生活便利	(57.3)	福祉充実	(56.1)	子育て	(32.9)
女性	防犯防災	(83.6)	福祉充実	(60.5)	生活便利	(60.2)	子育て	(57.2)	ふれあい	(57.1)
20歳代	子育て	(84.7)	防犯防災	(79.2)	両立支援	(70.8)	生活便利	(65.3)	福祉充実	(59.7)
30歳代	防犯防災	(83.3)	子育て	(74.6)	両立支援	(66.7)	生活便利	(58.8)	福祉充実	(50.9)
40歳代	防犯防災	(86.2)	生活便利	(66.0)	福祉充実	(63.8)	両立支援	(61.7)	子育て	(59.6)
50歳代	防犯防災	(85.0)	福祉充実	(69.9)	ふれあい	(62.8)	両立支援	(57.5)	生活便利	(55.8)
60歳代	防犯防災	(83.6)	ふれあい	(63.8)	福祉充実	(62.1)	生活便利	(60.3)	子育て	(51.7)
70歳以上	防犯防災	(82.5)	ふれあい	(62.1)	生活便利	(57.3)	福祉充実	(55.3)	両立支援	(37.9)

単位：%

【順位表の凡例】

防犯防災：犯罪や災害がなく、安心して暮らせる

福祉充実：高齢者や障害者などへの福祉サービスや支援活動が充実している

生活便利：買い物など、生活する上で便利である

ふれあい：近所同士のふれあいや支えあいがある

子育て：子育てや教育の環境が整っている

両立支援：家事や育児、介護と仕事の両立のための支援環境が整っている

健康充実：健康づくりやスポーツのための施設やサービスが充実している

施策反映：市民の考えや意見が行政施策に反映されている

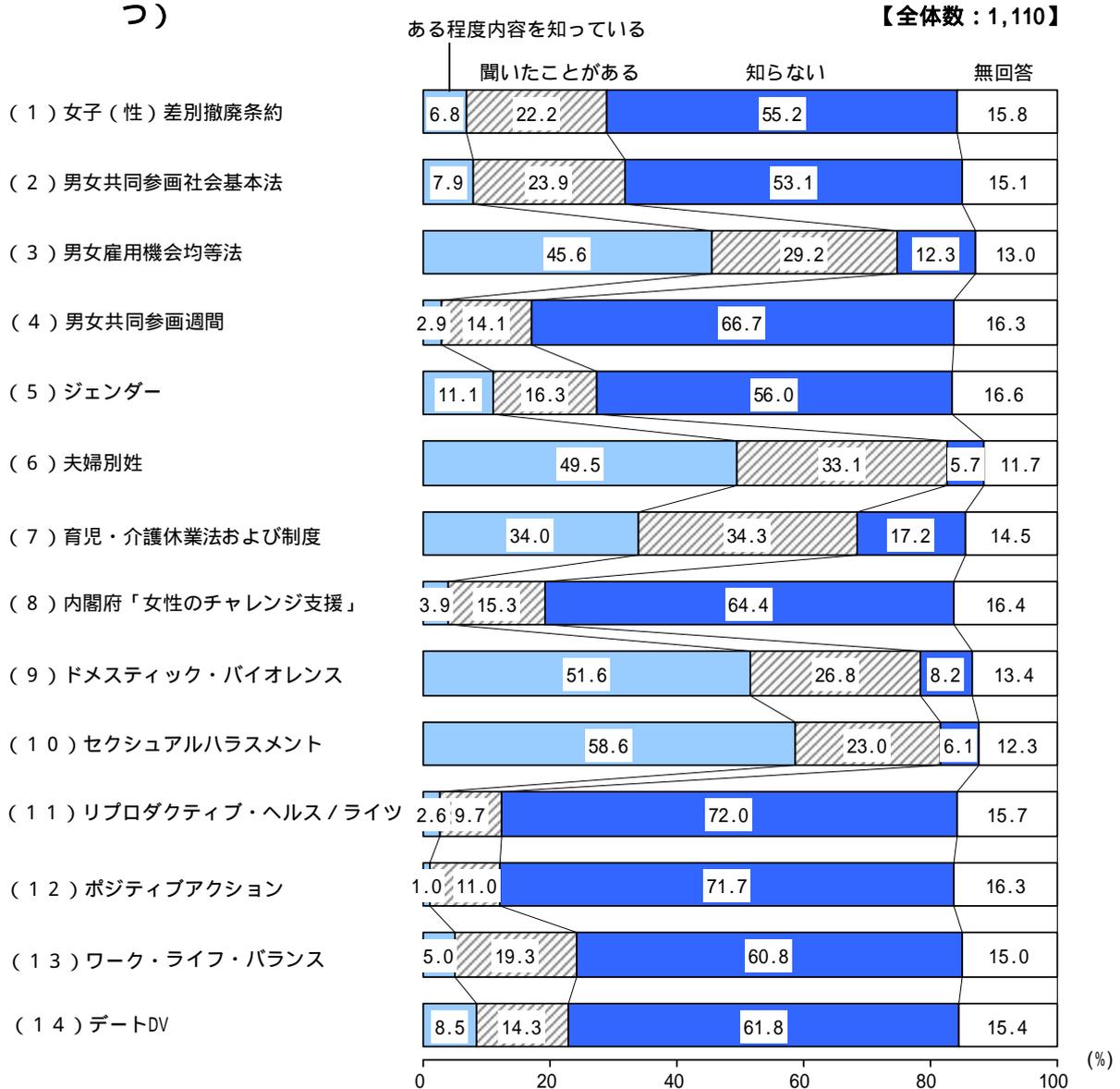
社会活動：年齢や障害などに関わらず、社会活動に参加しやすい環境が整っている

就労機会：経済活動が盛んで、就労の機会にめぐまれている

文化交流：人が集い、文化・交流などの活動が多彩である

男女共同参画に関する用語の周知度

問21 次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。(1)から(14)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)



【概要】

男女共同参画に関する用語について、“認知している”(『ある程度内容を知っている』『聞いたことがある』の計)の割合が、過半数を超えている項目は次のとおりである。

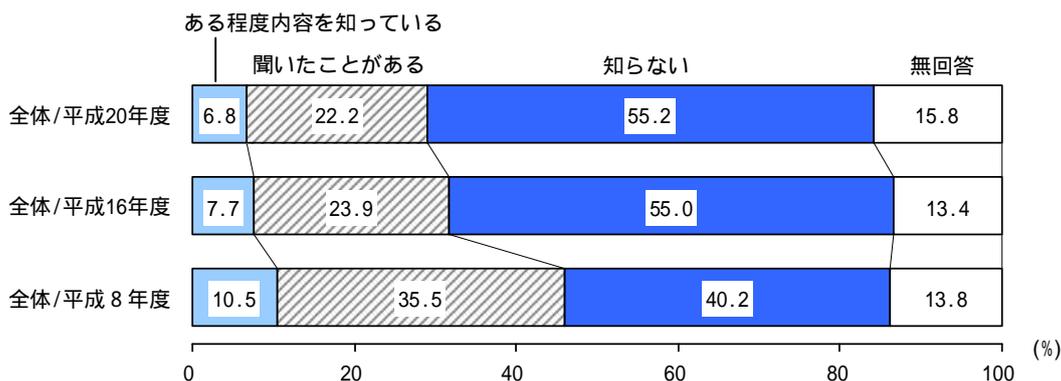
- (6) 夫婦別姓 (82.6%)
- (10) セクシュアルハラスメント (81.6%)
- (9) ドメスティック・バイオレンス (78.4%)
- (3) 男女雇用機会均等法 (74.8%)
- (7) 育児・介護休業法および制度 (68.3%)

“認知している”割合が、下位の項目は次のとおり。

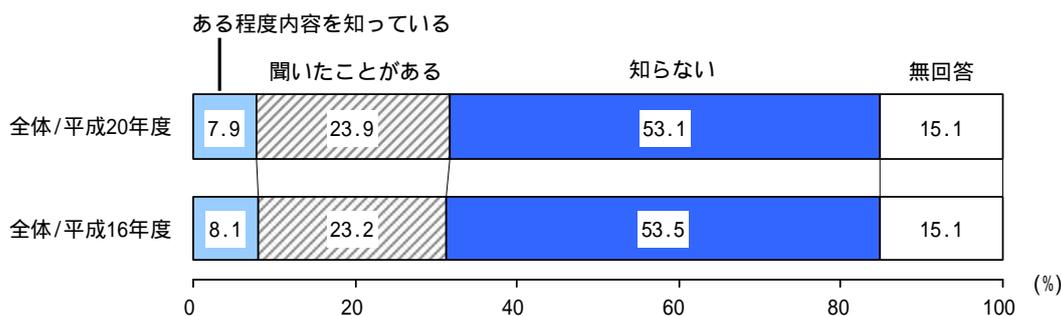
- (12) ポジティブアクション (12.0%)
- (11) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (12.3%)
- (4) 男女共同参画週間 (17.0%)
- (8) 内閣府『女性のチャレンジ支援』 (19.2%)

(1) 女子(性)差別撤廃条約

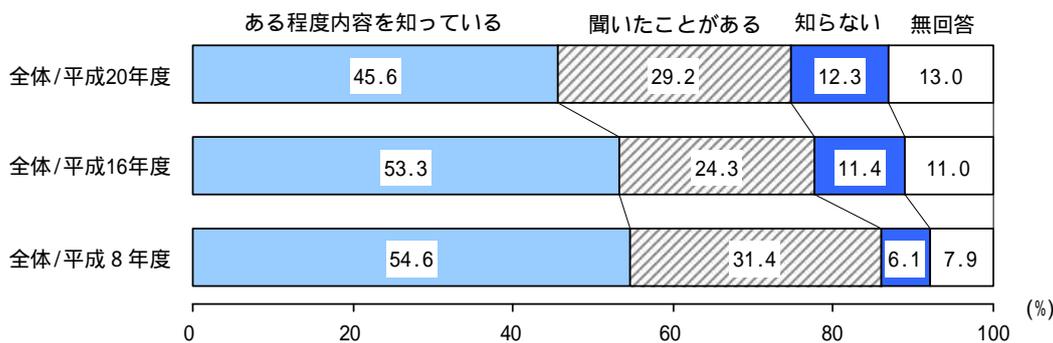
【平成20年度 全体数：1,110】



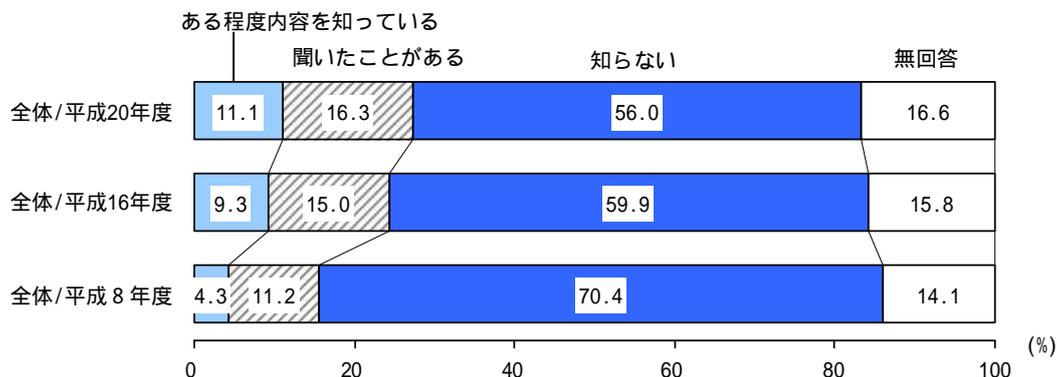
(2) 男女共同参画社会基本法



(3) 男女雇用機会均等法

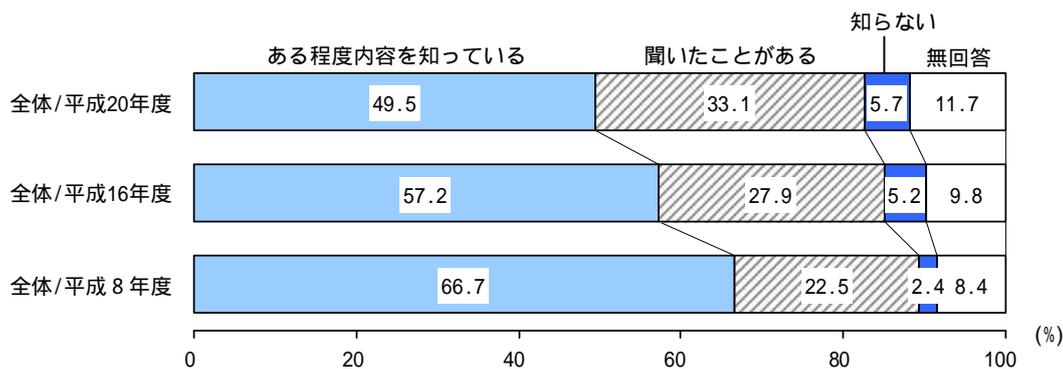


(5) ジェンダー

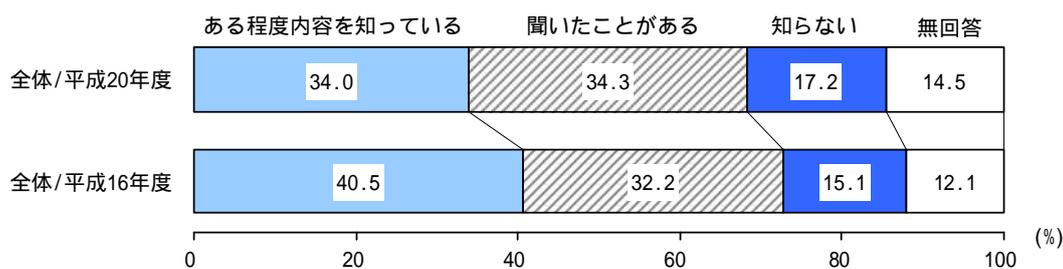


(6) 夫婦別姓

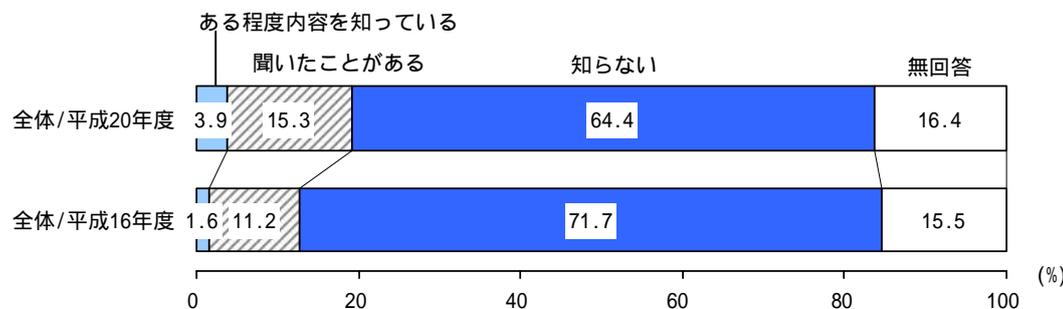
【平成20年度 全体数：1,110】



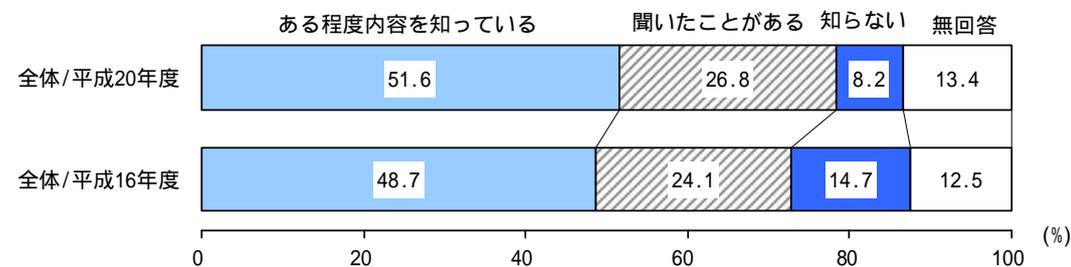
(7) 育児・介護休業法および制度



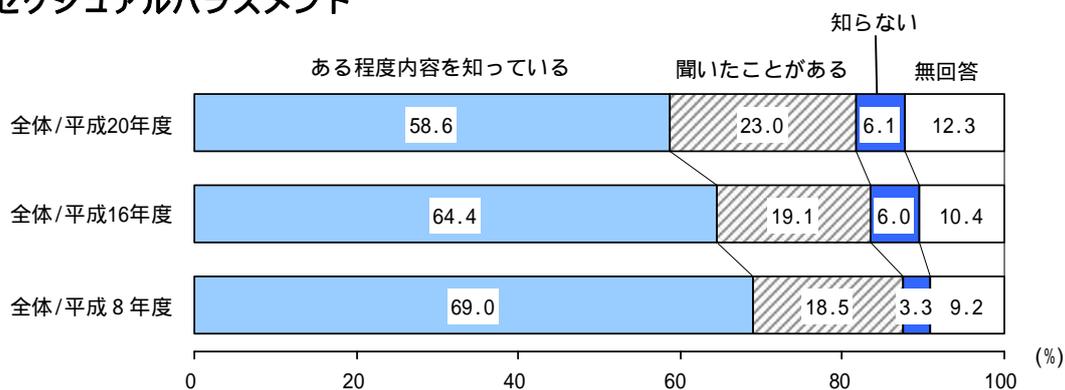
(8) 内閣府「女性のチャレンジ支援」



(9) ドメスティック・バイオレンス

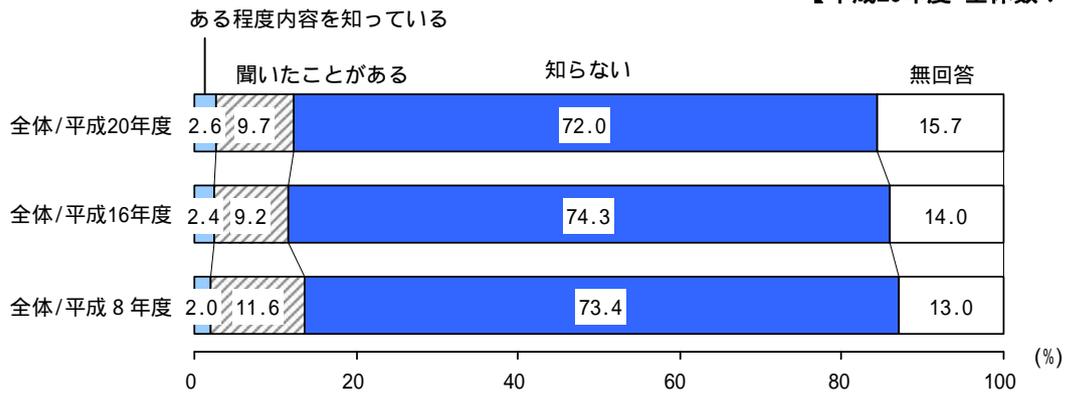


(10) セクシュアルハラスメント

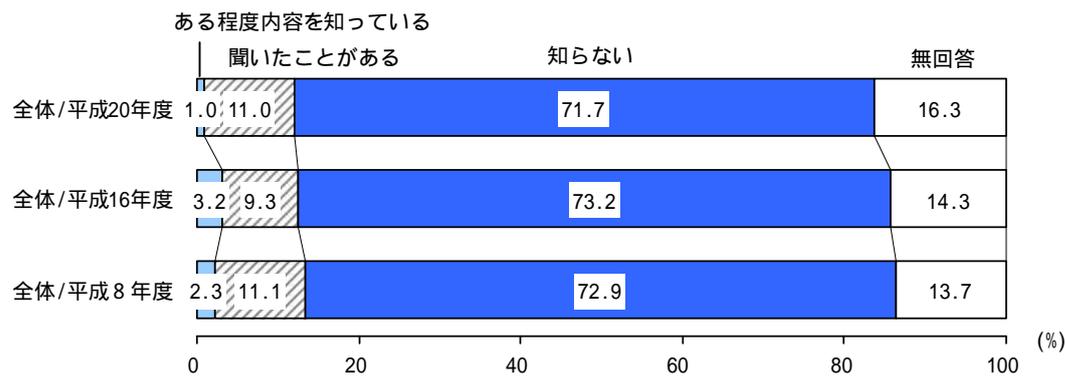


(11)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

【平成20年度 全体数：1,110】



(12)ポジティブアクション



【経年比較】

過去調査と比較して、“認知している”割合が、年々減少傾向にある項目は、「(1)女子(性)差別撤廃条約」、「(3)男女雇用機会均等法」、「(6)夫婦別姓」、「(7)育児・介護休業法および制度」、「(10)セクシュアルハラスメント」となっている。一方、増加傾向にあるのは、「(5)ジェンダー」、「(8)内閣府『女性チャレンジ支援』」、「(9)ドメスティック・バイオレンス」となっている。

【性・年代別 問21】

(1) 女子(性)差別撤廃条約

調査数	知っている	上段：件数、下段：%		
		聞いたことがある	知らない	無回答
72	8	21	43	-
100.0	11.1	29.2	59.7	-
114	5	25	76	8
100.0	4.4	21.9	66.7	7.0
94	2	20	71	1
100.0	2.1	21.3	75.5	1.1
113	11	22	67	13
100.0	9.7	19.5	59.3	11.5
116	5	29	54	28
100.0	4.3	25.0	46.6	24.1
103	6	11	41	45
100.0	5.8	10.7	39.8	43.7
46	6	13	23	4
100.0	13.0	28.3	50.0	8.7
64	8	12	41	3
100.0	12.5	18.8	64.1	4.7
54	-	14	40	-
100.0	-	25.9	74.1	-
79	8	22	40	9
100.0	10.1	27.8	50.6	11.4
76	5	22	36	13
100.0	6.6	28.9	47.4	17.1
82	4	22	34	22
100.0	4.9	26.8	41.5	26.8

(2) 男女共同参画社会基本法

調査数	知っている	上段：件数、下段：%		
		聞いたことがある	知らない	無回答
72	6	18	47	1
100.0	8.3	25.0	65.3	1.4
114	4	24	79	7
100.0	3.5	21.1	69.3	6.1
94	2	24	67	1
100.0	2.1	25.5	71.3	1.1
113	17	27	56	13
100.0	15.0	23.9	49.6	11.5
116	8	28	55	25
100.0	6.9	24.1	47.4	21.6
103	2	11	42	48
100.0	1.9	10.7	40.8	46.6
46	7	12	23	4
100.0	15.2	26.1	50.0	8.7
64	5	16	40	3
100.0	7.8	25.0	62.5	4.7
54	3	20	31	-
100.0	5.6	37.0	57.4	-
79	11	24	36	8
100.0	13.9	30.4	45.6	10.1
76	10	18	34	14
100.0	13.2	23.7	44.7	18.4
82	7	24	34	17
100.0	8.5	29.3	41.5	20.7

(3) 男女雇用機会均等法

調査数	知っている	上段：件数、下段：%		
		聞いたことがある	知らない	無回答
72	37	26	8	1
100.0	51.4	36.1	11.1	1.4
114	60	32	16	6
100.0	52.6	28.1	14.0	5.3
94	45	35	13	1
100.0	47.9	37.2	13.8	1.1
113	58	24	18	13
100.0	51.3	21.2	15.9	11.5
116	43	37	15	21
100.0	37.1	31.9	12.9	18.1
103	27	28	13	35
100.0	26.2	27.2	12.6	34.0
46	27	12	3	4
100.0	58.7	26.1	6.5	8.7
64	32	21	8	3
100.0	50.0	32.8	12.5	4.7
54	34	18	2	-
100.0	63.0	33.3	3.7	-
79	43	22	7	7
100.0	54.4	27.8	8.9	8.9
76	33	19	13	11
100.0	43.4	25.0	17.1	14.5
82	32	25	8	17
100.0	39.0	30.5	9.8	20.7

【性・年代別 問21-2】

(4) 男女共同参画週間

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	2	10	58	2
	30歳代	114	1	12	93	8
	40歳代	94	2	18	71	3
	50歳代	113	8	18	72	15
	60歳代	116	5	20	67	24
	70歳以上	103	2	10	45	46
	100.0	100.0	1.9	9.7	43.7	44.7
男	20歳代	46	4	8	29	5
	30歳代	64	1	13	46	4
	40歳代	54	1	6	46	1
	50歳代	79	2	9	58	10
	60歳代	76	-	14	49	13
	70歳以上	82	3	13	45	21
	100.0	100.0	3.7	15.9	54.9	25.6

(5) ジェンダー

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	13	19	37	3
	30歳代	114	16	17	75	6
	40歳代	94	14	24	54	2
	50歳代	113	16	25	58	14
	60歳代	116	7	14	68	27
	70歳以上	103	3	4	46	50
	100.0	100.0	2.9	3.9	44.7	48.5
男	20歳代	46	11	10	21	4
	30歳代	64	10	10	39	5
	40歳代	54	6	14	34	-
	50歳代	79	12	14	45	8
	60歳代	76	3	10	50	13
	70歳以上	82	5	9	46	22
	100.0	100.0	6.1	11.0	56.1	26.8

(6) 夫婦別姓

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	38	23	9	2
	30歳代	114	80	25	3	6
	40歳代	94	58	31	4	1
	50歳代	113	67	34	1	11
	60歳代	116	53	40	6	17
	70歳以上	103	29	33	8	33
	100.0	100.0	28.2	32.0	7.8	32.0
男	20歳代	46	26	14	2	4
	30歳代	64	33	21	9	1
	40歳代	54	27	24	3	-
	50歳代	79	40	31	3	5
	60歳代	76	28	33	5	10
	70歳以上	82	33	27	4	18
	100.0	100.0	40.2	32.9	4.9	22.0

(7) 育児・介護休業法および制度

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	31	25	15	1
	30歳代	114	57	31	19	7
	40歳代	94	36	35	21	2
	50歳代	113	47	37	16	13
	60歳代	116	35	43	16	22
	70歳以上	103	16	33	15	39
	100.0	100.0	15.5	32.0	14.6	37.9
男	20歳代	46	20	15	7	4
	30歳代	64	27	18	14	5
	40歳代	54	19	30	5	-
	50歳代	79	28	29	15	7
	60歳代	76	20	26	17	13
	70歳以上	82	17	31	15	19
	100.0	100.0	20.7	37.8	18.3	23.2

(8) 内閣府「女性のチャレンジ支援」

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	3	11	55	3
	30歳代	114	3	21	83	7
	40歳代	94	4	15	73	2
	50歳代	113	6	22	71	14
	60歳代	116	6	19	62	29
	70歳以上	103	2	9	48	44
	100.0	100.0	1.9	8.7	46.6	42.7
男	20歳代	46	2	7	33	4
	30歳代	64	2	13	45	4
	40歳代	54	3	6	45	-
	50歳代	79	5	16	49	9
	60歳代	76	1	9	53	13
	70歳以上	82	3	8	48	23
	100.0	100.0	3.7	9.8	58.5	28.0

(9) ドメスティック・バイオレンス

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	57	11	2	2
	30歳代	114	85	22	2	5
	40歳代	94	64	25	3	2
	50歳代	113	71	27	5	10
	60歳代	116	44	40	13	19
	70歳以上	103	24	25	18	36
	100.0	100.0	23.3	24.3	17.5	35.0
男	20歳代	46	34	9	-	3
	30歳代	64	33	24	3	4
	40歳代	54	36	14	4	-
	50歳代	79	43	27	3	6
	60歳代	76	31	23	10	12
	70歳以上	82	16	29	16	21
	100.0	100.0	19.5	35.4	19.5	25.6

(10) セクシュアルハラスメント

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	61	7	3	1
	30歳代	114	90	15	4	5
	40歳代	94	62	25	5	2
	50歳代	113	75	24	5	9
	60歳代	116	52	35	9	20
	70歳以上	103	34	26	12	31
	100.0	100.0	33.0	25.2	11.7	30.1
男	20歳代	46	39	3	1	3
	30歳代	64	43	15	3	3
	40歳代	54	38	13	3	-
	50歳代	79	52	20	1	6
	60歳代	76	39	21	5	11
	70歳以上	82	27	30	6	19
	100.0	100.0	32.9	36.6	7.3	23.2

(11) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	3	13	54	2
	30歳代	114	5	5	96	8
	40歳代	94	2	9	82	1
	50歳代	113	4	10	86	13
	60歳代	116	5	12	70	29
	70歳以上	103	3	7	49	44
	100.0	100.0	2.9	6.8	47.6	42.7
男	20歳代	46	1	2	39	4
	30歳代	64	-	8	53	3
	40歳代	54	1	7	46	-
	50歳代	79	1	11	59	8
	60歳代	76	1	4	57	14
	70歳以上	82	2	9	51	20
	100.0	100.0	2.4	11.0	62.2	24.4

(12) ポジティブアクション

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	1	11	59	1
	30歳代	114	-	10	96	8
	40歳代	94	1	8	84	1
	50歳代	113	3	12	84	14
	60歳代	116	-	20	69	27
	70歳以上	103	-	6	50	47
	100.0	100.0	-	5.8	48.5	45.6
男	20歳代	46	-	6	35	5
	30歳代	64	2	10	49	3
	40歳代	54	-	8	46	-
	50歳代	79	1	12	58	8
	60歳代	76	1	6	53	16
	70歳以上	82	1	6	54	21
	100.0	100.0	1.2	7.3	65.9	25.6

(13) ワーク・ライフ・バランス

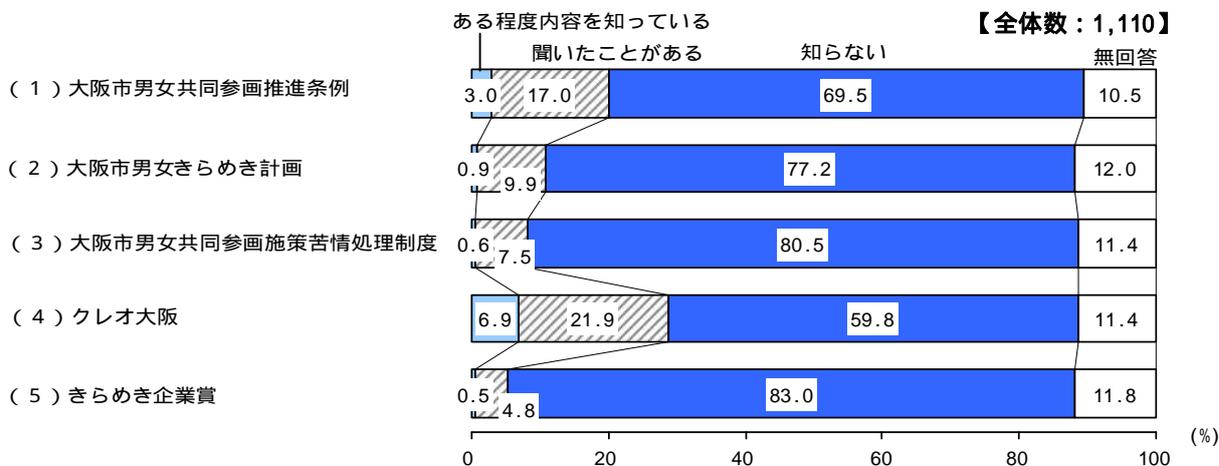
性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	3	13	55	1
	30歳代	114	7	14	85	8
	40歳代	94	2	14	77	1
	50歳代	113	10	19	71	13
	60歳代	116	6	32	53	25
	70歳以上	103	4	13	44	42
	100.0	100.0	3.9	12.6	42.7	40.8
男	20歳代	46	2	13	27	4
	30歳代	64	9	12	40	3
	40歳代	54	3	12	39	-
	50歳代	79	3	24	44	8
	60歳代	76	1	15	46	14
	70歳以上	82	3	17	42	20
	100.0	100.0	3.7	20.7	51.2	24.4

(14) デートDV

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知っている程度	聞いたことがある	知らない	無回答
女	20歳代	72	11	14	45	2
	30歳代	114	22	16	70	6
	40歳代	94	12	20	61	1
	50歳代	113	6	20	74	13
	60歳代	116	11	10	69	26
	70歳以上	103	2	10	46	45
	100.0	100.0	1.9	9.7	44.7	43.7
男	20歳代	46	7	7	28	4
	30歳代	64	9	12	40	3
	40歳代	54	4	10	40	-
	50歳代	79	5	11	55	8
	60歳代	76	1	8	53	14
	70歳以上	82	4	10	48	20
	100.0	100.0	4.9	12.2	58.5	24.4

大阪市の男女共同参画関連施策の周知度

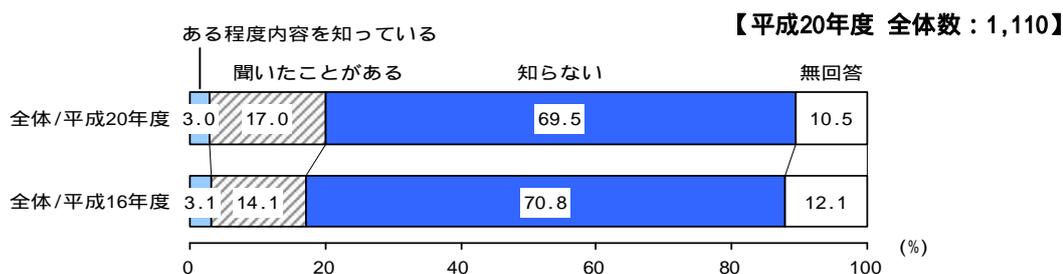
問22 大阪市では男女共同参画社会の実現をめざして施策に取り組んでいます。次にあげる項目のうち、あなたがお存じのものはありますか。(1)から(5)のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)



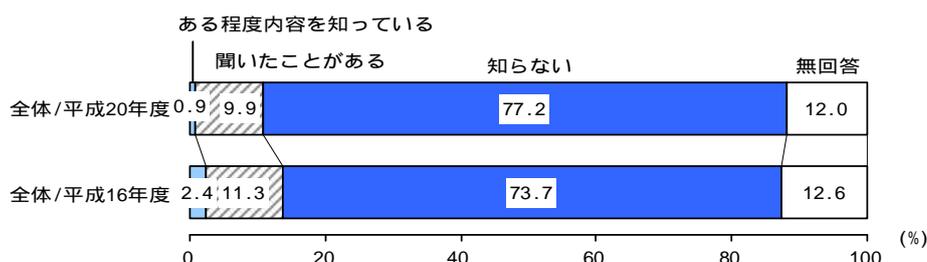
【概要】

大阪市の男女共同参画関連施策について、全ての項目において『知らない』の割合が過半数を超えている。“認知している”(『ある程度内容を知っている』『聞いたことがある』の計)の割合は、「(4)クレオ大阪」が28.8%と最も高く、次いで、「(1)大阪市男女共同参画推進条例」20.0%となっている。

(1) 大阪市男女共同参画推進条例



(2) 大阪市男女きらめき計画(大阪市男女共同参画基本計画)

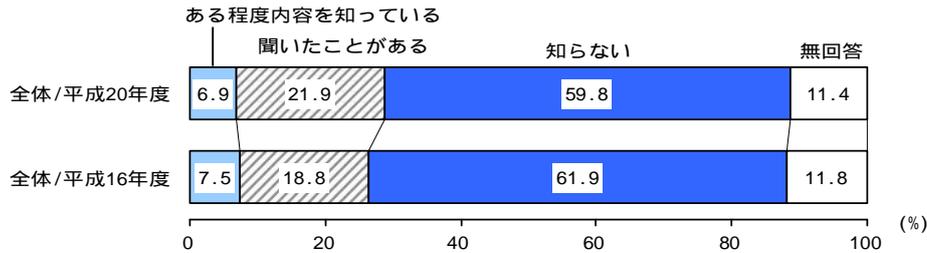


(3) 大阪市男女共同参画施策苦情処理制度

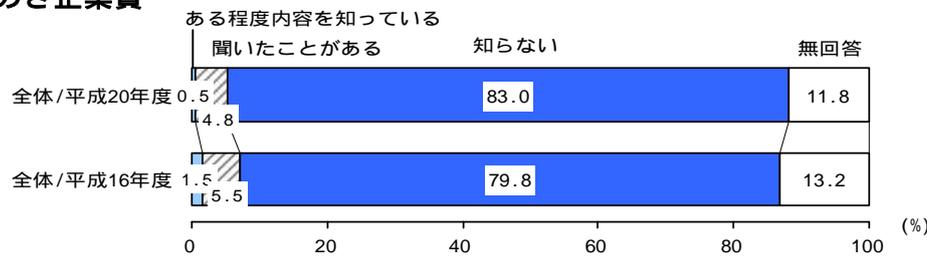


(4) クレオ大阪

【平成20年度全体数：1,110】



(5) きらめき企業賞



【経年比較】

過去調査と比較して、“認知している”割合が、平成16年度より減少した項目は、「(2) 大阪市男女きらめき計画」で2.9ポイント、「(5) きらめき企業賞」で1.7ポイント減少している。増加したのは、「(1) 大阪市男女共同参画推進条例」で2.8ポイント、「(4) クレオ大阪」で2.5ポイント、「(3) 大阪市男女共同参画施策苦情処理制度」で0.5ポイント増加している。

【性・年代別 問22】

(1) 大阪市男女共同参画推進条例

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知あつてい る程度 内容を ある	聞 いた こと がある	知 ら な い	無 回 答
女	20歳代	72	2	10	59	1
	30歳代	114	2	14	93	5
	40歳代	94	3	16	74	1
	50歳代	113	6	23	72	9
	60歳代	116	4	23	75	14
	70歳以上	103	2	15	60	26
	全体	100.0	1.9	14.6	58.3	25.2
男	20歳代	46	2	9	31	4
	30歳代	64	-	10	51	3
	40歳代	54	-	15.6	79.7	4.7
	50歳代	79	4	11	58	6
	60歳代	76	2	14	50	10
	70歳以上	82	4	22	42	14
	全体	100.0	4.9	26.8	51.2	17.1

(2) 大阪市男女きらめき計画

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知あつてい る程度 内容を ある	聞 いた こと がある	知 ら な い	無 回 答
女	20歳代	72	-	9	62	1
	30歳代	114	1	6	101	6
	40歳代	94	-	5	88	1
	50歳代	113	1	14	88	10
	60歳代	116	3	14	85	14
	70歳以上	103	-	8.7	60	34
	全体	100.0	10.9	12.1	73.3	12.1
男	20歳代	46	-	5	37	4
	30歳代	64	-	6	55	3
	40歳代	54	-	4	50	-
	50歳代	79	-	5	67	7
	60歳代	76	-	6.3	84.8	8.9
	70歳以上	82	3	13	49	17
	全体	100.0	3.7	15.9	59.8	20.7

(3) 大阪市男女共同参画施策苦情処理制度

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知あつてい る程度 内容を ある	聞 いた こと がある	知 ら な い	無 回 答
女	20歳代	72	-	3	68	1
	30歳代	114	1	5	103	5
	40歳代	94	-	7	86	1
	50歳代	113	1	10	92	10
	60歳代	116	2	13	87	14
	70歳以上	103	1	11	60	31
	全体	100.0	1.0	10.7	58.3	30.1
男	20歳代	46	1	2	39	4
	30歳代	64	-	3	59	2
	40歳代	54	-	4.7	92.2	3.1
	50歳代	79	-	5.6	94.4	-
	60歳代	76	-	4	69	6
	70歳以上	82	-	5.1	87.3	7.6
	全体	100.0	-	7.9	77.6	14.5

(4) クレオ大阪

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知あつてい る程度 内容を ある	聞 いた こと がある	知 ら な い	無 回 答
女	20歳代	72	2	14	56	-
	30歳代	114	11	33	65	5
	40歳代	94	10	27	56	1
	50歳代	113	18	32	54	9
	60歳代	116	7	24	72	13
	70歳以上	103	7	20	44	32
	全体	100.0	6.8	19.4	42.7	31.1
男	20歳代	46	2	10	30	4
	30歳代	64	4	11	46	3
	40歳代	54	1	13	40	-
	50歳代	79	6	14	53	6
	60歳代	76	1	19	44	12
	70歳以上	82	3	25.0	57.9	15.8
	全体	100.0	3.7	17.1	59.8	19.5

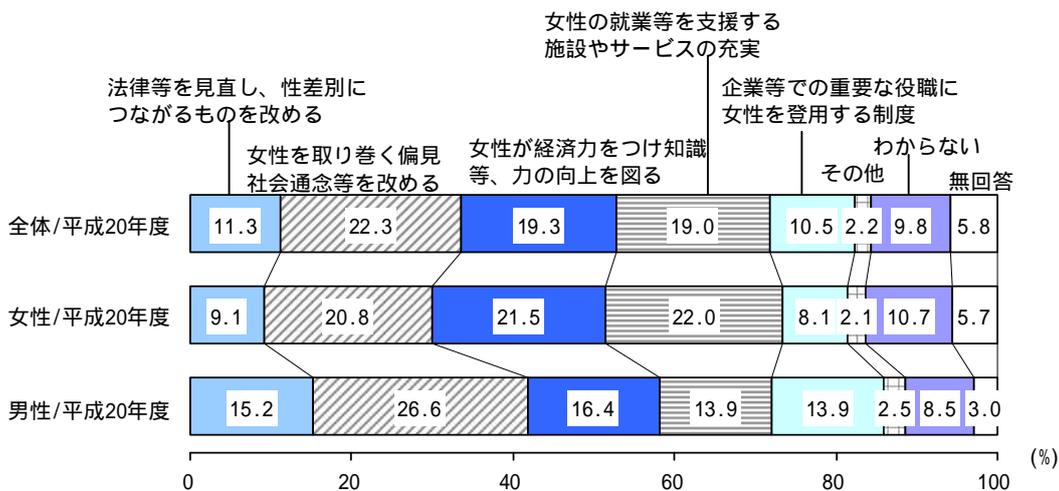
(5) きらめき企業賞

性	年代	調査数	上段：件数、下段：%			
			知あつてい る程度 内容を ある	聞 いた こと がある	知 ら な い	無 回 答
女	20歳代	72	-	2	69	1
	30歳代	114	1	1	107	5
	40歳代	94	-	5	88	1
	50歳代	113	1	7	96	9
	60歳代	116	-	6.2	85.0	8.0
	70歳以上	103	-	7	93	16
	全体	100.0	-	6.0	80.2	13.8
男	20歳代	46	-	1	41	4
	30歳代	64	-	2.2	89.1	8.7
	40歳代	54	-	6	56	2
	50歳代	79	-	9.4	87.5	3.1
	60歳代	76	-	2	52	-
	70歳以上	82	2	3.7	96.3	-
	全体	100.0	1.3	3.8	87.3	7.6

男女平等の推進のために最も必要だと思うこと

問10 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も必要と思うものを選んでください。(は1つだけ)

【全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】『女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、習慣・しきたりを改めること』の割合が22.3%と最も高く、次いで『女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること』19.3%、『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』19.0%の順で高くなっている。

【性別】性別にみると、女性では『女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること』の割合が22.0%と最も高く、男性よりも8.1ポイント高くなっている。男性では『女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、習慣・しきたりを改めること』が26.6%と最も高く、女性よりも、5.8ポイント高くなっている。

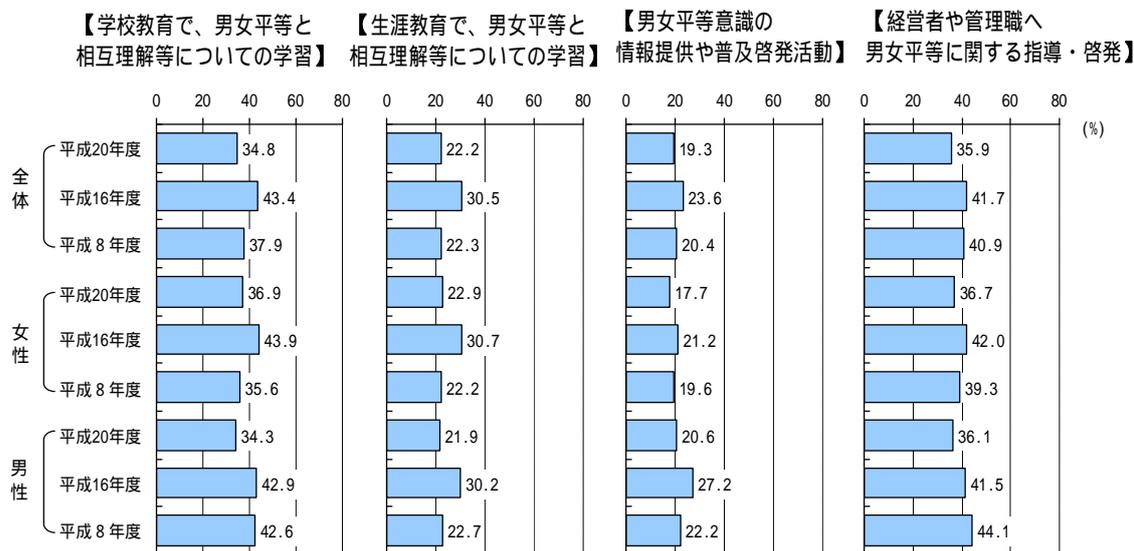
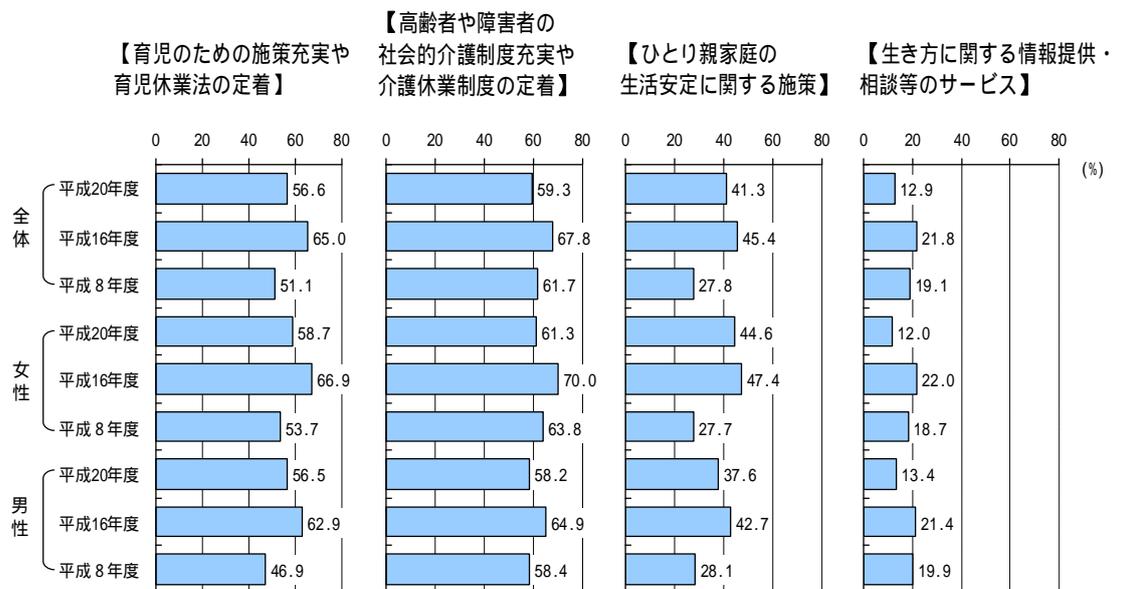
【性・年代、性・職業別 問10】

性別	調査数	上段：件数、下段：%								
		法律等を見直し、性差別につながるものを改める	女性を取り巻く偏見、社会通念等を改める	女性が経済力をつけ知識等、力の向上を図る	女性の就業等を支援する施設やサービスの充実	企業等での重要な役割に女性を登用する制度	わからない	その他	無回答	
女	20歳代	72	9	15	13	18	4	2	9	2
		100.0	12.5	20.8	18.1	25.0	5.6	2.8	12.5	2.8
	30歳代	114	13	31	19	29	12	1	5	4
		100.0	11.4	27.2	16.7	25.4	10.5	0.9	4.4	3.5
	40歳代	94	8	17	20	25	12	3	5	4
	100.0	8.5	18.1	21.3	26.6	12.8	3.2	5.3	4.3	
男	20歳代	113	14	25	29	25	4	4	5	7
		100.0	12.4	22.1	25.7	22.1	3.5	3.5	4.4	6.2
	30歳代	116	5	24	29	24	8	2	17	7
		100.0	4.3	20.7	25.0	20.7	6.9	1.7	14.7	6.0
	40歳代	103	7	16	22	13	8	1	25	11
	100.0	6.8	15.5	21.4	12.6	7.8	1.0	24.3	10.7	
女	20歳代	46	6	13	8	7	6	2	4	2
		100.0	13.0	28.3	17.4	15.2	13.0	4.3	8.7	-
	30歳代	64	12	23	6	11	4	-	6	2
		100.0	18.8	35.9	9.4	17.2	6.3	-	9.4	3.1
	40歳代	54	10	13	8	8	5	-	7	3
	100.0	18.5	24.1	14.8	14.8	9.3	-	13.0	5.6	
男	20歳代	79	12	20	9	13	13	4	6	2
		100.0	15.2	25.3	11.4	16.5	16.5	5.1	7.6	2.5
	30歳代	76	9	19	16	10	12	3	3	4
		100.0	11.8	25.0	21.1	13.2	15.8	3.9	3.9	5.3
	40歳代	82	12	18	19	7	16	1	8	1
	100.0	14.6	22.0	23.2	8.5	19.5	1.2	9.8	1.2	

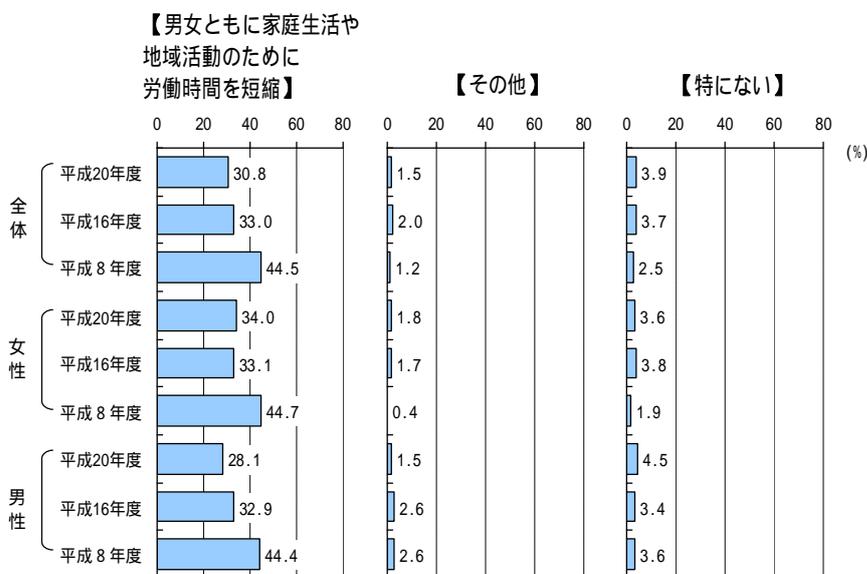
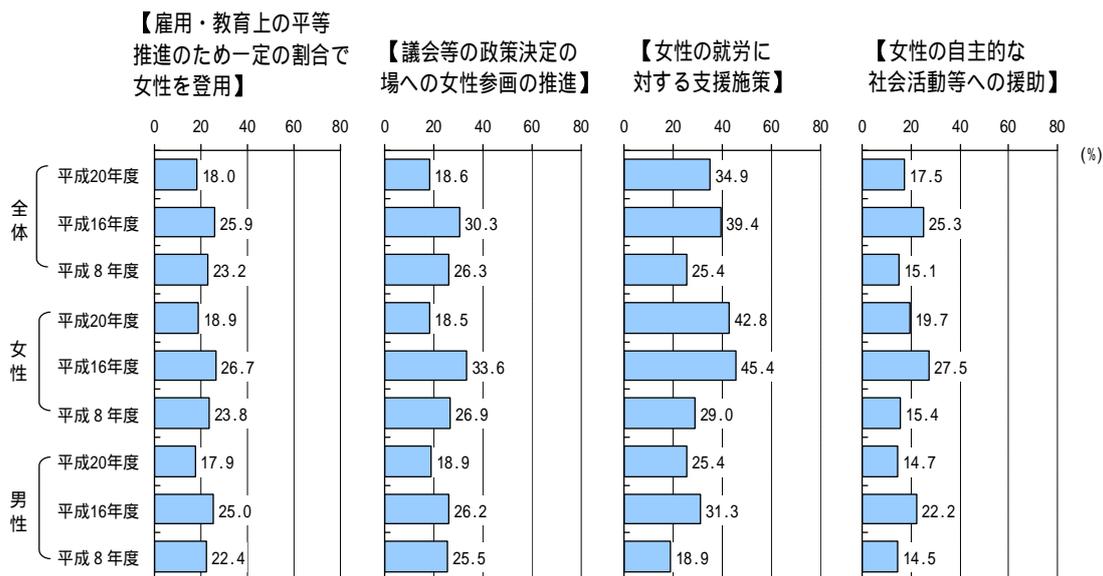
性別	調査数	上段：件数、下段：%								
		法律等を見直し、性差別につながるものを改める	女性を取り巻く偏見、社会通念等を改める	女性が経済力をつけ知識等、力の向上を図る	女性の就業等を支援する施設やサービスの充実	企業等での重要な役割に女性を登用する制度	わからない	その他	無回答	
女	就業者全体	336	27	76	76	74	33	9	27	14
		100.0	8.0	22.6	22.6	22.0	9.8	2.7	8.0	4.2
	正規雇用	130	11	31	25	33	16	1	7	6
		100.0	8.5	23.8	19.2	25.4	12.3	0.8	5.4	4.6
	非正規雇用	122	11	32	24	31	10	4	8	2
		100.0	9.0	26.2	19.7	25.4	8.2	3.3	6.6	1.6
	自営業・内職等	84	5	13	27	10	7	4	12	6
		100.0	6.0	15.5	32.1	11.9	8.3	4.8	14.3	7.1
	非就業者全体	257	27	49	50	58	15	4	36	18
		100.0	10.5	19.1	19.5	22.6	5.8	1.6	14.0	7.0
男	家事専業	162	18	30	27	42	12	3	18	12
		100.0	11.1	18.5	16.7	25.9	7.4	1.9	11.1	7.4
	学生	6	-	3	2	1	-	-	-	-
		100.0	-	50.0	33.3	16.7	-	-	-	-
	無職	73	6	15	16	12	3	1	16	4
		100.0	8.2	20.5	21.9	16.4	4.1	1.4	21.9	5.5
	その他	16	3	1	5	3	-	-	2	2
		100.0	18.8	6.3	31.3	18.8	-	-	12.5	12.5
	就業者全体	293	42	87	44	44	37	7	24	8
		100.0	14.3	29.7	15.0	15.0	12.6	2.4	8.2	2.7
正規雇用	169	24	47	22	28	21	6	16	5	
	100.0	14.2	27.8	13.0	16.6	12.4	3.6	9.5	3.0	
非正規雇用	25	3	10	3	3	3	-	2	1	
	100.0	12.0	40.0	12.0	12.0	12.0	-	8.0	4.0	
自営業・内職等	99	15	30	19	13	13	1	6	2	
	100.0	15.2	30.3	19.2	13.1	13.1	1.0	6.1	2.0	
非就業者全体	105	17	20	22	12	18	3	9	4	
	100.0	16.2	19.0	21.0	11.4	17.1	2.9	8.6	3.8	
家事専業	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	
学生	8	1	4	1	-	1	-	1	-	
	100.0	12.5	50.0	12.5	-	12.5	-	12.5	-	
無職	90	15	15	19	12	15	2	8	4	
	100.0	16.7	16.7	21.1	13.3	16.7	2.2	8.9	4.4	
その他	6	1	2	1	2	2	1	-	-	
	100.0	16.7	-	33.3	-	33.3	16.7	-	-	

男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策

問23 男女共同参画社会の実現に向けて、国・府・市などの行政機関は何をするべきだと思いますか。力を入れるべきと思うものを選んでください。(はいくつでも)
 【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【平成20年度 全体数：1,110、女性数：615、男性数：402】



【概要】

『高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着』が59.3%と最も高く、次いで『育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着』56.6%、『ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策』41.3%の順に高くなっている。

【経年比較】

過去調査と比較すると、項目の順位は大きく変化がないものの、全ての項目で、平成16年度の割合よりも減少しており、特に『議会や各種審議会等の政策決定の場への女性の参画の推進』で11.7ポイント、『女性・男性の生き方に関する情報提供・相談等のサービス』で8.9ポイント、『学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習』で8.6ポイント減少している。また、『男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮』の割合は年々減少しており、平成8年度より13.7ポイント減少している。一方、『ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策』は、平成8年度より13.5ポイント増加している。

(7) 自由回答意見

回答者全体の23.4%から、合計314件の意見の記入があった。主な記入内容として、「男女共同参画、男女平等に関する意識」(68件)、「子育て・教育」(52件)、「就労・雇用、社会参画」(49件)、「男女共同参画の実現に向けて」(48件)などに関する意見が寄せられている。

	合計	女性計			男性計			不明		
		20~39歳	40~59歳	60歳以上	20~39歳	40~59歳	60歳以上			
記述意見数	314	166	68	60	38	121	36	37	48	27
男女共同参画、男女平等に関する意識	68	41	16	12	13	24	9	8	7	3
性別、性別役割分担・分業について	28	17	4	4	9	10	2	4	4	1
男女平等、男女共同参画社会の実現は難しい	5	2	1	1	0	3	2	1	0	0
女性への優遇・特権について	5	2	2	0	0	3	1	1	1	0
男性中心の意識が強い	5	3	2	0	1	1	1	0	0	1
社会通念やしきたり、慣習を変えるべき	4	2	1	1	0	2	2	0	0	0
男女ともに意識変革を	4	2	0	1	1	1	0	1	0	1
社会通念やしきたり、慣習は変えなくても良い	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0
今のままでいい	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0
女性の意識変革を	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0
中高年以上の意識改革を	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
個人の自立を	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0
男女共同参画の取組、施策内容がわからない	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
その他	5	4	2	2	0	1	0	1	0	0
就労・雇用、社会参画	49	30	18	10	2	15	6	3	6	4
労働条件、職場環境について	12	6	4	2	0	5	2	1	2	1
家庭生活との両立しやすい環境づくりを	9	6	4	1	1	1	1	0	0	2
女性の登用、就労機会の拡大を	7	5	3	2	0	1	0	0	1	1
男性の労働条件の改善を(家庭参画のための)	6	5	4	1	0	1	1	0	0	0
職場にある男女差別、性別不平等について	5	4	1	3	0	1	0	1	0	0
雇用に関して(男女とも)	4	3	1	1	1	1	1	0	0	0
行政による企業の指導を	2	1	1	0	0	1	0	0	1	0
政界への女性の進出について	2	0	0	0	0	2	0	1	1	0
その他	2	0	0	0	0	2	1	0	1	0
人権について	6	4	0	2	2	1	0	1	0	1
差別について	4	3	0	1	2	1	0	1	0	0
人権そのものについて	2	1	0	1	0	0	0	0	0	1
子育て・教育	52	27	14	8	5	21	5	7	9	4
保育・子育て支援施策の充実を	10	6	4	1	1	3	0	2	1	1
教育問題・教育の充実を	10	1	0	0	1	7	1	3	3	2
男女平等の強調より、違いを認め思いやる教育を	8	3	2	1	0	5	3	1	1	0
子育てしやすい社会環境づくりを	6	5	4	1	0	0	0	0	0	1
父子・母子家庭への支援施策への充実を	6	3	1	1	1	3	0	1	2	0
家庭・学校・社会での男女共同参画教育を	4	2	1	0	1	2	0	0	2	0
子育てと仕事の両立に関して	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0
男性への子育てに対する啓発を	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0
子育ての重要性について	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0
その他	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0
男女共同参画の実現に向けて	48	25	8	11	6	19	8	4	7	4
メディアの活用や広報活動	11	7	2	5	0	4	2	1	1	0
高齢者や障害者の社会的介護制度の充実	10	5	1	2	2	3	0	0	3	2
互いに思いやり尊重しあう社会に	5	3	0	2	1	0	0	0	0	2
相談体制の充実を	4	2	2	0	0	2	1	0	1	0
幅広く意見を聞くことが必要	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0
情報提供体制の充実を	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0
法整備、対策の充実を	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0
男女平等について啓発活動を	2	0	0	0	0	2	1	0	1	0
社会活動について	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0
その他	7	4	2	1	1	3	0	2	1	0
その他	91	39	12	17	10	41	8	14	19	11
アンケートに関するもの	12	5	4	1	0	4	0	2	2	3
男女共同参画社会よりも解決すべき問題がある	9	2	1	1	0	6	2	2	2	1
税金について	8	3	2	1	0	3	1	1	1	2
行政に期待していない・できない	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0
実際の現状について	2	1	0	0	1	1	0	0	1	0
その他行政に対する意見	53	24	4	11	9	25	5	9	11	4
その他	5	2	0	2	0	2	0	0	2	1

補完調査

平成20年度 男女共同参画に関する市民意識調査にかかる
20～30代のWebアンケート調査

調査の概要

(1) 調査のあらまし

調査の目的

平成16年度の市民意識調査において、20代30代の若年者層の調査票の回収率、回収数ともに、他の年齢層より低いものであったため、今回は確実なサンプルの回収ができるWebアンケートによる補完調査を実施する。

なお、市民意識調査の設問を基本としながら、昨今の社会情勢を考慮して「余暇の過ごし方」「不安や悩み」「仕事に対する意識」等の設問を追加し、あまり関心が高くないと考えられる「健康」「介護」等の設問を除いた内容とした。

調査の方法

調査対象	20代から30代の大阪市民629人（外国籍住民含まない）
調査方法	Webアンケート調査
調査期間	平成20年（2008年）10月24日～10月29日
調査内容 （概要）	<ul style="list-style-type: none"> ・男女平等に関する意識と実態 ・日常生活での性別役割分担 ・子どもの教育に関する意識 ・男女間の暴力に関する意識と実態 ・男女共同参画社会の実現に向けて ・仕事や余暇の状況について
実施機関	財団法人 大阪市女性協会

回収サンプル数

	男性	女性	合計
20代前半	77	75	152
20代後半	75	82	157
30代前半	81	81	162
30代後半	78	80	158
合計	311	318	629

本資料の見方

アンケート調査結果における各設問の母数n（Number of caseの略）は、設問に対する有効回答者数を意味する。

各選択肢の構成比（%）は小数点第2位以下を四捨五入している。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合がある。

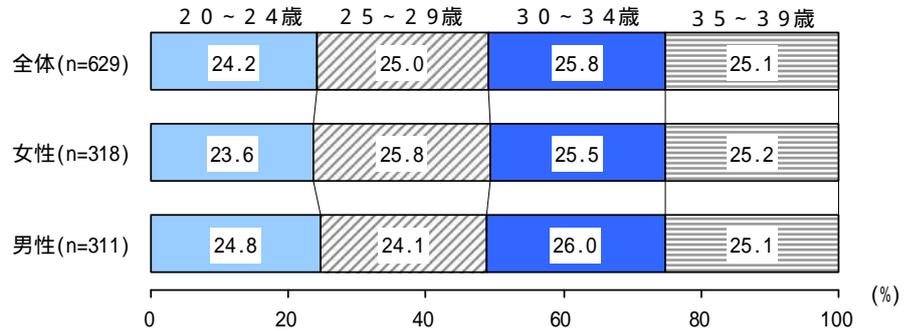
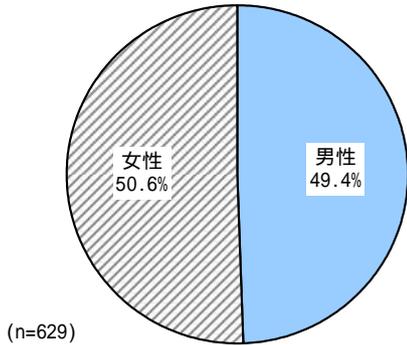
複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合がある。

グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%である。

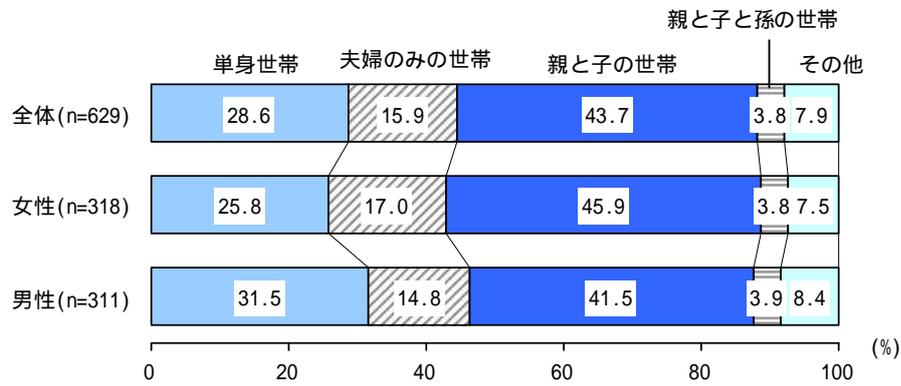
(2) 回答者のプロフィール

性別

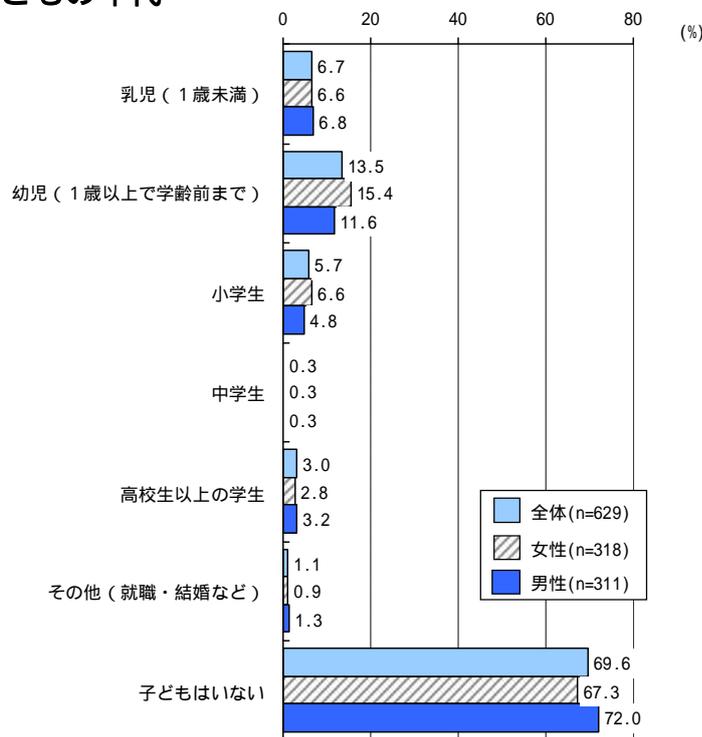
年齢



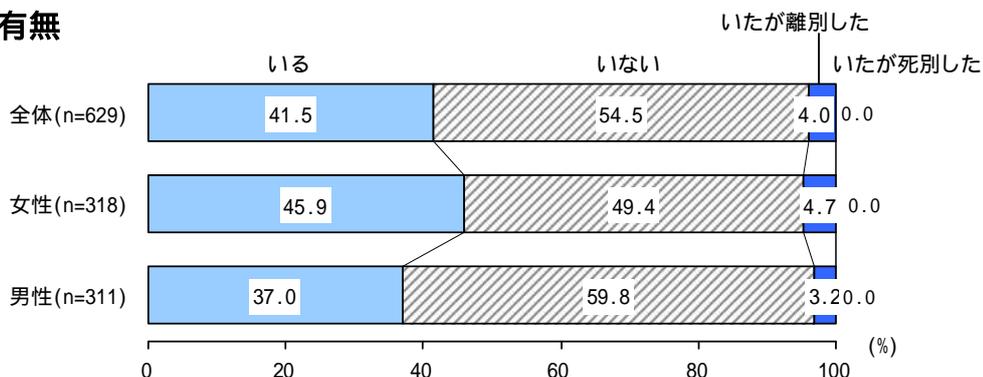
家族形態



一番下の子どもの年代

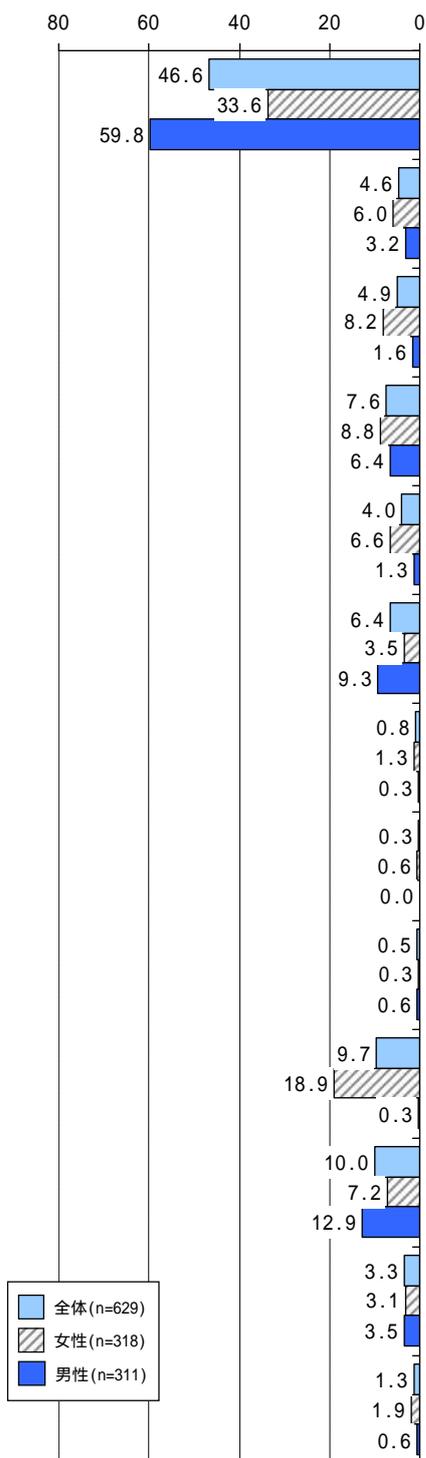


配偶者の有無

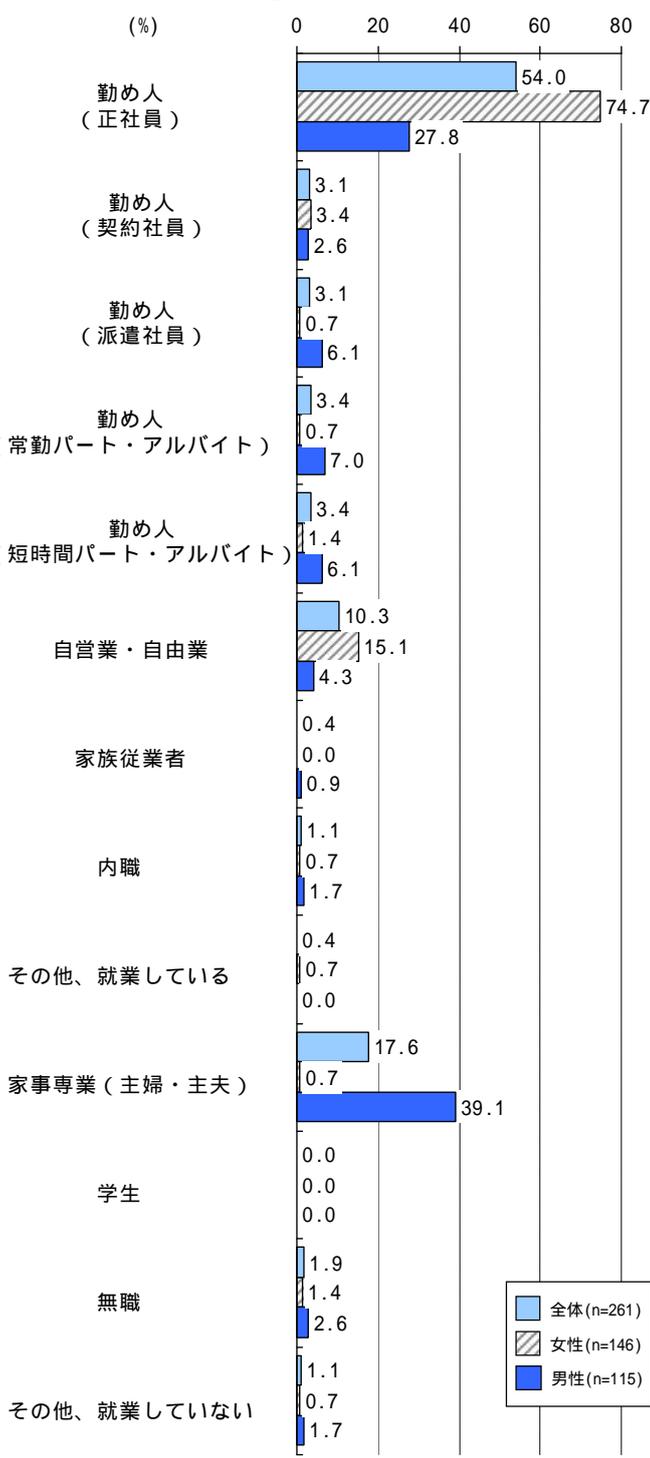


就労状況等

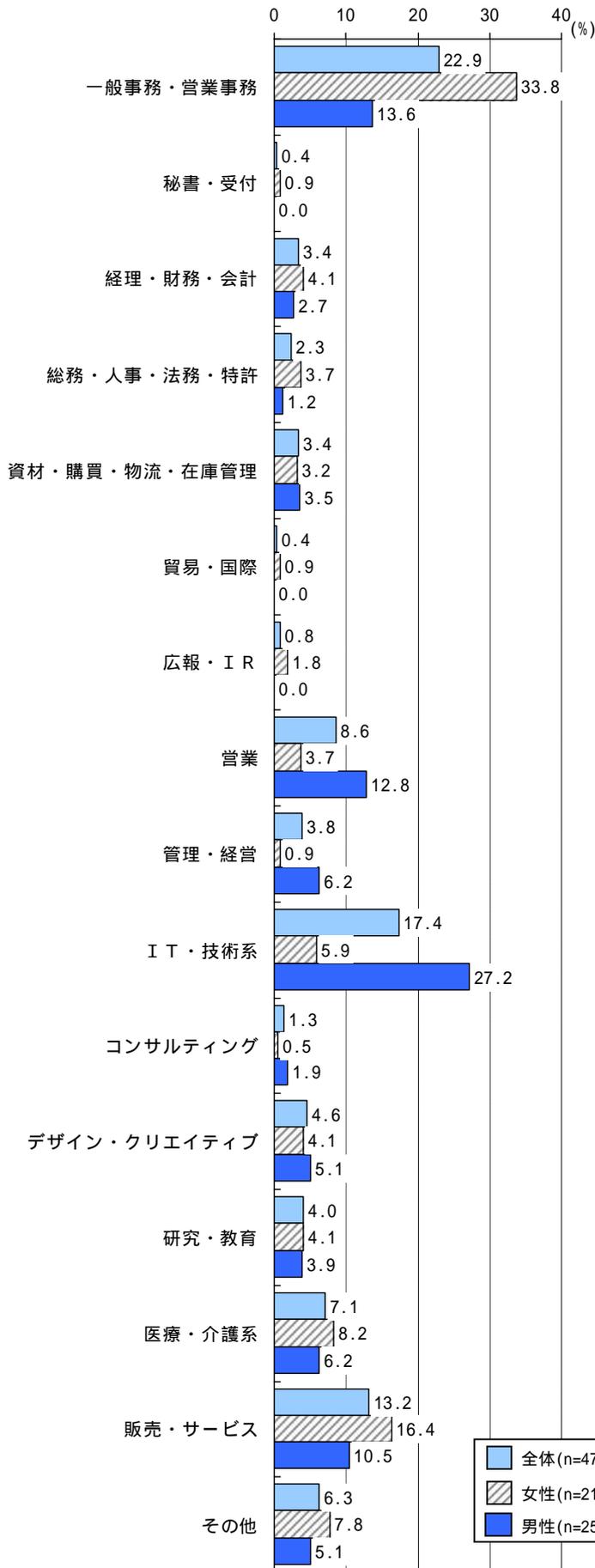
・ 本人の職業



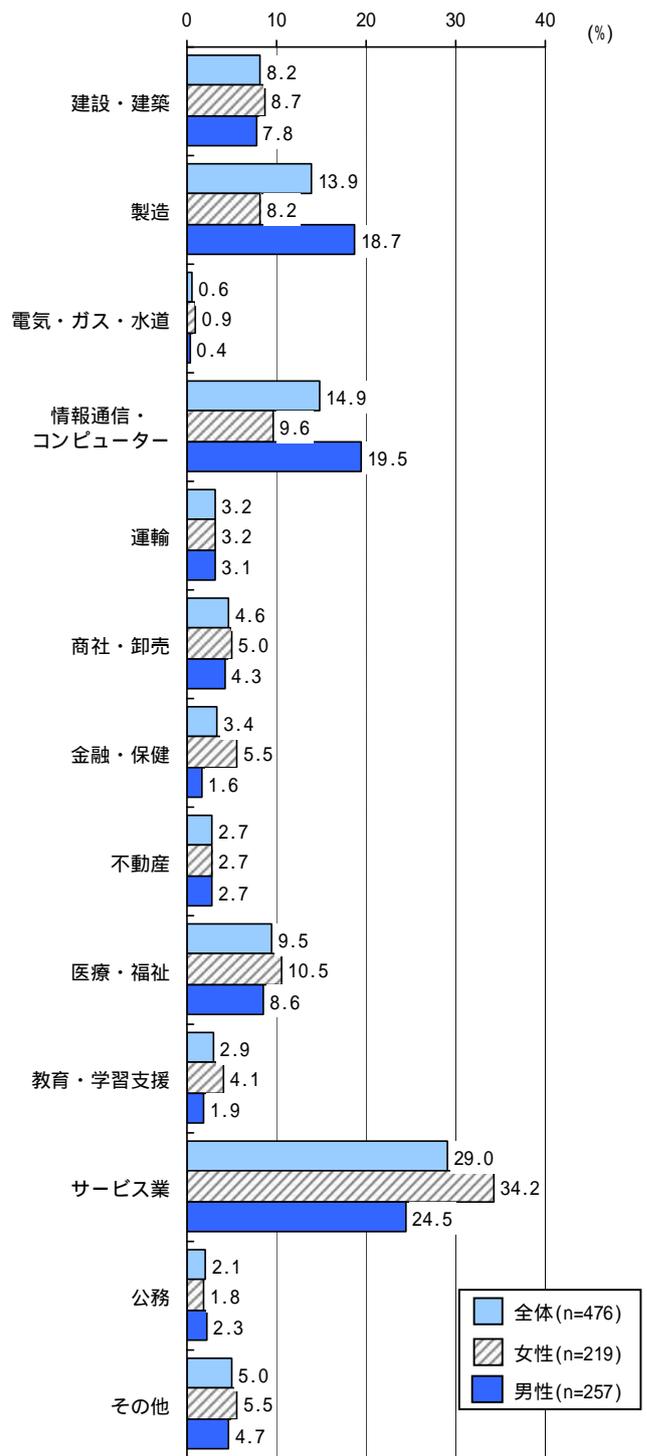
・ 配偶者の職業



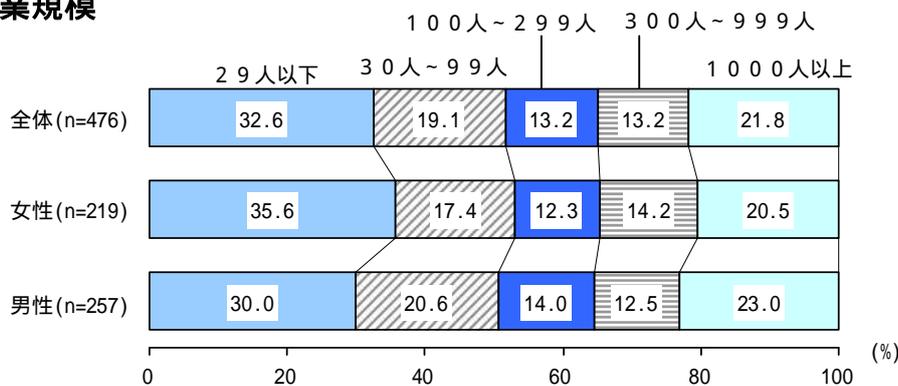
・職種



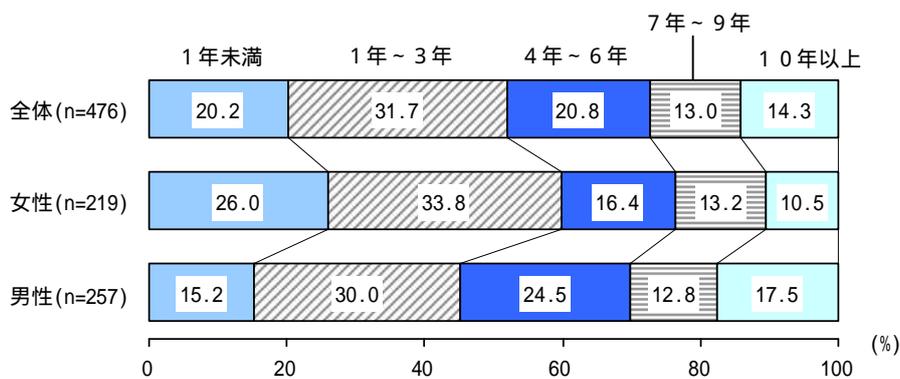
・業種



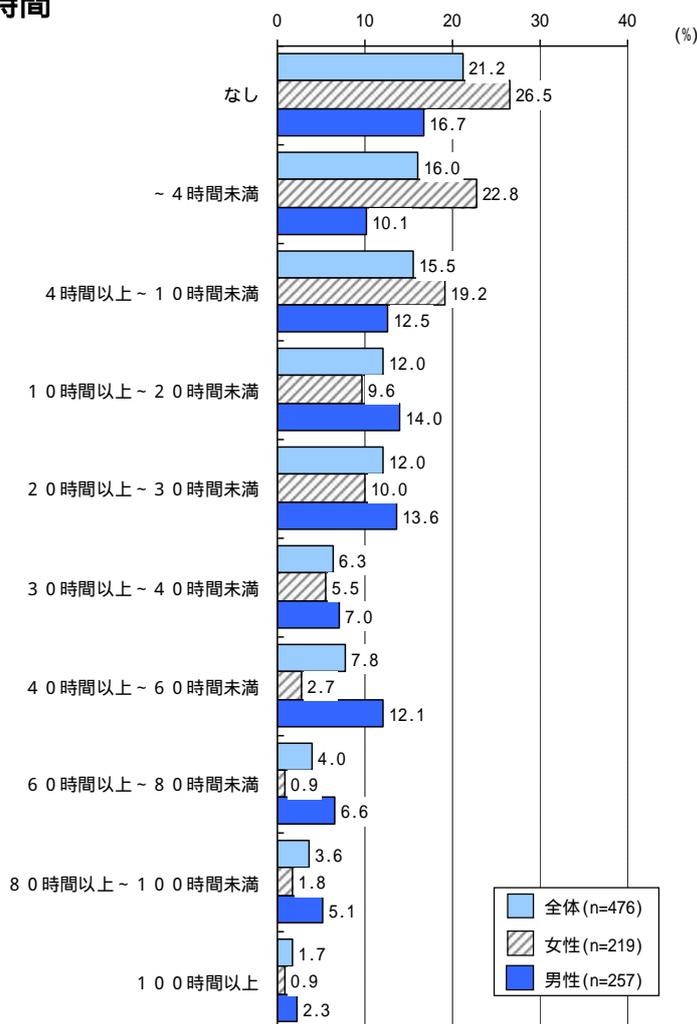
・ 職場の企業規模



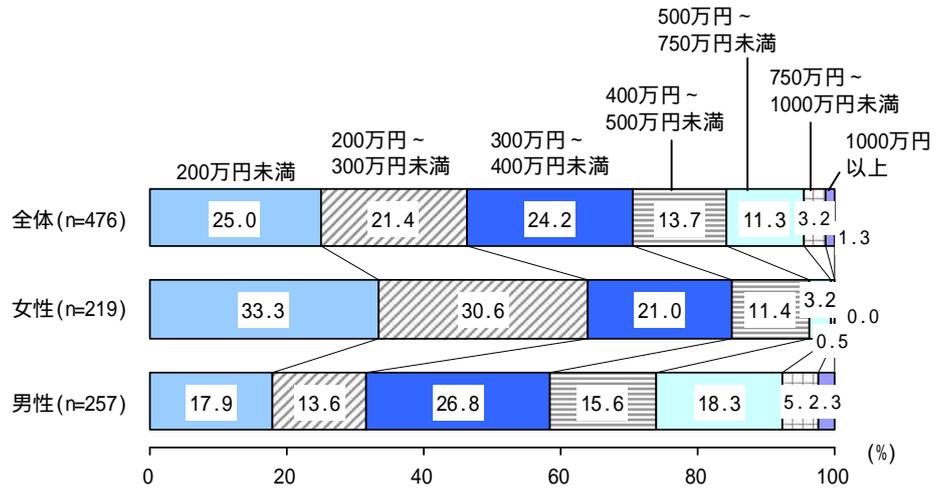
・ 勤続年数



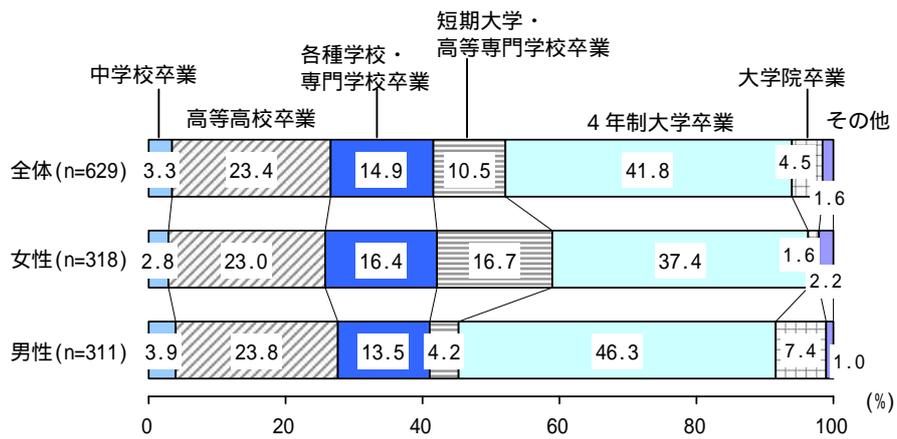
・ 平均的な残業時間



・年収



・最終学歴



(3) 結果の概要

記号の説明

「 」が付いているものは、市民意識調査と同じ設問項目

“...” 二重引用符は、2つの選択肢を総合したことを表す

『そう思う』+『ある程度そう思う』 “同感する”

『そう思わない』+『あまりそう思わない』 “同感しない”

『非常に満足』+『満足』 “満足”

『非常に不満』+『不満』 “不満”

『男性が非常に優遇されている』+『どちらかといえば男性が優遇されている』 “男性優遇”

『ある程度内容を知っている』+『聞いたことがある』 “認知している”

男女平等共同参画に関する意識

【男女共同参画に関する考え方】(問3)

- ・ 「性別にとらわれない生き方」(「性別にとらわれず個人を尊重し、一人ひとりが納得のいく生き方をする」)については、女性94.4%、男性85.5%と男女とも“同感する”と答えた人が8割以上を占めるが、男女間で8.9ポイントの差がみられる。
- ・ 「性別による固定的な役割分担」(「男は仕事、女は家庭を中心にする」)については、男女とも“同感しない”と回答した人が57.9%と性別による差はない。「男性は家族を養う義務がある」74.9%、「子どもが小さい間は、母親は育児に専念する」70.7%と7割以上が“同感する”回答している。
- ・ また、特に男女間で考え方に差がみられた項目は以下の項目である。

女性の方が肯定的な意見が多かったもの

- ・ 「結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい」(女性の方が16.2ポイント高い)
- ・ 「夫婦が別々の姓を名乗ることを認める」(女性の方が15.8ポイント高い)
- ・ 「男女ともに仕事をもち経済的に自立する」(女性の方が15.3ポイント高い)
- ・ 「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」(女性の方が14.7ポイント高い)

男性の方が肯定的な意見が多かったもの

- ・ 「女の子は『女らしく』、男の子は『男らしく』育てる」(男性の方が12.6ポイント高い)

【社会、生活における男女平等の浸透】(問1)

- ・ すべての項目で、「女性よりも男性の方が優遇されている」とする回答が多く、特に、“男性優遇”とする意見が過半数を超えるものは、「政治の場で」「社会通念・慣習・しきたりなどで」「社会全体として」「職場で」となっている。
- ・ “男性優遇”よりも、「平等である」とする意見の方が多かった項目は、「学校教育の場で」と「地域活動・社会活動の場で」である。
- ・ 女性では“男性優遇”、男性では「平等」と答える割合が高い。また、就業の有無別にみると、全般的に就業者の方が“男性優遇”答える割合が高い傾向がみられる。

仕事と生活の調和に関する意識と実態

【好ましい生き方と現状の生き方】(問6、問7)

- ・「好ましい生き方」として、「仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる」が女性で48.7%、男性で33.8%と、男女とも最も多くなっているが、「現状の生き方」として最も多いのは、「結婚せずに仕事や趣味に専念する」で、45.9%、男性45.0%となっている。
- ・女性では「仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させる」は、「好ましい生き方」は29.9%であるが、「現状の生き方」は16.0%となっている。逆に「生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念している」については、「現状の生き方」は19.2%である、「好ましい生き方」は11.3%となっている。
- ・男性では、「仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させる」は、「現状の生き方」では10.6%であるが、「好ましい生き方」は21.9%となっている。一方、「家事も尊重するが仕事を優先させる」は「好ましい生き方」では21.2%、「現状の生き方」では19.0%と差はない。

【仕事への満足感・不満足感、生活全般への不安】(問24、問25、問26、問11)

- ・「現在の仕事への満足度」については、「普通」という回答が女性38.4%、男性41.6%と約4割、“満足”という回答が女性32.9%、男性33.9%と3割強、“不満”とする回答が女性28.8%、男性24.5%となっている。「満足している点」、「不満に感じる点」には性別による差がみられる。また、性年代別でみると、20歳代前半の男性で“満足”という回答が42.1%と最も高くなっている。
- ・「満足している点」については、「仕事にやりがいがある」という回答が、男女とも最も高くなっているが、男性75.9%、女性48.6%と、男性は7割を超えている。一方、女性では、「残業がほとんどない」「休暇がとりやすい」「給料や待遇がよい」「産休育児休暇が取りやすい」に「満足している」という回答が、男性よりも10ポイント以上高くなっており、就労環境に関して満足している意見が目立っている。
- ・「不満に感じる点」については、男性では「将来像が描けない」が79.4%で最も高く、女性では「給料や待遇」が65.1%で最も高い。その他、男性については「残業が多い」「昇給等が見込めない」が女性よりも14ポイント以上高く、女性では「職場の人間関係」が男性よりも6.3ポイント高くなっている。
- ・「生活全般への不安や悩み」については、「将来」が女性56.0%、男性50.5%と男女とも過半数を占め最も高い。また男性よりも女性の方が、「美容・容姿」で15.3ポイント、「子ども」で10.4ポイント、「親」で8.4ポイントと不安に感じる割合が高く、男性では、「特に不安がない」という意見が、女性より8.9ポイント高くなっている。

【休日や余暇の使い方】(問33、問10群)

- ・「休日やオフの過ごし方」については、「趣味や遊び」という回答が女性81.3%、男性77.8%と男女とも約8割を占めるが、女性では、「家事」も50.2%と過半数を占めており、男性よりも28.4ポイント高くなっている。

- ・「余暇の過ごし方」については、「パソコン」が女性71.4%、男性71.7%と7割以上を占め最も高く、「特に何もしていない」が女性13.8%、男性15.1%となっている。過ごし方については男女間で差はみられないが、「余暇を過ごす理由」「特に何もしていない理由」については、性別による差がみられる。
- ・「余暇を過ごす理由」については、女性では「興味があるから」が62.0%と最も高くなっているのに対して、男性では「ストレス解消のため」が49.2%と最も高い。
- ・「特に何もしていない理由」については、女性では「経済的な余裕がない」の割合が男性よりも15.0ポイント高くなっており、男性では「参加したい活動がない」が女性よりも5.2ポイント高くなっている。

【日常生活での役割分担】(問2)

- ・「家具の移動、器具等の修理」を除く全ての項目で、「主に女性の役割」という回答が多くを占める。
- ・男女別にみると、女性では「主に女性の役割」と回答し、男性では「男女同じ程度である」という回答が多い傾向がみられ、男女により差がある。
- ・特に、「ごみ捨て」「自治会・町内会等への出席や近所づきあい」「子どもの世話やしつけ」「お年寄りや病人の介護」については、男性では、「男女同じ程度」という回答が一番多いが、女性では「主に女性の役割」という回答が一番多く、男女間で差がみられる。
- ・また、「食事の支度」「掃除」「洗濯」「日常の買い物」などを家族形態別にみみると、単身世帯者において、男女同じ程度とする回答が多いが、配偶者や親のいる世帯者では女性の役割とする回答が多くなる傾向がみられる。

【女性の就労に関する考え方】(問4)

- ・「女性の就労に関する考え方」について、「子どもができてても職業を続ける方がよい」34.5%、「子どもができたなら職業をやめ大きくなれば再び職業をもつ方がよい」33.7%がともに3割強となっている。
- ・性別にみると、女性の方で「子どもができてても職業を続ける方がよい」という回答が、男性よりも8.5ポイント高くなっており、特に女性の就業者で42.1%と高い割合となっている。

【男性の参画を進めるために必要なこと】(問8)

- ・「男性が育休等、取得しやすい環境整備」42.3%、「労働時間を短縮し休暇制度を普及させる」37.4%が多くなっている。性別にみると、女性では、男性よりも「男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす」で17.3ポイント、「配偶者・パートナー間で家庭での分担について十分に話し合う」で11.4ポイント高くなっており、男性では女性より「労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる」で8.2ポイント、「企業中心という社会全体の仕組みを改める」で7.1ポイント、高くなっている。

子どもの教育に関する意識

【子どもに受けさせたい教育】(問12)

- ・「短期大学・高等専門学校」については、男の子よりも、女の子に受けさせたいとする割合が5.9ポイント高くなっているが、それ以外の項目については、男の子と女の子で受けさせたい教育に差はみられない。
- ・女性の非就業者では、男の子73.1%、女の子69.9%と「4年制大学」を回答する割合が一番高くなっている。

【学校教育の場で推進すべきこと】(問13)

- ・「生活指導において、男女の別なく能力・個性を生かせるようにする」の割合が52.8%と過半数を占めて最も高く、次いで「生命尊重、男女平等の視点で、人間教育としての性教育を推進する」33.4%、「男女共同参画の視点から、職業体験やまちづくりへの参加など体験学習を進める」30.8%の順になっている。
- ・性別にみると、女性では「生活指導等において男女の別なく能力・個性を生かせるようにする」が58.8%と、男性よりも12.2ポイント高くなっている。

男女間における暴力に関する意識と実態

【女性に対する暴力行為を見聞きしたこと】(問14)

- ・「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が女性51.3%、男性43.1%と男女とも最も高い。
- ・女性の7.5%の回答者が「自分が直接経験している」としており、30歳代後半で10.0%と最も高い。また、20歳代前半の女性の5人に1人が「相談を受けたことはないが、当事者を知っている」と回答している。一方、男性では「見聞きしたことがない」が30.2%と、女性よりも13.5ポイント高い。

【DV防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度】(問15、問16)

- ・「配偶者からの暴力防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」については、回答者の90.3%が“認知”しており、「ある程度内容を知っている」人は36.6%となっている。
- ・「女性に対する暴力に関する相談機関・対応窓口」については、「警察署、交番」のみ「知っている」が過半数を超えて76.2%である。これ以外の全ての項目では、「知らない」が75.4%から87.9%となっており、「知っている」を上回っている。性別による差はみられない。

【女性に対する暴力の問題の解決に向けて】(問17)

- ・「犯罪としてもっと厳しく取り締まること」53.4%、「被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること」48.0%、「配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること」43.2%と上位を占めている。

- ・性別にみると、特に女性の方が男性よりも「被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること」で16.1ポイント、「加害者に対して必要なカウンセリングをおこなう施設があること」で15.8ポイント、「配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること」で14.9ポイント、高くなっている。

男女共同参画社会の実現に向けて

【女性も男性も暮らしやすいまちのイメージ】(問9)

- ・「犯罪や災害がなく安心して暮らせる」をあげる回答者が67.2%で最も多く、これに次いで、「子育てや教育の環境が整っている」56.9%、「買い物など、生活するうえで便利である」50.4%の順になっている。
- ・女性では、「家事や仕事等の両立支援環境が整っている」が54.7%と過半数を占め、男性よりも18.7ポイント高くなっており、「子育てや教育の環境が整っている」では、20歳代後半以降の女性で多く、30歳代前半の女性では7割を占めている。

【男女共同参画に関する用語の周知度】(問18)

- ・「セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)」77.9%、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」76.0%と「ある程度内容を知っている」が7割以上を占める。
- ・女性では「夫婦別姓」「育児・介護休業法および制度」「ドメスティック・バイオレンス」「セクシュアルハラスメント」等が男性よりも“認知度”が高く、男性では、「女子(性)差別撤廃条約」「男女共同参画社会基本法」「男女共同参画週間」などが女性よりも“認知度”が高い。

【大阪市男女共同参画関連施策の周知度】(問18)

- ・「大阪市男女共同参画推進条例」29.4%、「大阪市男女共同参画基本計画」16.9%が“認知”されている。また、性別にみると、「大阪市男女共同参画推進条例」では男性の方が7.4ポイント、女性よりも認知している割合が高くなっている
- ・「クレオ大阪」の“認知度”は40.4%であった。

【男女平等の推進のために最も必要だと思うこと】(問5)

- ・「女性を取り巻く様々な偏見・社会通念などを改める」ことを必要とする意見が26.4%で最も多く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設の充実」21.1%、「女性自身が経済力をつけ、知識等を学習するなど力の向上を図る」13.7%の順になっている。
- ・女性では「女性の経済力や知識をつけること」「女性の就業支援」が必要だと思う意見が男性よりも多く、男性では「法律等を見直すこと」が必要だと思う意見が女性よりも多くなっている。

【男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策】(問19)

- ・ 「育児のための施策充実や育児休業法の定着」が60.7%を占め最も高く、次いで「ひとり親家族の生活安定に関する施策」40.7%、「男女ともに家庭生活や地域活動のための労働時間を短縮」39.3%、の順に割合が高くなっている。
- ・ また、特に、女性の割合の方が高かったものは、「女性の就労に対する支援施策」で18.0ポイント、「高齢者や障害者の社会的介護制度充実や介護休業制度の定着」で10.7ポイント、「育児のための施策充実や育児休業法の定着」で9.5ポイントと男性よりも高くなっている。

(4) Webアンケート調査結果の考察

概要

郵送による市民意識調査(対象：20歳代以上男女)の補完調査としてWebアンケート調査(対象：20歳代～30歳代男女)を実施した。ここでの考察として、共通の設問部分について、20歳代～30歳代男女の調査結果を比較し、方法の異なる二つの調査における回答者の属性および回答傾向の差を明らかにする。

属性の比較

職業別には、男女とも郵送調査(以下、郵送)の回答者の方が、「正規雇用」の割合が高く、Webアンケート調査(以下、Web)の方が「非正規雇用」「学生」の割合が高い。

世帯状況別には、男女とも郵送の回答者の方が、「親と子の世帯」の割合が高く、Webの方が「単身世帯(ひとり暮らし)」の割合が高い。

配偶者の有無別には、男性の場合、郵送とWebの回答者に割合の差はほとんどないが、女性の場合、Webの方が「配偶者なし」の割合が高くなっている。

主な属性の比較	男性 (20歳代～30歳代)				女性 (20歳代～30歳代)			
	郵送調査		Web調査		郵送調査		Web調査	
総数	110	100.0%	311	100.0%	186	100.0%	318	100.0%
正規雇用	71	64.5%	186	59.8%	79	42.5%	107	33.6%
非正規雇用	9	8.2%	39	12.5%	46	24.7%	94	29.6%
自営業・内職等	16	14.5%	30	9.6%	3	1.6%	17	5.3%
家事専業	-	-	1	0.3%	40	21.5%	60	18.9%
学生	8	7.3%	40	12.9%	5	2.7%	23	7.2%
無職	4	3.6%	11	3.5%	6	3.2%	10	3.1%
その他	1	0.9%	4	1.3%	3	1.6%	7	2.2%
単身世帯(ひとり暮らし)	15	13.6%	98	31.5%	19	10.2%	82	25.8%
夫婦のみの世帯	12	10.9%	46	14.8%	31	16.7%	54	17.0%
親と子の世帯	68	61.8%	129	41.5%	111	59.7%	146	45.9%
親と子と孫の世帯	6	5.5%	12	3.9%	10	5.4%	12	3.8%
その他	8	7.3%	26	8.4%	14	7.5%	24	7.5%
配偶者あり	39	35.5%	115	37.0%	98	52.7%	146	45.9%
配偶者なし	69	62.7%	186	59.8%	77	41.4%	157	49.4%
いたが離別	-	-	10	3.2%	10	5.4%	15	4.7%

郵送調査とWebアンケート調査の比較からわかること

郵送調査とWebアンケート調査を概観すると全体の傾向としては、大きな差はみられなかった。

以下では、男女共同参画に関する設問の中から、特に回答の割合に差異がみられた設問について述べることとする。

(1) 男女共同参画に関する意識

「男女共同参画に関する意識」については、Webの方が「性別にとらわれない考え方」や「結婚観」について、郵送よりも肯定的な回答が高い。

また、「社会、生活における男女平等の浸透」については、女性では、郵送とWebの回答の割合に違いはないが、男性では“男性優遇”という回答が、Webの方が低くなっている。

「男女共同参画に関する意識」

“同感する”割合が、郵送よりもWebの方が高い上位3項目

回答	項目	郵送 < Web
女性	(3) 男女ともに仕事をもち経済的に自立する	67.8% < 76.1%
	(9) 夫婦が別々の姓を名乗ることを認める	45.2% < 56.3%
男女とも	(11) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	61.8% < 73.2%

“同感する”割合が、郵送よりもWebの方が低い上位3項目

回答	項目	郵送 > Web
女性	(8) 夫の転勤には、妻は自分の仕事をやめ、ついていく	44.7% > 36.1%
	(10) 夫婦は同じ墓に入る	65.4% > 54.6%
男性	(7) 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる	70.9% > 62.0%

「社会・生活における男女平等の浸透」

“男性優遇”の割合が、郵送よりもWebの方が高い項目

回答	項目	郵送 < Web
女性	(6) 法律や制度のうえで	46.3% < 51.8%
	(7) 社会通念・慣習・しきたり等で	76.3% < 83.9%

“男性優遇”の割合が、郵送よりもWebの方が低い上位3項目

回答	項目	郵送 > Web
男性	(4) 地域活動・社会活動の場で	30.0% > 18.7%
	(5) 政治の場で	73.6% > 62.0%
	(8) 社会全体として	59.1% > 48.5%

(2) 仕事と生活の調和に関する意識と実態

「ワーク・ライフ・バランス」について、好ましい生き方と現状の生き方について尋ねた質問では、女性ではWebの方が現状の生き方として、「結婚せずに仕事や趣味等に専念している」が多くなり、男性では、Webの方が、好ましい生き方として、「仕事に専念する」という回答が多い。Webの回答者の属性として非正規雇用者が多いことと関係があると考えられる。

「日常生活での役割分担」については、男性では郵送とWebで回答の割合に違いがあり、ほとんど全ての項目で、Webの方が「主に女性の役割」という回答が低く、「男女同じ程度」という回答が多くなっている。単身世帯者がWebの男性回答者に多いこ

とが要因だとも考えられる。女性についても、「日常の買い物」「食事の支度」等で「男女同じ程度」の割合が高くなっているものの、「子どもの世話」「お年寄り」等の介護といった「ケア」の部分では、郵送よりもWebの方が「女性の役割」という回答が多くなっている。

「好ましい生き方と現状の生き方」

好ましい生き方と現状の生き方について、郵送よりもWebの方が高い項目

	回答	項目	郵送 < Web
好ましい生き方	男性	家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念する	1.8% < 9.6%
現状の生き方	女性	結婚せずに、仕事や趣味、地域活動に専念している	37.6% < 45.9%
	男性	仕事も尊重するが、家事・育児や地域活動等を優先させている	4.5% < 10.6%

好ましい生き方と現状の生き方について、郵送よりもWebの方が低い項目

	回答	項目	郵送 > Web
好ましい生き方	男性	家事や地域活動等も尊重するが、あくまで仕事を優先させる	30.0% > 21.2%
現状の生き方	女性	仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる	55.9% > 48.7%
		家事や趣味、地域活動等も尊重するが、あくまで仕事を優先する	12.4% > 6.3%

「日常生活での役割分担」

男性の場合、全ての項目で『主に女性の役割』の割合が、郵送よりもWebの方が低く、「家具の移動、器具等の修理」を除くその他の項目では約8.0～22.0ポイントの差がある。

男性で、郵送よりWebの方が低い上位3項目

回答	項目	郵送 > Web
男性 『主に女性の役割』	(2) 食事の後かたづけ	67.3% > 45.0%
	(9) 家計の管理	68.2% > 46.9%
	(4) 洗濯	77.3% > 55.0%

女性で、郵送よりもWebの方が高い項目

回答	項目	郵送 < Web
女性 『男女同じ程度』	(1) 食事の支度	3.2% < 8.2%
	(6) 日常の買い物	12.9% < 20.1%
	(9) 家計の管理	11.8% < 17.0%

女性で、郵送よりもWebの方が低い項目

回答	項目	郵送 > Web
女性 『主に女性の役割』	(5) ごみ捨て	64.0% > 55.7%
女性 『男女同じ程度』	(10) 子どもの世話やしつけ	39.2% > 30.5%
	(11) お年寄りや病人の介護	26.9% > 19.8%

「女性の就労に関する考え方」

女性では「子どもの有無に関らず、仕事を継続した方がよい」という意見が、郵送よりもWebの方が多くなっている。男性では、郵送とWebで差はみられない。

郵送よりもWebの方が高い項目

回答	項目	郵送 < Web
女性	子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	26.3% < 38.7%
	子どもができたなら職業をやめ、後に再び職業をもつ方がよい	39.2% < 34.0%

「男性の参画を進めるために必要なこと」

郵送よりもWebの方が低い項目

回答	項目	郵送 > Web
男女とも	労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる	女性：43.5% > 女性：33.3% 男性：50.0% > 男性：41.5%
男性	男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす	男性：24.5% > 男性：14.8%

郵送とWebの上位3位。男女とも上位2位までは同じ項目

女性	郵送	Web
1位	男性が育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整備	
2位	労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる	
3位	男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす	配偶者・パートナー間で家庭での分担について十分に話し合う
男性	郵送	Web
1位	労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる	
2位	男性が育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整備	
3位	企業中心という社会全体の仕組みを改める	男女の役割分担についての社会通念や慣習を改める

(3)男女共同参画社会の実現に向けて

「男女共同参画に関する用語の周知度」

全ての項目で、郵送よりもWebの“周知”の割合の方が高く、全14項目におけるポイント差の平均は13.0ポイントとなっている。

“認知している”割合が、郵送よりもWebの方が高い項目

回答	項目	郵送 < Web
男性	男女共同参画社会基本法	36.4% < 59.5%
男女とも	ジェンダー	女性：35.0% < 女性：65.4% 男性：37.3% < 男性：62.4%

「大阪市男女共同参画関連施策の周知度」

全ての項目で、郵送よりもWebの“周知”の割合の方が高く、比較可能な全3項目におけるポイント差の平均は10.6ポイントとなっている。

“認知している”割合が、郵送よりもWebの方が高い項目

回答	項目	郵送 < Web
男女	大阪市男女共同参画推進条例	女性：15.1% < 女性：25.8% 男性：19.1% < 男性：33.2%
男性	クレオ大阪	24.6% < 38.3%

「男女平等の推進のために最も必要だと思うこと」

郵送とWebの割合に差はみられないが、男性において「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念等を改めること」の割合が、郵送よりもWebの方が6.3ポイント低くなっている(郵送32.7%、Web26.4%)。

「男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策」

多くの項目で、郵送よりWebの方が、ポイントが低くなっている。

郵送よりのWebの方が低い上位3項目

回答	項目	郵送 > Web
男女とも	高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着	女性：53.8% > 女性：38.4% 男性：50.0% > 男性：27.7%
男性	経営者や管理職を対象に雇用機会等、男女平等に関する指導・啓発	38.2% > 27.3%

郵送とWebの上位3位。女性では1位、男性では1位と3位が同じ項目

女性	郵送	Web
1位	育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着	
2位	高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着	ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策
3位	ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策	女性の就労に対する支援施策
男性	郵送	Web
1位	育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着	
2位	高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着	男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮
3位	ひとり親(母子・父子)家庭の生活安定に関する施策	

以上のように郵送調査とWebアンケート調査の比較を行った結果、Webアンケート調査という手法は、回答者の属性が確かなものであることが前提となるが、両者の調査を概観すると全体の傾向として、大きな差異はみられず、結果として郵送調査の有効性を検証することができたと考える。ただし、Webアンケート調査の特徴として、「男女共同参画の考え方」や「男女共同参画施策の周知度」等をはじめとする男女共同参画の進捗度をみる回答が、郵送よりも高くなっている点に注視する必要がある。

今後も、市民意識を正確に把握するための効果的な調査手法について検討を行っていきたい。

補完調査

平成20年度 男女共同参画に関する市民意識調査にかかる

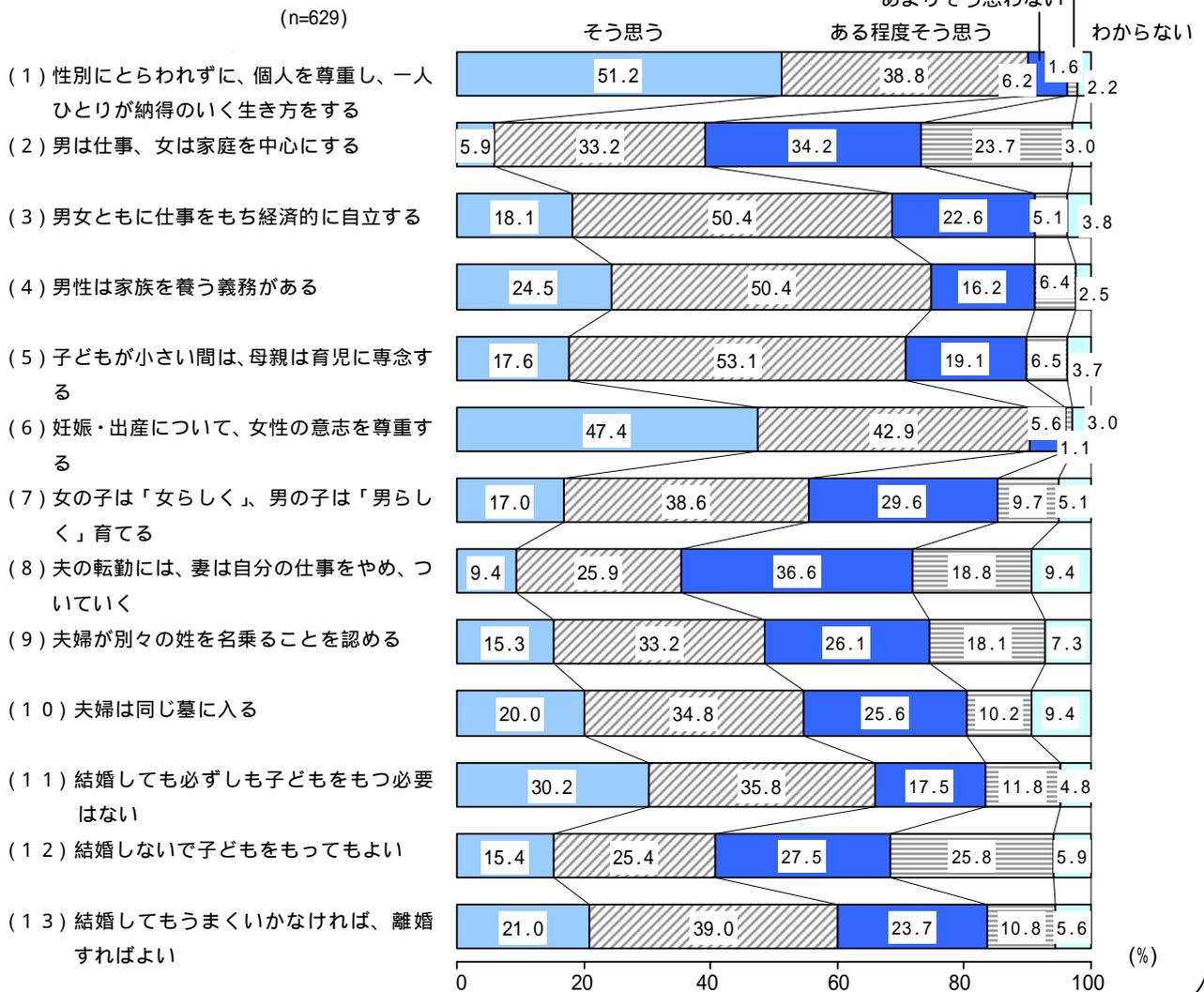
20～30代のWebアンケート調査

調査結果の個別分析

(1) 男女共同参画に関する意識

男女共同参画に関する考え方

問3 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ) そう思わない



【概要】

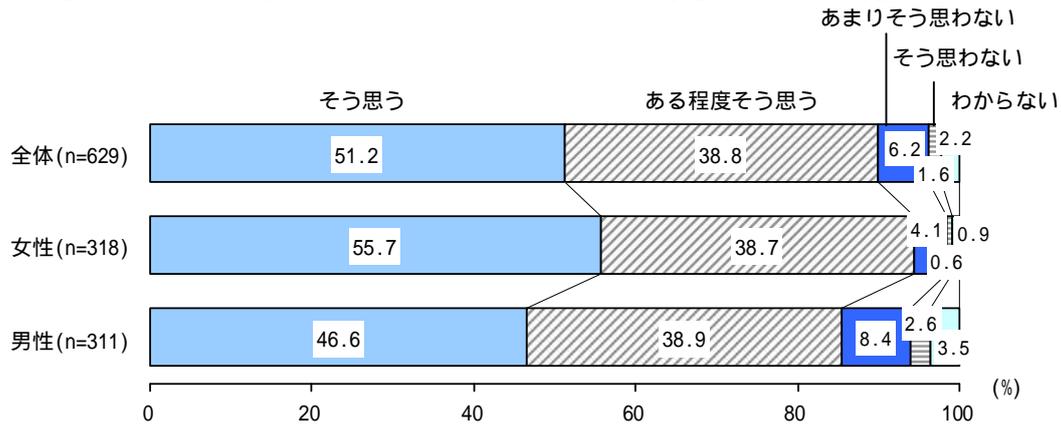
男女共同参画に関する考え方について、“同感する”(『そう思う』『ある程度そう思う』の計)の割合が6割以上を占めているものは以下の項目のとおり。

- (6) 妊娠・出産について、女性の意志を尊重する (90.3%)
- (1) 性別にとらわれず、一人ひとりが納得のいく生き方をする (90.0%)
- (4) 男性は家族を養う義務がある (74.9%)
- (5) 子どもが小さい間は、母親は育児に専念する (70.7%)
- (3) 男女ともに仕事もち経済的に自立する (68.5%)
- (11) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない (66.0%)
- (13) 結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい (60.0%)

“同感しない”(『そう思わない』『あまりそう思わない』の計)の割合が高いもの。

- (2) 男は仕事、女は家庭を中心にする (57.9%)
- (8) 夫の転勤には、妻は自分の仕事をやめ、ついていく (55.4%)

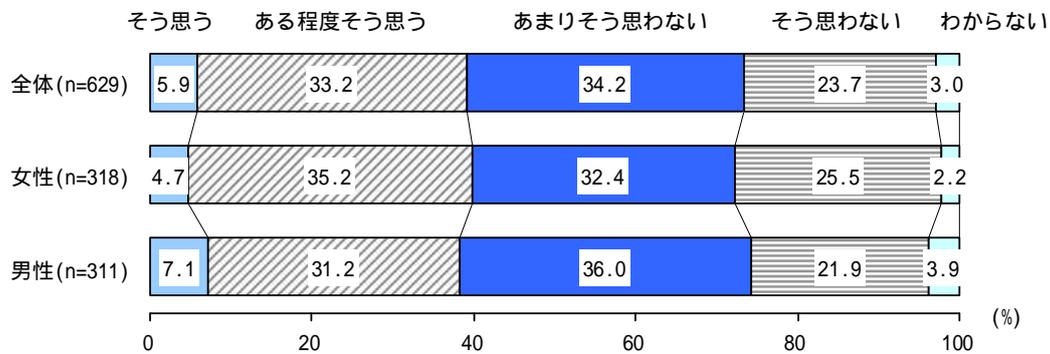
(1) 性別にとらわれず個人を尊重し、一人ひとりが納得のいく生き方をする



【性別】

性別にみると、“同感する”割合は、女性は94.4%を占めており、男性も85.5%と高くなっている。

(2) 男は仕事、女は家庭を中心にする



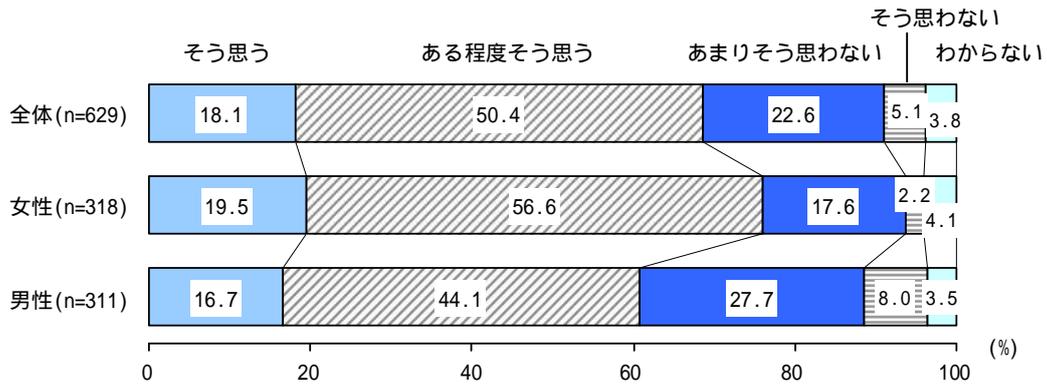
【性別】

性別にみると、“同感しない”割合が男女とも57.9%となっており、男女による差はない。

【性・年代、性・就業の有無別 問3(2)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	
女	20～24歳	75 100.0	5 6.7	21 28.0	24 32.0	21 28.0	4 5.3
	25歳～29歳	82 100.0	5 6.1	30 36.6	25 30.5	21 25.6	1 1.2
	30歳～34歳	81 100.0	2 2.5	33 40.7	30 37.0	16 19.8	0 0.0
	35歳～39歳	80 100.0	3 3.8	28 35.0	24 30.0	23 28.8	2 2.5
	20～24歳	77 100.0	4 5.2	21 27.3	35 45.5	14 18.2	3 3.9
男	25歳～29歳	75 100.0	4 5.3	19 25.3	25 33.3	26 34.7	1 1.3
	30歳～34歳	81 100.0	5 6.2	26 32.1	32 39.5	16 19.8	2 2.5
	35歳～39歳	78 100.0	9 11.5	31 39.7	20 25.6	12 15.4	6 7.7
	女性就業者	216 100.0	11 5.1	71 32.9	69 31.9	62 28.7	3 1.4
	女性非就業者	93 100.0	4 4.3	38 40.9	31 33.3	18 19.4	2 2.2
男	男性就業者	255 100.0	17 6.7	85 33.3	86 33.7	60 23.5	7 2.7
	男性非就業者	52 100.0	5 9.6	11 21.2	11 48.1	7 13.5	4 7.7

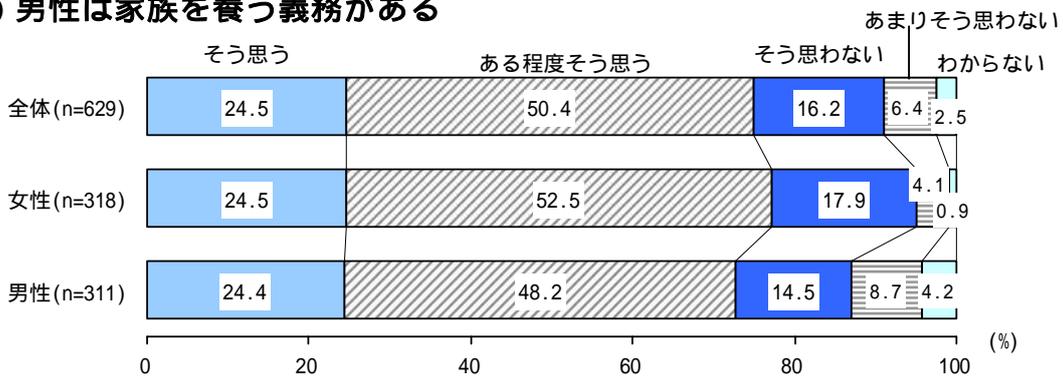
(3) 男女ともに仕事をもち経済的に自立する



【性別】

性別にみると、“同感する”割合は、女性は76.1%で7割以上を占めており、男性は60.8%となっている。

(4) 男性は家族を養う義務がある



【性別】

性別にみると、“同感する”割合は、女性は77.0%、男性は72.6%で男女とも7割以上を占めている。

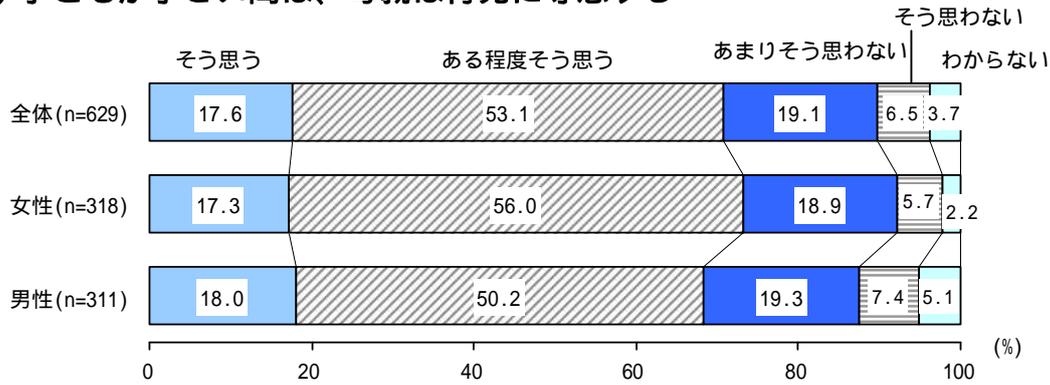
【性・年代、性・就業の有無別 問3(3)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	
女	20～24歳	75 100.0	18 24.0	36 48.0	16 21.3	1 1.3	4 5.3
	25歳～29歳	82 100.0	16 19.5	45 54.9	15 18.3	5 6.1	1 1.2
	30歳～34歳	81 100.0	12 14.8	54 66.7	12 14.8	1 1.2	2 2.5
	35歳～39歳	80 100.0	16 20.0	45 56.3	13 16.3	0 0.0	6 7.5
	男	20～24歳	77 100.0	12 15.6	43 55.8	18 23.4	1 1.3
男	25歳～29歳	75 100.0	17 22.7	29 38.7	22 29.3	6 8.0	1 1.3
	30歳～34歳	81 100.0	15 18.5	37 45.7	18 22.2	8 9.9	3 3.7
	35歳～39歳	78 100.0	8 10.3	28 35.9	28 35.9	10 12.8	4 5.1
	女性就業者	216 100.0	47 21.8	129 59.7	30 13.9	3 1.4	7 3.2
	女性非就業者	93 100.0	15 16.1	44 47.3	25 26.9	3 3.2	6 6.5
男性就業者	255 100.0	45 17.6	110 43.1	73 28.6	20 7.8	7 2.7	
男性非就業者	52 100.0	6 11.5	26 50.0	12 23.1	4 7.7	4 7.7	

【性・年代、性・就業の有無別 問3(4)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	
女	20～24歳	75 100.0	21 28.0	39 52.0	11 14.7	2 2.7	2 2.7
	25歳～29歳	82 100.0	20 24.4	39 47.6	19 23.2	4 4.9	0 0.0
	30歳～34歳	81 100.0	22 27.2	41 50.6	15 18.5	3 3.7	0 0.0
	35歳～39歳	80 100.0	15 18.8	48 60.0	12 15.0	4 5.0	1 1.3
	男	20～24歳	77 100.0	13 16.9	44 57.1	11 14.3	7 9.0
男	25歳～29歳	75 100.0	25 33.3	33 44.0	6 8.0	7 9.3	4 5.3
	30歳～34歳	81 100.0	10 12.3	42 51.9	18 22.2	9 11.1	2 2.5
	35歳～39歳	78 100.0	28 35.9	31 39.7	10 12.8	5 6.4	4 5.1
	女性就業者	216 100.0	54 25.0	103 47.7	46 21.3	12 5.6	1 0.5
	女性非就業者	93 100.0	23 24.7	58 62.4	10 10.8	1 1.1	1 1.1
男性就業者	255 100.0	65 25.5	120 47.1	40 15.7	21 8.2	9 3.5	
男性非就業者	52 100.0	10 19.2	28 53.8	5 9.6	5 9.6	4 7.7	

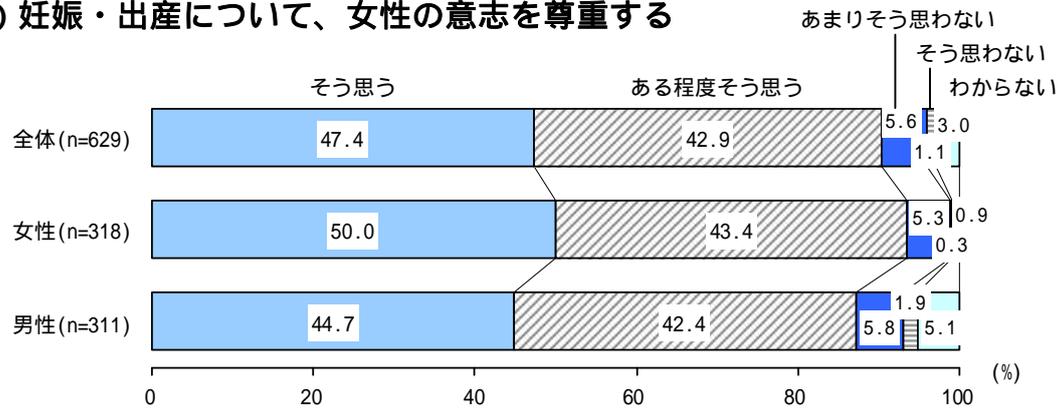
(5) 子どもが小さい間は、母親は育児に専念する



【性別】

性別にみると、“同感する”割合は、女性は73.3%で7割以上を占めており、男性は68.2%となっている。

(6) 妊娠・出産について、女性の意志を尊重する



【性別】

性別にみると、“同感する”割合は、女性は93.4%を占めており、男性も87.1%と高くなっている。

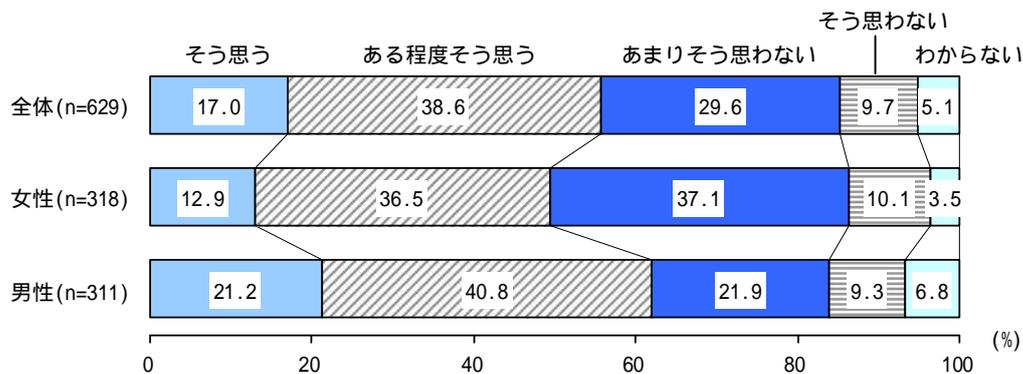
【性・年代、性・就業の有無別 問3(5)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない		
女	20~24歳	75	15	42	11	5	2	
		100.0	20.0	56.0	14.7	6.7	2.7	
	25歳~29歳	82	13	40	25	3	1	
		100.0	15.9	48.8	30.5	3.7	1.2	
	30歳~34歳	81	14	51	12	2	2	
	100.0	17.3	63.0	14.8	2.5	2.5		
性	35歳~39歳	80	13	45	12	8	2	
		100.0	16.3	56.3	15.0	10.0	2.5	
	男	20~24歳	77	12	39	20	3	3
			100.0	15.6	50.6	26.0	3.9	3.9
		25歳~29歳	75	14	38	14	5	4
		100.0	18.7	50.7	18.7	6.7	5.3	
30歳~34歳		81	15	34	18	11	3	
	100.0	18.5	42.0	22.2	13.6	3.7		
性	35歳~39歳	78	15	45	8	4	6	
		100.0	19.2	57.7	10.3	5.1	7.7	
	女性就業者	216	35	114	46	16	5	
		100.0	16.2	52.8	21.3	7.4	2.3	
	女性非就業者	93	18	59	12	2	2	
	100.0	19.4	63.4	12.9	2.2	2.2		
男	男性就業者	255	46	127	52	19	11	
		100.0	18.0	49.8	20.4	7.5	4.3	
	男性非就業者	52	10	28	7	4	3	
		100.0	19.2	53.8	13.5	7.7	5.8	

【性・年代 問3(6)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない		
女	20~24歳	75	41	31	1	0	2	
		100.0	54.7	41.3	1.3	0.0	2.7	
	25歳~29歳	82	44	31	6	1	0	
		100.0	53.7	37.8	7.3	1.2	0.0	
	30歳~34歳	81	40	36	5	0	0	
	100.0	49.4	44.4	6.2	0.0	0.0		
性	35歳~39歳	80	34	40	5	0	1	
		100.0	42.5	50.0	6.3	0.0	1.3	
	男	20~24歳	77	34	32	9	0	2
			100.0	44.2	41.6	11.7	0.0	2.6
		25歳~29歳	75	36	26	7	4	2
		100.0	48.0	34.7	9.3	5.3	2.7	
30歳~34歳		81	33	41	1	1	5	
	100.0	40.7	50.6	1.2	1.2	6.2		
性	35歳~39歳	78	36	33	1	1	7	
		100.0	46.2	42.3	1.3	1.3	9.0	

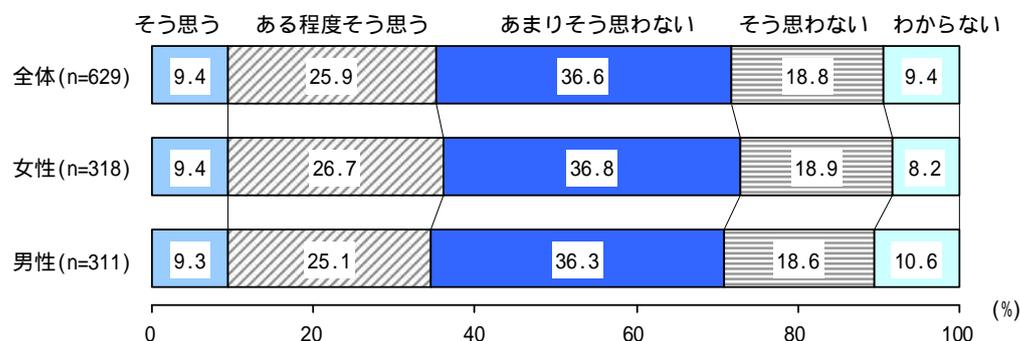
(7) 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる



【性別】

性別にみると、女性の“同感する”割合（49.4%）と“同感しない”割合（47.2%）の差は2.2ポイントであるが、男性の“同感する”割合は62.0%と6割以上を占め、“同感しない”割合は31.2%で、その差は30.8ポイントになっている。

(8) 夫の転職には、妻は自分の仕事をやめ、ついていく



【性別】

性別にみると、“同感しない”割合が女性55.7%、男性54.9%と男女ともに過半数を占めており、男女による差はない。

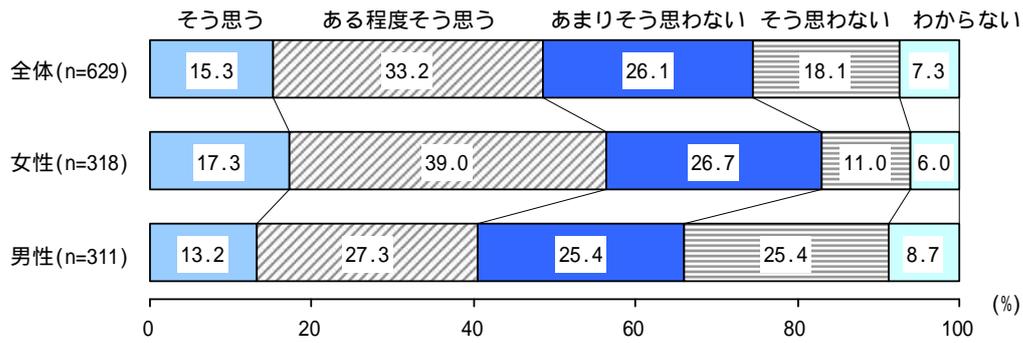
【性・年代、性・就業の有無別 問3(7)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
女						
20～24歳	75	10	23	27	12	3
	100.0	13.3	30.7	36.0	16.0	4.0
25歳～29歳	82	13	26	32	9	2
	100.0	15.9	31.7	39.0	11.0	2.4
30歳～34歳	81	9	34	31	5	2
	100.0	11.1	42.0	38.3	6.2	2.5
性						
35歳～39歳	80	9	33	28	6	4
	100.0	11.3	41.3	35.0	7.5	5.0
男						
20～24歳	77	11	28	25	8	5
	100.0	14.3	36.4	32.5	10.4	6.5
25歳～29歳	75	17	27	17	10	4
	100.0	22.7	36.0	22.7	13.3	5.3
30歳～34歳	81	18	34	13	9	7
	100.0	22.2	42.0	16.0	11.1	8.6
性						
35歳～39歳	78	20	38	13	2	5
	100.0	25.6	48.7	16.7	2.6	6.4
女性就業者	216	29	73	85	21	8
	100.0	13.4	33.8	39.4	9.7	3.7
女性非就業者	93	11	42	27	10	3
	100.0	11.8	45.2	29.0	10.8	3.2
男性就業者	255	55	109	57	21	13
	100.0	21.6	42.7	22.4	8.2	5.1
男性非就業者	52	9	18	10	8	7
	100.0	17.3	34.6	19.2	15.4	13.5

【性・年代、性・就業の有無別 問3(8)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
女						
20～24歳	75	4	17	26	18	10
	100.0	5.3	22.7	34.7	24.0	13.3
25歳～29歳	82	7	26	31	16	2
	100.0	8.5	31.7	37.8	19.5	2.4
30歳～34歳	81	10	25	30	14	2
	100.0	12.3	30.9	37.0	17.3	2.5
性						
35歳～39歳	80	9	17	30	12	12
	100.0	11.3	21.3	37.5	15.0	15.0
男						
20～24歳	77	4	15	36	15	7
	100.0	5.2	19.5	46.8	19.5	9.1
25歳～29歳	75	5	17	27	17	9
	100.0	6.7	22.7	36.0	22.7	12.0
30歳～34歳	81	7	24	24	19	7
	100.0	8.6	29.6	29.6	23.5	8.6
性						
35歳～39歳	78	13	22	26	7	10
	100.0	16.7	28.2	33.3	9.0	12.8
女性就業者	216	20	54	88	41	13
	100.0	9.3	25.0	40.7	19.0	6.0
女性非就業者	93	10	29	27	17	10
	100.0	10.8	31.2	29.0	18.3	10.8
男性就業者	255	27	67	89	47	25
	100.0	10.6	26.3	34.9	18.4	9.8
男性非就業者	52	2	9	23	11	7
	100.0	3.8	17.3	44.2	21.2	13.5

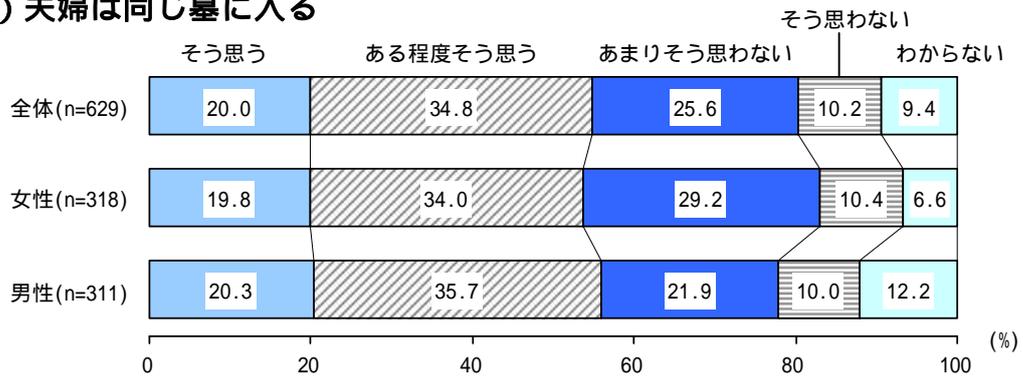
(9) 夫婦が別々の姓を名乗ることを認める



【性別】

性別にみると、女性では“同感する”割合（56.3%）が過半数を占めているが、男性は“同感しない”割合（50.8%）が過半数を占め、男女により意見が逆になっている。

(10) 夫婦は同じ墓に入る



【性別】

女性53.8%、男性56.2%と、男女ともに“同感する”は過半数を占めているが、“同感しない”割合では、女性39.6%に対し、男性は31.9%となっており、男女間の差は7.7ポイントとなっている。

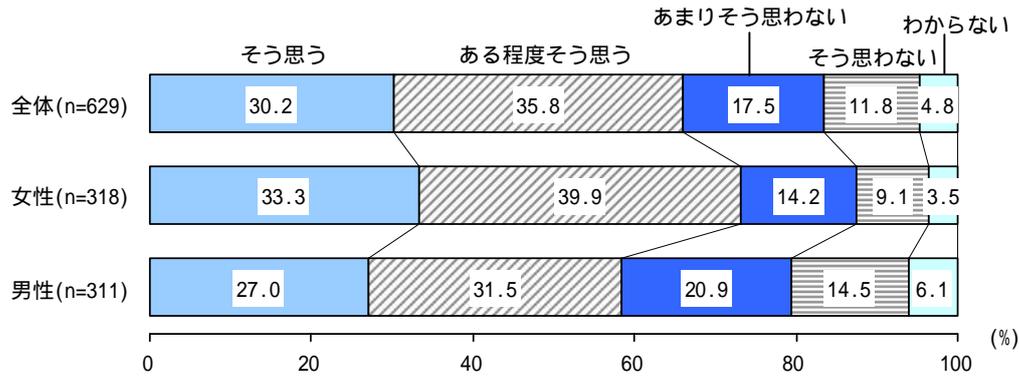
【性・年代、性・就業の有無別 問3(9)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない		
女	20～24歳	75	10	30	21	11	3	
		100.0	13.3	40.0	28.0	14.7	4.0	
	25歳～29歳	82	17	33	20	9	3	
		100.0	20.7	40.2	24.4	11.0	3.7	
	30歳～34歳	81	19	27	24	8	3	
	100.0	23.5	33.3	29.6	9.9	3.7		
性	35歳～39歳	80	9	34	20	7	10	
		100.0	11.3	42.5	25.0	8.8	12.5	
	男	20～24歳	77	8	23	25	14	7
			100.0	10.4	29.9	32.5	18.2	9.1
		25歳～29歳	75	14	16	14	23	8
		100.0	18.7	21.3	18.7	30.7	10.7	
性	30歳～34歳	81	12	24	20	19	6	
		100.0	14.8	29.6	24.7	23.5	7.4	
	35歳～39歳	78	7	22	20	23	6	
		100.0	9.0	28.2	25.6	29.5	7.7	
女	女性就業者	216	40	89	55	22	10	
		100.0	18.5	41.2	25.5	10.2	4.6	
性	女性非就業者	93	13	32	29	11	8	
		100.0	14.0	34.4	31.2	11.8	8.6	
男	男性就業者	255	38	72	60	68	17	
		100.0	14.9	28.2	23.5	26.7	6.7	
性	男性非就業者	52	3	11	19	10	9	
		100.0	5.8	21.2	36.5	19.2	17.3	

【性・年代、性・就業の有無別 問3(10)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない		
女	20～24歳	75	14	27	16	10	8	
		100.0	18.7	36.0	21.3	13.3	10.7	
	25歳～29歳	82	16	24	32	4	6	
		100.0	19.5	29.3	39.0	4.9	7.3	
	30歳～34歳	81	18	28	25	8	2	
	100.0	22.2	34.6	30.9	9.9	2.5		
性	35歳～39歳	80	15	29	20	11	5	
		100.0	18.8	36.3	25.0	13.8	6.3	
	男	20～24歳	77	6	30	25	8	8
			100.0	7.8	39.0	32.5	10.4	10.4
		25歳～29歳	75	17	30	11	7	10
		100.0	22.7	40.0	14.7	9.3	13.3	
性	30歳～34歳	81	17	26	18	12	8	
		100.0	21.0	32.1	22.2	14.8	9.9	
	35歳～39歳	78	23	25	14	4	12	
		100.0	29.5	32.1	17.9	5.1	15.4	
女	女性就業者	216	41	70	70	26	9	
		100.0	19.0	32.4	32.4	12.0	4.2	
性	女性非就業者	93	20	35	22	6	10	
		100.0	21.5	37.6	23.7	6.5	10.8	
男	男性就業者	255	56	95	51	26	27	
		100.0	22.0	37.3	20.0	10.2	10.6	
性	男性非就業者	52	7	13	17	5	10	
		100.0	13.5	25.0	32.7	9.6	19.2	

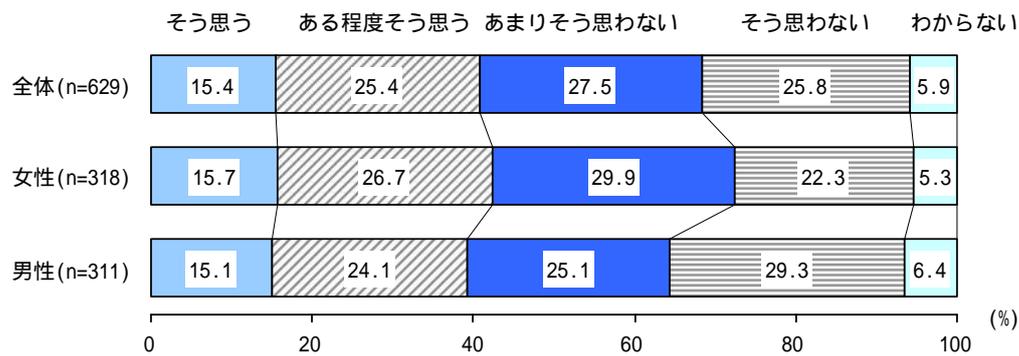
(11) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



【性別】

性別にみると、「同感する」割合は、女性は73.2%で7割以上を占めており、男性は58.5%と男女により差がある。

(12) 結婚しないで子どもをもってもよい



【性別】

性別にみると、「同感しない」割合では男女間による割合に差はないが、『そう思わない』では、女性の22.3%と比較して、男性では29.3%となっており男女間に7.0ポイントの差がある。

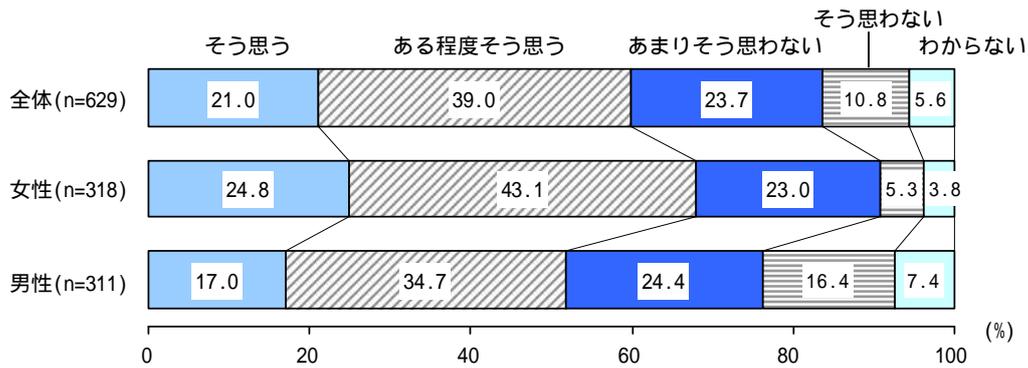
【性・年代、性・就業の有無別 問3(11)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
女						
20～24歳	75	25	31	11	6	2
	100.0	33.3	41.3	14.7	8.0	2.7
25歳～29歳	82	26	36	9	8	3
	100.0	31.7	43.9	11.0	9.8	3.7
30歳～34歳	81	29	24	13	12	3
	100.0	35.8	29.6	16.0	14.8	3.7
性						
35歳～39歳	80	26	36	12	3	3
	100.0	32.5	45.0	15.0	3.8	3.8
男						
20～24歳	77	17	30	19	5	6
	100.0	22.1	39.0	24.7	6.5	7.8
25歳～29歳	75	28	20	13	12	2
	100.0	37.3	26.7	17.3	16.0	2.7
30歳～34歳	81	23	29	16	7	6
	100.0	28.4	35.8	19.8	8.6	7.4
性						
35歳～39歳	78	16	19	17	21	5
	100.0	20.5	24.4	21.8	26.9	6.4

【性・年代、性・就業の有無別 問3(12)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
女						
20～24歳	75	11	20	18	20	6
	100.0	14.7	26.7	24.0	26.7	8.0
25歳～29歳	82	13	21	23	21	4
	100.0	15.9	25.6	28.0	25.6	4.9
30歳～34歳	81	16	21	27	15	2
	100.0	19.8	25.9	33.3	18.5	2.5
性						
35歳～39歳	80	10	23	27	15	5
	100.0	12.5	28.8	33.8	18.8	6.3
男						
20～24歳	77	12	23	20	14	8
	100.0	15.6	29.9	26.0	18.2	10.4
25歳～29歳	75	13	10	23	26	3
	100.0	17.3	13.3	30.7	34.7	4.0
30歳～34歳	81	12	25	14	27	3
	100.0	14.8	30.9	17.3	33.3	3.7
性						
35歳～39歳	78	10	17	21	24	6
	100.0	12.8	21.8	26.9	30.8	7.7
女						
女性就業者	216	35	62	61	47	11
	100.0	16.2	28.7	28.2	21.8	5.1
女性非就業者	93	14	21	32	22	4
	100.0	15.1	22.6	34.4	23.7	4.3
男						
男性就業者	255	38	63	66	76	12
	100.0	14.9	24.7	25.9	29.8	4.7
男性非就業者	52	8	11	12	13	8
	100.0	15.4	21.2	23.1	25.0	15.4
単身世帯(ひとり暮らし)	180	38	48	42	42	10
	100.0	21.1	26.7	23.3	23.3	5.6
夫婦のみの世帯	100	10	29	25	31	5
	100.0	10.0	29.0	25.0	31.0	5.0
親と子の世帯	275	37	67	84	72	15
	100.0	13.5	24.4	30.5	26.2	5.5
親と子と孫の世帯	24	4	8	4	5	3
	100.0	16.7	33.3	16.7	20.8	12.5
その他	50	8	8	18	12	4
	100.0	16.0	16.0	36.0	24.0	8.0

(13) 結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい



【性別】

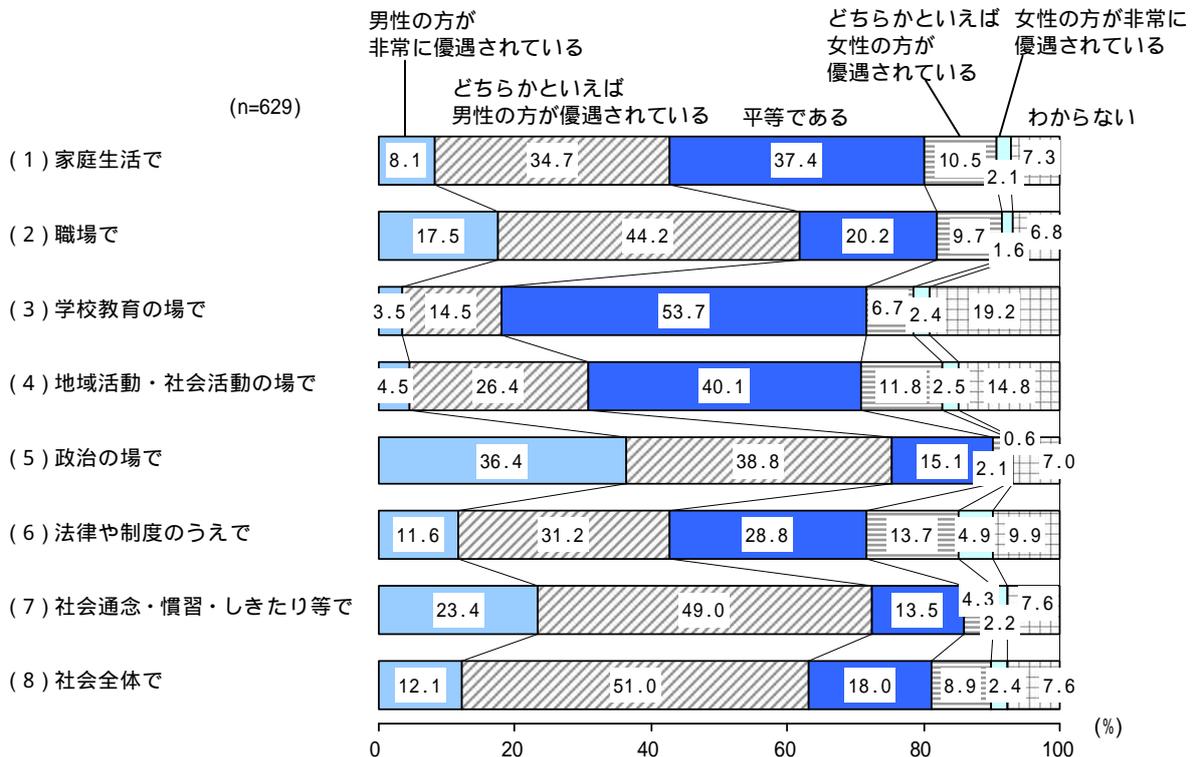
性別にみると、“同感する”割合は、女性は67.9%、男性は51.7%と、男女とも過半数以上となっているが、男女間の割合に16.2ポイントの差がある。

【性・年代、性・就業の有無別 問3(13)】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		そう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	
女	20～24歳	75 100.0	16 21.3	28 37.3	22 29.3	6 8.0	3 4.0
	25歳～29歳	82 100.0	21 25.6	31 37.8	21 25.6	6 7.3	3 3.7
	30歳～34歳	81 100.0	20 24.7	42 51.9	13 16.0	3 3.7	3 3.7
	35歳～39歳	80 100.0	22 27.5	36 45.0	17 21.3	2 2.5	3 3.8
男	20～24歳	77 100.0	9 11.7	31 40.3	21 27.3	10 13.0	6 7.8
	25歳～29歳	75 100.0	13 17.3	29 38.7	15 20.0	10 13.3	8 10.7
	30歳～34歳	81 100.0	19 23.5	27 33.3	15 18.5	16 19.8	4 4.9
	35歳～39歳	78 100.0	12 15.4	21 26.9	25 32.1	15 19.2	5 6.4
女	女性就業者	216 100.0	55 25.5	96 44.4	45 20.8	11 5.1	9 4.2
	女性非就業者	93 100.0	21 22.6	38 40.9	26 28.0	6 6.5	2 2.2
男	男性就業者	255 100.0	47 18.4	88 34.5	61 23.9	40 15.7	19 7.5
	男性非就業者	52 100.0	6 11.5	19 36.5	14 26.9	9 17.3	4 7.7

社会・生活における男女平等の浸透

問1 あなたは、次にあげる分野で男女平等が進んでいると思われませんか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)



【概要】

社会・生活における男女平等の浸透について、全ての項目において“男性優遇”(『男性が非常に優遇されている』『どちらかといえば男性が優遇されている』の計)が“女性優遇”(『女性が非常に優遇されている』『どちらかといえば女性が優遇されている』)よりも高くなっている。

“男性優遇”が過半数を超えているものは以下の項目である。

- (5) 政治の場で (75.2%)
- (7) 社会通念・慣習・しきたりなどで (72.4%)
- (8) 社会全体として (63.1%)
- (2) 職場で (61.7%)

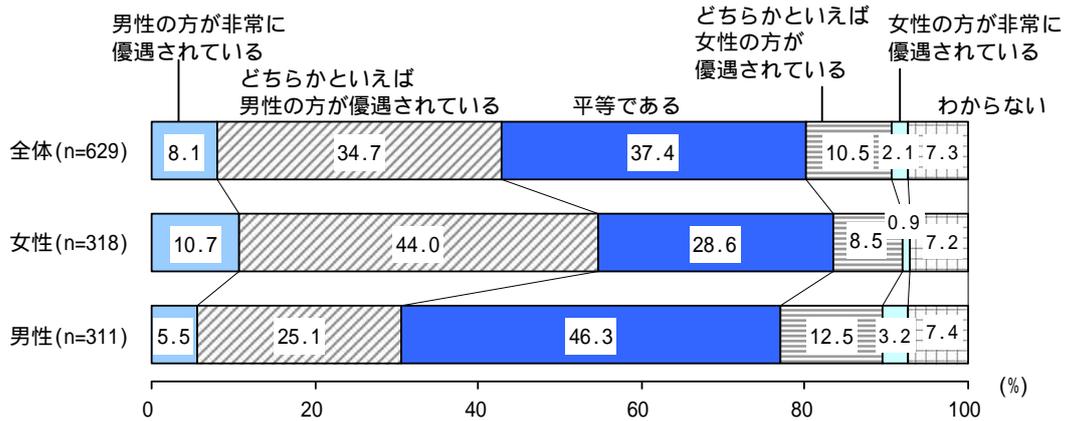
“男性優遇”の割合よりも『平等である』の割合が上回った項目は2つ。

- (3) 学校教育の場で (53.7%)
- (4) 地域活動・社会活動の場で (40.1%)

『平等である』の割合が比較的高くなっている項目。

- (1) 家庭生活で (37.4%)
- (6) 法律や制度のうえで (28.8%)

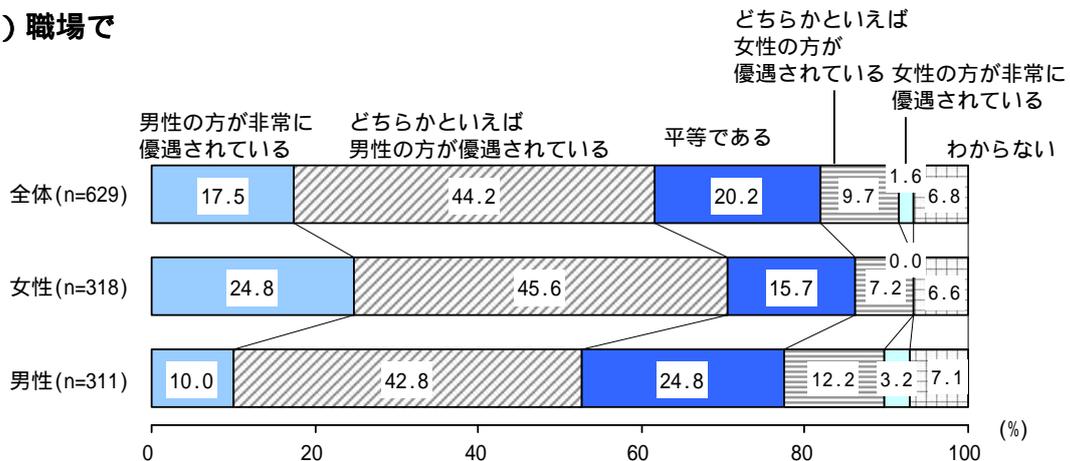
(1) 家庭生活で



【性別】

性別にみると、“男性優遇”の割合は、女性で54.7%、男性で30.6%と男女間で24.1ポイントの差がみられる。

(2) 職場で



【性別】

性別にみると、“男性優遇”の割合は、女性で70.4%、男性で52.8%と男女間で17.6ポイントの差がみられる。

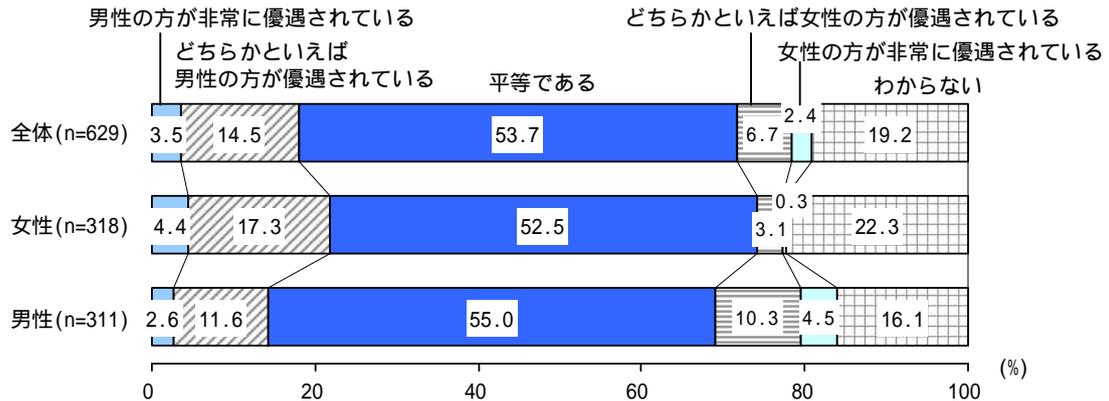
【性・年代、家族形態別 問1(1)】

	調査数	上段: 件数, 下段: %				
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女						
20~24歳	75	7	26	25	11	0
25歳~29歳	82	6	41	20	7	1
30歳~34歳	81	7	41	26	1	0
35歳~39歳	80	14	32	20	8	2
男						
20~24歳	77	5	17	35	11	2
25歳~29歳	75	4	19	36	8	4
30歳~34歳	81	6	22	35	14	0
35歳~39歳	78	2	20	38	6	4
その他	50	3	13	23	2	1
単身世帯(ひとり暮らし)	180	10	62	65	17	6
夫婦のみの世帯	100	11	38	39	6	2
親と子の世帯	275	22	99	101	38	3
親と子と孫の世帯	24	5	6	7	3	1
その他	50	3	13	23	2	1

【性・年代、性・就業の有無別 問1(2)】

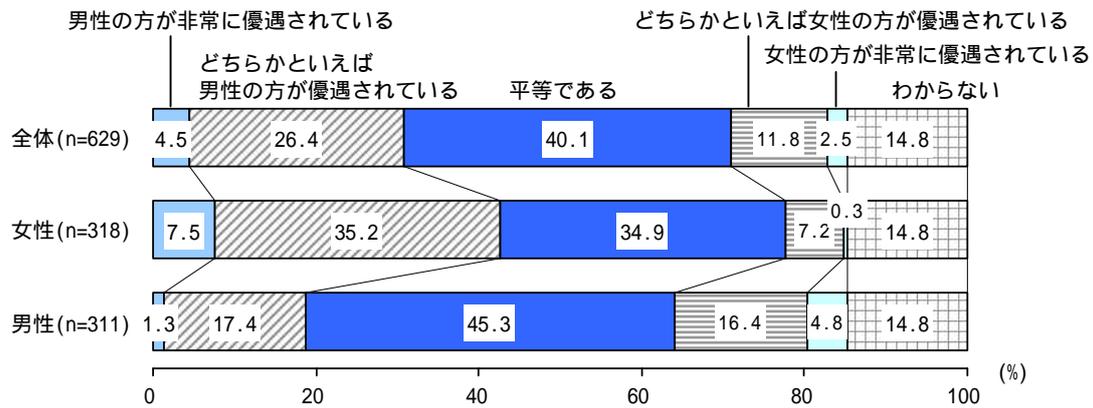
	調査数	上段: 件数, 下段: %				
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
女						
20~24歳	75	11	34	19	5	0
25歳~29歳	82	20	36	12	7	0
30歳~34歳	81	26	36	9	8	0
35歳~39歳	80	22	39	10	3	0
男						
20~24歳	77	8	31	19	9	1
25歳~29歳	75	10	33	22	7	1
30歳~34歳	81	7	34	15	17	3
35歳~39歳	78	6	35	21	5	5
女性就業者	216	57	99	39	16	0
女性非就業者	93	21	42	10	6	0
男性就業者	255	26	109	62	34	9
男性非就業者	52	5	23	13	4	1

(3) 学校教育の場で



【性別】性別にみると、“女性優遇”の割合では、男性（14.8%）が女性（3.4%）より11.4ポイント高くなっている。

(4) 地域活動・社会活動の場で



【性別】性別にみると、女性では“女性優遇”の割合（7.5%）より“男性優遇”の割合（42.7%）が上回っている。一方、男性では“男性優遇”の割合（18.7%）より“女性優遇”の割合（21.2%）が上回っており、男女で意見が逆になっている。

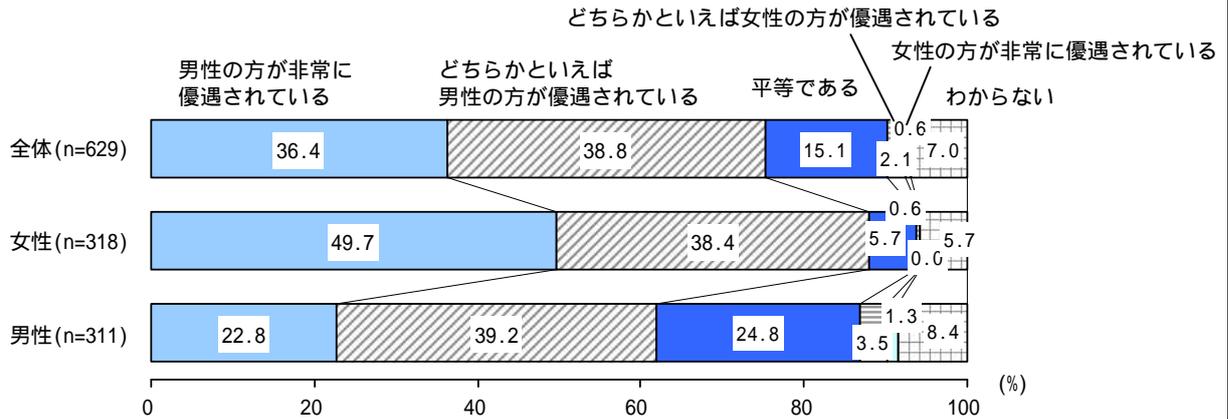
【性・年代、性・就業の有無別 問1(3)】

	調査数	上段：件数、下段：%						
		女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない	
女	20～24歳	75	2	9	52	2	0	10
		100.0	2.7	12.0	69.3	2.7	0.0	13.3
	25歳～29歳	82	4	14	43	5	0	16
		100.0	4.9	17.1	52.4	6.1	0.0	19.5
	30歳～34歳	81	6	14	39	2	1	19
		100.0	7.4	17.3	48.1	2.5	1.2	23.5
性	35歳～39歳	80	2	18	33	1	0	26
		100.0	2.5	22.5	41.3	1.3	0.0	32.5
男	20～24歳	77	0	14	40	9	4	10
		100.0	0.0	18.2	51.9	11.7	5.2	13.0
	25歳～29歳	75	5	8	45	6	3	8
		100.0	6.7	10.7	60.0	8.0	4.0	10.7
	30歳～34歳	81	0	12	37	10	2	20
		100.0	0.0	14.8	45.7	12.3	2.5	24.7
性	35歳～39歳	78	3	2	49	7	5	12
		100.0	3.8	2.6	62.8	9.0	6.4	15.4
女	女性就業者	216	11	37	110	7	1	50
		100.0	5.1	17.1	50.9	3.2	0.5	23.1
性	女性非就業者	93	2	15	56	2	0	18
		100.0	2.2	16.1	60.2	2.2	0.0	19.4
男	男性就業者	255	8	24	144	27	11	41
		100.0	3.1	9.4	56.5	10.6	4.3	16.1
性	男性非就業者	52	0	11	25	5	3	8
		100.0	0.0	21.2	48.1	9.6	5.8	15.4

【性・年代、性・就業の有無別 問1(4)】

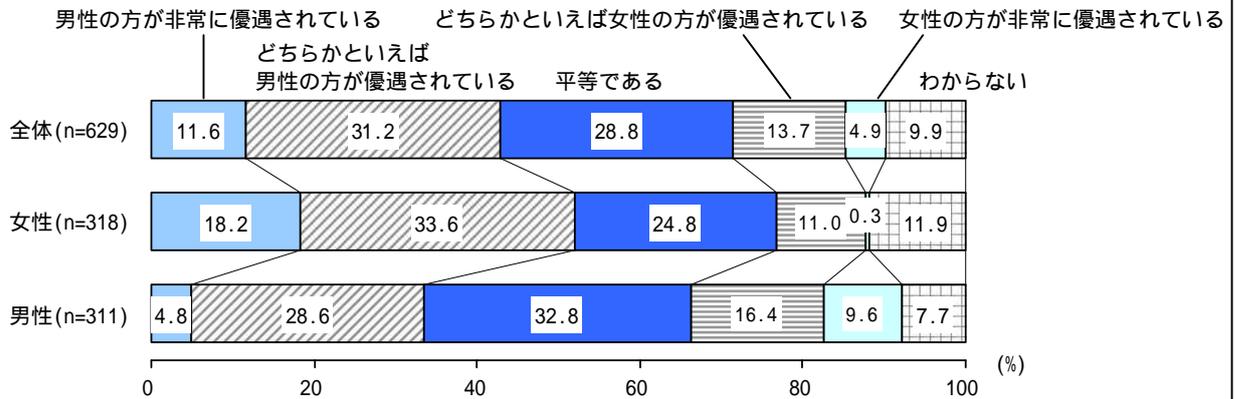
	調査数	上段：件数、下段：%						
		女性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	わからない	
女	20～24歳	75	2	23	37	5	0	8
		100.0	2.7	30.7	49.3	6.7	0.0	10.7
	25歳～29歳	82	5	32	27	8	1	9
		100.0	6.1	39.0	32.9	9.8	1.2	11.0
	30歳～34歳	81	8	28	26	4	0	15
		100.0	9.9	34.6	32.1	4.9	0.0	18.5
性	35歳～39歳	80	9	29	21	6	0	15
		100.0	11.3	36.3	26.3	7.5	0.0	18.8
男	20～24歳	77	0	11	32	17	3	14
		100.0	0.0	14.3	41.6	22.1	3.9	18.2
	25歳～29歳	75	3	17	37	7	3	8
		100.0	4.0	22.7	49.3	9.3	4.0	10.7
	30歳～34歳	81	0	17	36	12	1	15
		100.0	0.0	21.0	44.4	14.8	1.2	18.5
性	35歳～39歳	78	1	9	36	15	8	9
		100.0	1.3	11.5	46.2	19.2	10.3	11.5
女	女性就業者	216	20	82	63	16	0	35
		100.0	9.3	38.0	29.2	7.4	0.0	16.2
性	女性非就業者	93	3	28	46	6	1	9
		100.0	3.2	30.1	49.5	6.5	1.1	9.7
男	男性就業者	255	4	44	119	39	12	37
		100.0	1.6	17.3	46.7	15.3	4.7	14.5
性	男性非就業者	52	0	10	19	12	2	9
		100.0	0.0	19.2	36.5	23.1	3.8	17.3

(5) 政治の場で



【性別】性別にみると、「男性優遇」の割合が、女性（88.1%）が男性（62.0%）より26.1ポイント高くなっている。『平等である』の割合では、男性（24.8%）が女性（5.7%）より19.1ポイント高くなっている。

(6) 法律や制度のうえで



【性別】性別にみると、女性では「男性優遇」の割合が51.8%で過半数を占めている。一方、男性では「男性優遇」の割合が33.4%と最も高いが、次いで『平等である』が32.8%、「女性優遇」の割合が26.0%となっている。

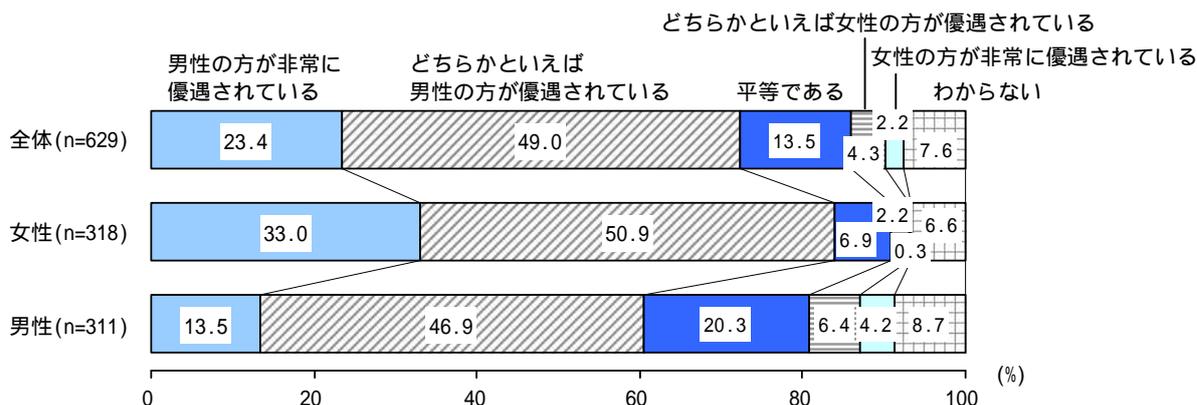
【性・年代、性・就業の有無別 問1(6)】

【性・年代別 問1(5)】

性別	年代	調査数	上段: 件数, 下段: %				
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が非常に優遇されている	女性の方が優遇されている
女	20~24歳	75	37	28	5	0	5
	25歳~29歳	100.0	49.3	37.3	6.7	0.0	6.7
	30歳~34歳	82	37	34	7	0	4
	35歳~39歳	100.0	45.1	41.5	8.5	0.0	4.9
男	20~24歳	81	42	29	4	1	5
	25歳~29歳	100.0	51.9	35.8	4.9	1.2	6.2
	30歳~34歳	80	42	31	2	1	4
	35歳~39歳	100.0	52.5	38.8	2.5	1.3	5.0

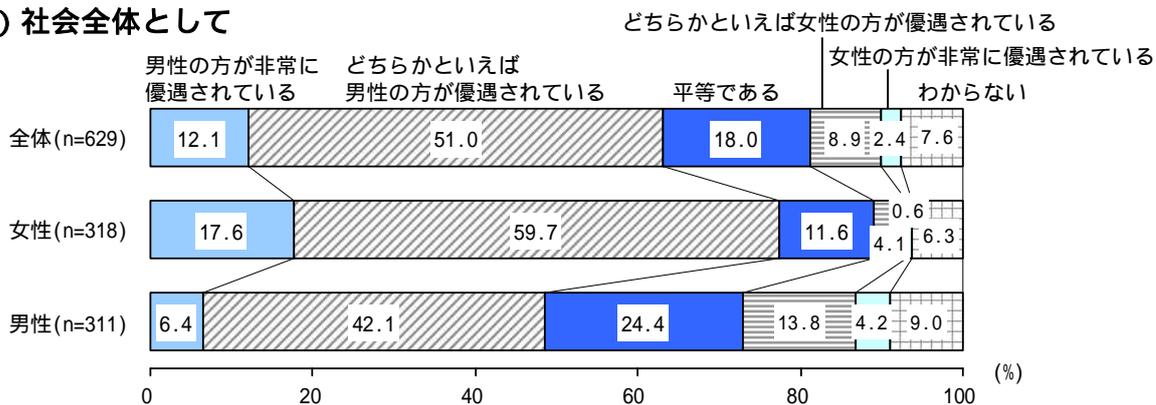
性別	就業状況	調査数	上段: 件数, 下段: %				
			男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が非常に優遇されている	女性の方が優遇されている
女	20~24歳	75	10	23	22	10	10
	25歳~29歳	100.0	13.3	30.7	29.3	13.3	13.3
	30歳~34歳	82	19	24	26	8	5
	35歳~39歳	100.0	23.2	29.3	31.7	9.8	6.1
男	20~24歳	81	14	24	19	9	14
	25歳~29歳	100.0	17.3	29.6	23.5	11.1	17.3
	30歳~34歳	80	15	36	12	8	9
	35歳~39歳	100.0	18.8	45.0	15.0	10.0	11.3
女	20~24歳	77	4	20	28	10	7
	25歳~29歳	100.0	5.2	26.0	36.4	13.0	9.1
	30歳~34歳	75	6	18	26	13	4
	35歳~39歳	100.0	8.0	24.0	34.7	17.3	5.3
男	20~24歳	81	2	31	20	15	7
	25歳~29歳	100.0	2.5	38.3	24.7	18.5	8.6
	30歳~34歳	78	3	20	28	13	6
	35歳~39歳	100.0	3.8	25.6	35.9	16.7	7.7

(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで



【性別】性別にみると、“男性優遇”の割合が、女性では83.9%、男性では60.4%と男女間で23.5ポイントの差がみられ、特に『男性の方が非常に優遇されている』の割合は、女性では33.0%と、男性（13.5%）よりも、19.5ポイント高くなっている。

(8) 社会全体として



【性別】性別にみると、“男性優遇”の割合が、女性では77.3%、男性では48.5%と男女間で28.8ポイントの差がみられ、特に『どちらかといえば男性の方が優遇されている』の割合は、女性では59.7%と、男性（42.1%）よりも、17.6ポイント高くなっている。

【性・年代、性・就業の有無別 問1(7)】

性別	調査数	上段：件数、下段：%						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が非常に優遇されている	わからない		
女	20～24歳	75 100.0	18 24.0	41 54.7	9 12.0	2 2.7	0 0.0	5 6.7
	25歳～29歳	82 100.0	28 34.1	37 45.1	8 9.8	0 0.0	1 1.2	8 9.8
	30歳～34歳	81 100.0	28 34.6	44 54.3	3 3.7	2 2.5	0 0.0	4 4.9
	35歳～39歳	80 100.0	31 38.8	40 50.0	2 2.5	3 3.8	0 0.0	4 5.0
男	20～24歳	77 100.0	9 11.7	32 41.6	21 27.3	5 6.5	2 2.6	8 10.4
	25歳～29歳	75 100.0	12 16.0	38 50.7	12 16.0	7 9.3	3 4.0	3 4.0
	30歳～34歳	81 100.0	13 16.0	40 49.4	12 14.8	5 6.2	1 1.2	10 12.3
	35歳～39歳	78 100.0	8 10.3	36 46.2	18 23.1	3 3.8	7 9.0	6 7.7
女性	女性就業者	216 100.0	75 34.7	101 46.8	18 8.3	7 3.2	1 0.5	14 6.5
	女性非就業者	93 100.0	28 30.1	57 61.3	3 3.2	0 0.0	0 0.0	5 5.4
男性	男性就業者	255 100.0	37 14.5	120 47.1	49 19.2	18 7.1	11 4.3	20 7.8
	男性非就業者	52 100.0	5 9.6	23 44.2	13 25.0	2 3.8	2 3.8	7 13.5

【性・年代、性・就業の有無別 問1(8)】

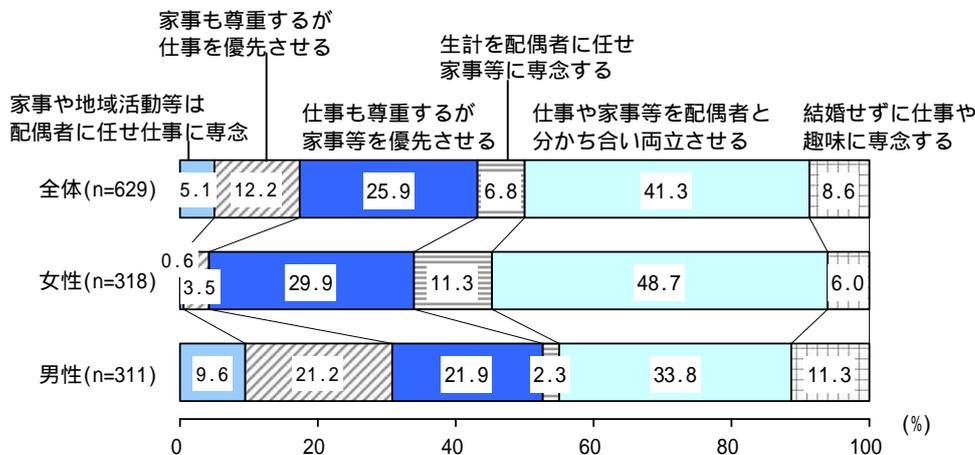
性別	調査数	上段：件数、下段：%						
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	女性の方が非常に優遇されている	わからない		
女	20～24歳	75 100.0	6 8.0	48 64.0	10 13.3	5 6.7	1 1.3	5 6.7
	25歳～29歳	82 100.0	19 23.2	42 51.2	10 12.2	4 4.9	1 1.2	6 7.3
	30歳～34歳	81 100.0	14 17.3	52 64.2	9 11.1	2 2.5	0 0.0	4 4.9
	35歳～39歳	80 100.0	17 21.3	48 60.0	8 10.0	2 2.5	0 0.0	5 6.3
男	20～24歳	77 100.0	5 6.5	28 36.4	18 23.4	14 18.2	1 1.3	11 14.3
	25歳～29歳	75 100.0	6 8.0	34 45.3	19 25.3	8 10.7	2 2.7	6 8.0
	30歳～34歳	81 100.0	6 7.4	36 44.4	17 21.0	13 16.0	2 2.5	7 8.6
	35歳～39歳	78 100.0	3 3.8	33 42.3	22 28.2	8 10.3	8 10.3	4 5.1
女性	女性就業者	216 100.0	42 19.4	123 56.9	26 12.0	11 5.1	2 0.9	12 5.6
	女性非就業者	93 100.0	12 12.9	62 66.7	11 11.8	2 2.2	0 0.0	6 6.5
男性	男性就業者	255 100.0	17 6.7	111 43.5	61 23.9	31 12.2	12 4.7	23 9.0
	男性非就業者	52 100.0	3 5.8	17 32.7	14 26.9	12 23.1	1 1.9	5 9.6

(2) 仕事と生活の調和に関する意識と実態

仕事と生活の調和に関する意識

問6 これからの自分の生き方として、あなたが一番好ましいと思うものを選んでください。(は1つだけ)

配偶者には、事実婚のパートナーも含まます(以下同じ)



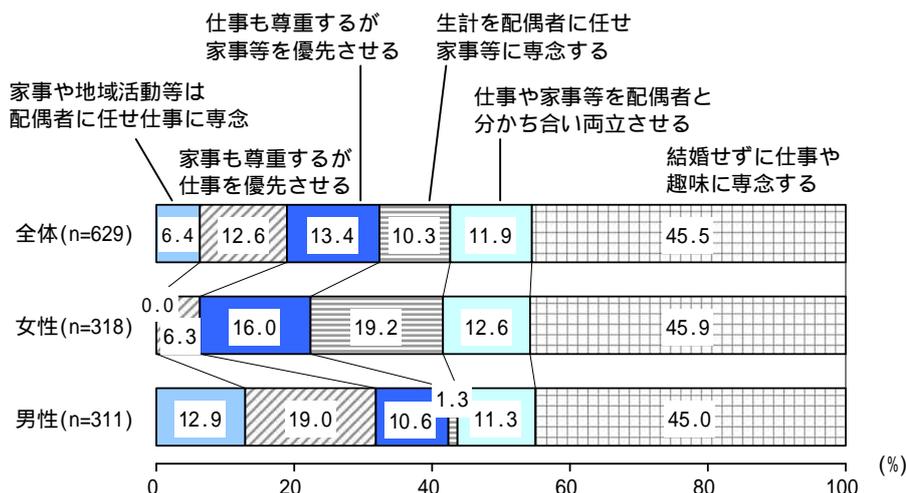
【概要】『仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる』が41.3%と最も高く、次いで、『仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させる』が25.9%となっている。

【性別】性別にみると、“仕事優先”(『家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念する』『家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる』の計)の割合は、女性が4.1%、男性が30.8%と男女間で26.7ポイントの差がみられる。“家事優先”(『生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念している』『仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させている』の計)では、女性は41.2%、男性は24.2%で女性の方が17.0ポイント高くなっている。

【性・年代、性・就業の有無別 問6】

調査数	上段：件数、下段：%							
	専念する	優先させる	両立させる	任せ	専念する	優先させる	両立させる	任せ
女 20～24歳	75	1	3	22	8	36	5	
100.0	1.3	4.0	29.3	10.7	48.0	6.7		
女 25歳～29歳	82	0	4	22	12	40	4	
100.0	0.0	4.9	26.8	14.6	48.8	4.9		
女 30歳～34歳	81	1	1	28	6	41	4	
100.0	1.2	1.2	34.6	7.4	50.6	4.9		
女 35歳～39歳	80	0	3	23	10	38	6	
100.0	0.0	3.8	28.8	12.5	47.5	7.5		
男 20～24歳	77	6	20	15	4	20	12	
100.0	7.8	26.0	19.5	5.2	26.0	15.6		
男 25歳～29歳	75	7	11	17	2	29	9	
100.0	9.3	14.7	22.7	2.7	38.7	12.0		
男 30歳～34歳	81	10	19	20	1	25	6	
100.0	12.3	23.5	24.7	1.2	30.9	7.4		
男 35歳～39歳	78	7	16	16	0	31	8	
100.0	9.0	20.5	20.5	0.0	39.7	10.3		
女 女性就業者	216	2	6	55	18	120	15	
100.0	0.9	2.8	25.5	8.3	55.6	6.9		
女 女性非就業者	93	0	5	38	17	30	3	
100.0	0.0	5.4	40.9	18.3	32.3	3.2		
男 男性就業者	255	28	55	54	4	92	22	
100.0	11.0	21.6	21.2	1.6	36.1	8.6		
男 男性非就業者	52	2	11	13	3	12	11	
100.0	3.8	21.2	25.0	5.8	23.1	21.2		

問7 今のあなたの現状に最も近いものを選んでください。(は1つだけ)



【概要】『結婚せずに、仕事や趣味、地域活動に専念している』が45.5%と約半数を占め、最も高くなっている。

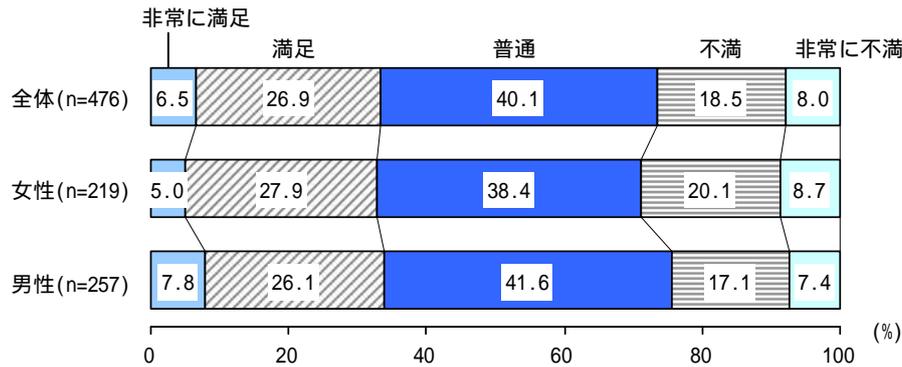
【性別】性別にみると、“仕事優先”では、女性は6.3%、男性は31.9%で男性の方が25.6ポイント高くなっている。一方、“家事優先”では、女性は35.2%、男性は11.9%で女性の方が23.3ポイント高くなっている。

【性・年代、性・就業の有無別 問7】

	調査数	上段：件数					下段：%		
		専念して専念する	専念して専念する	専念して専念する	専念して専念する	専念して専念する	専念して専念する		
女	20～24歳	75	0	4	6	6	4	55	
		100.0	0.0	5.3	8.0	8.0	5.3	73.3	
	25歳～29歳	82	0	5	12	17	10	38	
		100.0	0.0	6.1	14.6	20.7	12.2	46.3	
	30歳～34歳	81	0	6	16	21	9	29	
	100.0	0.0	7.4	19.8	25.9	11.1	35.8		
性	35歳～39歳	80	0	5	17	17	17	24	
		100.0	0.0	6.3	21.3	21.3	21.3	30.0	
	男	20～24歳	77	8	11	8	0	4	46
			100.0	10.4	14.3	10.4	0.0	5.2	59.7
25歳～29歳		75	6	10	9	0	9	41	
		100.0	8.0	13.3	12.0	0.0	12.0	54.7	
	81	12	21	7	3	8	30		
	100.0	14.8	25.9	8.6	3.7	9.9	37.0		
性	35歳～39歳	78	14	17	9	1	14	23	
		100.0	17.9	21.8	11.5	1.3	17.9	29.5	
	女性就業者		216	0	20	37	8	38	113
			100.0	0.0	9.3	17.1	3.7	17.6	52.3
女性非就業者		93	0	0	12	52	2	27	
		100.0	0.0	0.0	12.9	55.9	2.2	29.0	
男性就業者		255	37	53	29	3	33	100	
		100.0	14.5	20.8	11.4	1.2	12.9	39.2	
男性非就業者		52	3	5	4	1	2	37	
		100.0	5.8	9.6	7.7	1.9	3.8	71.2	

問24 あなたは現在の仕事に満足していますか？（ は1つだけ）

現在就業している方だけに質問



【概要】『普通』の割合が40.1%で最も高く、“満足”（『非常に満足』『満足』の計）の割合が33.4%、“不満”（『非常に不満』『不満』の計）の割合が26.5%となっており、“満足”が6.9ポイント高くなっている。

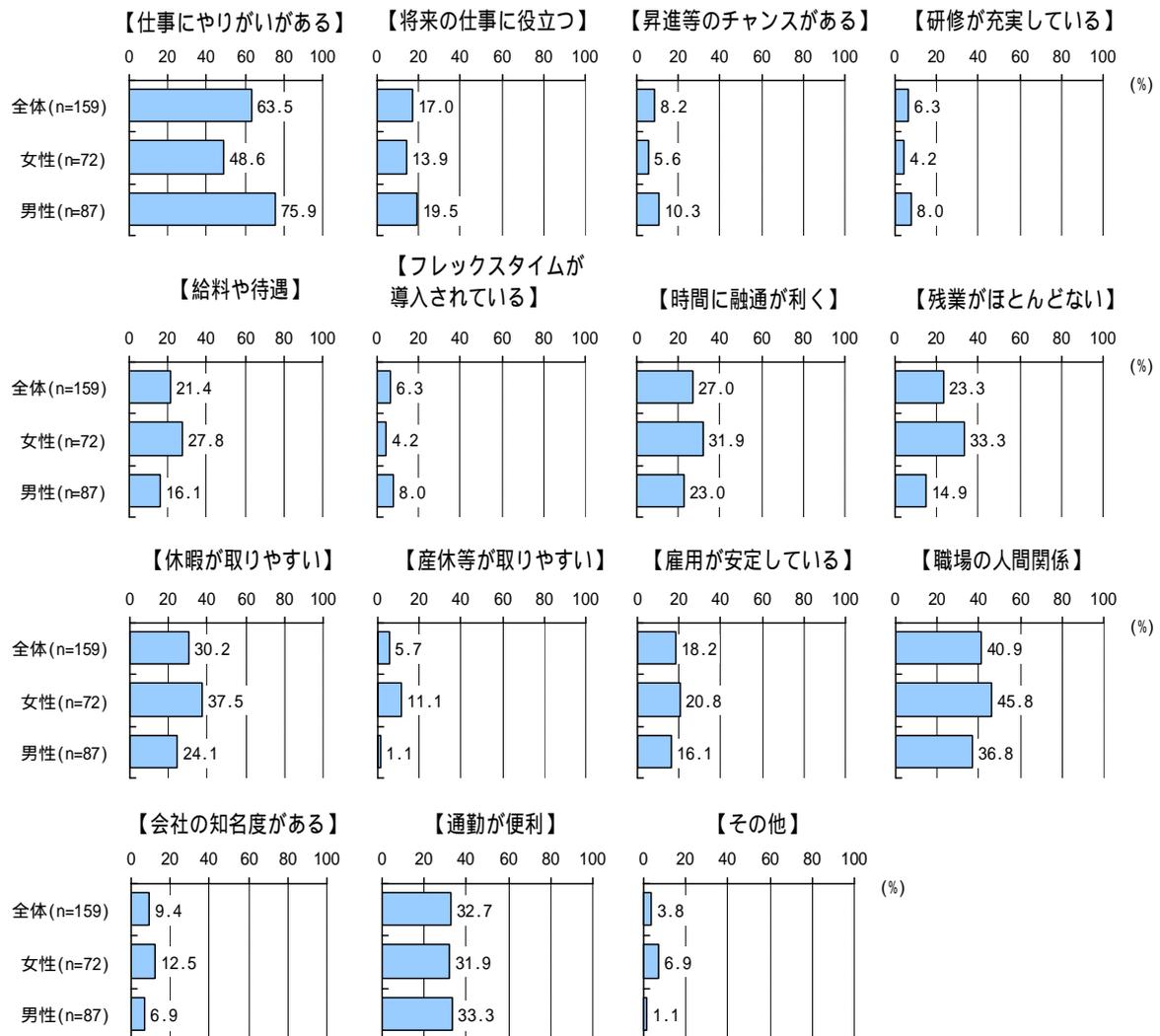
【性別】性別にみると、“不満”の割合が、女性（28.8%）が男性（24.5%）より高くなっている。

【性・年代、性・雇用形態別 問24】

	調査数	上段：件数、下段：%					
		非常に満足	満足	普通	不満	非常に不満	
女	20～24歳	45	3	14	14	12	2
		100.0	6.7	31.1	31.1	26.7	4.4
	25歳～29歳	57	2	11	31	9	4
		100.0	3.5	19.3	54.4	15.8	7.0
性	30歳～34歳	56	4	17	17	13	5
		100.0	7.1	30.4	30.4	23.2	8.9
	35歳～39歳	61	2	19	22	10	8
		100.0	3.3	31.1	36.1	16.4	13.1
男	20～24歳	38	4	12	12	6	4
		100.0	10.5	31.6	31.6	15.8	10.5
	25歳～29歳	69	4	19	24	16	6
		100.0	5.8	27.5	34.8	23.2	8.7
性	30歳～34歳	76	5	18	31	17	5
		100.0	6.6	23.7	40.8	22.4	6.6
	35歳～39歳	74	7	18	40	5	4
		100.0	9.5	24.3	54.1	6.8	5.4
女	就業者全体	216	11	60	83	44	18
		100.0	5.1	27.8	38.4	20.4	8.3
	正規雇用	107	5	31	39	23	9
		100.0	4.7	29.0	36.4	21.5	8.4
性	非正規雇用	94	6	20	39	20	9
		100.0	6.4	21.3	41.5	21.3	9.6
	自営業・内職等	17	0	10	5	1	1
		100.0	0.0	58.8	29.4	5.9	5.9
男	就業者全体	255	20	66	106	44	19
		100.0	7.8	25.9	41.6	17.3	7.5
	正規雇用	186	17	50	74	32	13
		100.0	9.1	26.9	39.8	17.2	7.0
性	非正規雇用	39	1	9	14	9	6
		100.0	2.6	23.1	35.9	23.1	15.4
	自営業・内職等	30	2	7	18	3	0
		100.0	6.7	23.3	60.0	10.0	0.0

問25 どのような点で満足しているのでしょうか？（はいいくつでも）

問24で「1.非常に満足」「2.満足」と答えた方だけに質問

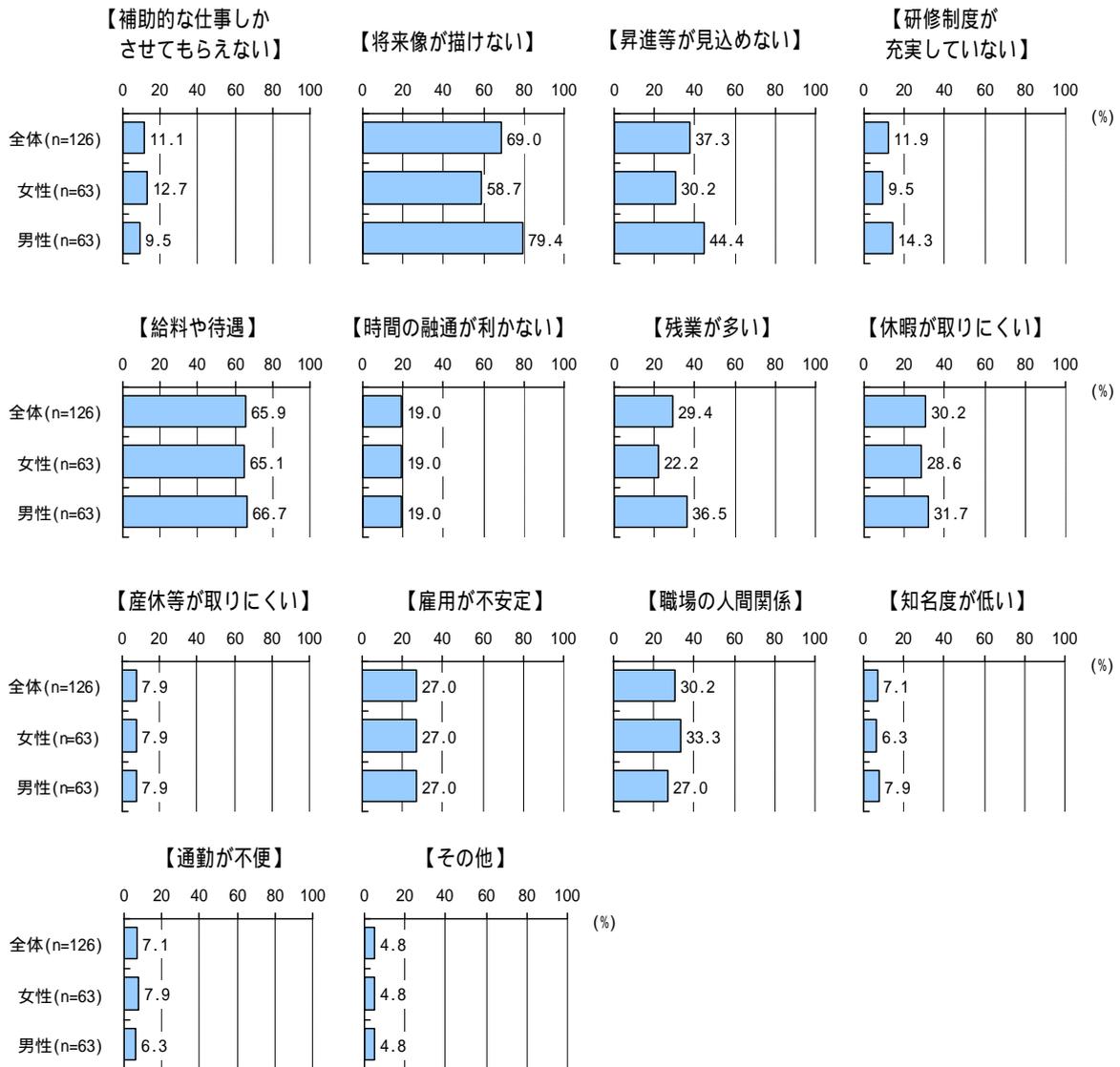


【概要】『仕事にやりがいがある』が63.5%で最も高く、次いで『職場の人間関係』40.9%、『通勤が便利』32.7%の順になっている。

【性別】性別にみると、『仕事にやりがいがある』が、女性が48.6%で半数以下、男性は75.9%で7割以上を占めて男女間で27.3ポイントと一番大きな差がみられる。次いで、『残業がほとんどない』が、女性の33.3%、男性は14.9%と男女間に18.4ポイントの差がみられる。3番目は『休暇がとりやすい』で、女性で37.5%、男性で24.1%と男女間で13.4ポイントの差がみられる。

問26 どのような点で不満に感じているのでしょうか？（はいいくつでも）

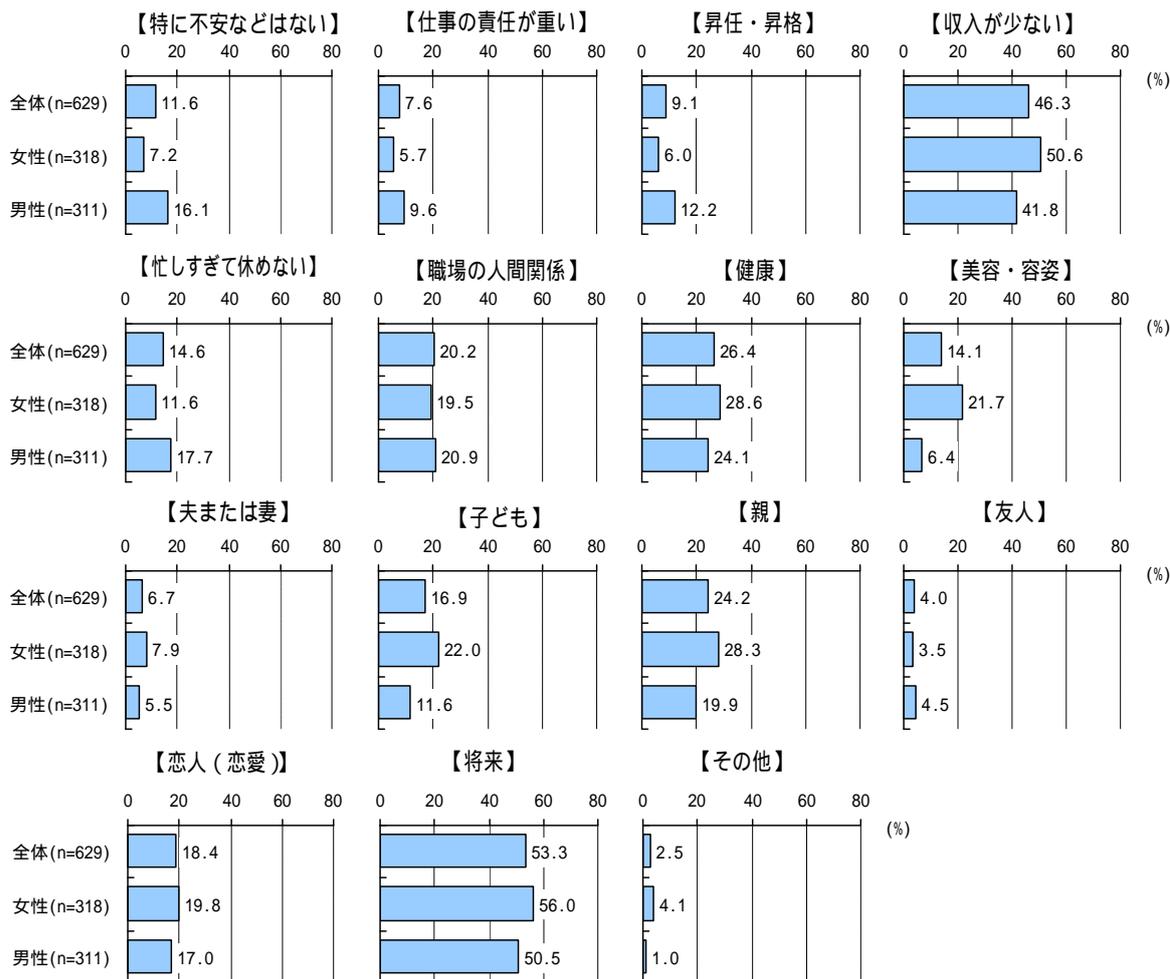
問24で「4.不満」「5.非常に不満」と答えた方のみ質問



【概要】『将来像が描けない』が69.0%で最も高く、次いで『給料や待遇』65.9%、『昇進等が見込めない』37.3%の順になっている。

【性別】性別にみると、『将来像が描けない』では、女性58.7%、男性79.4%で8割弱を占めて男女間で20.7ポイントと一番大きな差がみられる。次いで『残業が多い』が、女性が22.2%、男性では36.5%と男女間に14.3ポイントの差がみられる。3番目が『昇進等が見込めない』で、女性で30.2%、男性で44.4%と男女間で14.2ポイントの差がみられる。ほとんどの項目で、男性の割合が高くなっている。

問11 仕事や生活のうえで、あなたはこういった不安や悩み、問題がありますか？
(はいいくつでも)



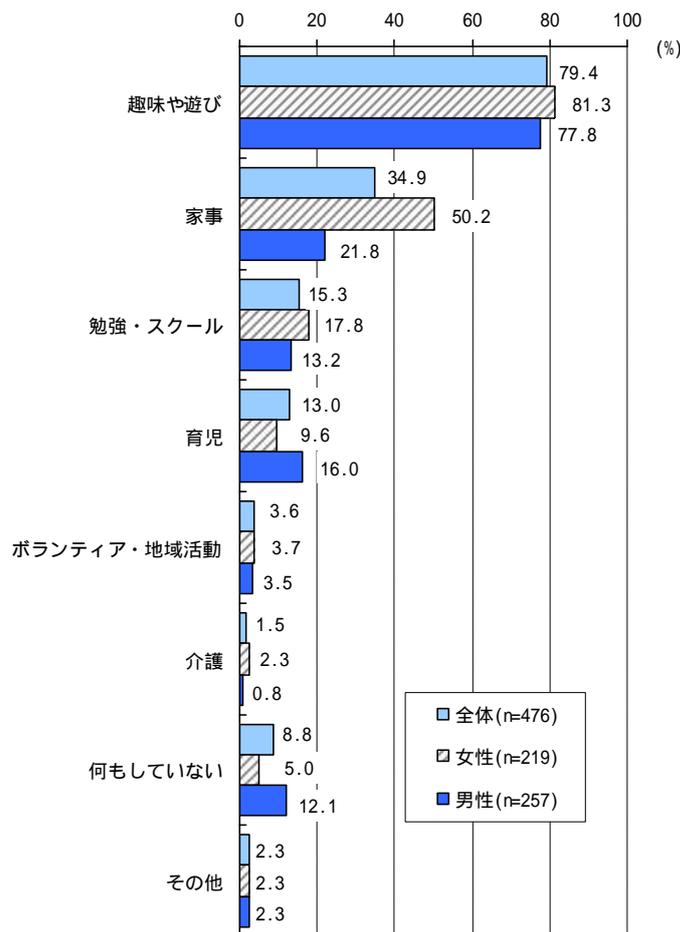
【概要】『将来』が53.3%で過半数を占めて最も高く、次いで『収入が少ない』46.3%、
『健康』26.4%の順になっている。

【性別】性別にみると、女性56.0%、男性50.5%と男女とも、『将来』が過半数を占め、
最も高くなっている。また、男性よりも、特に女性の割合の方が高くなっている
ものは、『美容・容姿』で15.3ポイント、『子ども』で10.4ポイント、『収入が
少ない』で8.8ポイント、『親』で8.4ポイント高くなっている。

【性・就業の有無別 問11】

	調査数	上段：件数、下段：%															
		特に不安などはない	仕事の責任が重い	昇任・昇格	収入が少ない	休めな仕事	職場の人間関係	健康	美容・容姿	夫または妻	子どものこと	親のこと	友人のこと	恋人(恋愛)のこと	将来のこと	その他	
女	20~24歳	75	4	7	3	41	9	16	18	28	2	6	22	4	22	37	2
	100.0	5.3	9.3	4.0	54.7	12.0	21.3	24.0	37.3	2.7	8.0	29.3	5.3	29.3	49.3	2.7	
	25歳~29歳	82	8	6	6	38	9	16	24	13	3	14	17	4	20	50	3
	100.0	9.8	7.3	7.3	46.3	11.0	19.5	29.3	15.9	3.7	17.1	20.7	4.9	24.4	61.0	3.7	
	30歳~34歳	81	5	3	5	41	10	15	16	13	8	21	19	2	15	44	4
	100.0	6.2	3.7	6.2	50.6	12.3	18.5	19.8	16.0	9.9	25.9	23.5	2.5	18.5	54.3	4.9	
性	35歳~39歳	80	6	2	5	41	9	15	33	15	12	29	3	6	47	4	
	100.0	7.5	2.5	6.3	51.3	11.3	18.8	41.3	18.8	15.0	36.3	40.0	1.3	7.5	58.8	5.0	
男	20~24歳	77	19	3	3	20	12	14	16	6	1	2	11	8	18	45	0
	100.0	24.7	3.9	3.9	26.0	15.6	18.2	20.8	7.8	1.3	2.6	14.3	10.4	23.4	58.4	0.0	
	25歳~29歳	75	8	5	16	46	10	18	19	7	2	4	14	1	17	38	1
	100.0	10.7	6.7	21.3	61.3	13.3	24.0	25.3	9.3	2.7	5.3	18.7	1.3	22.7	50.7	1.3	
	30歳~34歳	81	10	12	9	36	16	19	17	3	7	14	18	3	11	40	0
	100.0	12.3	14.8	11.1	44.4	19.8	23.5	21.0	3.7	8.6	17.3	22.2	3.7	13.6	49.4	0.0	
性	35歳~39歳	78	13	10	10	28	17	14	23	4	7	16	19	2	7	34	2
	100.0	16.7	12.8	12.8	35.9	21.8	17.9	29.5	5.1	9.0	20.5	24.4	2.6	9.0	43.6	2.6	
女	女性就業者	216	10	15	16	121	32	54	62	54	17	36	67	5	51	128	10
	100.0	4.6	6.9	7.4	56.0	14.8	25.0	28.7	25.0	7.9	16.7	31.0	2.3	23.6	59.3	4.6	
	女性非就業者	93	12	2	3	35	4	7	25	15	8	33	18	5	10	46	3
性	100.0	12.9	2.2	3.2	37.6	4.3	7.5	26.9	16.1	8.6	35.5	19.4	5.4	10.8	49.5	3.2	
男	男性就業者	255	36	26	36	117	47	55	66	13	17	35	52	8	37	129	1
	100.0	14.1	10.2	14.1	45.9	18.4	21.6	25.9	5.1	6.7	13.7	20.4	3.1	14.5	50.6	0.4	
	男性非就業者	52	14	4	2	12	7	8	9	6	0	1	9	6	14	27	0
性	100.0	26.9	7.7	3.8	23.1	13.5	15.4	17.3	11.5	0.0	1.9	17.3	11.5	26.9	51.9	0.0	

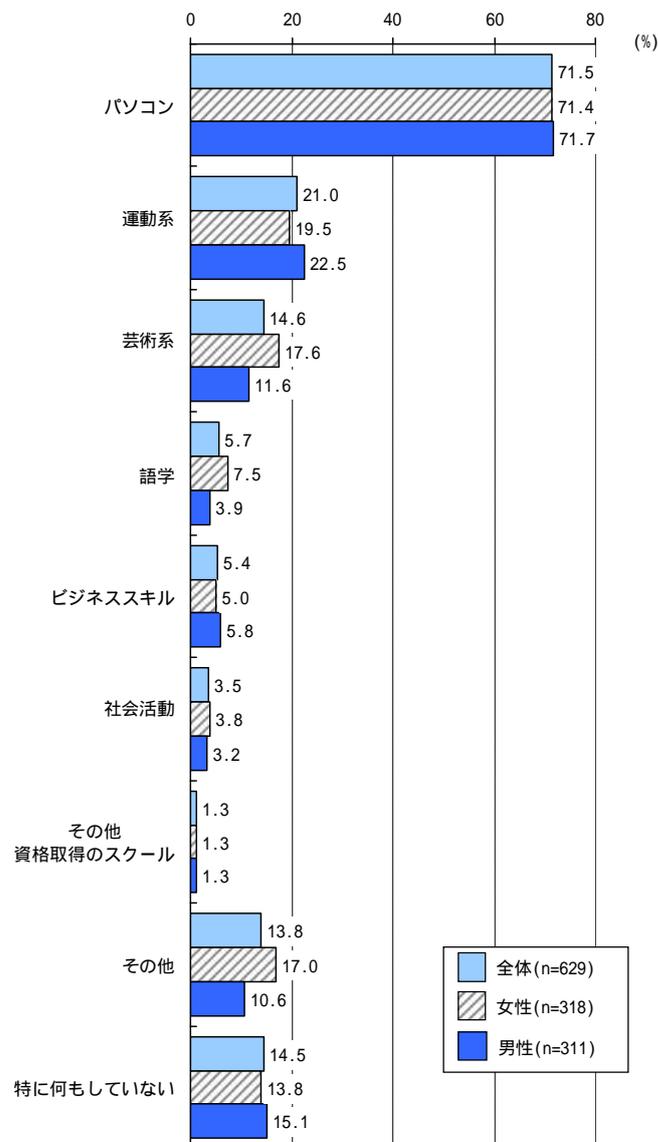
問33 あなたは休日やオフをどのように過ごしていますか？（はいくつでも）



【概要】『趣味や遊び』が79.4%で8割弱を占めて最も高く、次いで『家事』34.9%、『勉強・スクール』15.3%の順になっている。

【性別】性別にみると、男女ともに『趣味や遊び』の割合が最も高くなっている（女性：81.3%、男性：77.8%）。『家事』では、女性が50.2%で、男性（21.8%）より28.4ポイント高くなっている。3番目に高いのは、女性は『勉強・スクール』、男性は『育児』となっている。

問10 あなたは現在、余暇をどう過ごしていますか？(はいくつでも)

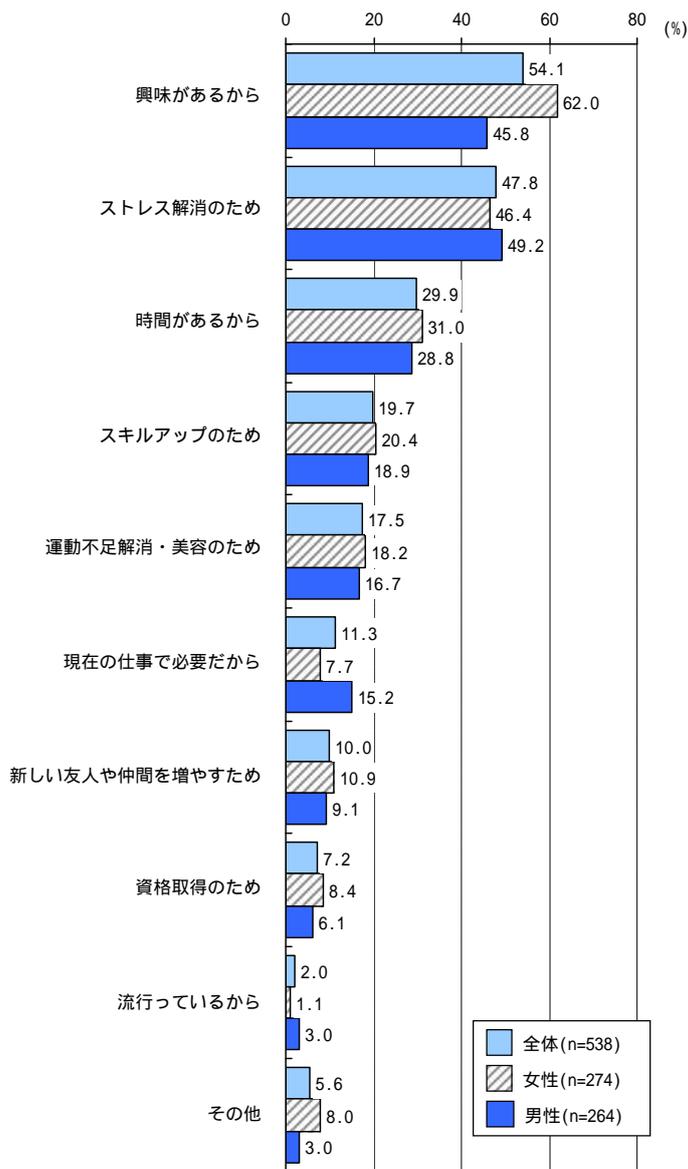


【概要】『パソコン』が71.5%で7割以上を占めて最も高く、次いで『運動系』21.0%、
『芸術系』14.6%の順になっている。

【性別】性別にみると、ほとんど全ての項目で、男女間の差はほとんどみられない。

問10 付問(1) 余暇を過ごす理由を教えてください。(はいくつでも)

問10で「2～9」を答えた方のみ質問



【概要】『興味があるから』が54.1%で半数以上を占めて最も高く、次いで『ストレス解消のため』47.8%、『時間があるから』29.9%の順になっている。

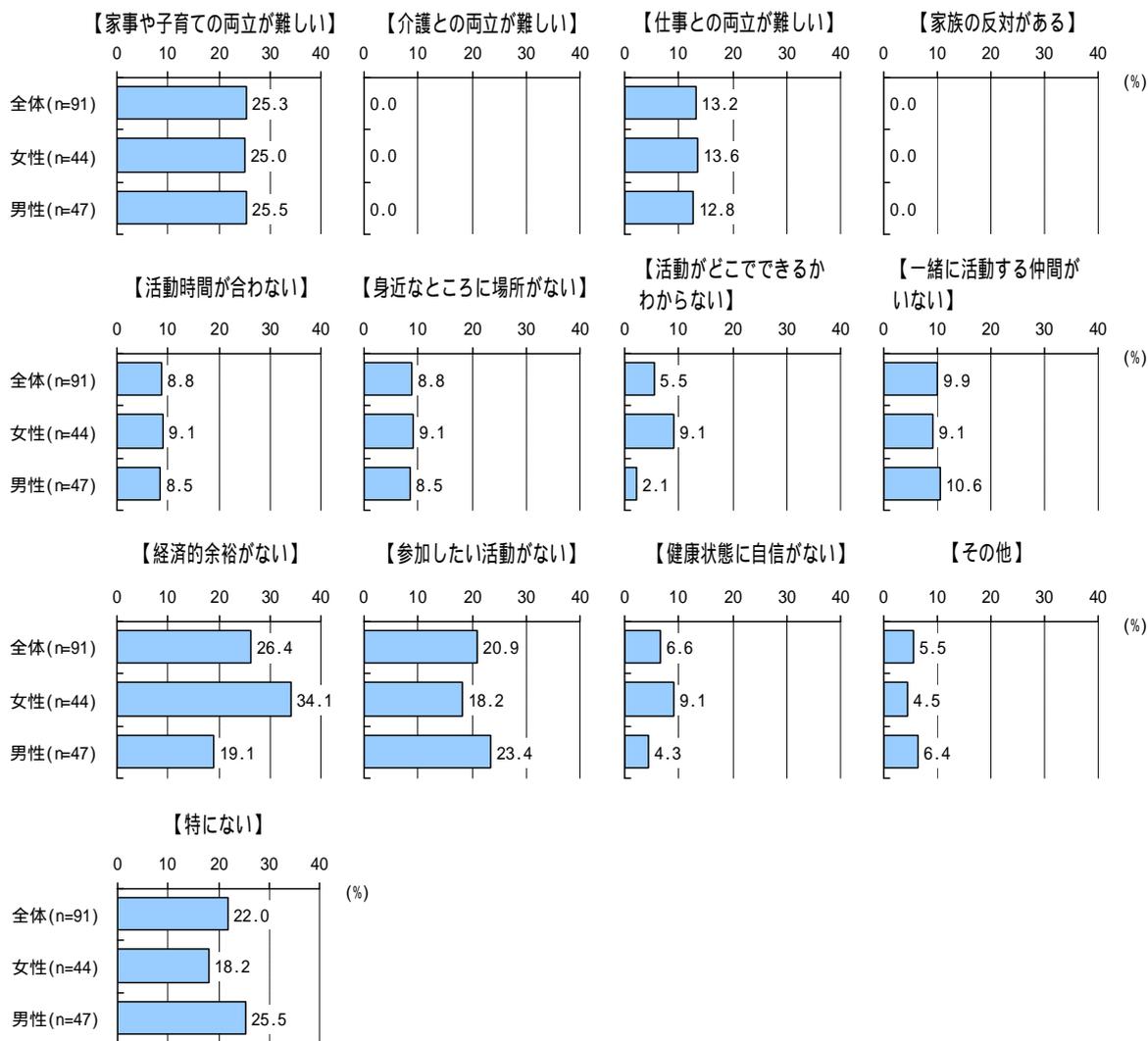
【性別】性別にみると、女性で最も高いのは62.0%の『興味があるから』で、男性で最も高いのは49.2%の『ストレス解消のため』となっている。『興味があるから』は、男女間で16.2ポイントの差がみられる。

【性・就業の有無別 問10付問(1)】

	調査数	必要だから仕事で	たスキルアップのため	資格取得のため	美容・運動不足のため	たストレス解消のため	仲間をい増やすため	流行っているから	上段：件数、下段：%			
									興味があるから	時間があるから	その他	
女性	女性就業者	189	19	43	18	40	93	24	2	112	61	15
	女性非就業者	77	1	13	9.5	21.2	49.2	12.7	1.1	59.3	32.3	7.9
男性	男性就業者	212	35	44	4	9	32	6	0	55	21	5
	男性非就業者	100.0	1.3	16.9	5.2	11.7	41.6	7.8	0.0	71.4	27.3	6.5
性	全体	100.0	16.5	20.8	5.2	18.9	50.5	8.0	2.8	43.4	25.5	3.3
	女性	48	4	5	5	4	21	6	2	27	22	0
性	100.0	8.3	10.4	10.4	8.3	43.8	12.5	4.2	56.3	45.8	0.0	

問10 付問(2) 特に何もしていない理由を教えてください。(はいくつでも)

問10で「1」と答えた方だけに質問



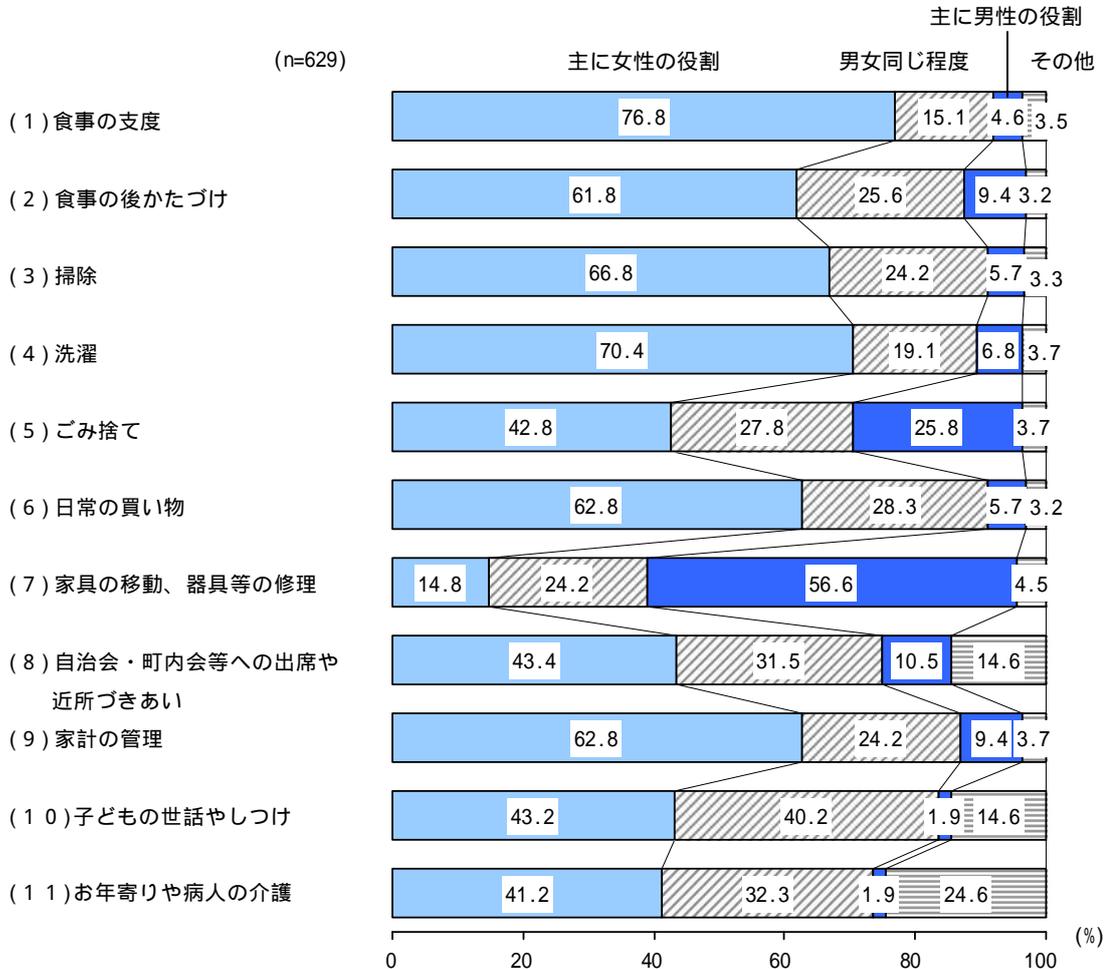
【概要】『特にない』22.0%を除くと、『経済的余裕がない』が26.4%で最も高く、次いで『家事や子育ての両立が難しい』25.3%、『参加したい活動がない』20.9%の順になっている。

【性別】性別にみると、『経済的余裕がない』で女性が34.1%で最も高く、男性では『家事や子育ての両立が難しい』が25.5%と最も高い。男女間で差があるのは、『経済的余裕がない』では女性が男性より高く、15.0ポイントの差があり、『特にない』では男性が女性より高く7.3ポイントの差がみられる。

日常生活での役割分担

問2 あなたのご家庭では次にあげるような日常的なことがらは、主にどなたがしていますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

* (10)(11)については対象の方がいない場合も、考え方としてお書きください。



【概要】日常生活での役割分担について、ほとんど全ての項目で、『主に女性の役割』の割合が高くなっている。『主に女性の役割』が過半数を占めているものは以下の項目である。

- (1) 食事の支度 (76.8%)
- (4) 洗濯 (70.4%)
- (3) 掃除 (66.8%)
- (6) 日常の買い物 (62.8%)
- (9) 家計の管理 (62.8%)
- (2) 食事の後かたづけ (61.8%)

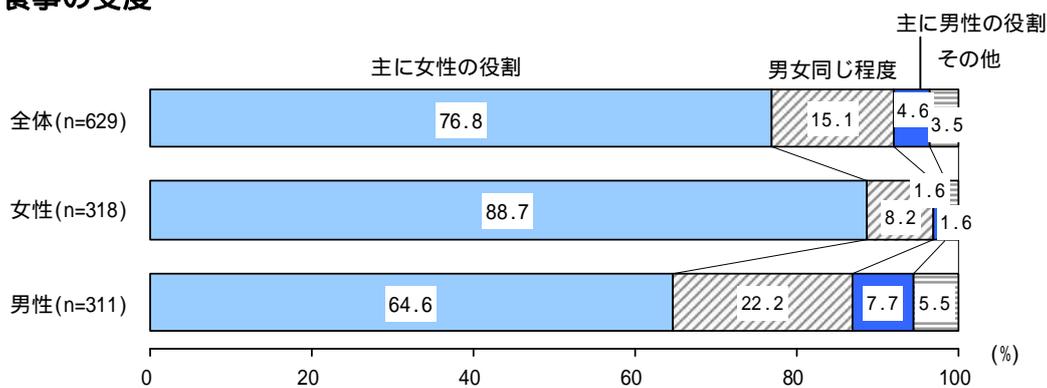
『主に女性の役割』よりも『主に男性の役割』の割合の方が高いもの

- (7) 家具の移動、器具等の修理 (56.6%)

その他、『男女同じ程度』の割合が、比較的高い項目

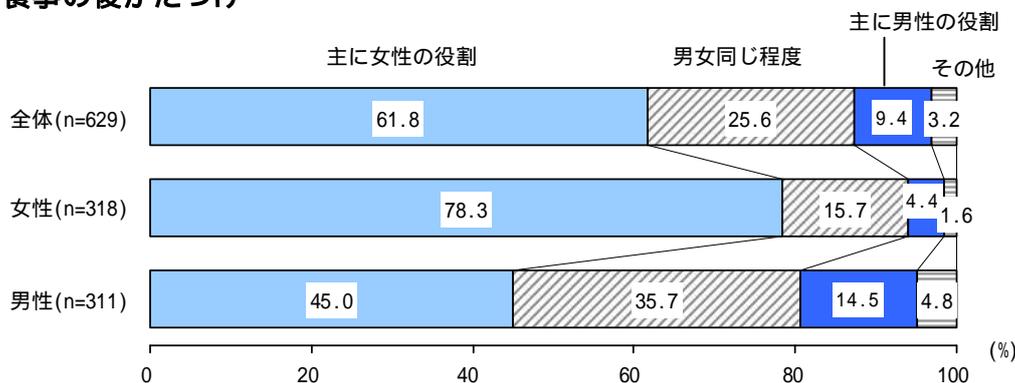
- (10) 子どもの世話やしつけ (40.2%)
- (11) お年寄りや病人の介護 (32.3%)
- (8) 自治会・町内会等への出席や近所づきあい (31.5%)

(1) 食事の支度



【性別】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が女性では88.7%と大半を占めており、男性では64.6%と、女性の方が24.1ポイント高くなっている。『男女同じ程度』では、男性が22.2%、女性が8.2%と男性の方が14.0ポイント高くなっている。

(2) 食事の後かたづけ



【性別】性別にみると、『主に女性の役割』の割合では、女性が78.3%で約8割を占めており、男性では45.0%と、女性の方が33.3ポイント高くなっている。『男女同じ程度』では、男性が35.7%、女性が15.7%と男性の方が20.0ポイント高くなっている。

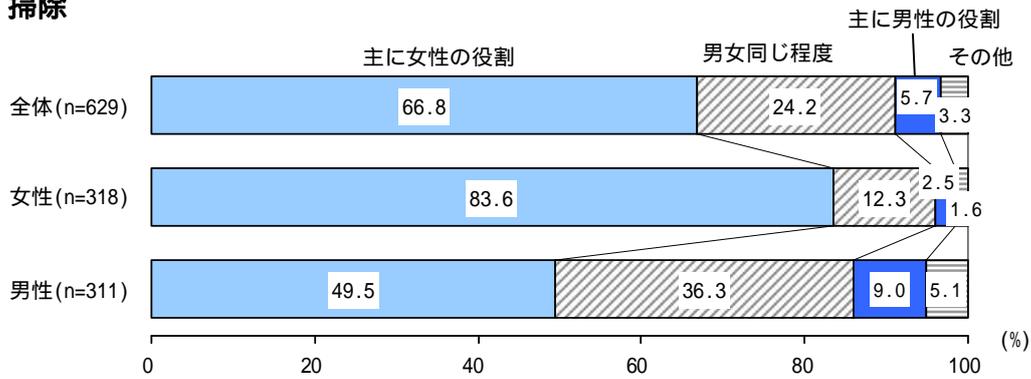
【性・年代、家族形態別 問2(1)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75 100.0	61 81.3	12 16.0	2 2.7	0 0.0
	25歳～29歳	82 100.0	73 89.0	6 7.3	0 0.0	3 3.7
	30歳～34歳	81 100.0	73 90.1	4 4.9	2 2.5	2 2.5
	35歳～39歳	80 100.0	75 93.8	4 5.0	1 1.3	0 0.0
男	20～24歳	77 100.0	49 63.6	18 23.4	6 7.8	4 5.2
	25歳～29歳	75 100.0	44 58.7	16 21.3	10 13.3	5 6.7
	30歳～34歳	81 100.0	56 69.1	18 22.2	5 6.2	2 2.5
	35歳～39歳	78 100.0	52 66.7	17 21.8	3 3.8	6 7.7
単身世帯(ひとり暮らし)	180 100.0	108 60.0	40 22.2	16 8.9	16 8.9	
夫婦のみの世帯	100 100.0	90 90.0	9 9.0	1 1.0	0 0.0	
親と子の世帯	275 100.0	231 84.0	35 12.7	5 1.8	4 1.5	
親と子と孫の世帯	24 100.0	21 87.5	3 12.5	0 0.0	0 0.0	
その他	50 100.0	33 66.0	8 16.0	7 14.0	2 4.0	

【性・年代、性・就業の有無別 問2(2)】

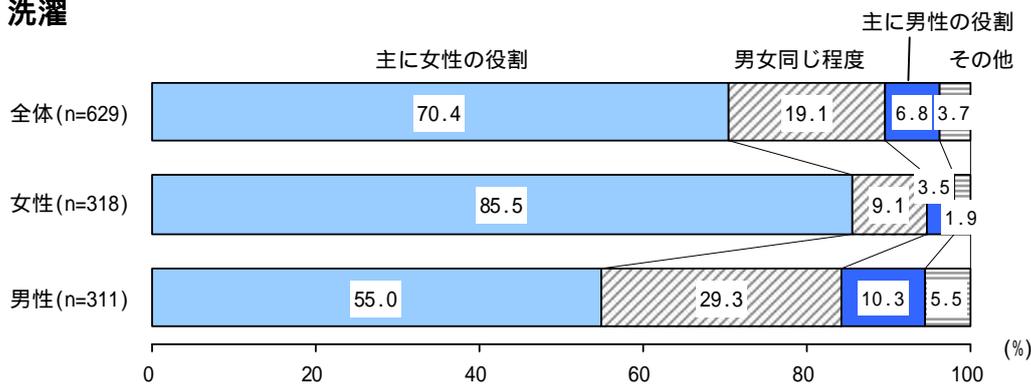
	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75 100.0	51 68.0	19 25.3	5 6.7	0 0.0
	25歳～29歳	82 100.0	63 76.8	14 17.1	2 2.4	3 3.7
	30歳～34歳	81 100.0	68 84.0	6 7.4	5 6.2	2 2.5
	35歳～39歳	80 100.0	67 83.8	11 13.8	2 2.5	0 0.0
男	20～24歳	77 100.0	31 40.3	32 41.6	10 13.0	4 5.2
	25歳～29歳	75 100.0	31 41.3	26 34.7	14 18.7	4 5.3
	30歳～34歳	81 100.0	38 46.9	32 39.5	10 12.3	1 1.2
	35歳～39歳	78 100.0	40 51.3	21 26.9	11 14.1	6 7.7
女	女性就業者	216 100.0	166 76.9	38 17.6	9 4.2	3 1.4
	女性非就業者	93 100.0	77 82.8	10 10.8	5 5.4	1 1.1
男	男性就業者	255 100.0	113 44.3	93 36.5	37 14.5	12 4.7
	男性非就業者	62 100.0	25 48.1	16 30.8	8 15.4	3 5.8

(3) 掃除



【性別】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が女性では83.6%と大半を占めており、男性は49.5%で女性の方が34.1ポイント高くなっている。また、男性は『男女同じ程度』が36.3%となっている。

(4) 洗濯



【性別】性別にみると、『主に女性の役割』の割合が女性では85.5%と大半を占めており、男性も55.0%と過半数を占めるが、女性の方が30.5ポイント高くなっている。

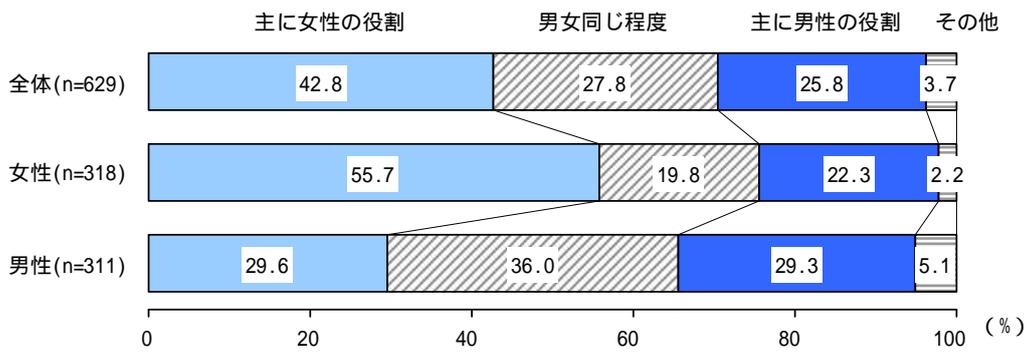
【性・年代、性・就業の有無、
家族形態別 問2(3)】

【性・年代、性・就業の有無、
家族形態別 問2(4)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20~24歳	75 100.0	62 82.7	10 13.3	3 4.0	0 0.0
	25歳~29歳	82 100.0	63 76.8	13 15.9	3 3.7	3 3.7
	30歳~34歳	81 100.0	70 86.4	8 9.9	1 1.2	2 2.5
	35歳~39歳	80 100.0	71 88.8	8 10.0	1 1.3	0 0.0
男	20~24歳	77 100.0	39 50.6	28 36.4	6 7.8	4 5.2
	25歳~29歳	75 100.0	32 42.7	26 34.7	12 16.0	5 6.7
	30歳~34歳	81 100.0	40 49.4	34 42.0	6 7.4	1 1.2
	35歳~39歳	78 100.0	43 55.1	25 32.1	4 5.1	6 7.7
性	女性就業者	216 100.0	176 81.5	32 14.8	5 2.3	3 1.4
	女性非就業者	93 100.0	83 89.2	6 6.5	3 3.2	1 1.1
	男性就業者	255 100.0	128 50.2	91 35.7	23 9.0	13 5.1
	男性非就業者	52 100.0	25 48.1	19 36.5	5 9.6	3 5.8
家族形態別	単身世帯(ひとり暮らし)	180 100.0	95 52.8	53 29.4	17 9.4	15 8.3
	夫婦のみの世帯	100 100.0	73 73.0	22 22.0	5 5.0	0 0.0
	親と子の世帯	275 100.0	204 74.2	58 21.1	9 3.3	4 1.5
	親と子と孫の世帯	24 100.0	20 83.3	4 16.7	0 0.0	0 0.0
	その他	50 100.0	28 56.0	15 30.0	5 10.0	2 4.0

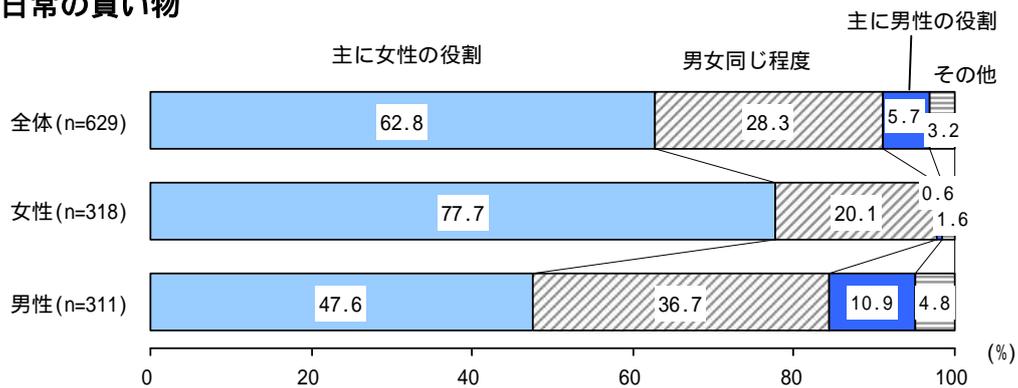
	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20~24歳	75 100.0	62 82.7	10 13.3	3 4.0	0 0.0
	25歳~29歳	82 100.0	69 84.1	8 9.8	1 1.2	4 4.9
	30歳~34歳	81 100.0	71 87.7	5 6.2	3 3.7	2 2.5
	35歳~39歳	80 100.0	70 87.5	6 7.5	4 5.0	0 0.0
男	20~24歳	77 100.0	42 54.5	23 29.9	8 10.4	4 5.2
	25歳~29歳	75 100.0	38 50.7	18 24.0	13 17.3	6 8.0
	30歳~34歳	81 100.0	48 59.3	27 33.3	5 6.2	1 1.2
	35歳~39歳	78 100.0	43 55.1	23 29.5	6 7.7	6 7.7
性	女性就業者	216 100.0	181 83.8	22 10.2	9 4.2	4 1.9
	女性非就業者	93 100.0	84 90.3	6 6.5	2 2.2	1 1.1
	男性就業者	255 100.0	142 55.7	75 29.4	24 9.4	14 5.5
	男性非就業者	52 100.0	28 53.8	13 25.0	8 15.4	3 5.8
家族形態別	単身世帯(ひとり暮らし)	180 100.0	98 54.4	46 25.6	19 10.6	17 9.4
	夫婦のみの世帯	100 100.0	73 73.0	20 20.0	7 7.0	0 0.0
	親と子の世帯	275 100.0	217 78.9	44 16.0	10 3.6	4 1.5
	親と子と孫の世帯	24 100.0	22 91.7	2 8.3	0 0.0	0 0.0
	その他	50 100.0	33 66.0	8 16.0	7 14.0	2 4.0

(5) ごみ捨て



【性別】性別にみると、女性では『主に女性の役割』の割合が55.7%で過半数を占め最も高く、男性では『男女同じ程度』の割合が36.0%で最も高くなっている。

(6) 日常の買い物



【性別】男女とも『主に女性の役割』の割合が最も高いが、女性77.7%と男性47.6%で30.1ポイントの差がみられる。男性では、『男女同じ程度』が36.7%となっている。

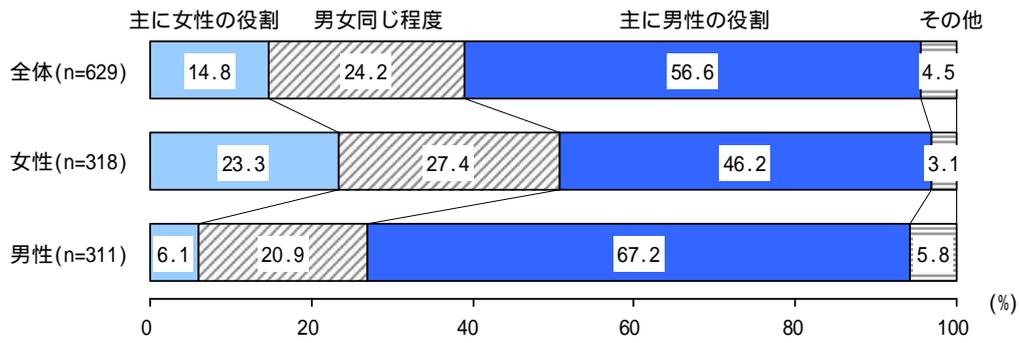
【性・年代、性・就業の有無、家族形態別 問2(6)】

【性・年代、家族形態別 問2(5)】

	調査数	上段：件数、下段：%			
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他
女					
20～24歳	75	43	14	17	1
100.0	57.3	18.7	22.7	1.3	
25歳～29歳	82	47	15	17	3
100.0	57.3	18.3	20.7	3.7	
30歳～34歳	81	41	20	18	2
100.0	50.6	24.7	22.2	2.5	
性					
35歳～39歳	80	46	14	19	1
100.0	57.5	17.5	23.8	1.3	
男					
20～24歳	77	26	29	18	4
100.0	33.8	37.7	23.4	5.2	
25歳～29歳	75	17	23	31	4
100.0	22.7	30.7	41.3	5.3	
30歳～34歳	81	23	31	25	2
100.0	28.4	38.3	30.9	2.5	
性					
35歳～39歳	78	26	29	17	6
100.0	33.3	37.2	21.8	7.7	
単身世帯(ひとり暮らし)	180	68	61	37	14
100.0	37.8	33.9	20.6	7.8	
夫婦のみの世帯	100	34	21	44	1
100.0	34.0	21.0	44.0	1.0	
親と子の世帯	275	137	77	56	5
100.0	49.8	28.0	20.4	1.8	
親と子と孫の世帯	24	11	6	6	1
100.0	45.8	25.0	25.0	4.2	
その他	50	19	10	19	2
100.0	38.0	20.0	38.0	4.0	

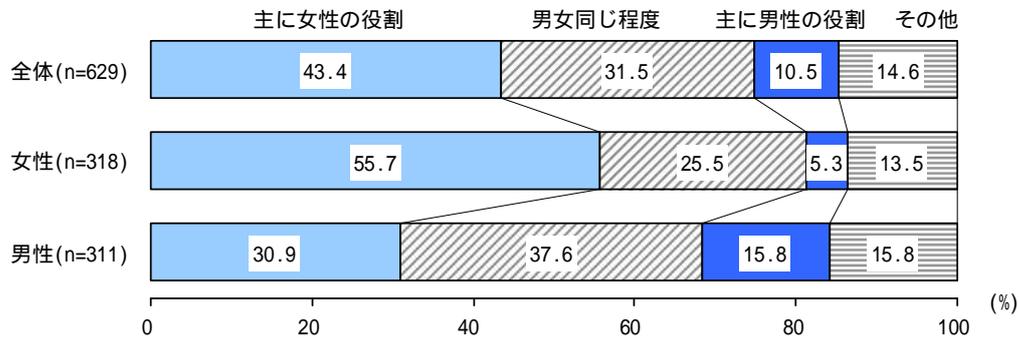
	調査数	上段：件数、下段：%			
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他
女					
20～24歳	75	52	21	2	0
100.0	69.3	28.0	2.7	0.0	
25歳～29歳	82	65	14	0	3
100.0	79.3	17.1	0.0	3.7	
30歳～34歳	81	62	17	0	2
100.0	76.5	21.0	0.0	2.5	
性					
35歳～39歳	80	68	12	0	0
100.0	85.0	15.0	0.0	0.0	
男					
20～24歳	77	39	27	7	4
100.0	50.6	35.1	9.1	5.2	
25歳～29歳	75	33	23	15	4
100.0	44.0	30.7	20.0	5.3	
30歳～34歳	81	45	31	4	1
100.0	55.6	38.3	4.9	1.2	
性					
35歳～39歳	78	31	33	8	6
100.0	39.7	42.3	10.3	7.7	
女性就業者	216	163	49	1	3
100.0	75.5	22.7	0.5	1.4	
女性非就業者	93	79	12	1	1
100.0	84.9	12.9	1.1	1.1	
男性就業者	255	121	95	27	12
100.0	47.5	37.3	10.6	4.7	
男性非就業者	52	25	17	7	3
100.0	48.1	32.7	13.5	5.8	
単身世帯(ひとり暮らし)	180	89	58	19	14
100.0	49.4	32.2	10.6	7.8	
夫婦のみの世帯	100	66	30	4	0
100.0	66.0	30.0	4.0	0.0	
親と子の世帯	275	198	66	7	4
100.0	72.0	24.0	2.5	1.5	
親と子と孫の世帯	24	16	7	1	0
100.0	66.7	29.2	4.2	0.0	
その他	50	26	17	5	2
100.0	52.0	34.0	10.0	4.0	

(7) 家具の移動、器具等の修理



【性別】男女ともに『主に男性の役割』の割合が一番高いが、女性では46.2%で半数以下となっているが、男性では67.2%で約7割を占めており、女性より21.0ポイント高くなっている。女性は『男女同じ程度』が27.4%となっている。

(8) 自治会・町内会等への出席や近所づきあい



【性別】性別にみると、女性では『主に女性の役割』の割合が55.7%で過半数を占め最も高く、男性では『男女同じ程度』の割合が37.6%で最も高くなっている。

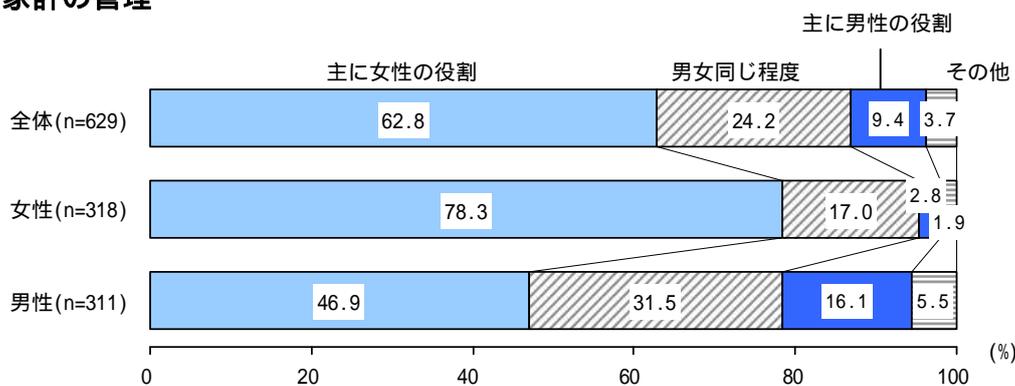
【性・年代別 問2(7)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75 100.0	19 25.3	18 24.0	36 48.0	2 2.7
	25歳～29歳	82 100.0	19 23.2	22 26.8	38 46.3	3 3.7
	30歳～34歳	81 100.0	15 18.5	21 25.9	42 51.9	3 3.7
	35歳～39歳	80 100.0	21 26.3	26 32.5	31 38.8	2 2.5
男	20～24歳	77 100.0	6 7.8	24 31.2	41 53.2	6 7.8
	25歳～29歳	75 100.0	3 4.0	12 16.0	56 74.7	4 5.3
	30歳～34歳	81 100.0	6 7.4	16 19.8	58 71.6	1 1.2
	35歳～39歳	78 100.0	4 5.1	13 16.7	54 69.2	7 9.0

【性・年代、性・就業の有無別 問2(8)】

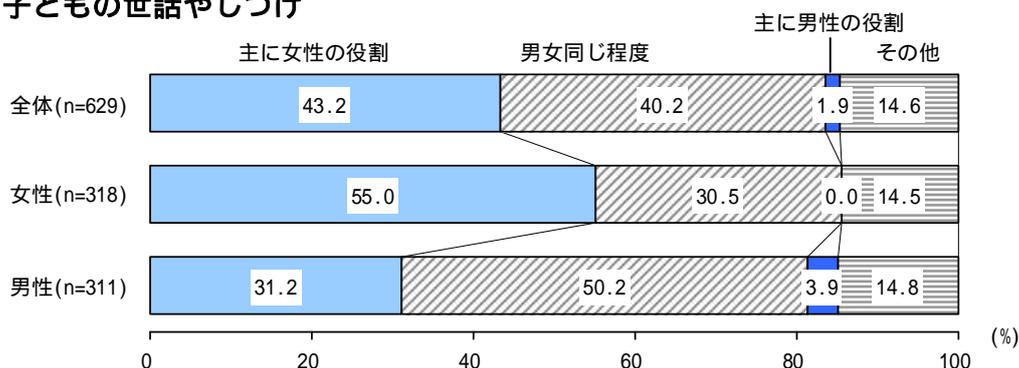
	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75 100.0	43 57.3	24 32.0	3 4.0	5 6.7
	25歳～29歳	82 100.0	41 50.0	23 28.0	6 7.3	12 14.6
	30歳～34歳	81 100.0	44 54.3	21 25.9	1 1.2	15 18.5
	35歳～39歳	80 100.0	49 61.3	13 16.3	7 8.8	11 13.8
男	20～24歳	77 100.0	31 40.3	26 33.8	11 14.3	9 11.7
	25歳～29歳	75 100.0	21 28.0	27 36.0	9 12.0	18 24.0
	30歳～34歳	81 100.0	21 25.9	35 43.2	14 17.3	11 13.6
	35歳～39歳	78 100.0	23 29.5	29 37.2	15 19.2	11 14.1
女	女性就業者	216 100.0	116 53.7	53 24.5	13 6.0	34 15.7
	女性非就業者	93 100.0	57 61.3	25 26.9	4 4.3	7 7.5
男	男性就業者	255 100.0	73 28.6	97 38.0	43 16.9	42 16.5
	男性非就業者	52 100.0	22 42.3	18 34.6	5 9.6	7 13.5

(9) 家計の管理



【性別】男女とも『主に女性の役割』の割合が女性では78.3%と約8割弱を占めるが、男性は46.9%と、女性の方が31.4ポイント高く男女間で差がある。また、男性は『男女同じ程度』が31.5%となっている。

(10) 子どもの世話やしつけ



【性別】性別にみると、女性では『主に女性の役割』の割合が55.0%で半数以上を占めているが、男性では『男女同じ程度』が50.2%で半数を占めている。『主に男性の役割』の割合では、男性は3.9%で女性では0.0%となっている。

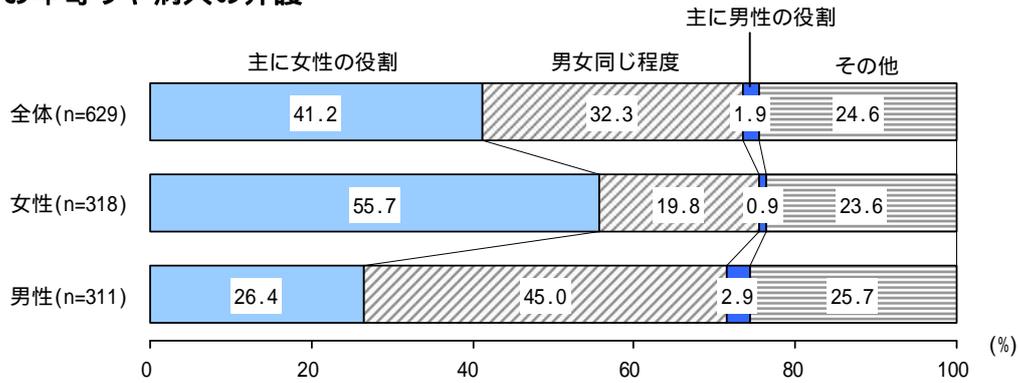
【性・年代別 問2(9)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75	55	16	3	1
		100.0	73.3	21.3	4.0	1.3
	25歳～29歳	82	63	13	3	3
		100.0	76.8	15.9	3.7	3.7
性	30歳～34歳	81	65	13	1	2
		100.0	80.2	16.0	1.2	2.5
男	35歳～39歳	80	66	12	2	0
		100.0	82.5	15.0	2.5	0.0
	20～24歳	77	36	27	10	4
		100.0	46.8	35.1	13.0	5.2
性	25歳～29歳	75	34	17	19	5
		100.0	45.3	22.7	25.3	6.7
女	30歳～34歳	81	38	32	9	2
		100.0	46.9	39.5	11.1	2.5
	35歳～39歳	78	38	22	12	6
		100.0	48.7	28.2	15.4	7.7

【性・年代別 問2(10)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75	43	28	0	4
		100.0	57.3	37.3	0.0	5.3
	25歳～29歳	82	43	26	0	13
		100.0	52.4	31.7	0.0	15.9
性	30歳～34歳	81	44	21	0	16
		100.0	54.3	25.9	0.0	19.8
男	35歳～39歳	80	45	22	0	13
		100.0	56.3	27.5	0.0	16.3
	20～24歳	77	31	35	2	9
		100.0	40.3	45.5	2.6	11.7
性	25歳～29歳	75	19	37	6	13
		100.0	25.3	49.3	8.0	17.3
女	30歳～34歳	81	20	47	3	11
		100.0	24.7	58.0	3.7	13.6
	35歳～39歳	78	27	37	1	13
		100.0	34.6	47.4	1.3	16.7

(11) お年寄りや病人の介護



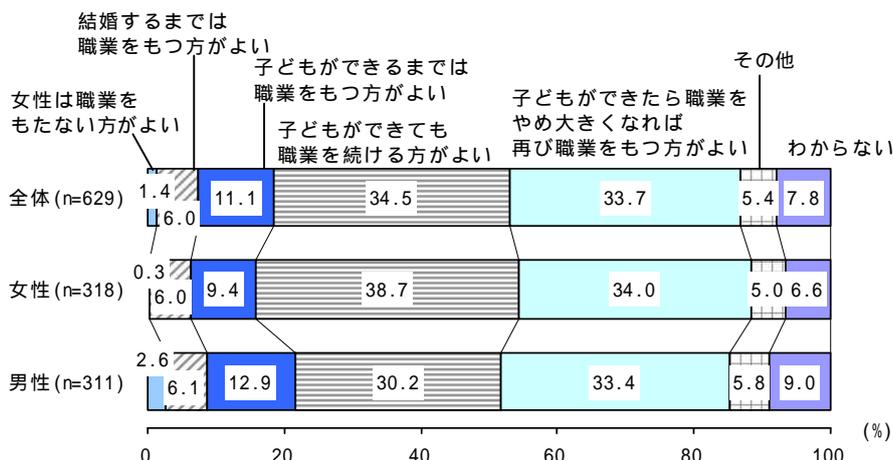
【性別】性別にみると、女性では『主に女性の役割』の割合が55.7%で半数以上を占めており、男性では『男女同じ程度』が45.0%となっている。

【性・年代、性・就業の有無、家族形態別 問2(11)】

	調査数	上段：件数、下段：%				
		主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他	
女	20～24歳	75 100.0	42 56.0	22 29.3	1 1.3	10 13.3
	25歳～29歳	82 100.0	39 47.6	19 23.2	1 1.2	23 28.0
	30歳～34歳	81 100.0	52 64.2	8 9.9	0 0.0	21 25.9
	35歳～39歳	80 100.0	44 55.0	14 17.5	1 1.3	21 26.3
男	20～24歳	77 100.0	26 33.8	35 45.5	1 1.3	15 19.5
	25歳～29歳	75 100.0	17 22.7	37 49.3	5 6.7	16 21.3
	30歳～34歳	81 100.0	16 19.8	38 46.9	2 2.5	25 30.9
	35歳～39歳	78 100.0	23 29.5	30 38.5	1 1.3	24 30.8
女	女性就業者	216 100.0	128 59.3	37 17.1	2 0.9	49 22.7
	女性非就業者	93 100.0	45 48.4	24 25.8	1 1.1	23 24.7
男	男性就業者	255 100.0	64 25.1	113 44.3	9 3.5	69 27.1
	男性非就業者	52 100.0	18 34.6	25 48.1	0 0.0	9 17.3
単身世帯(ひとり暮らし)		180 100.0	80 44.4	63 35.0	6 3.3	31 17.2
夫婦のみの世帯		100 100.0	34 34.0	24 24.0	1 1.0	41 41.0
親と子の世帯		275 100.0	113 41.1	92 33.5	4 1.5	66 24.0
親と子と孫の世帯		24 100.0	16 66.7	6 25.0	0 0.0	2 8.3
その他		50 100.0	16 32.0	18 36.0	1 2.0	15 30.0

女性の就労に関する考え方

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。あてはまるものを選んでください。(は1つだけ)



【概要】女性の就労に関する考え方について、『子どもができて職業を続ける方がよい』が34.5%、『子どもができたら職業をやめ大きくなれば再び職業をもつ方がよい』33.7%となっている。

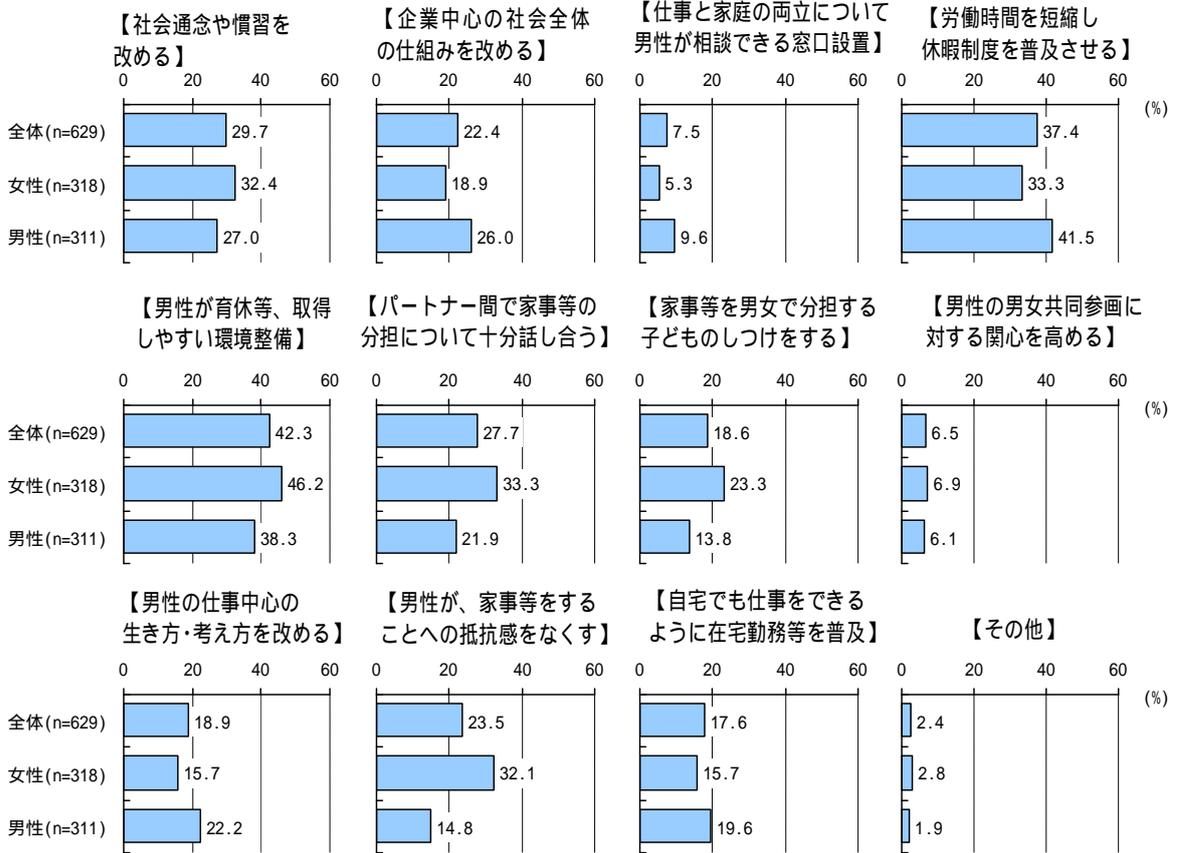
【性別】性別にみると、女性では『子どもができて職業を続ける方がよい』の割合が38.7%で最も高く、男性では『子どもができたら職業をやめ大きくなれば再び職業をもつ方がよい』の割合が33.4%で最も高い。『子どもができて職業を続ける方がよい』の割合では、女性の方が男性より8.5ポイント高く、『子どもができたら職業をやめ大きくなれば再び職業をもつ方がよい』の割合では男女間で、差はみられない。

【性・年代、性・就業の有無別 問4】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		女性(男性)は職業をもたない方がよい	結婚するまでは職業を	子どもができて職業を続ける方がよい	子どもができて職業を続ける方がよい	子どもができたら職業をやめ大きくなれば再び職業をもつ方がよい	わからない		
女	20~24歳	75 100.0	0 0.0	7 9.3	9 12.0	25 33.3	26 34.7	4 5.3	4 5.3
	25歳~29歳	82 100.0	1 1.2	3 3.7	8 9.8	34 41.5	28 34.1	2 2.4	6 7.3
	30歳~34歳	81 100.0	0 0.0	2 2.5	9 11.1	27 33.3	33 40.7	6 7.4	4 4.9
	35歳~39歳	80 100.0	0 0.0	7 8.8	4 5.0	37 46.3	21 26.3	4 5.0	7 8.8
	男	20~24歳	77 100.0	1 1.3	4 5.2	11 14.3	21 27.3	25 32.5	6 7.8
25歳~29歳	75 100.0	1 1.3	3 4.0	10 13.3	22 29.3	29 38.7	5 6.7	5 6.7	
30歳~34歳	81 100.0	2 2.5	2 2.5	8 9.9	36 44.4	23 28.4	3 3.7	7 8.6	
35歳~39歳	78 100.0	4 5.1	10 12.8	11 14.1	15 19.2	27 34.6	4 5.1	7 9.0	
女	女性就業者	216 100.0	1 0.5	15 6.9	19 8.8	91 42.1	68 31.5	10 4.6	12 5.6
	女性非就業者	93 100.0	0 0.0	4 4.3	10 10.8	29 31.2	39 41.9	3 3.2	8 8.6
男	男性就業者	255 100.0	8 3.1	15 5.9	35 13.7	79 31.0	86 33.7	14 5.5	18 7.1
	男性非就業者	52 100.0	0 0.0	4 7.7	5 9.6	14 26.9	16 30.8	3 5.8	10 19.2

男性の参画を進めるために必要なこと

問8 あなたは、男性の家庭生活や地域社会の活動への参画を進めていくために、何が重要だと思いますか。考えに近いものを選んでください。(は3つまで)



【概要】男性の参画を進めるために必要なことについて、『男性が育休等、取得しやすい環境整備』が42.3%で最も高くなっており、次いで『労働時間を短縮し休暇制度を普及させる』37.4%、『社会通念や慣習を改める』29.7%の順になっている。

【性別】性別にみると、女性では『男性が育休等、取得しやすい環境整備』の割合が46.2%で最も高く、男性では『労働時間を短縮し休暇制度を普及させる』の割合が41.5%で最も高くなっている。『男性が、家事等をするこへの抵抗感をなくす』では、女性が32.1%、男性14.8%と女性の方が17.3ポイント高くなっている。『パートナー間で家事等の分担について十分話し合う』でも、女性が33.3%、男性21.9%と女性の方が11.4ポイント高くなっている。

【性・就業の有無別 問8】

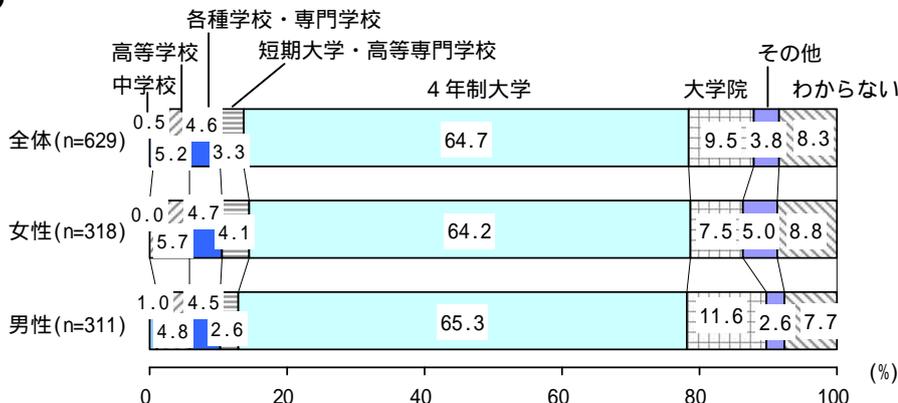
性別	就業状況	調査数	項目											
			慣習を改める	企業中心の仕組み	仕事と家庭の両立	労働時間短縮	育休等取得しやすい環境	パートナー間話し合い	家事分担	男性の仕事中心	抵抗感なくす	在宅勤務	その他	
女性	女性就業者	216	75	43	10	72	97	69	48	16	32	73	31	8
	女性非就業者	93	27	16	5	33	46	35	25	5	15	33.8	14.4	3.7
男性	男性就業者	255	68	72	20	108	98	58	36	16	50	36	50	5
	男性非就業者	52	15	9	9	20	21	9	6	3	17	9	10	0
		100.0	34.7	19.9	4.6	33.3	44.9	31.9	22.2	7.4	14.8	29.0	17.2	0.0
		100.0	29.0	17.2	5.4	35.5	49.5	37.6	26.9	5.4	16.1	29.0	17.2	0.0
		100.0	26.7	28.2	7.8	42.4	38.4	22.7	14.1	6.3	19.6	14.1	19.6	2.0
		100.0	28.8	17.3	17.3	38.5	40.4	17.3	11.5	5.8	32.7	17.3	19.2	0.0

(3) 子どもの教育に関する意識

子どもに受けさせたい教育

問12 あなたは、経済的なことは別にすれば、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。それぞれについてあてはまるものを選んでください。お子さんがいらっしゃらない場合でも、考え方としてお書き下さい。(はそれぞれ1つずつ)

(1) 男の子には



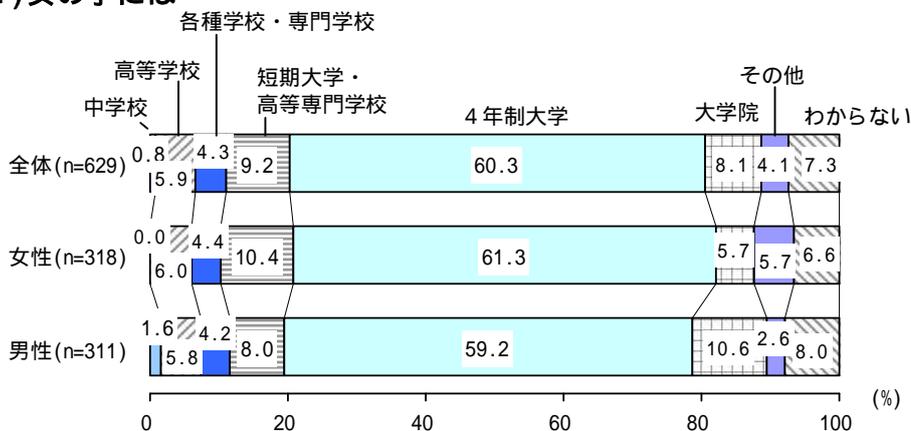
【概要】『4年制大学』が64.7%と過半数を占め最も高く、次いで『大学院』が9.5%となっている。

【性別】性別にみると、『大学院』では、女性が7.5%、男性が11.6%とやや男性の方が高い傾向がみられる。

【性・就業の有無別 問12(1)】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		中学校	高等学校	各種専門学校・短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他	わからない	
女 女性就業者	216	0	12	12	10	135	13	10	24
	100.0	0.0	5.6	5.6	4.6	62.5	6.0	4.6	11.1
女 女性非就業者	93	0	5	3	3	68	9	3	2
	100.0	0.0	5.4	3.2	3.2	73.1	9.7	3.2	2.2
男 男性就業者	255	3	11	9	7	171	29	5	20
	100.0	1.2	4.3	3.5	2.7	67.1	11.4	2.0	7.8
男 男性非就業者	52	0	4	5	1	30	7	1	4
	100.0	0.0	7.7	9.6	1.9	57.7	13.5	1.9	7.7

(2) 女の子には



【概要】『4年制大学』が60.3%と過半数を占め最も高く、次いで『短期大学・高等専門学校』9.2%となっている。

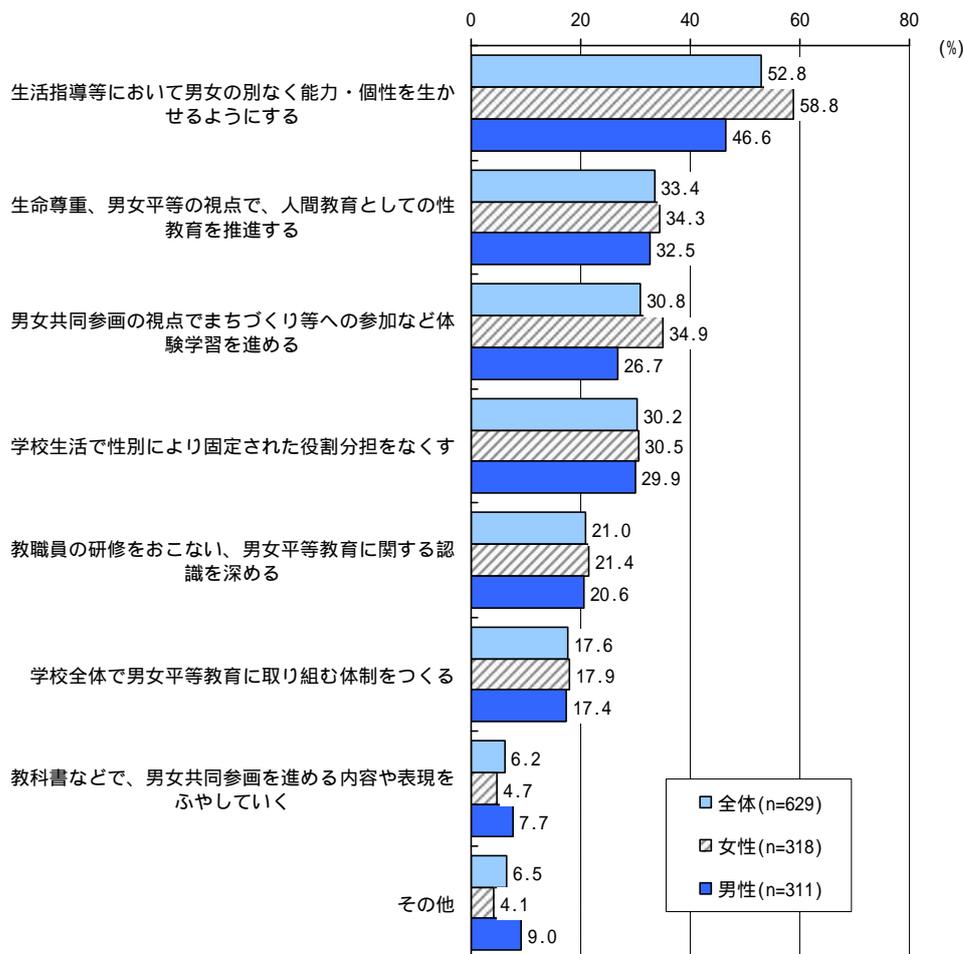
【性別】性別にみると、『大学院』で、女性が5.7%、男性が10.6%、『短期大学・高等専門学校』で女性が10.4%、男性が8.0%となっている。

【性・就業の有無別 問12(2)】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		中学校	高等学校	各種専門学校・短期大学・高等専門学校	4年制大学	大学院	その他	わからない	
女 女性就業者	216	0	12	10	24	129	11	12	18
	100.0	0.0	5.6	4.6	11.1	59.7	5.1	5.6	8.3
女 女性非就業者	93	0	6	3	9	65	6	3	1
	100.0	0.0	6.5	3.2	9.7	69.9	6.5	3.2	1.1
男 男性就業者	255	5	13	9	24	150	28	5	21
	100.0	2.0	5.1	3.5	9.4	58.8	11.0	2.0	8.2
男 男性非就業者	52	0	5	4	1	32	5	1	4
	100.0	0.0	9.6	7.7	1.9	61.5	9.6	1.9	7.7

学校教育の場で推進すべきこと

問13 学校教育の場で推進した方がよいと思われるものはどのようなことですか。お考えに近いものを選んでください。(は3つまで)



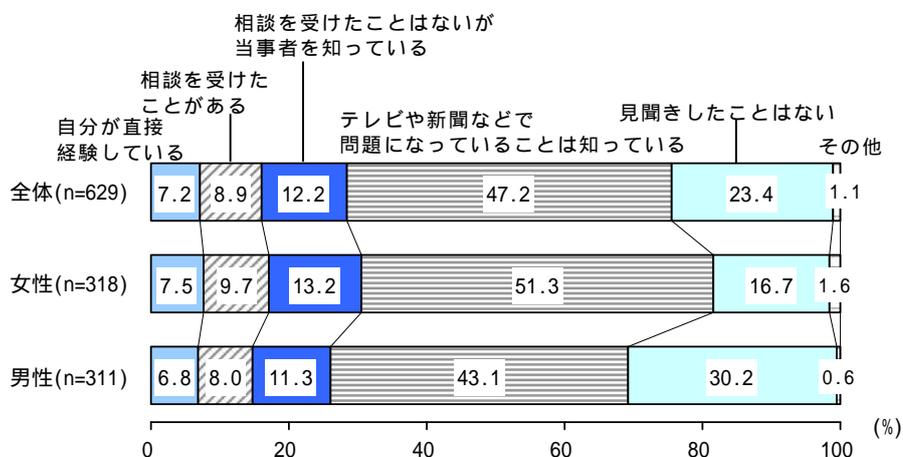
【概要】『生活指導において、男女の別なく能力・個性を生かせるようにする』の割合が52.8%と過半数を占めて最も高く、次いで『生命尊重、男女平等の視点で、人間教育としての性教育を推進する』33.4%、『男女共同参画の視点から、職業体験やまちづくりへの参加など体験学習を進める』30.8%の順になっている。

【性別】性別にみると、男女とも『生活指導等において男女の別なく能力・個性を生かせるようにする』が最も高いが、女性は58.8%で約6割を占める一方、男性は46.6%と女性の方が12.2ポイント高くなっている。『男女共同参画の視点でまちづくり等への参加など体験学習を進める』では女性が34.9%、男性は26.7%となっており、女性の方が8.2ポイント高くなっている。

(4) 男女間における暴力に関する意識と実態

女性に対する暴力行為を見聞きしたこと

問14 女性が配偶者や恋人から継続的に身体的・精神的な暴力行為を受けることについて、あなたの身近で見聞きしたことはありますか？（は1つだけ）



【概要】女性に対する暴力行為を見聞きしたことについて、『テレビや新聞等において問題になっていることは知っている』が47.2%と約半数を占め最も高く、次いで『見聞きしたことはない』23.4%となっている。

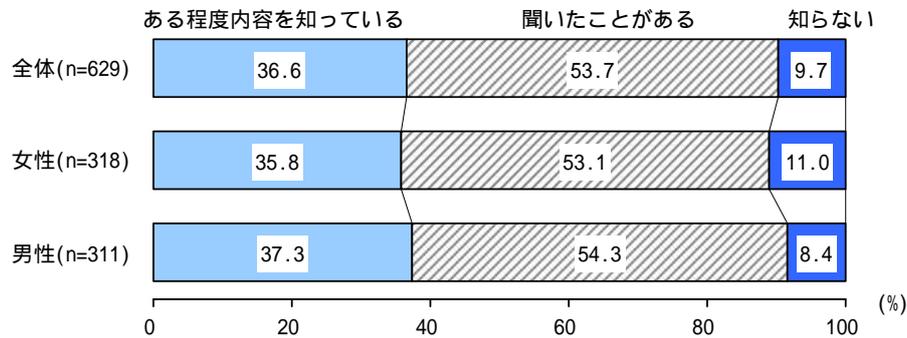
【性別】性別にみると、『見聞きしたことはない』が男性では30.2%、女性では16.7%と男性の方が13.5ポイント高くなっている。

【性・年代別 問14】

	調査数	自分が直接経験している	相談を受けたことがある	相談を受けたことがないが、当事者を知っている	知っていることではないが、テレビや新聞などで問題に	見聞きしたことはない	その他	上段：件数 下段：%	
女	20～24歳	75	5	5	15	38	12	0	
		100.0	6.7	6.7	20.0	50.7	16.0	0.0	
	25歳～29歳	82	5	7	10	51	8	1	
		100.0	6.1	8.5	12.2	62.2	9.8	1.2	
性	30歳～34歳	81	6	6	11	34	22	2	
		100.0	7.4	7.4	13.6	42.0	27.2	2.5	
	35歳～39歳	80	8	13	6	40	11	2	
		100.0	10.0	16.3	7.5	50.0	13.8	2.5	
男	20～24歳	77	6	6	8	32	25	0	
		100.0	7.8	7.8	10.4	41.6	32.5	0.0	
	25歳～29歳	75	4	6	8	40	16	1	
		100.0	5.3	8.0	10.7	53.3	21.3	1.3	
性	30歳～34歳	81	5	5	11	31	28	1	
		100.0	6.2	6.2	13.6	38.3	34.6	1.2	
	35歳～39歳	78	6	8	8	31	25	0	
		100.0	7.7	10.3	10.3	39.7	32.1	0.0	

D V 防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度

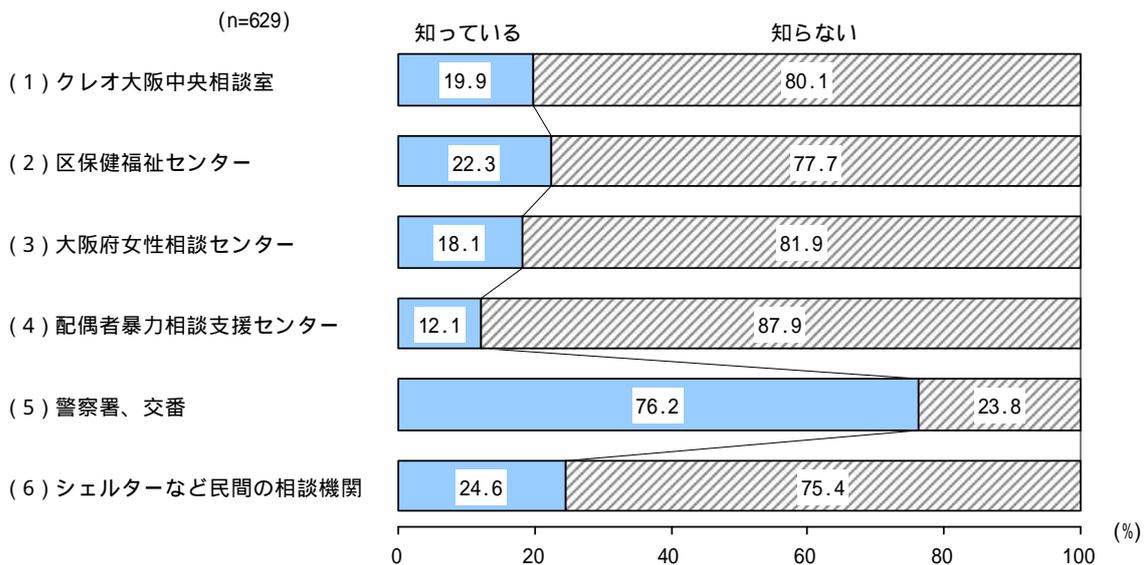
問15 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)を知っていますか？(は1つだけ)



【概要】DV防止法および関係相談機関・対応窓口の周知度について、『聞いたことがある』が53.7%と過半数を占めて最も高く、次いで『ある程度内容を知っている』が36.6%となっている。

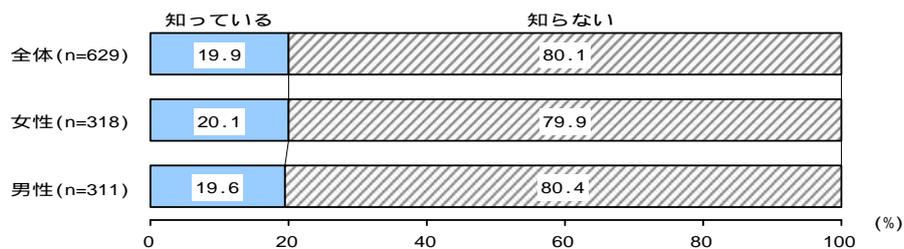
【性別】性別にみると、男女間で割合にあまり差はみられない。

問16 あなたは、女性に対する暴力について、次の相談機関・対応窓口を知っていますか？(はそれぞれ1つずつ)

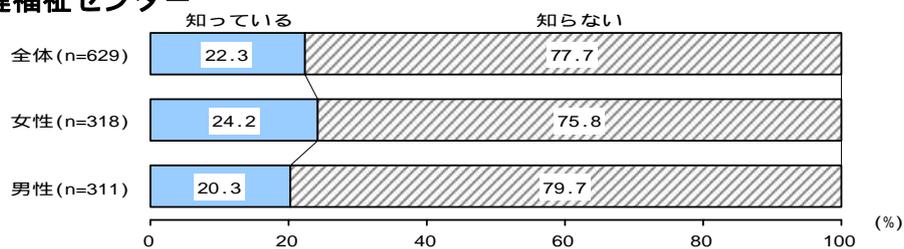


【概要】女性に対する暴力に関する相談機関・対応窓口の認知度について、ほとんどの項目で『知らない』が大半を占めている。『知っている』の割合が『知らない』を上回ったものは、「(5)警察署、交番」(76.2%)のみであった。その他、「(6)シェルターなどの民間の相談機関」では、『知っている』が24.6%と次に高くなっている。

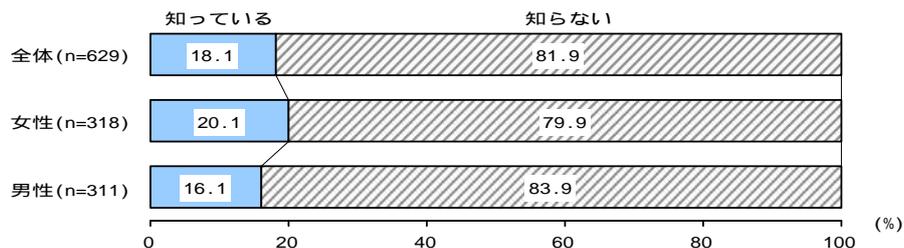
(1) クレオ大阪中央相談室



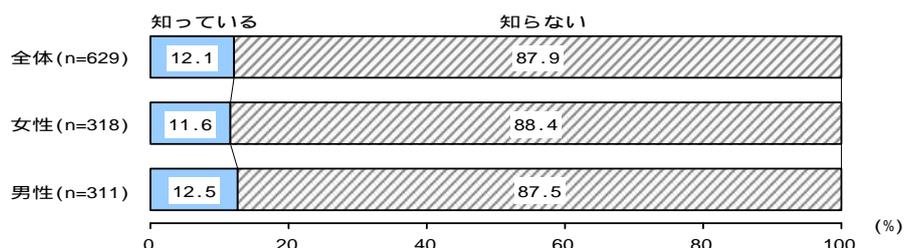
(2) 区保健福祉センター



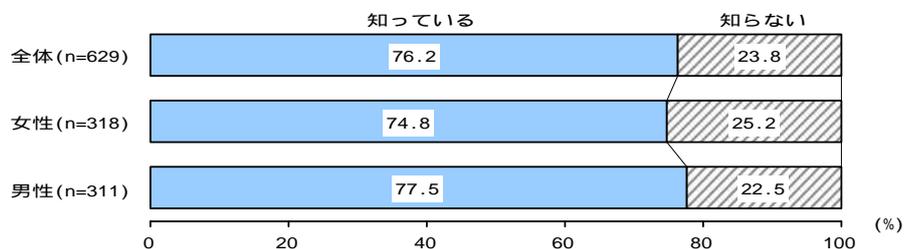
(3) 大阪府女性相談センター



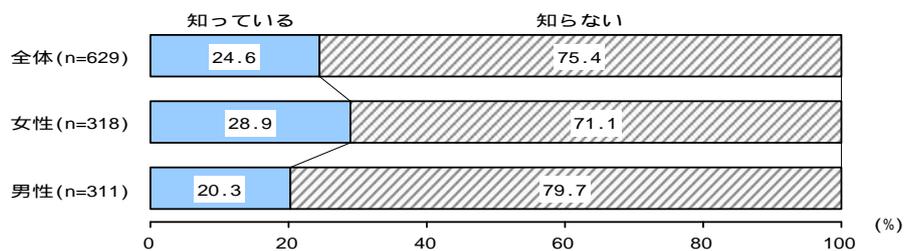
(4) 配偶者暴力相談支援センター



(5) 警察署、交番



(6) シェルターなどの民間の相談機関



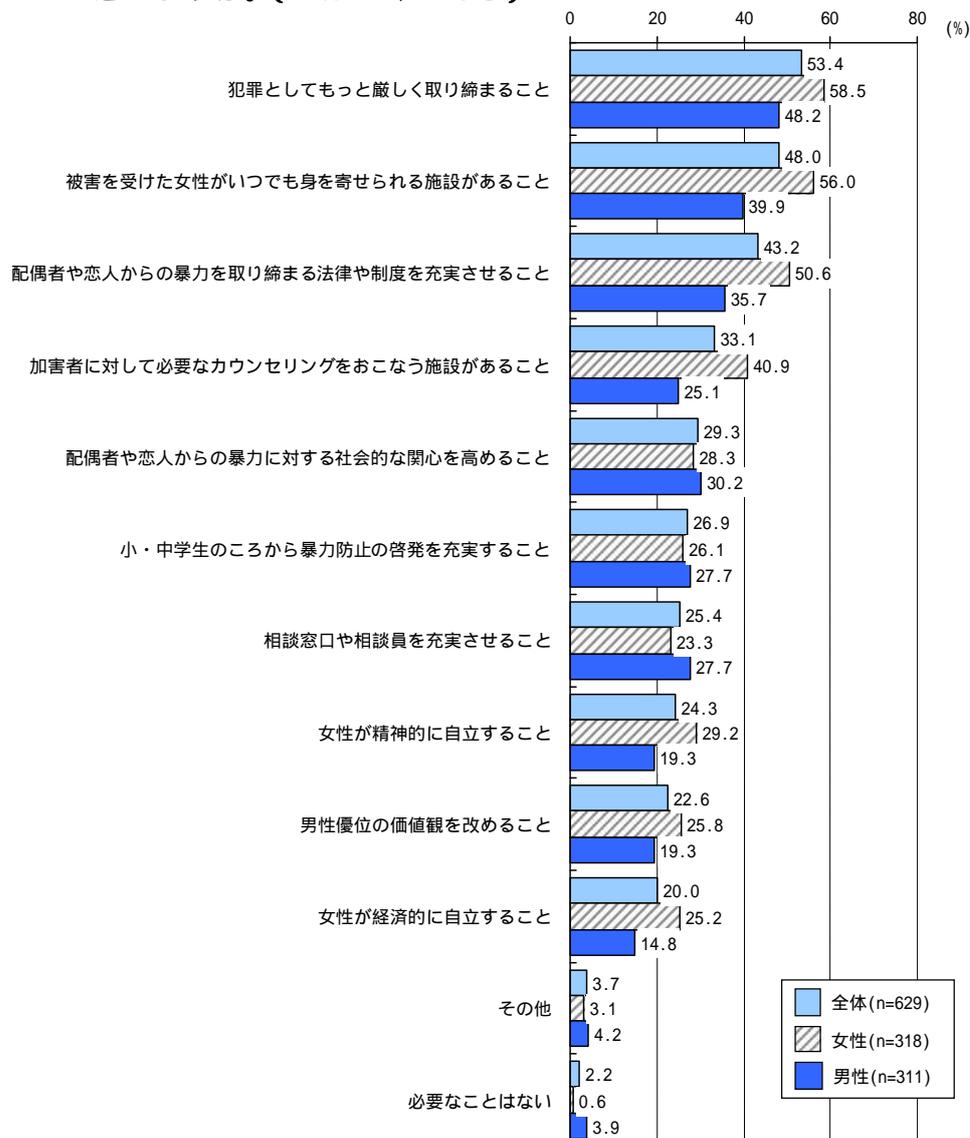
【性別】性別にみると、男女間の割合に大きな差はないものの、「(6)シェルターなどの民間の相談機関」で8.6ポイント、「(3)大阪府女性相談センター」で4.0ポイント、「(2)区保健センター」で3.9ポイントは男性よりも女性の方が『知っている』割合が高くなっている。

【性・年代別 問16】

(1) クレオ大阪中央相談室				(2) 区保健福祉センター				(3) 大阪府女性相談センター									
		上段：件数		下段：%				上段：件数		下段：%				上段：件数		下段：%	
		調査数	知っている	知らない				調査数	知っている	知らない				調査数	知っている	知らない	
女	20～24歳	75	9	66	女	20～24歳	75	9	66	女	20～24歳	75	10	65			
		100.0	12.0	88.0			100.0	12.0	88.0			100.0	13.3	86.7			
	25歳～29歳	82	14	68		25歳～29歳	82	17	65		25歳～29歳	82	18	64			
		100.0	17.1	82.9			100.0	20.7	79.3			100.0	22.0	78.0			
性	30歳～34歳	81	16	65	性	30歳～34歳	81	23	58	性	30歳～34歳	81	15	66			
		100.0	19.8	80.2			100.0	28.4	71.6			100.0	18.5	81.5			
	35歳～39歳	80	25	55		35歳～39歳	80	28	52		35歳～39歳	80	21	59			
		100.0	31.3	68.8			100.0	35.0	65.0			100.0	26.3	73.8			
男	20～24歳	77	16	61	男	20～24歳	77	15	62	男	20～24歳	77	14	63			
		100.0	20.8	79.2			100.0	19.5	80.5			100.0	18.2	81.8			
	25歳～29歳	75	11	64		25歳～29歳	75	16	59		25歳～29歳	75	14	61			
		100.0	14.7	85.3			100.0	21.3	78.7			100.0	18.7	81.3			
性	30歳～34歳	81	15	66	性	30歳～34歳	81	12	69	性	30歳～34歳	81	12	69			
		100.0	18.5	81.5			100.0	14.8	85.2			100.0	14.8	85.2			
	35歳～39歳	78	19	59		35歳～39歳	78	20	58		35歳～39歳	78	10	68			
		100.0	24.4	75.6			100.0	25.6	74.4			100.0	12.8	87.2			
(4) 配偶者暴力相談支援センター				(5) 警察署、交番				(6) シェルターなどの民間の相談機関									
女	20～24歳	75	7	68	女	20～24歳	75	55	20	女	20～24歳	75	22	53			
		100.0	9.3	90.7			100.0	73.3	26.7			100.0	29.3	70.7			
	25歳～29歳	82	10	72		25歳～29歳	82	59	23		25歳～29歳	82	27	55			
		100.0	12.2	87.8			100.0	72.0	28.0			100.0	32.9	67.1			
性	30歳～34歳	81	8	73	性	30歳～34歳	81	61	20	性	30歳～34歳	81	15	66			
		100.0	9.9	90.1			100.0	75.3	24.7			100.0	18.5	81.5			
	35歳～39歳	80	12	68		35歳～39歳	80	63	17		35歳～39歳	80	28	52			
		100.0	15.0	85.0			100.0	78.8	21.3			100.0	35.0	65.0			
男	20～24歳	77	12	65	男	20～24歳	77	60	17	男	20～24歳	77	22	55			
		100.0	15.6	84.4			100.0	77.9	22.1			100.0	28.6	71.4			
	25歳～29歳	75	10	65		25歳～29歳	75	61	14		25歳～29歳	75	18	57			
		100.0	13.3	86.7			100.0	81.3	18.7			100.0	24.0	76.0			
性	30歳～34歳	81	10	71	性	30歳～34歳	81	58	23	性	30歳～34歳	81	14	67			
		100.0	12.3	87.7			100.0	71.6	28.4			100.0	17.3	82.7			
	35歳～39歳	78	7	71		35歳～39歳	78	62	16		35歳～39歳	78	9	69			
		100.0	9.0	91.0			100.0	79.5	20.5			100.0	11.5	88.5			

女性に対する暴力の問題の解決に向けて

問17 あなたは女性に対する暴力の問題を解決するには、どのようなことが必要だと思いますか。(はいくつでも)



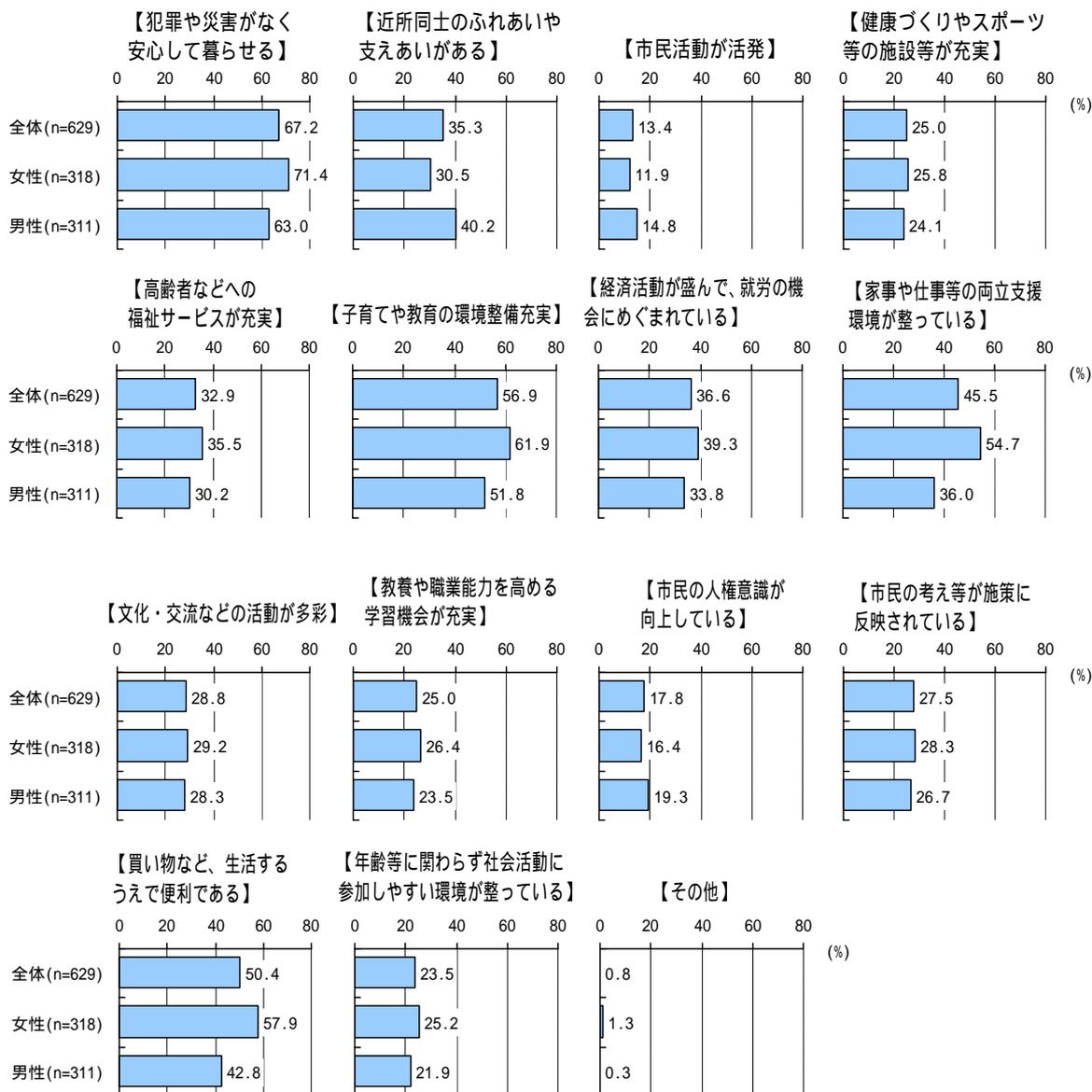
【概要】女性に対する暴力の問題の解決に向けてでは、『犯罪としてもっと厳しく取り締まる』が53.4%で過半数を占めて最も高く、次いで『被害女性が身を寄せられる施設がある』48.0%、『配偶者等の暴力を取り締まる法律や制度を充実』43.2%の順になっている。

【性別】性別にみると、男性と比べて女性の方が割合の高いものは、『被害女性が身を寄せられる施設がある』(女性：56.0%、男性：39.9%)で差が16.1ポイント、『加害者に対するカウンセリング施設』(女性：40.9%、男性：25.1%)では差が15.8ポイント、『配偶者等の暴力を取り締まる法律や制度を充実』(女性：50.6%、男性：35.7%)では差が14.9ポイントとなっている。

(5) 男女共同参画社会の実現に向けて

女性も男性も暮らしやすいまちのイメージ

問9 あなたは、女性も男性もだれもが暮らしやすいまちにするためには、お住まいの地域が今後どのようなまちになればよいと思いますか。(はいいくつでも)

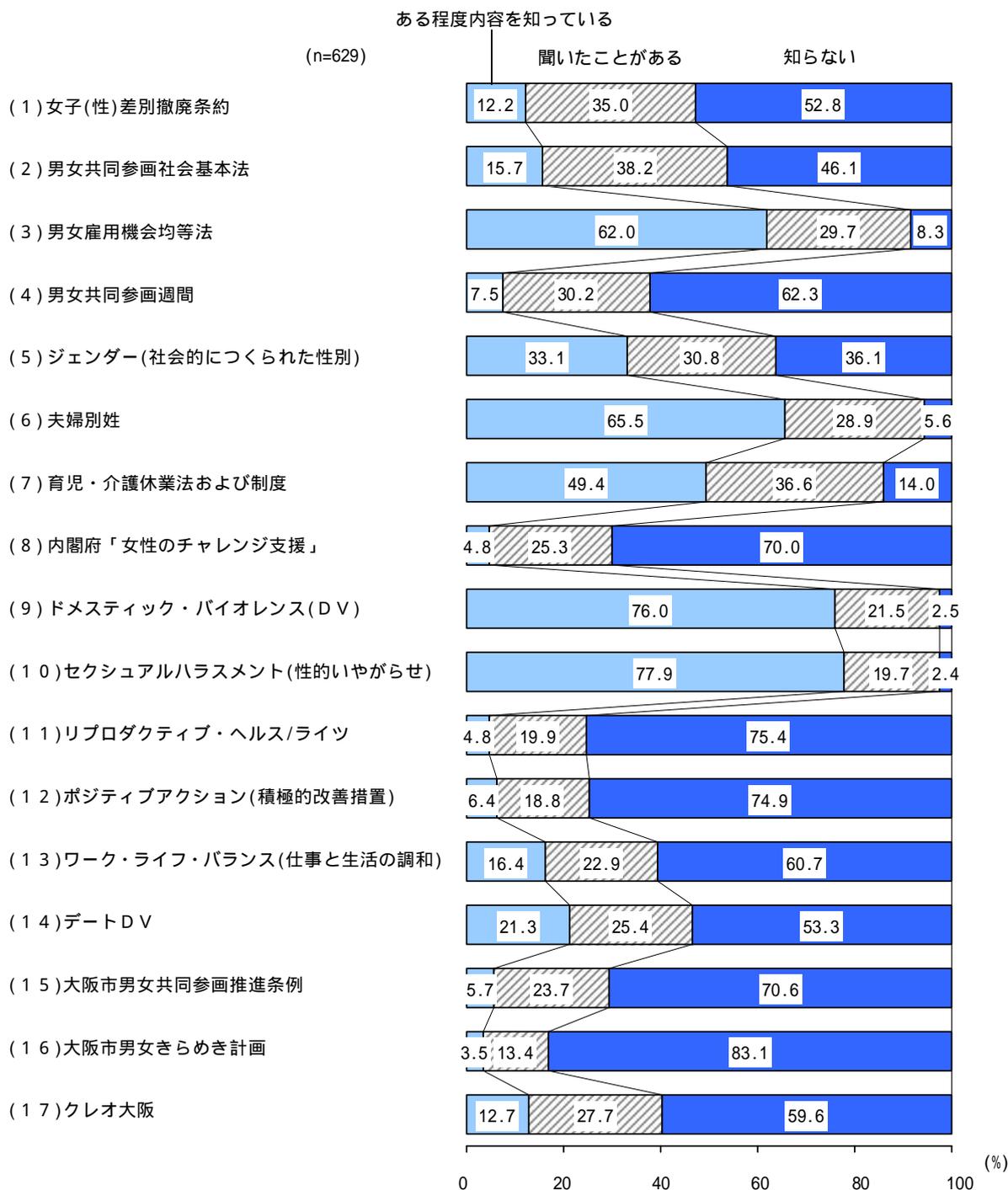


【概要】女性も男性も暮らしやすいまちのイメージについて、『犯罪や災害がなく安心して暮らせる』が67.2%で最も高く、次いで『子育てや教育の環境が整っている』56.9%、『買い物など、生活するうえで便利である』50.4%の順になっている。

【性別】性別にみると、女性では、『家事や仕事等の両立支援環境が整っている』(女性：54.7%、男性：36.0%)、『買い物など、生活するうえで便利である』(女性：57.9%、男性：42.8%)、『子育てや教育の環境整備充実』(女性：61.9%、男性：51.8%)、『犯罪や災害がなく安心して暮らせる』(女性：71.4%、男性：63.0%)が男性より割合が高くなっている。一方、『近所同士のふれあいや支えあいがある』では、男性40.2%、女性30.5%と、男性の方が割合が高くなっている。

男女共同参画に関する用語および大阪市の男女共同参画関連施策の周知度

問18 あなたは、次の項目について知っていますか。(はそれぞれ1つずつ)



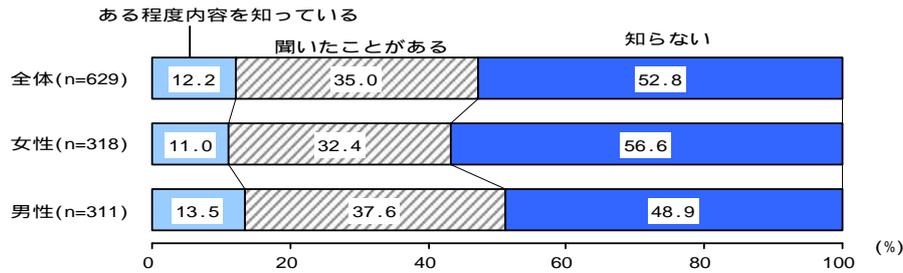
【概要】男女共同参画に関する用語で『ある程度内容を知っている』の割合が高い項目

- (10) セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ) (77.9%)
- (9) ドメスティック・バイオレンス(DV) (76.0%)

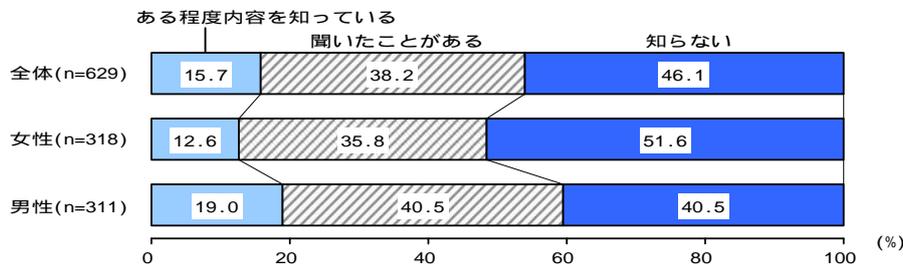
大阪市の男女共同参画関連施策の“認知度”(『ある程度内容を知っている』と『聞いたことがある』の合計)

- (15) 大阪市男女共同参画推進条例 (29.4%)
- (16) 大阪市男女きらめき計画 (16.9%)

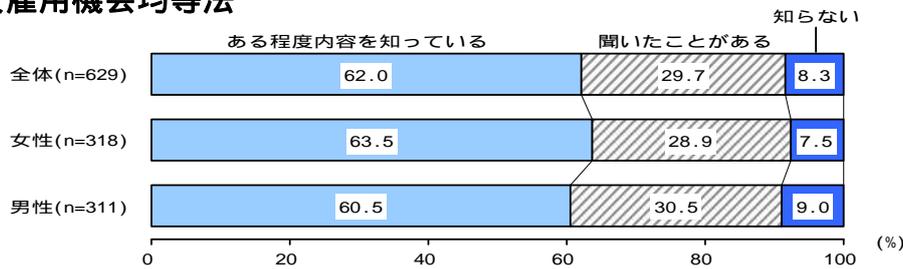
(1) 女子(性)差別撤廃条約



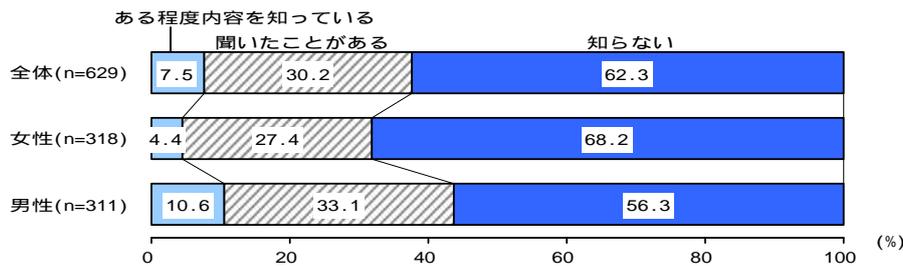
(2) 男女共同参画社会基本法



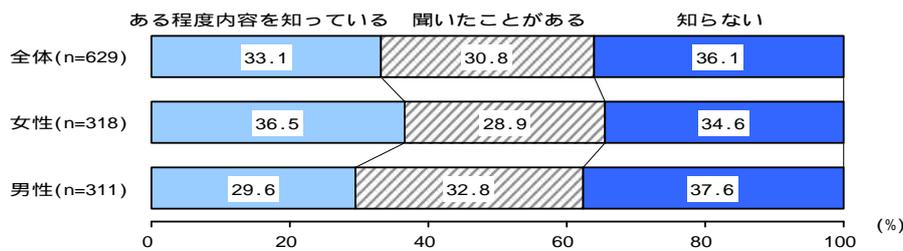
(3) 男女雇用機会均等法



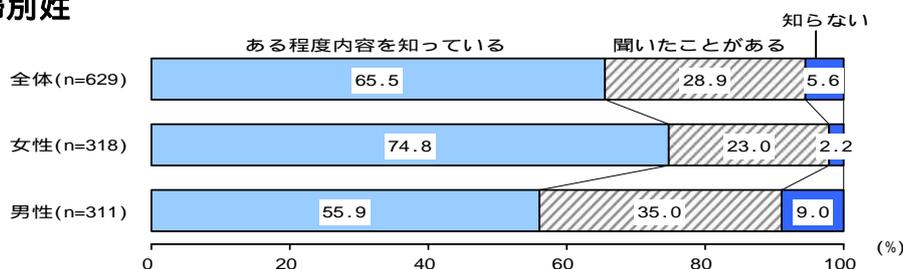
(4) 男女共同参画週間



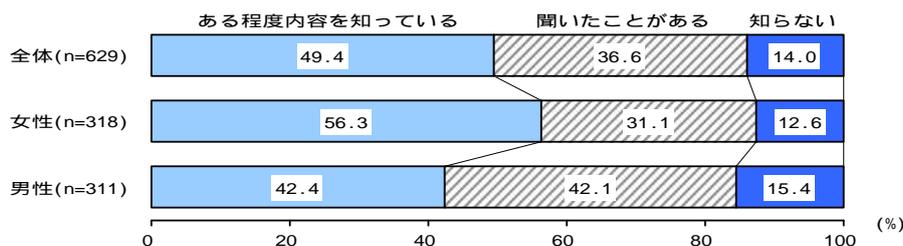
(5) ジェンダー(社会的につくられた性別)



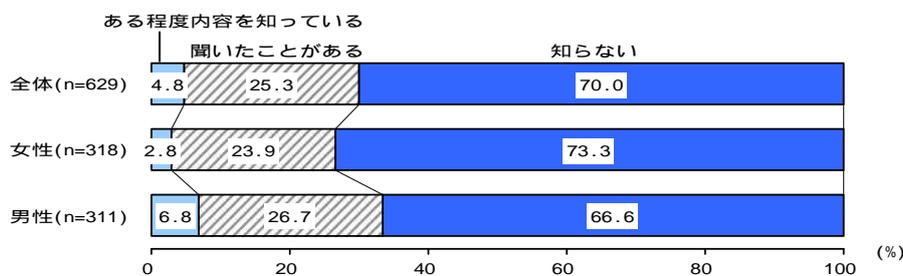
(6) 夫婦別姓



(7) 育児・介護休業法および制度



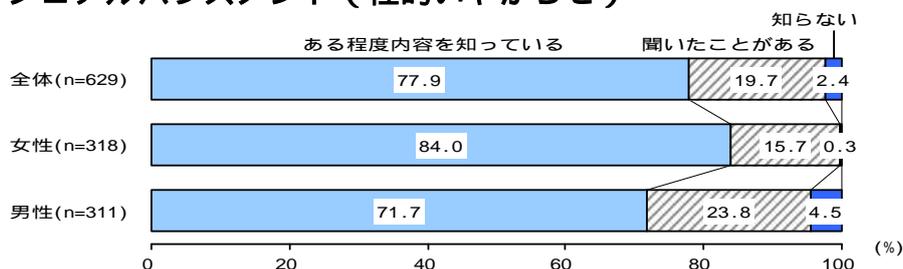
(8) 内閣府「女性のチャレンジ支援」



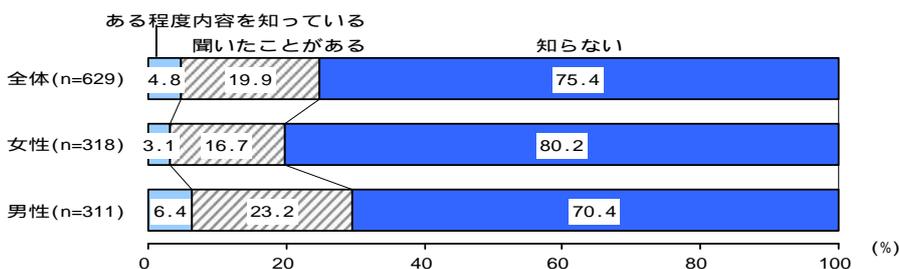
(9) ドメスティック・バイオレンス (DV)



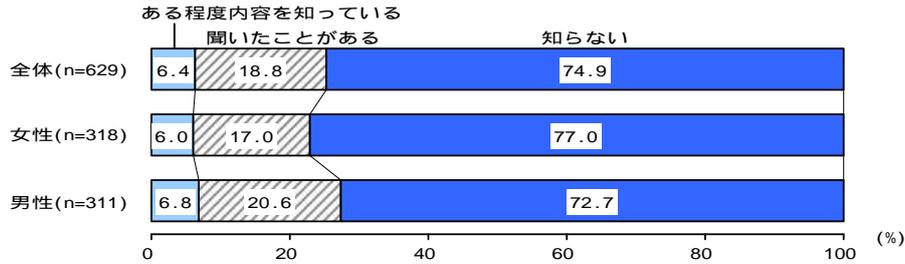
(10) セクシュアルハラスメント (性的いやがらせ)



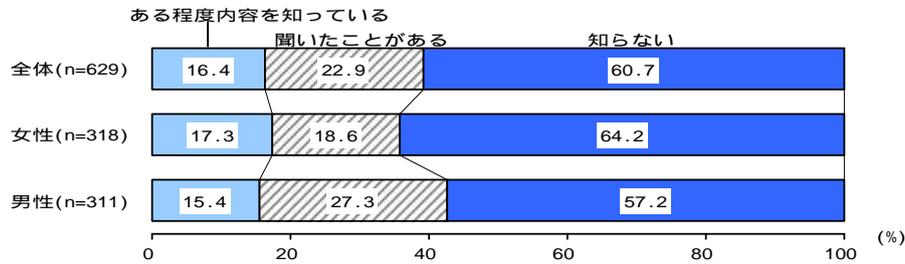
(11) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



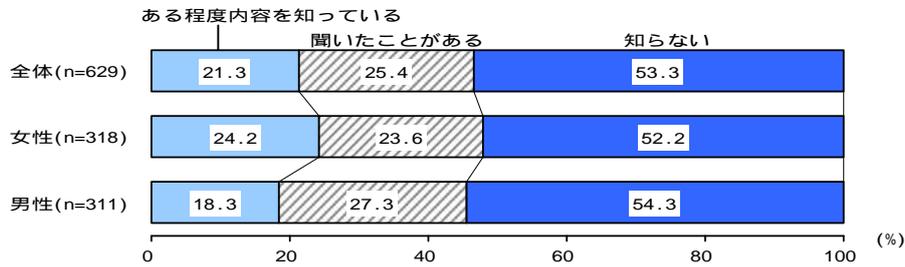
(12) ポジティブアクション (積極的改善措置)



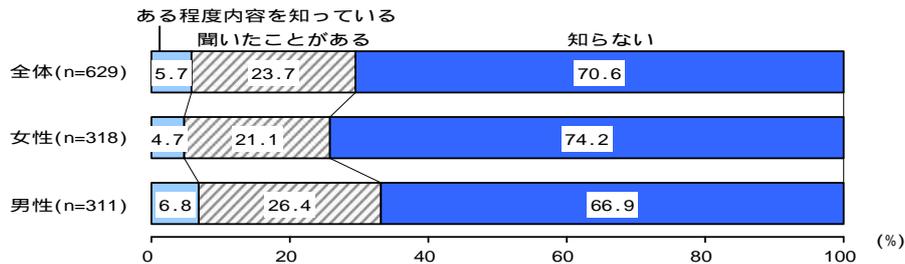
(13) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)



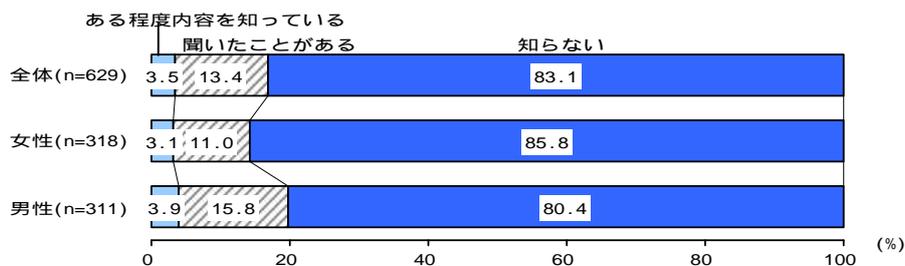
(14) デートDV



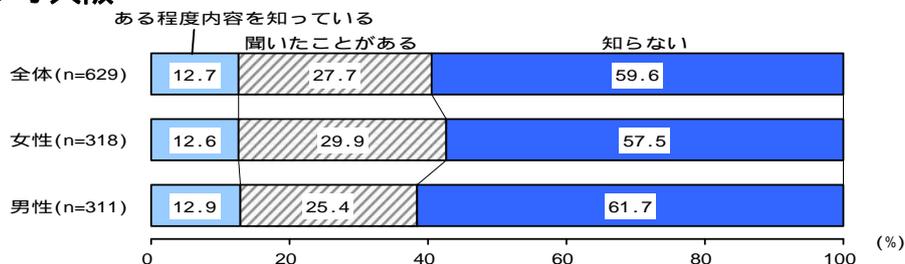
(15) 大阪市男女共同参画推進条例



(16) 大阪市男女きらめき計画



(17) クレオ大阪



【性別】性別にみると、“認知している”(『ある程度内容を知っている』『聞いたことがある』の計)の割合が、女性の方が5ポイント以上高いものは次の項目

(6) 夫婦別姓

男性の方が5ポイント以上高いものは次の項目

- (1) 女子(性)差別撤廃条約
- (2) 男女共同参画社会基本法
- (4) 男女共同参画週間
- (8) 内閣府『女性のチャレンジ支援』
- (11) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- (13) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)
- (15) 大阪市男女共同参画推進条例
- (16) 大阪市男女きらめき計画

【性・年代別 問18-1】

(1) 女子(性)差別撤廃条約					(2) 男女共同参画社会基本法					(3) 男女雇用機会均等法					
	調査数	上段: 件数	下段: %	知らない		調査数	上段: 件数	下段: %	知らない		調査数	上段: 件数	下段: %	知らない	
女	20~24歳	75	14	29	32	20~24歳	75	17	28	30	20~24歳	75	42	26	7
	25歳~29歳	100.0	18.7	38.7	42.7	25歳~29歳	100.0	22.7	37.3	40.0	25歳~29歳	100.0	56.0	34.7	9.3
	30歳~34歳	82	15	25	42	30歳~34歳	82	13	29	40	30歳~34歳	82	53	25	4
	35歳~39歳	100.0	18.3	30.5	51.2	35歳~39歳	100.0	15.9	35.4	48.8	35歳~39歳	100.0	64.6	30.5	4.9
男	20~24歳	81	2	24	55	20~24歳	81	5	20	56	20~24歳	81	56	17	8
	25歳~29歳	100.0	2.5	29.6	67.9	25歳~29歳	100.0	6.2	24.7	69.1	25歳~29歳	100.0	69.1	21.0	9.9
	30歳~34歳	80	4	25	51	30歳~34歳	80	5	37	38	30歳~34歳	80	51	24	5
	35歳~39歳	100.0	5.0	31.3	63.8	35歳~39歳	100.0	6.3	46.3	47.5	35歳~39歳	100.0	63.8	30.0	6.3
性	20~24歳	77	21	33	23	20~24歳	77	21	28	28	20~24歳	77	50	20	7
	25歳~29歳	100.0	27.3	42.9	29.9	25歳~29歳	100.0	27.3	36.4	36.4	25歳~29歳	100.0	64.9	26.0	9.1
	30歳~34歳	75	10	36	29	30歳~34歳	75	19	26	30	30歳~34歳	75	47	22	6
	35歳~39歳	100.0	13.3	48.0	38.7	35歳~39歳	100.0	25.3	34.7	40.0	35歳~39歳	100.0	62.7	29.3	8.0
女	20~24歳	81	6	25	50	20~24歳	81	9	37	35	20~24歳	81	46	27	8
	25歳~29歳	100.0	7.4	30.9	61.7	25歳~29歳	100.0	11.1	45.7	43.2	25歳~29歳	100.0	56.8	33.3	9.9
	30歳~34歳	78	5	23	50	30歳~34歳	78	10	35	33	30歳~34歳	78	45	26	7
	35歳~39歳	100.0	6.4	29.5	64.1	35歳~39歳	100.0	12.8	44.9	42.3	35歳~39歳	100.0	57.7	33.3	9.0
男	20~24歳	75	7	21	47	20~24歳	75	41	16	18	20~24歳	75	57	14	4
	25歳~29歳	100.0	9.3	28.0	62.7	25歳~29歳	100.0	54.7	21.3	24.0	25歳~29歳	100.0	76.0	18.7	5.3
	30歳~34歳	82	3	30	49	30歳~34歳	82	29	30	23	30歳~34歳	82	67	15	0
	35歳~39歳	100.0	3.7	36.6	59.8	35歳~39歳	100.0	35.4	36.6	28.0	35歳~39歳	100.0	81.7	18.3	0.0
性	20~24歳	81	1	18	62	20~24歳	81	23	22	36	20~24歳	81	57	23	1
	25歳~29歳	100.0	1.2	22.2	76.5	25歳~29歳	100.0	28.4	27.2	44.4	25歳~29歳	100.0	70.4	28.4	1.2
	30歳~34歳	80	3	18	59	30歳~34歳	80	23	24	33	30歳~34歳	80	57	21	2
	35歳~39歳	100.0	3.8	22.5	73.8	35歳~39歳	100.0	28.8	30.0	41.3	35歳~39歳	100.0	71.3	26.3	2.5
女	20~24歳	77	12	28	37	20~24歳	77	30	26	21	20~24歳	77	45	23	9
	25歳~29歳	100.0	15.6	36.4	48.1	25歳~29歳	100.0	39.0	33.8	27.3	25歳~29歳	100.0	58.4	29.9	11.7
	30歳~34歳	75	8	25	42	30歳~34歳	75	27	27	21	30歳~34歳	75	45	25	5
	35歳~39歳	100.0	10.7	33.3	56.0	35歳~39歳	100.0	36.0	36.0	28.0	35歳~39歳	100.0	60.0	33.3	6.7
男	20~24歳	81	8	28	45	20~24歳	81	19	24	38	20~24歳	81	44	30	7
	25歳~29歳	100.0	9.9	34.6	55.6	25歳~29歳	100.0	23.5	29.6	46.9	25歳~29歳	100.0	54.3	37.0	8.6
	30歳~34歳	78	5	22	51	30歳~34歳	78	16	25	37	30歳~34歳	78	40	31	7
	35歳~39歳	100.0	6.4	28.2	65.4	35歳~39歳	100.0	20.5	32.1	47.4	35歳~39歳	100.0	51.3	39.7	9.0
性	20~24歳	75	7	21	47	20~24歳	75	41	16	18	20~24歳	75	57	14	4
	25歳~29歳	100.0	9.3	28.0	62.7	25歳~29歳	100.0	54.7	21.3	24.0	25歳~29歳	100.0	76.0	18.7	5.3
	30歳~34歳	82	3	30	49	30歳~34歳	82	29	30	23	30歳~34歳	82	67	15	0
	35歳~39歳	100.0	3.7	36.6	59.8	35歳~39歳	100.0	35.4	36.6	28.0	35歳~39歳	100.0	81.7	18.3	0.0

【性・年代別 問18-2】

(7) 育児・介護休業法および制度

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	43	24	8
		100.0	57.3	32.0	10.7
	25歳~29歳	82	52	21	9
		100.0	63.4	25.6	11.0
性	30歳~34歳	81	41	28	12
		100.0	50.6	34.6	14.8
	35歳~39歳	80	43	26	11
		100.0	53.8	32.5	13.8
男	20~24歳	77	35	32	10
		100.0	45.5	41.6	13.0
	25歳~29歳	75	33	32	10
		100.0	44.0	42.7	13.3
性	30歳~34歳	81	31	36	14
		100.0	38.3	44.4	17.3
	35歳~39歳	78	33	31	14
		100.0	42.3	39.7	17.9

(8) 内閣府「女性のチャレンジ支援」

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	3	20	52
		100.0	4.0	26.7	69.3
	25歳~29歳	82	3	21	58
		100.0	3.7	25.6	70.7
性	30歳~34歳	81	1	16	64
		100.0	1.2	19.8	79.0
	35歳~39歳	80	2	19	59
		100.0	2.5	23.8	73.8
男	20~24歳	77	8	21	48
		100.0	10.4	27.3	62.3
	25歳~29歳	75	7	26	42
		100.0	9.3	34.7	56.0
性	30歳~34歳	81	2	21	58
		100.0	2.5	25.9	71.6
	35歳~39歳	78	4	15	59
		100.0	5.1	19.2	75.6

(9) ドメスティック・バイオレンス(DV)

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	63	10	2
		100.0	84.0	13.3	2.7
	25歳~29歳	82	66	16	0
		100.0	80.5	19.5	0.0
性	30歳~34歳	81	65	15	1
		100.0	80.2	18.5	1.2
	35歳~39歳	80	68	12	0
		100.0	85.0	15.0	0.0
男	20~24歳	77	58	16	3
		100.0	75.3	20.8	3.9
	25歳~29歳	75	61	13	1
		100.0	81.3	17.3	1.3
性	30歳~34歳	81	46	31	4
		100.0	56.8	38.3	4.9
	35歳~39歳	78	51	22	5
		100.0	65.4	28.2	6.4

(10) セクシュアルハラスメント

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	64	10	1
		100.0	85.3	13.3	1.3
	25歳~29歳	82	69	13	0
		100.0	84.1	15.9	0.0
性	30歳~34歳	81	66	15	0
		100.0	81.5	18.5	0.0
	35歳~39歳	80	68	12	0
		100.0	85.0	15.0	0.0
男	20~24歳	77	58	15	4
		100.0	75.3	19.5	5.2
	25歳~29歳	75	60	14	1
		100.0	80.0	18.7	1.3
性	30歳~34歳	81	50	27	4
		100.0	61.7	33.3	4.9
	35歳~39歳	78	55	18	5
		100.0	70.5	23.1	6.4

(11) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	1	18	56
		100.0	1.3	24.0	74.7
	25歳~29歳	82	4	14	64
		100.0	4.9	17.1	78.0
性	30歳~34歳	81	2	12	67
		100.0	2.5	14.8	82.7
	35歳~39歳	80	3	9	68
		100.0	3.8	11.3	85.0
男	20~24歳	77	10	21	46
		100.0	13.0	27.3	59.7
	25歳~29歳	75	6	18	51
		100.0	8.0	24.0	68.0
性	30歳~34歳	81	1	20	60
		100.0	1.2	24.7	74.1
	35歳~39歳	78	3	13	62
		100.0	3.8	16.7	79.5

(12) ポジティブアクション

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	7	17	51
		100.0	9.3	22.7	68.0
	25歳~29歳	82	6	15	61
		100.0	7.3	18.3	74.4
性	30歳~34歳	81	1	16	64
		100.0	1.2	19.8	79.0
	35歳~39歳	80	5	6	69
		100.0	6.3	7.5	86.3
男	20~24歳	77	10	21	46
		100.0	13.0	27.3	59.7
	25歳~29歳	75	6	14	55
		100.0	8.0	18.7	73.3
性	30歳~34歳	81	1	16	64
		100.0	1.2	19.8	79.0
	35歳~39歳	78	4	13	61
		100.0	5.1	16.7	78.2

(13) ワーク・ライフ・バランス

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	14	20	41
		100.0	18.7	26.7	54.7
	25歳~29歳	82	21	12	49
		100.0	25.6	14.6	59.8
性	30歳~34歳	81	10	17	54
		100.0	12.3	21.0	66.7
	35歳~39歳	80	10	10	60
		100.0	12.5	12.5	75.0
男	20~24歳	77	20	19	38
		100.0	26.0	24.7	49.4
	25歳~29歳	75	8	18	49
		100.0	10.7	24.0	65.3
性	30歳~34歳	81	9	27	45
		100.0	11.1	33.3	55.6
	35歳~39歳	78	11	21	46
		100.0	14.1	26.9	59.0

(14) デートDV

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	22	20	33
		100.0	29.3	26.7	44.0
	25歳~29歳	82	23	16	43
		100.0	28.0	19.5	52.4
性	30歳~34歳	81	12	23	46
		100.0	14.8	28.4	56.8
	35歳~39歳	80	20	16	44
		100.0	25.0	20.0	55.0
男	20~24歳	77	22	21	34
		100.0	28.6	27.3	44.2
	25歳~29歳	75	14	25	36
		100.0	18.7	33.3	48.0
性	30歳~34歳	81	13	24	44
		100.0	16.0	29.6	54.3
	35歳~39歳	78	8	15	55
		100.0	10.3	19.2	70.5

(15) 大阪市男女共同参画推進条例

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	4	23	48
		100.0	5.3	30.7	64.0
	25歳~29歳	82	6	15	61
		100.0	7.3	18.3	74.4
性	30歳~34歳	81	0	16	65
		100.0	0.0	19.8	80.2
	35歳~39歳	80	5	13	62
		100.0	6.3	16.3	77.5
男	20~24歳	77	8	19	50
		100.0	10.4	24.7	64.9
	25歳~29歳	75	6	20	49
		100.0	8.0	26.7	65.3
性	30歳~34歳	81	3	20	58
		100.0	3.7	24.7	71.6
	35歳~39歳	78	4	23	51
		100.0	5.1	29.5	65.4

(16) 大阪市男女きらめき計画

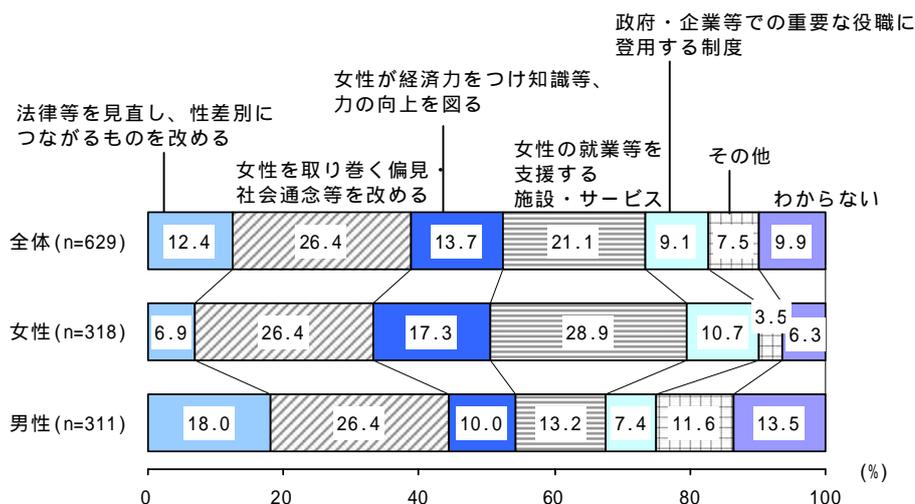
	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	2	12	61
		100.0	2.7	16.0	81.3
	25歳~29歳	82	4	8	70
		100.0	4.9	9.8	85.4
性	30歳~34歳	81	0	9	72
		100.0	0.0	11.1	88.9
	35歳~39歳	80	4	6	70
		100.0	5.0	7.5	87.5
男	20~24歳	77	5	11	61
		100.0	6.5	14.3	79.2
	25歳~29歳	75	3	12	60
		100.0	4.0	16.0	80.0
性	30歳~34歳	81	1	12	68
		100.0	1.2	14.8	84.0
	35歳~39歳	78	3	14	61
		100.0	3.8	17.9	78.2

(17) クレオ大阪

	調査数	上段：件数		下段：%	
		知っている程度内容を	聞いたことがある	知らない	
女	20~24歳	75	7	23	45
		100.0	9.3	30.7	60.0
	25歳~29歳	82	11	17	54
		100.0	13.4	20.7	65.9
性	30歳~34歳	81	10	21	50
		100.0	12.3	25.9	61.7
	35歳~39歳	80	12	34	34
		100.0	15.0	42.5	42.5
男	20~24歳	77	10	17	50
		100.0	13.0	22.1	64.9
	25歳~29歳	75	9	23	43
		100.0	12.0	30.7	57.3
性	30歳~34歳	81	10	20	51
		100.0	12.3	24.7	63.0
	35歳~39歳	78	11	19	48
		100.0	14.1	24.4	61.5

男女平等の推進のために最も必要だと思うこと

問5 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためにあなたが最も必要と思うものを選んでください。(は1つだけ)



【概要】男女平等の推進のために最も必要だと思うことについて、『女性を取り巻く様々な偏見・社会通念などを改める』が26.4%で最も高く、次いで『女性の就業、社会参加を支援する施設の充実』21.1%、『女性自身が経済力をつけ、知識等を学習するなど力の向上を図る』13.7%の順になっている。

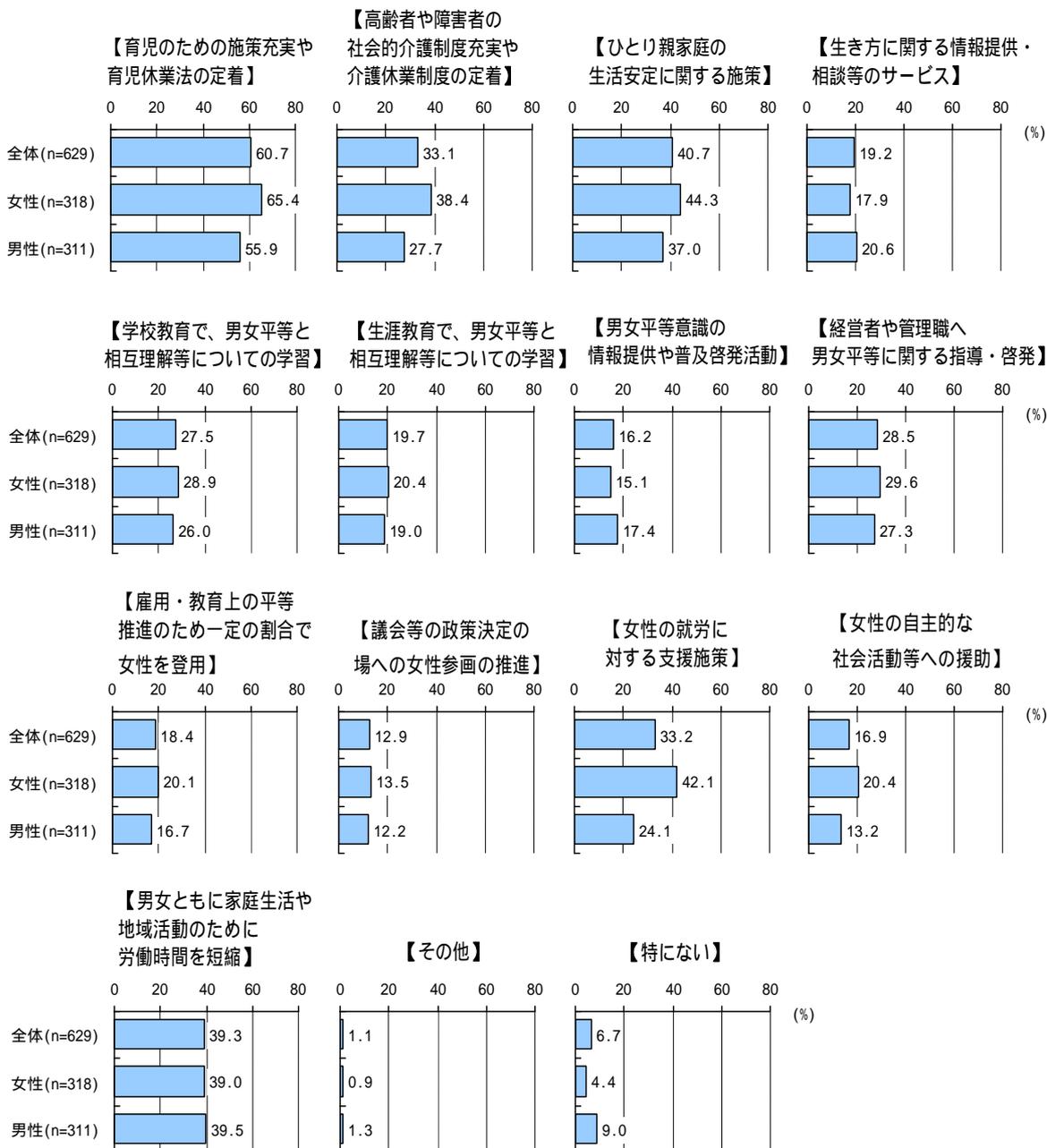
【性別】性別にみると、女性では、『女性の就業、社会参加を支援する施設の充実』が28.9%、男性では13.2%となっており、女性の方が15.7ポイント高くなっている。一方、男性では、『法律や制度の見直し性差別につながるものを改める』が18.0%、女性では6.9%となっており、男性の方が11.1ポイント高くなっている。

【性・年代別、性・職業別 問5】

	調査数	上段：件数、下段：%							
		法律等を見直し、性差別につながるものを改める	女性を取り巻く偏見・社会通念などを改める	女性が経済力をつけ知識等、力の向上を図る	女性の就業等を支援する施設・サービス	その他	わからない		
女性	20～24歳	75	6	18	16	16	9	3	7
		100.0	8.0	24.0	21.3	21.3	12.0	4.0	9.3
	25歳～29歳	82	9	20	13	25	10	3	2
		100.0	11.0	24.4	15.9	30.5	12.2	3.7	2.4
	30歳～34歳	81	1	25	15	26	4	1	9
	100.0	1.2	30.9	18.5	32.1	4.9	1.2	11.1	
女性	35歳～39歳	80	6	21	11	25	11	4	2
		100.0	7.5	26.3	13.8	31.3	13.8	5.0	2.5
男性	20～24歳	77	16	16	6	11	8	10	10
		100.0	20.8	20.8	7.8	14.3	10.4	13.0	13.0
	25歳～29歳	75	14	21	6	12	2	13	7
		100.0	18.7	28.0	8.0	16.0	2.7	17.3	9.3
	30歳～34歳	81	15	18	11	9	5	10	13
	100.0	18.5	22.2	13.6	11.1	6.2	12.3	16.0	
男性	35歳～39歳	78	11	27	8	9	8	3	12
		100.0	14.1	34.6	10.3	11.5	10.3	3.8	15.4
女性	女性就業者	216	15	57	42	56	25	8	13
		100.0	6.9	26.4	19.4	25.9	11.6	3.7	6.0
女性	女性非就業者	93	7	27	12	35	7	0	5
		100.0	7.5	29.0	12.9	37.6	7.5	0.0	5.4
男性	男性就業者	255	46	66	28	34	20	30	31
		100.0	18.0	25.9	11.0	13.3	7.8	11.8	12.2
男性	男性非就業者	52	9	14	3	7	3	5	11
		100.0	17.3	26.9	5.8	13.5	5.8	9.6	21.2

男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策

問19 男女共同参画社会の実現に向けて、国・府・市などの行政機関が力を入れるべきと思うものを選んでください。(はいいくつでも)



【概要】男女共同参画社会の実現に向けて力を入れるべき施策について、『育児のための施策充実や育児休業法の定着』が60.7%で最も高く、次いで『ひとり親家族の生活安定に関する施策』40.7%、『男女ともに家庭生活や地域活動のための労働時間を短縮』39.3%の順になっている。

【性別】性別にみると、男性よりも、女性の割合の方が特に高かったものは、『女性の就労に対する支援施策』（女性：42.1%、男性：24.1）『高齢者や障害者の社会的介護制度充実や介護休業制度の定着』（女性：38.4%、男性：27.7%）『育児のための施策充実や育児休業法の定着』（女性：65.4%、男性：55.9%）『女性の自主的な社会活動等への援助』（女性：20.4%、男性：13.2%）となっている。

(6) 自由回答意見

回答者全体の35.3%から、合計236件の意見の記入があった。主な記入内容として、「就労・雇用、社会参画」(57件)、「男女共同参画、男女平等に関する意識」(58件)、「男女共同参画の実現に向けて」(37件)などに関する意見が寄せられている。

	合計	女性		男性			
		計	20歳代	30歳代	計	20歳代	30歳代
記述意見数	236	120	55	65	116	63	53
男女共同参画、男女平等に関する意識	58	26	10	16	32	15	17
性別、性別役割分担・分業について	20	10	3	7	10	5	5
社会通念やしきたり、慣習を変えるべき	8	5	2	3	3	1	2
女性への優遇について	7	0	0	0	7	1	6
本当の男女平等を実現してほしい	4	0	0	0	4	3	1
男女平等、男女共同参画社会の実現は難しい	2	0	0	0	2	0	2
今のままでいい	2	1	0	1	1	0	1
行政の意識改革を	3	2	0	2	1	1	0
男女ともに意識変革を	2	2	0	2	0	0	0
日本社会のトップの意識改革を	2	1	1	0	1	1	0
男女共同参画の取組、施策内容がわからない	2	1	0	1	1	1	0
その他	6	4	4	0	2	2	0
就労・雇用、社会参画	57	31	13	18	26	14	12
労働条件、職場環境について	13	8	5	3	5	2	3
女性の登用、就労機会の拡大を	11	7	4	3	4	2	2
職場にある男女差別、性別不平等について	8	4	1	3	4	2	2
男性の労働条件の改善を(家庭参画のための)	8	3	1	2	5	4	1
家庭生活との両立しやすい環境づくりを	5	3	0	3	2	2	0
行政による企業の指導を	5	2	1	1	3	1	2
雇用に関して	5	3	1	2	2	1	1
その他	2	1	0	1	1	0	1
人権について	3	2	1	1	1	0	1
差別について	2	2	1	1	0	0	0
性同一性障害や同性愛者等への配慮	1	0	0	0	1	0	1
子育て・教育	29	23	12	11	6	5	1
保育・子育て支援施策の充実を	7	7	4	3	0	0	0
子育てと仕事の両立に関して	7	6	4	2	1	1	0
子育てしやすい社会環境づくりを	5	5	2	3	0	0	0
教育問題・教育の充実を	4	2	1	1	2	1	1
男女共同参画と少子化との関わりについて	2	1	0	1	1	1	0
男性への子育てに対する啓発を	2	1	0	1	1	1	0
その他	2	1	1	0	1	1	0
男女共同参画の実現に向けて	37	15	6	9	22	13	9
メディアの活用や広報活動	8	3	2	1	5	3	2
行政が率先して男女共同参画を実践すべきだ	7	3	0	3	4	4	0
法整備、対策の充実を	4	0	0	0	4	2	2
互いに思いやり尊重しあう社会に	3	1	1	0	2	2	0
生活水準の向上について	3	1	0	1	2	0	2
幅広く意見を聞くことが必要	3	1	1	0	2	1	1
情報提供体制の充実を	2	1	1	0	1	0	1
相談体制の充実を	2	2	1	1	0	0	0
経済支援の充実を	2	1	0	1	1	1	0
イベント等の企画	2	1	0	1	1	0	1
その他	1	1	0	1	0	0	0
その他	52	23	13	10	29	16	13
行政に期待していない・できない	12	6	1	5	6	2	4
男女共同参画社会よりも解決すべき問題がある	8	3	2	1	5	3	2
生きていく為の個人意見	2	2	1	1	0	0	0
その他行政に対する意見	28	11	9	2	17	10	7
その他	2	1	0	1	1	1	0

資料

平成 20 年度 男女共同参画に関する市民意識調査

この調査は統計目的以外には使用しません。あなたのご意見が外部にもれることは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせください。10月26日(日)までにポストにご投函をお願いいたします。

大阪市(市民局市民部男女共同参画担当)

この調査についてのお問い合わせは、下記をお願いいたします。

調査委託機関 財団法人大阪市女性協会

大阪市天王寺区上汐5丁目6番25号

電話 06 - 6770 - 7200

あなたとご家族の健康についておたずねします

問1 あなたは、この1年間に健康診断を受けましたか。あてはまるものを選んで番号に をつけてください。

1. 受けた

2. 受けていない

付問へ

付問 受けなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。

1. 忙しくてひまがなかったから

6. どこで実施しているかわからないから

2. 健康なので必要がないから

7. 面倒なので

3. 病気と診断されるのが怖かったから

8. 検査が嫌だから

4. 医者にかかっていたから

9. その他

5. 費用がかかるから

(具体的に: _____)

問2 あなたは、日頃、ご自分の健康のためにどんなことを心がけておられますか。あてはまるものを3つまで選んで番号に をつけてください。

1. 睡眠を十分にとる

7. スポーツや散歩などをする

2. 栄養のバランスなどに気をつける

8. 酒やたばこをひかえる

3. 身体によくない食品などをとらないようにする

9. 薬や栄養剤などを飲む

4. 規則正しい生活をする

10. 健康についての学習会などに参加する

5. 定期的に健康診断を受ける

11. その他

6. かかりつけの医者を決めている

(具体的に: _____)

問7 あなたの家庭では、次にあげるような日常的事がらは、主にどなたがされていますか。
 (1)から(11)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に をつけてください。
 * (10) (11)については対象の方がいない場合も、考え方としてお書きください。

	主に女性 の役割	男女同じ 程度	主に男性 の役割	その他
(1) 食事の支度	1	2	3	4
(2) 食事の後かたづけ	1	2	3	4
(3) 掃除	1	2	3	4
(4) 洗濯	1	2	3	4
(5) ごみ捨て	1	2	3	4
(6) 日常の買い物	1	2	3	4
(7) 家具の移動、器具等の修理	1	2	3	4
(8) 自治会・町内会等への出席や近所づきあい	1	2	3	4
(9) 家計の管理	1	2	3	4
(10) 子どもの世話やしつけ	1	2	3	4
(11) お年寄りや病人の介護	1	2	3	4

問8 次にあげる考え方について、あなたはどのように思われますか。(1)から(13)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に をつけてください。

	そう思 う	ある程 度そう 思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	わから ない
(1) 性別にとらわれずに、個人を尊重し、一人ひとりが納得のいく生き方をする	1	2	3	4	5
(2) 男は仕事、女は家庭を中心にする	1	2	3	4	5
(3) 男女ともに仕事をもち経済的に自立する	1	2	3	4	5
(4) 男性は家族を養う義務がある	1	2	3	4	5
(5) 子どもが小さい間は、母親は育児に専念する	1	2	3	4	5
(6) 妊娠・出産について、女性の意志を尊重する	1	2	3	4	5
(7) 女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる	1	2	3	4	5
(8) 夫の転勤には、妻は自分の仕事をやめ、ついていく	1	2	3	4	5
(9) 夫婦が別々の姓を名乗ることを認める	1	2	3	4	5
(10) 夫婦は同じ墓に入る	1	2	3	4	5
(11) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
(12) 結婚しないで子どもをもってもよい	1	2	3	4	5
(13) 結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい	1	2	3	4	5

問9 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。あてはまるものを1つ選んで番号にをつけてください。

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい
5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他（具体的に：_____）
7. わからない

問10 今後、あなたが、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も必要と思うものを1つ選んで番号にをつけてください。

1. 法律や制度の上での見直しをおこない、性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
6. その他（具体的に：_____）
7. わからない

仕事や生活の状況についておたずねします

問11 これからの自分の生き方として、あなたが一番好ましいと思われるものを1つ選んで番号にをつけてください。

1. 家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念する
2. 家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる
3. 仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させる
4. 生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念する
5. 仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる
6. 結婚せずに、仕事や趣味、地域活動に専念する

付問 今のあなたの現状に最も近いものを1つ選んで番号にをつけてください。

1. 家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念している
2. 家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させている
3. 仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させている
4. 生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念している
5. 仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させている
6. 結婚せずに、仕事や趣味、地域活動に専念している

問12 あなたは、男性の家庭生活や地域社会の活動への参画を進めていくために、どのようなことが必要だと思われますか。お考えに近いものを3つまで選んで番号に をつけてください。

1. 男女の役割分担についての社会通念や慣習を改める
2. 企業中心という社会全体の仕組みを改める
3. 仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談できる窓口を設ける
4. 労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる
5. 男性が企業の育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整える
6. 配偶者・パートナーの間で家事・育児などの分担をするよう十分に話し合う
7. 家事・育児などを男女で分担するような子どものしつけや育て方をする
8. 男性の男女共同参画に対する関心を高める
9. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める
10. 男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす
11. 自宅でも仕事をできるように在宅勤務等を普及させる
12. その他（具体的に：_____）

問13 あなたは、女性も男性もだれもが暮らしやすいまちにするためには、お住まいの地域が今後どのようなまちになればよいと思われますか。お考えに近いものをすべて選んで番号に をつけてください。

1. 犯罪や災害がなく、安心して暮らせる
2. 近所同士のふれあいや支えあいがある
3. 市民活動が活発である
4. 健康づくりやスポーツのための施設やサービスが充実している
5. 高齢者などへの福祉サービスが充実している
6. 子育てや教育の環境が整っている
7. 経済活動が盛んで、就労の機会にめぐまれている
8. 家事や育児、介護と仕事の両立のための支援環境が整っている
9. 人が集い、文化・交流などの活動が多彩である
10. 教養や職業能力を高める学習機会にめぐまれている
11. 市民の人権意識が向上している
12. 市民の考えや意見が行政施策に反映されている
13. 買い物など、生活するうえで便利である
14. 年齢や障害などに関わらず、社会活動に参加しやすい環境が整っている
15. その他（具体的に：_____）

社会活動に参加することについておたずねします

問 1 4 現在、あなたは地域で社会活動に参加されていますか。また、参加されている社会活動はどのようなものですか。あてはまるものを選んで をつけてください。

1. 何らかの社会活動に参加している
2. 特に参加している活動はないが、今後参加してみたいものがある

3. 参加したいと思うが参加できない
4. 今後とも参加したくない

付問(2)へお進みください

付問(1) 問 1 4 で 1 または 2 に をつけた方におたずねします。現在参加されている、または今後参加してみたいと思われる社会活動は何ですか。あてはまるものをすべて選んで をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1. 自治会・町内会などの行事や活動
2. 高齢者や障害者などのための福祉活動
3. 子育て支援や子どもの育成活動
4. 消費者問題等に関する市民活動
5. 清掃・美化や環境保全のための活動
6. 防犯活動や防災活動 | 7. 国際理解・国際交流関連や外国人の支援活動
8. 趣味やスポーツのサークル活動
9. 市民講座や文化・教養講座などの受講
10. まちづくりに関する活動
11. その他
(具体的に: _____) |
|---|---|

付問(2) 問 1 4 で 3 または 4 に をつけた方におたずねします。社会活動に参加できない理由、参加したくない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に をつけてください。

- | | |
|--|--|
| 1. 家事や子育てとの両立が難しい
2. 家族の介護との両立が難しい
3. 仕事との両立が難しい
4. 家族の反対がある
5. 活動時間が合わない
6. 身近なところに活動場所がない
7. 希望する活動がどこでできるかわからない
8. 一緒に活動する仲間がいない | 9. 活動資金がない
10. 参加したい活動がない
11. 健康状態に自信がない
12. その他
(具体的に: _____)
13. 特にない |
|--|--|

子どもの教育に対する意識についておたずねします

問 1 5 あなたは、経済的なことは別にすれば、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思われるですか。それぞれあてはまるものを選んで番号に をつけてください。

(1)	男の子には	(2)	女の子には
1.	中学校	1.	中学校
2.	高等学校	2.	高等学校
3.	各種学校・専門学校	3.	各種学校・専門学校
4.	短期大学・高等専門学校	4.	短期大学・高等専門学校
5.	4年制大学	5.	4年制大学
6.	大学院	6.	大学院
7.	その他 ()	7.	その他 ()
8.	わからない	8.	わからない

問 1 6 学校教育の場で推進した方がよいと思われるものはどのようなことですか。お考えに近いものを3つまで選んで番号に をつけてください。

- 1 . 学校生活の中で性別により固定された役割分担をなくしていく
- 2 . 生活指導や進路指導において男女の別なく能力・個性を生かせるようにする
- 3 . 生命尊重、男女平等の視点で、人間教育としての性教育を推進する
- 4 . 男女共同参画の視点から、職業体験やまちづくりへの参加など体験学習を進める
- 5 . 教科書などで、男女共同参画を進める内容や表現をふやしていく
- 6 . 教職員の研修をおこない、男女平等教育に関する認識を深める
- 7 . 学校全体で男女平等教育に取り組む体制をつくる
- 8 . その他（具体的に： _____)

男女間における暴力についておたずねします

問 1 7 近年、女性が配偶者や恋人から継続的に身体的・精神的な暴力行為を受けることについて問題となっており、あなたの身近で見聞きされたことはありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に をつけてください。

- 1 . 自分が直接経験している
- 2 . 相談を受けたことがある
- 3 . 相談を受けたことはないが、当事者を知っている
- 4 . テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 5 . 見聞きしたことはない
- 6 . その他（具体的に： _____)

問 1 8 あなたは、「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」(DV防止法)についてご存じですか。あてはまるものを1つ選んで番号に をつけてください。

- 1 . ある程度内容を知っている
- 2 . 聞いたことがある
- 3 . 知らない

問 1 9 女性に対する暴力について、次の相談機関・対応窓口がありますが、あなたはご存じですか。(1)から(6)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に をつけてください。

		知っている	知らない
(1)	クレオ大阪中央（大阪市立男女共同参画センター中央館）相談室	1	2
(2)	区保健福祉センター	1	2
(3)	大阪府女性相談センター	1	2
(4)	配偶者暴力相談支援センター	1	2
(5)	警察署、交番	1	2
(6)	シェルターなどの民間の相談機関	1	2

問 2 0 あなたは女性に対する暴力の問題を解決するには、どのようなことが必要だと思われますか。お考えに近いものをすべて選んで、番号に をつけてください。

- 1 . 配偶者や恋人からの暴力に対する社会的な関心を高めること
- 2 . 男性優位の価値観を改めること
- 3 . 犯罪としてもっと厳しく取り締まること
- 4 . 女性が経済的に自立すること
- 5 . 女性が精神的に自立すること
- 6 . 被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること
- 7 . 相談窓口や相談員を充実させること
- 8 . 加害者に対して必要なカウンセリングをおこなう施設があること
- 9 . 配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること
- 10 . その他（具体的に： _____ ）
- 11 . 必要なことはない

男女共同参画に関連した制度や施策などについておたずねします

問 2 1 次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。(1)から(14)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に をつけてください。

	ある程度内容を知っている	聞いたことがある	知らない
(1)女子(性)差別撤廃条約	1	2	3
(2)男女共同参画社会基本法	1	2	3
(3)男女雇用機会均等法	1	2	3
(4)男女共同参画週間	1	2	3
(5)ジェンダー(社会的につくられた性別)	1	2	3
(6)夫婦別姓	1	2	3
(7)育児・介護休業法および制度	1	2	3
(8)内閣府「女性のチャレンジ支援」	1	2	3
(9)ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3
(10)セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)	1	2	3
(11)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)	1	2	3
(12)ポジティブアクション(積極的改善措置)	1	2	3
(13)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
(14)デートDV	1	2	3

問 2 2 大阪市では男女共同参画社会の実現をめざして施策に取り組んでいますが、次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。(1)から(5)のそれぞれについて、あてはまるものを選んで番号に をつけてください。

	ある程度内容を知っている	聞いたことがある	知らない
(1)大阪市男女共同参画推進条例	1	2	3
(2)大阪市男女きらめき計画 (大阪市男女共同参画基本計画)	1	2	3
(3)大阪市男女共同参画施策苦情処理制度	1	2	3
(4)クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)	1	2	3
(5)きらめき企業賞(大阪市男女共同参画企業顕彰)	1	2	3

問23 男女共同参画社会の実現に向けて、国・府・市などの行政機関は何をするべきだと思いますか。
力を入れるべきと思うものをすべて選んで番号に をつけてください。

1. 育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着
2. 高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着
3. ひとり親（母子・父子）家庭の生活安定に関する施策
4. 女性・男性の生き方に関する情報提供・相談などのサービス
5. 学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習
6. 生涯教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習
7. 男女平等意識の確立に向けた情報の提供や普及・啓発活動
8. 経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に関する指導・啓発
9. 雇用・教育上の実質的な平等を推進するため一定の割合で女性を登用するなどの措置
10. 議会や各種審議会などの政策決定の場への女性の参画の推進
11. 女性の就労に対する支援施策
12. 女性の自主的な社会活動や研究活動に対する援助
13. 男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮
14. その他（具体的に： _____）
15. 特にない

ふだん感じておられることをお聞かせください

問24 すべての人の人権が尊重され、男女がともにその個性と能力を発揮できる社会の実現をめざす男女共同参画社会を実現していくために、国・府・市などの行政にご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

あなたやご家族についておたずねします。(あてはまる番号にをつけてください)

問25 あなたの性別は。

1. 男性 2. 女性

問26 あなたの年齢は。

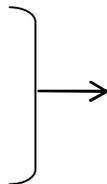
1. 20歳～24歳 4. 35歳～39歳 7. 50歳～54歳 10. 65歳～69歳
2. 25歳～29歳 5. 40歳～44歳 8. 55歳～59歳 11. 70歳～74歳
3. 30歳～34歳 6. 45歳～49歳 9. 60歳～64歳 12. 75歳以上

問27 あなたの職業は。

1. 勤め人(フルタイム) 4. 家族従業者 7. 学生
2. 勤め人(パートタイム、アルバイト、フリーター) 5. 内職 8. 無職
3. 自営業・自由業 6. 家事専業 9. その他

問28 一緒にお住まいのご家族の形態は。

1. 単身世帯(ひとり暮らし)
2. 夫婦のみの世帯
3. 親と子の世帯
4. 親と子と孫の世帯
5. その他



付問 一番下のお子さんは。

1. 3歳未満の乳幼児
2. 3歳以上で学齢前の幼児
3. 小学生
4. 中学生
5. 高校生以上の学生
6. その他(就職・結婚など)
7. 子どもはいない

問29 あなたは配偶者がおられますか。あてはまるものを選んで番号にをつけてください。

* 配偶者には、事実婚のパートナーも含まれます(以下同じ)

1. いる 2. いない 3. いたが離別した 4. いたが死別した

付問へ

付問 配偶者の職業は。

1. 勤め人(フルタイム) 4. 家族従業者 7. 学生
2. 勤め人(パートタイム、アルバイト、フリーター) 5. 内職 8. 無職
3. 自営業・自由業 6. 家事専業 9. その他

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

次のHPでは、男女共同参画に関する情報を提供しています。

内閣府男女共同参画局HP <http://www.gender.go.jp/index.html>

大阪市男女共同参画担当HP <http://www.city.osaka.jp/shimin/kyoudou/index.html>

2008 年度（平成 20 年度）男女共同参画に関する市民意識調査にかかる Web アンケート

この web 調査は、財団法人大阪市女性協会が指定管理者として管理・運営している「大阪市立男女共同参画センター（クレオ大阪）」の調査研究事業として実施しています。

この調査は統計目的以外には使用しません。あなたのご意見が外部にもれることは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

男女平等についての考え方をおたずねします

問 1 .あなたは、次の分野において男女平等が進んでいると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1)家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2)職場で	1	2	3	4	5	6
(3)学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4)地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6)法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
(7)社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体として	1	2	3	4	5	6

問 2 .あなたの家庭では、次にあげるような日常的なことがらは、主にどなたがしていますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。* (10) (11)については対象の方がいない場合も、考え方としてお書きください。

	主に女性の役割	男女同じ程度	主に男性の役割	その他
(1) 食事の支度	1	2	3	4
(2) 食事の後かたづけ	1	2	3	4
(3) 掃除	1	2	3	4
(4) 洗濯	1	2	3	4
(5) ごみ捨て	1	2	3	4
(6) 日常の買い物	1	2	3	4
(7) 家具の移動、器具等の修理	1	2	3	4
(8) 自治会・町内会等への出席や近所づきあい	1	2	3	4
(9) 家計の管理	1	2	3	4
(10) 子どもの世話やしつけ	1	2	3	4
(11) お年寄りや病人の介護	1	2	3	4

問3. 次にあげる考え方について、あなたはどのように思いますか。それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

	そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	そう思 わない	わからな い
(1)性別にとらわれずに、個人を尊重し、一人ひとりが納得のいく生き方をする	1	2	3	4	5
(2)男は仕事、女は家庭を中心にする	1	2	3	4	5
(3)男女ともに仕事をもち経済的に自立する	1	2	3	4	5
(4)男性は家族を養う義務がある	1	2	3	4	5
(5)子どもが小さい間は、母親は育児に専念する	1	2	3	4	5
(6)妊娠・出産について、女性の意志を尊重する	1	2	3	4	5
(7)女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てる	1	2	3	4	5
(8)夫の転職には、妻は自分の仕事をやめ、ついていく	1	2	3	4	5
(9)夫婦が別々の姓を名乗ることを認める	1	2	3	4	5
(10)夫婦は同じ墓に入る	1	2	3	4	5
(11)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
(12)結婚しないで子どもをもってもよい	1	2	3	4	5
(13)結婚してもうまくいかなければ、離婚すればよい	1	2	3	4	5

問4. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのように考えますか。あてはまるものを1つを選んでください。

1 女性は職業をもたない方がよい	2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	
6 その他(具体的に: _____)	7 わからない

問5. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためにあなたが最も必要と思うものを1つを選んでください。

1 法律や制度の上での見直しをおこない、性差別につながるものを改めること	2 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	4 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
5 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	6 その他(具体的に: _____)
7 わからない	

仕事や生活の状況についておたずねします

問6. これからの自分の生き方として、あなたが一番好ましいと思うものを1つを選んでください。

*配偶者には、事実婚のパートナーも含みます(以下同じ)

1 家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念する	2 家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させる
3 仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させる	4 生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念する
5 仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させる	6 結婚せずに、仕事や趣味、地域活動に専念する

問7. 今のあなたの現状に最も近いものを1つ選んでください。

- | | |
|--|--|
| 1 家事・育児や地域活動は配偶者にまかせ、仕事に専念している | 2 家事・育児や趣味、地域活動なども尊重するが、あくまで仕事を優先させている |
| 3 仕事も尊重するが、どちらかといえば家事・育児や趣味、地域活動などを優先させている | 4 生計を配偶者にまかせ、家事・育児や趣味、地域活動に専念している |
| 5 仕事や家事・育児、地域活動を配偶者と分かちあい、両立させている | 6 結婚せずに、仕事や趣味、地域活動に専念している |

問8. あなたは、男性の家庭生活や地域社会の活動への参画を進めていくために、何が必要だと思いますか。考えに近いものを3つ選んでください。

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 男女の役割分担についての社会通念や慣習を改める | 2 企業中心という社会全体の仕組みを改める |
| 3 仕事と家庭の両立などの問題について男性が相談できる窓口を設ける | 4 労働時間を短縮したり、休暇制度を普及させる |
| 5 男性が企業の育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整える | 6 配偶者・パートナーの間で家事・育児などの分担をするよう十分に話し合う |
| 7 家事・育児などを男女で分担するような子どものしつけや育て方をする | 8 男性の男女共同参画に対する関心を高める |
| 9 男性の仕事中心の生き方、考え方を改める | 10 男性が、家事や育児、介護をすることへの抵抗感をなくす |
| 11 自宅でも仕事をできるように在宅勤務等を普及させる | 12 その他(具体的に: _____) |

問9. あなたは、女性も男性もだれもが暮らしやすいまちにするためには、お住まいの地域が今後どのようなまちになればよいと思いますか。考えに近いものをすべて選んでください。

- | | |
|--------------------------|-------------------------------------|
| 1 犯罪や災害がなく、安心して暮らせる | 2 近所同士のふれあいや支えあいがある |
| 3 市民活動が活発である | 4 健康づくりやスポーツのための施設やサービスが充実している |
| 5 高齢者などへの福祉サービスが充実している | 6 子育てや教育の環境が整っている |
| 7 経済活動が盛んで、就労の機会にめぐまれている | 8 家事や育児、介護と仕事の両立のための支援環境が整っている |
| 9 人が集い、文化・交流などの活動が多彩である | 10 教養や職業能力を高める学習機会にめぐまれている |
| 11 市民の人権意識が向上している | 12 市民の考えや意見が行政施策に反映されている |
| 13 買い物など、生活するうえで便利である | 14 年齢や障害などに関わらず、社会活動に参加しやすい環境が整っている |
| 15 その他(具体的に: _____) | |

問10. あなたは現在、余暇をどう過ごしていますか？(あてはまるものを全て選んでください。)(複数回答)

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1 特に何もしていない | 2 語学(英会話など) |
| 3 パソコン | 4 ビジネススキル(コミュニケーション力、コーチングなど) |
| 5 社会活動(環境、ボランティア、地域など) | 6 芸術系(陶芸・絵画・ピアノなど) |
| 7 運動系(ジム、ダンス、ヨガなど含む) | 8 その他資格取得のスクール(資格名: _____) |
| 9 その他(具体的に: _____) | |

問10で「2～9」の回答を選んだ方にお伺いします

付問(1) 余暇を過ごす理由を教えてください(あてはまるものを全て選んでください)(複数回答)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 現在の仕事で必要だから | 2 スキルアップのため |
| 3 資格取得のため | 4 運動不足解消・美容のため |
| 5 ストレス解消のため | 6 新しい友人や仲間を増やすため |
| 7 流行っているから | 8 興味があるから |
| 9 時間があるから | 10 その他(具体的に: _____) |

問 10 で「1. 特に何もしていない」と答えた人にお伺いします

付問(2) 特に何もしていない理由を教えてください。(あてはまるものをすべて選んでください)

- | | | |
|-----------------------|-----------------|---------------------|
| 1 家事や子育てとの両立が難しい | 2 家族の介護との両立が難しい | 3 仕事との両立が難しい |
| 4 家族の反対がある | 5 活動時間が合わない | 6 身近なところに活動場所がない |
| 7 希望する活動がどこでできるかわからない | 8 一緒に活動する仲間がいない | 9 経済的余裕がない |
| 10 参加したい活動がない | 11 健康状態に自信がない | 12 その他(具体的に: _____) |
| 13 特になし | | |

問 11. 仕事や生活のうえで、あなたはこういった不安や悩み、問題がありますか？(あてはまるものを全て選んでください) (複数回答)

- | | | |
|--------------|------------------|---------------------|
| 1 特に不安などはない | 2 仕事の責任が重いこと | 3 昇任・昇格のこと |
| 4 収入が少ないこと | 5 仕事が忙しすぎて休めないこと | 6 職場の人間関係 |
| 7 健康のこと | 8 美容・容姿のこと | 9 夫または妻のこと |
| 10 子どものこと | 11 親のこと | 12 友人のこと |
| 13 恋人(恋愛)のこと | 14 将来のこと | 15 その他(具体的に: _____) |

子どもの教育についておたずねします

問 12. あなたは、経済的なことは別にすれば、お子さんにどの程度の教育を受けさせたいと思いますか。それぞれについてあてはまるものを選んで番号に をつけてください。お子さんがいらっしゃらない場合でも、考え方としてお書き下さい。

男の子には	女の子には
1 中学校	1 中学校
2 高等学校	2 高等学校
3 各種学校・専門学校	3 各種学校・専門学校
4 短期大学・高等専門学校	4 短期大学・高等専門学校
5 4年制大学	5 4年制大学
6 大学院	6 大学院
7 その他(具体的に: _____)	7 その他(具体的に: _____)
8 わからない	8 わからない

問 13. 学校教育の場で推進した方がよいと思われるものはどのようなことですか。お考えに近いものを3つまで選んで番号に をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 学校生活で性別により固定された役割分担をなくす | 2 生活指導や進路指導において男女の別なく能力・個性を生かせるようにする |
| 3 生命尊重、男女平等の視点で、人間教育としての性教育を推進する | 4 男女共同参画の視点から、職業体験やまちづくりへの参加など体験学習を進める |
| 5 教科書などで、男女共同参画を進める内容や表現をふやしていく | 6 教職員の研修をおこない、男女平等教育に関する認識を深める |
| 7 学校全体で男女平等教育に取り組む体制をつくる | 8 その他(具体的に: _____) |

男女間における暴力についておたずねします

問 14. 女性が配偶者や恋人から継続的に身体的・精神的な暴力行為を受けることについて、あなたの身近で見聞きしたことはありますか？(あてはまるものをひとつ選んでください。)

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 自分が直接経験している | 2 相談を受けたことがある |
| 3 相談を受けたことはないが、当事者を知っている | 4 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている |
| 5 見聞きしたことはない | 6 その他(具体的に: _____) |

問 15. あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)を知っていますか?

(あてはまるものをひとつだけ選んでください。)

1 ある程度内容を知っている	2 聞いたことがある	3 知らない
----------------	------------	--------

問 16. あなたは、女性に対する暴力について、次の相談機関・対応窓口を知っていますか?それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

		知っている	知らない
1.	クレオ大阪中央(大阪市立男女共同参画センター中央館)相談室	1	2
2.	区保健福祉センター	1	2
3.	大阪府女性相談センター	1	2
4.	配偶者暴力相談支援センター	1	2
5.	警察署、交番	1	2
6.	シェルターなどの民間の相談機関	1	2

問 17. あなたは女性に対する暴力の問題を解決するには、どのようなことが必要だと思いますか?考えに近いものをすべて選んで、番号にをつけてください。

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 配偶者や恋人からの暴力に対する社会的な関心を高めること | 2 男性優位の価値観を改めること |
| 3 犯罪としてもっと厳しく取り締まること | 4 女性が経済的に自立すること |
| 5 女性が精神的に自立すること | 6 被害を受けた女性がいつでも身を寄せられる施設があること |
| 7 相談窓口や相談員を充実させること | 8 加害者に対して必要なカウンセリングをおこなう施設があること |
| 9 配偶者や恋人からの暴力を取り締まる法律や制度を充実させること | 10 小・中学生の頃から暴力防止の啓発を充実すること |
| 11 その他(具体的に:) | 12 必要なことはない |

男女共同参画に関連した制度や施策などについておたずねします

問 18. あなたは、次の項目について知っていますか?それぞれについて、あてはまるものを選んでください。

	ある程度内容を知っている	聞いたことがある	知らない
(1)女子(性)差別撤廃条約	1	2	3
(2)男女共同参画社会基本法	1	2	3
(3)男女雇用機会均等法	1	2	3
(4)男女共同参画週間	1	2	3
(5)ジェンダー(社会的につくられた性別)	1	2	3
(6)夫婦別姓	1	2	3
(7)育児・介護休業法および制度	1	2	3
(8)内閣府「女性のチャレンジ支援」	1	2	3
(9)ドメスティック・バイオレンス(DV)	1	2	3
(10)セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)	1	2	3
(11)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)	1	2	3
(12)ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
(13)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
(14)デートDV	1	2	3
(15)大阪市男女共同参画推進条例	1	2	3
(16)大阪市男女きらめき計画(大阪市男女共同参画基本計画)	1	2	3
(17)クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)	1	2	3

問 19 . 男女共同参画社会の実現に向けて、国・府・市などの行政機関が力を入れるべきと思うものをすべて選んでください。

1 育児・保育のための施策の充実や育児休業法の定着	2 高齢者や障害者の社会的介護制度の充実や介護休業制度の定着
3 ひとり親（母子・父子）家庭の生活安定に関する施策	4 女性・男性の生き方に関する情報提供・相談などのサービス
5 学校教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習	6 生涯教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習
7 男女平等意識の確立に向けた情報の提供や普及・啓発活動	8 経営者や管理職を対象に雇用機会・労働条件など、男女平等に関する指導・啓発
9 雇用・教育上の実質的な平等を推進するため一定の割合で女性を登用するなどの措置	10 議会や各種審議会などの政策決定の場への女性の参画の推進
11 女性の就労に対する支援施策	12 女性の自主的な社会活動や研究活動に対する援助
13 男女ともに家庭生活や地域活動をしやすいように労働時間を短縮	14 その他（具体的に_____）
15 特になし	

あなたやご家族についておたずねします。（あてはまる番号に をつけてください）

問 20 . あなたの職業は。

1 勤め人（正社員）	2 勤め人（契約社員）	3 勤め人（派遣社員）
4 勤め人（常勤パート・アルバイト）	5 勤め人（短時間パート・アルバイト）	6 自営業・自由業
7 家族従業者	8 内職	9 その他、就業している （具体的に：_____）
10 家事専業（主婦・主夫）	11 学生	12 無職
13 その他、就業していない （具体的に：_____）		

問 21 . あなたの最終学歴（あてはまるものをひとつだけ教えてください）（単数回答）

1 中学校卒業	2 高等学校卒業	3 各種学校・専門学校卒業	4 短期大学・高等専門学校卒業
5 4年制大学卒業	6 大学院卒業	7 その他（具体的に_____）	

問 22 . 一緒にお住まいのご家族の形態は。

1 単身世帯（ひとり暮らし）	2 夫婦のみの世帯	3 親と子の世帯
4 親と子と孫の世帯	5 その他	

付問 一番下のお子さんは。

1 乳児（1歳未満）	2 幼児（1歳以上で学齢前まで）	3 小学生	4 中学生
5 高校生以上の学生	6 その他（就職・結婚など）	7 子どもはいない	

問 23 . あなたは配偶者がいますか。（あてはまるものをひとつだけ教えてください）

* 配偶者には、事実婚のパートナーも含まれます

1 いる	2 いない	3 いたが離別した	4 いたが死別した
------	-------	-----------	-----------

問 23 で「1 . いる」と答えた方は

付問 配偶者の職業は。

1 勤め人（正社員）	2 勤め人（契約社員）	3 勤め人（派遣社員）
4 勤め人（常勤パート・アルバイト）	5 勤め人（短時間パート・アルバイト）	6 自営業・自由業
7 家族従業者	8 内職	9 その他、就業している （具体的に：_____）
10 家事専業（主婦・主夫）	11 学生	12 無職
13 その他、就業していない （具体的に：_____）		

問 20 で「1～8」と答えた方におたずねします。

あなたの仕事についておたずねします。

問 24 . あなたは現在の仕事に満足していますか？(あてはまるものをひとつだけ選んでください。)(単数回答)

1 非常に満足	2 満足	3 普通
4 不満	5 非常に不満	

問 25 . どのような点で満足しているのでしょうか？(あてはまるものをすべて選んでください)(複数回答)

問 22 で「1.非常に満足」「2.満足」と回答した人

1 仕事にやりがいがある	2 将来の仕事に役立つ	3 昇進・昇格のチャンスがある
4 社内外の研修が充実している	5 給料や待遇がよい	6 フレックスタイムが導入されている
7 時間に融通が利く	8 残業がほとんど無い	9 休暇が取りやすい
10 産休・育休が取りやすい	11 雇用が安定している	12 職場の人間関係がよい
13 会社の知名度がある	14 通勤が便利	15 その他(具体的に_____)

問 26 . どのような点で不満に感じているのでしょうか？(あてはまるものをすべて選んでください)(複数回答)

問 22 で「4.不満」「5.非常に不満」と回答した人

1 補助的な仕事しかさせてもらえない	2 将来像が描けない
3 昇進・昇格が見込めない	4 研修制度が充実していない
5 給料や待遇がよくない	6 時間の融通が利かない
7 残業が多い	8 休暇が取りにくい
9 産休・育休が取りにくい	10 雇用が不安定
11 職場の人間関係が悪い	12 会社の知名度が低い
13 通勤が不便	14 その他(具体的に_____)

問 27 .あなたの年収についてお伺いします。(あてはまるものをひとつだけ選んでください) 税込み金額でお答えください(単数回答)

1 200万円未満	2 200万円～300万円未満	3 300万円～400万円未満	4 400万円～500万円未満
5 500万円～750万円未満	6 750万円～1,000万円未満	7 1,000万円以上	

問 28 . あなたの平均的な実質の残業時間/月は何時間ですか？(あてはまるものをひとつだけ選んでください。)(単数回答)

1 なし	2 ～4時間未満	3 4時間以上～10時間未満
4 10時間以上～20時間未満	5 20時間以上～30時間未満	6 30時間以上～40時間未満
7 40時間以上～60時間未満	8 60時間以上～80時間未満	9 80時間以上～100時間未満
10 100時間以上(具体的に:_____)		

問 29 . 業種(あてはまるものをひとつだけ教えてください)(単数回答)

1 建設・建築	2 製造	3 電気・ガス・水道
4 情報通信・コンピューター	5 運輸	6 商社・卸売
7 金融・保険	8 不動産	9 医療・福祉
10 教育・学習支援	11 サービス業	12 公務
13 その他(具体的に_____)		

問 30 . あなたの職場の企業規模(あてはまるものをひとつだけ教えてください)(単数回答)

1 29人以下	2 30人～99人	3 100人～299人
4 300人～999人	5 1,000人以上	

問 31 . 職種 (あてはまるものをひとつだけ教えてください) (単数回答)

1 一般事務・営業事務	2 秘書・受付	3 経理・財務・会計
4 総務・人事・法務・特許	5 資材・購買・物流・在庫管理	6 貿易・国際
7 広報・IR	8 営業	9 管理・経営
10 IT・技術系	11 コンサルティング	12 デザイン・クリエイティブ
13 研究・教育	14 医療・介護系	15 販売・サービス
16 その他 (具体的に)		

問 32 . 現在の職場での勤続年数 (あてはまるものをひとつだけ教えてください) (単数回答)

1 1年未満	2 1年～3年	3 4年～6年
4 7年～9年	5 10年以上	

問 33 . あなたは休日やオフをどのように過ごしていますか? (あてはまるものを全て選んでください。) (複数回答)

1 何もしていない	2 家事	3 育児
4 介護	5 勉強・スクール	6 趣味や遊び
7 ボランティア・地域活動	8 その他 (具体的に :)	

全員の方にお伺いします

ふだん感じておられることをお聞かせください

問 34 . 男女がともにその個性と能力を發揮できる男女共同参画社会を実現していくために、国・府・市などの行政にご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。ふだん感じておられることをお聞かせください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

クレオ大阪ホームページ <http://www.creo-osaka.or.jp/>

次のホームページでは、男女共同参画に関する情報を提供しています。

内閣府男女共同参画局 <http://www.gender.go.jp/>

大阪府市民局男女共同参画担当 <http://www.city.osaka.jp/shimin/kyoudou/>

【用語説明】

女子（性）差別撤廃条約	1979年、第34回国連総会において採択され、1981年に発効しました。我が国は1980年に署名、1985年に批准した。締約国は、あらゆる分野、特に、政治的、社会的、経済的及び文化的分野において、女子に対して男子との平等を基礎として人権及び基本的自由を行使し及び享有することを保障することを目的として、女子の完全な能力開発及び向上を確保するためのすべての適当な措置（立法を含む。）をとるとされている。
男女共同参画基本法	男女共同参画社会の形成に関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとともに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることにより、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成11年に公布、施行された。
男女雇用機会均等法	「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」。法の下での平等を保障する日本国憲法の理念にのっとり、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保を図るとともに、女性労働者の就業に関して妊娠中及び出産後の健康の確保を図る等の措置を推進することを目的として、1985年に制定された。
男女共同参画週間	男女共同参画社会基本法の目的及び基本理念に関する国民の理解を深めるため、平成13年度から毎年6月23日から6月29日までの1週間を「男女共同参画週間」として設けている。地方公共団体、女性団体その他の関係団体の協力の下に、男女共同参画社会の形成の促進を図る各種行事等を全国的に実施している。
ジェンダー（社会的につくられた性別）	人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的性別」（ジェンダー／gender）という。「社会的性別」はそれ自体に良い悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。
夫婦別姓（夫婦別氏）	夫婦がそれぞれ異なる氏を名乗る制度をいう。夫婦別氏制度には、<1>夫婦がそれぞれ結婚前の氏を名乗るもの、<2>夫婦が同じ氏を名乗ることのほか、それぞれ結婚前の氏を名乗ることができるもの（選択的夫婦別氏制度）、<3>夫婦が同じ氏を名乗ることを原則として、例外的にそれぞれ結婚前の氏を名乗ることを認めるもの（いわゆる例外的夫婦別氏制度）などがある。
育児・介護休業法および制度	「育児休業、介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」。育児または家族の介護を行う労働者の職業生活と家庭生活との両立を図られるよう支援することによって、その福祉を増進するとともに、あわせて我が国の経済及び社会の発展に資することを目的とする。
内閣府「女性のチャレンジ支援」	様々な分野において、意欲と能力のある女性が活躍できるための支援策。積極的改善措置の推進、身近なチャレンジ事例の提示、チャレンジ支援のためのネットワーク形成を重点的な取組みとし、<1>政策・方針決定過程に参画し、活躍することをめざす「上」へのチャレンジ、<2>起業家、研究者・技術者など従来女性の少なかった分野に新たな活躍の場を広げる「横」へのチャレンジ、<3>子育てや介護などでいったん仕事を中断した女性の「再チャレンジ」の3つに分け、これらを総合的に支援していくもの。
ドメスティック・バイオレンス（DV）	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の一部を改正する法律」（平成16年公布、平成16年施行）では、配偶者からの暴力を「配偶者からの身体に対する暴力（身体に対する不法な攻撃であって生命または身体に危害を及ぼすものをいう。）またはこれに準ずる心身に有害な影響を及ぼす言動（以下「身体に対する暴力等」という。）をいい、配偶者からの身体に対する暴力等を受けた後に、その者が離婚をし、またはその婚姻が取り消された場合にあっては、当該配偶者であった者から引き続き受ける身体に対する暴力等を含むものとする。」と定義している。なお、内閣府においては、対象範囲に恋人も含むより広い概念として、「夫・パートナーからの暴力」という用語を使用する場合もある。
セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）	一般的に「性的いやがらせ」のことをいう。男女共同参画会議「女性に対する暴力に関する専門調査会報告書「女性に対する暴力についての取り組みべき課題とその対策」（平成16年3月）では、「継続的な人間関係において、優位な力関係を背景に、相手の意思に反して行われる性的な言動であり、それは、単に雇用関係にある者の間のみならず、施設における職員とその利用者との間や団体における構成員間など、様々な生活の場で起こり得るものである。」と定義している。
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1994年にカイロで開催された国際人口・開発会議において提唱された概念で、今日、女性の人権の重要な一つとして認識されるに至っている。中心課題には、いつ何人子どもを産むか産まないかを選ぶ自由、安全で満足のいく性生活、安全な妊娠・出産、子どもが健康に生まれ育つことなどが含まれており、また、思春期や更年期における健康上の問題等生涯を通じての性と生殖に関する課題が幅広く議論されている。
ポジティブアクション（積極的改善措置）	男女共同参画社会基本法第2条第2号において、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する「機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう。」と定義されている。男女共同参画社会基本法上の積極的改善措置は、男女の実質的な機会の平等を目指すものであり、様々な人々の差異を無視して一律平等に扱うという結果の平等までを求めるものではない。
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」では、一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できると定義されている。
デートDV	一般的に、高校生や大学生等の若い世代の恋人間における暴力のことをいう。
大阪市男女共同参画推進条例	男女共同参画に関する「基本理念」「本市、市民、事業者の責務」及び「施策の基本となる事項」を定めることにより、施策を総合的かつ計画的に推進し、男女共同参画社会の実現をめざすことを目的とする大阪市の条例。
大阪市男女きらめき計画	大阪市男女共同参画基本計画 - 大阪市男女きらめき計画 -。大阪市男女共同参画推進条例の規定に基づき、平成18年度から平成27年度までの10年間を計画期間とし策定された。「就業における男女共同参画」「地域における男女共同参画」「一人ひとりを尊重する男女共同参画社会」を3つの基本的視点として掲げ、的確な進捗管理を行うために10の課題のなかで「指標・数値目標」を設定している。
クレオ大阪	大阪市立男女共同参画センター。男女が社会の対等な構成員として社会のあらゆる分野における活動に参画し、個人として能力が発揮できるよう多面的な支援を行うことにより、男女共同参画社会の形成に寄与することを目的として設立された施設。

「厚生労働省」「内閣府」「男女共同参画局」「大阪市」等のホームページから抜粋し編集して記載した。

平成 20 年度 男女共同参画に関する市民意識調査報告書
補完調査『男女共同参画に関する市民意識調査にかかる 20～30 代の Web アンケート調査』

発行	大阪市（市民局 男女共同参画担当） 〒530-8201 大阪市北区中之島 1 丁目 3 - 2 0
調査実施機関	財団法人 大阪市女性協会 〒543-0002 大阪市天王寺区上汐 5 丁目 6 - 2 5 電話 0 6 - 6 7 7 0 - 7 2 0 0
発行日	平成 21 年 3 月